

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	GECM1311
2. 授業担当教員	山口 敬雄			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	これからの国際社会に対応していくためには英語でのコミュニケーション能力が必要となってくる。高校までの暗記を中心とした詰め込みの受験英語とは違った、表現力を重視した形で、四技能(聞く・話す・読む・書く)を養うことを目的とする。英語を使いこなせるようになるためには、日本語とは異なった英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解しておくことが大切である。また、英語という言語の背景にある、アメリカ文化への理解にも重点を置く。			
8. 学習目標	1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランス良く向上させること 2. 1)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解すること 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め理解すること			
9. アサイメント (宿題)及びレポ ート課題	1. 主体的に学修を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中に説明する。 2. 長期休暇における課題として、英文要約を課すので計画立てて実施すること。詳細は授業内で解説する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】George Truscott 他『Eye on America and Japan そのまま日米比較』南雲堂。 【参考書】各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	テスト 40% 小テスト・課題など 40% 授業への積極的参加度 20%			
12. 受講生への メッセージ	指定した範囲を事前・事後に必ず読んで、予習・復習すること。その際、不明な点、疑問に思った点を書き出し、その解決に努めること。辞書を必ず持参すること。			
13. オフィスアワー	授業中に指示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	Introduction: 本科目のねらいと取り組みの解説	事前学習	速やかに教科書を入手し、必ず90分以上かけて通読する。	
		事後学習	授業中に指摘された参考文献について検索し、必要ならば入手しておく。	
第2回	Lesson1: Physical Education 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 7)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 7)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第3回	Lesson2: Sports Club 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 10)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 10)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第4回	Lesson3: Cultural Differences 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 13)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 13)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第5回	Lesson4: Haircuts 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 16)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 16)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第6回	Lesson5: Music 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 19)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 19)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第7回	Lesson6: Money 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 22)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 22)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第8回	Lesson7: Safety 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 25)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 25)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第9回	Lesson8: Life Expectancy 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 28)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 28)の意味を確実に理	

			解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 10 回	Lesson9: The Metric System 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 31)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 31)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 11 回	Lesson10: Police 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 34)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 34)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 12 回	Lesson11: Seasons 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 37)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 37)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 13 回	Lesson12: TV Sports 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 40)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 40)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 14 回	Lesson13: Business 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 43)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 43)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 15 回	Lesson14: Jobs 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 46)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 46)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	医学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1312
2. 授業担当教員	根岸 祥子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉のあり方についても学び、福祉専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。 ●リハビリテーションの概要について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造、および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化と日常生活との関係を踏まえて理解できるようになる。 2. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解できるようになる。 3. リハビリテーションの概要について理解し、説明できるようになる。 4. 生活習慣病とその予防につき、健康増進の正しい方策について考察できるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ内容をミニレポートにまとめ、終了時に提出する。 ・割り当てられた課題についてパワーポイントを作成して発表する。 <p>詳細は授業の中で説明する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第1巻 人体の構造と機能及び疾病-医学一般』第3版 中央法規、2015年。</p> <p>【参考書】 必要に応じて授業の中で通知します。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度 (授業態度など) …10%</p> <p>課題とミニ・レポートの提出 …50%</p> <p>期末テスト …40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。 2. 事前学習 (パワーポイントの作成) は授業時間外に行ってください。事後学習も十分に行ってください。 3. 私語等、周囲の学生に迷惑がかかる行為をする者は受講をご遠慮願います。 		
13. オフィスアワー	初回授業の中で通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション	事前学習	シラバスを熟読する。自分の成長・発達を振り返る。
		事後学習	自分自身の身体と精神の成長・発達および老化について考える。
第2回	人の成長・発達と老化	事前学習	教科書 pp. 2～23 を読み、人の成長・発達と老化について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 2～23 を読み、人の成長・発達と老化に関するミニ・レポートを提出。
第3回	身体構造と心身の機能	事前学習	教科書 pp. 26～52 を読み、身体構造と心身の機能について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 26～52 を読み、身体構造と心身の機能に関するミニ・レポートを提出。
第4回	疾病の概要 (生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患)	事前学習	教科書 pp. 54～65 を読み、生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 54～65 を読み、生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患に関するミニ・レポートを提出。
第5回	疾病の概要 (心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患)	事前学習	教科書 pp. 66～78 を読み、心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患について調べる
		事後学習	教科書 pp. 66～78 を読み、心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患に関するミニ・レポートを提出。
第6回	疾病の概要 (消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患)	事前学習	教科書 pp. 79～89 を読み、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 79～89 を読み、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患に関するミニ・レポートを提出。
第7回	疾病の概要 (泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症)	事前学習	教科書 pp. 90～104 を読み、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症に関する国試過去問を解いて理解を深める。
		事後学習	教科書 pp. 90～104 を読み、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症についてミニ・レポートを提出。
第8回	疾病の概要 (神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア)	事前学習	教科書 pp. 105～121 を読み、神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケアに関するミニ・レポートを提出。
		事後学習	教科書 pp. 105～121 を読み、神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケアについてミニ・レポー

			トを提出。
第 9 回	障害の概要（視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害、肢体不自由）	事前学習	教科書 pp. 124～138 を読み、視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害、肢体不自由についてミニ・レポートを提出。
		事後学習	教科書 pp. 124～138 を読み、視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害、肢体不自由に関するミニ・レポートを提出。
第 10 回	障害の概要（内部障害・知的障害）	事前学習	教科書 pp. 139～144 を読み、内部障害・知的障害について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 139～144 を読み、内部障害・知的障害に関するミニ・レポートを提出。
第 11 回	障害の概要（発達障害）	事前学習	教科書 pp. 145～147 を読み、発達障害について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 145～147 を読み、発達障害に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 12 回	障害の概要（認知症、高次機能障害）	事前学習	教科書 pp. 148～156 を読み、認知症、高次機能障害についてミニ・レポートを提出。
		事後学習	教科書 pp. 148～156 を読み、認知症、高次機能障害に関するミニ・レポートを提出。
第 13 回	障害の概要（精神障害）	事前学習	教科書 pp. 158～162 を読み、精神障害について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 158～162 を読み、精神障害に関するミニ・レポートを提出。
第 14 回	リハビリテーションの概要、国際生活機能分類の基本的考え方と概要、健康のとりえ方	事前学習	教科書 pp. 164～213 を読み、リハビリテーション、国際生活機能分類、健康のとりえ方について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 164～213 を読み、リハビリテーション、国際生活機能分類、健康のとりえ方に関するミニ・レポートを提出。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容について解決できなかった疑問点を整理しておく。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	介護概論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2109 SCMP2309 SBMP2309 SSMP2109 PSMP2409
2. 授業担当教員	鄭 春姫		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講座は、高齢者福祉論との関連において、介護が必要な高齢者に対する支援を中心に進めていく。 高齢者の特性と生活について理解を深めたいうえで、生活支援の在り方を考え、介護の実践では、自立への支援、尊厳ある介護の理解を学習し、介護実践の基本を理解できるように授業を進めていく。特に根拠を持った介護実践が行えるように、介護過程と介護実技を学習して理解を深めていく。また、今後増加する認知症高齢者や精神的支援が必要な高齢者の介護についても授業を行なう。</p>		
8. 学習目標	<p>介護概論が終了した時点で、下記について目標達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特性からくる生活障害や、介護が必要となる状況を理解でき、快適な生活環境を考えることができる。 2. 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解し、介護の今日的課題について考えることができる。 3. 高齢者を支援する専門職の役割の理解と専門職間の連携の在り方を考えることができる。 4. 介護の概念、理念と対象について理解でき、社会福祉士など専門職としての役割と結び付けることができる。 5. 介護は介護過程に基づいて行われることを理解し、専門性について考えることができる。 6. 認知症及び精神的支援が必要な高齢者に対する介護について理解ができ、その応用力を身につけることができる。 7. 終末期の介護を理解し、終末期における尊厳の保持（人間観や倫理）について考えることができる 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>毎回の授業で整理したところから、授業開始前にミニテストを行う。(10分程度) 第6回の授業で専門職の理解については、指定の用紙を使い記録を行い、提出する。 第9～13回のグループワークでは、毎回、進行係と書記を決めてメンバー皆が参加し意見や考えが発表できるようにする。指定の用紙に必要な事項を書いてグループレポートを作成する。授業の最後に提出。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度－高齢者福祉論』中央法規出版 【参考書】 授業で適時配布する</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業開始時のミニテスト・レポート他提出物 20% 授業態度 30% 期末試験 50% 理由の申し出がない場合、欠席 10 点減点、遅刻、中抜け、早退は 3 回で 10 点減点とする。 尚、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 授業への積極的参加度等、出席をしたうえでの授業態度は加点的に評価する。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>授業中のマナー、ルールは守ること 【出欠席について】 ・やむを得ず、遅刻、早退、欠席する場合は、その理由を申し出ること。何もない場合は減点対象とする。 ・下記【マナー、ルールについて】を守れない場合は、欠席とする。 【マナー、ルールについて】 ・授業中、私語はしない。 ・携帯電話などは電源を切るかマナーモードにする。また、机の上に置かない。かばん等に必ずしまっておく。 ・授業中に携帯電話の作動はしないこと。守れない場合には、退出してもらう。 ・居眠りはしない。 ・他学生の学習の妨げになるようなことはしない。 ・明らかに授業態度が不適切と判断された際は、厳格な指導を行うが、指導後も授業態度の改善が見られない場合は、たとえ皆出席であっても F 評価になる。</p>		
13. オフィスアワー	時間割決定後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 「介護概論」のねらいと単元の解説 テーマ「社会福祉と介護」 介護の概念及び専門性を支える理念、介護の対象者について理解する。社会福祉士が介護を学ぶ必要性について理解する。	事前学習	シラバスを読み授業内容を理解する
		事後学習	介護の概念理念を理解し、社会福祉士が介護を学ぶ必要性について整理する。
第 2 回	テーマ「少子高齢社会と高齢者」 超高齢社会における介護の方向性を家族構成や就労、収入、医療の側面から考え、高齢者を取り巻く諸問題について理解する。	事前学習	少子高齢社会と高齢者について考える。
		事後学習	高齢者を取り巻く諸問題について整理する。
第 3 回	テーマ「高齢者の特性Ⅰ」 高齢期における生活の変化、家族、社会参加、生きがいなどを考え、高齢者の生活に、どのような影響を及ぼすのかまた、どのように適応するのか高齢者の社会的理解を深める。	事前学習	高齢者の生活、家族、社会参加、生きがいなどを考える。
		事後学習	高齢者の特性について整理する。
第 4 回	テーマ「高齢者の特性Ⅱ」 加齢に伴う身体機能、精神機能の変化から生じる疾病や生活障害を理解し、対応を考える。	事前学習	高齢者の身体的、精神的特性について考える。
		事後学習	高齢者の身体的、精神的特性について整理する。

			る。
第 5 回	テーマ「自立に向けた介護・尊厳を支える介護」高齢者の自立した日常生活とは何かを考え、高齢者介護のキーワードもある尊厳を支える介護について考える。	事前学習	自立とは、尊厳とは、について調べる。
		事後学習	自立に向けた介護、尊厳をささえる介護について整理する。
第 6 回	テーマ「高齢者を支援する専門職の役割と連携について」介護を必要としている高齢者を支援する専門職の役割を理解すると共に、連携の方法について理解する。	事前学習	高齢者を支援する専門職の役割と実際について考える。
		事後学習	専門職の役割、連携について整理する。
第 7 回	テーマ 「介護保険について」① 介護保険制度の基本的知識について理解を深める。	事前学習	介護保険制度について調べる。
		事後学習	介護保険制度の改正点などを含め、理解を深める。
第 8 回	テーマ 「介護保険について」② 介護保険制度の基本的知識について理解を深める。	事前学習	介護保険制度の改正点などを含め、整理する。
		事後学習	介護保険制度についてまとめる。
第 9 回	テーマ「介護過程」 ICF について理解すると共に、介護実践を行う上で、最も大切である介護過程の意義と具体的な内容について理解する。	事前学習	ICF について調べておく。
		事後学習	ICF の分類による介護過程の展開を整理する。
第 10 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」 身だしなみの介護の方法を実践して理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における身だしなみについて考える。
		事後学習	グループレポートの作成
第 11 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」 起居動作、移動等の介護の方法を実践して理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における移動、移乗について考える。
		事後学習	グループレポートの作成
第 12 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」 食事、口腔ケアの介護の方法を実践して理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における食事、口腔ケアについて考える。
		事後学習	グループレポートの作成
第 13 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」 排泄の介護を理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における排泄について考える。
		事後学習	グループレポートの作成
第 14 回	テーマ「認知症高齢者に対する介護の実践」 認知症について理解すると共に、実践的な介護の考え方や方法について理解する。	事前学習	認知症について調べておく。
		事後学習	実践的な介護の考え方や方法について整理する。
第 15 回	テーマ「終末期ケア」終末期における高齢者や家族について理解すると共に、その支援の実践的な方法を理解する。	事前学習	終末期について考える。
		事後学習	終末期における高齢者や家族について、支援の実践的な方法を整理する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	カウンセリングの基礎 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP2180
2. 授業担当教員	沢 哲司		
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>カウンセリングの土台となる人間の心のメカニズムについての考え方を理解し、実際のカウンセリング面接中に生起する様々な現象とカウンセリングのプロセスおよび展開について基礎的なことを学ぶ。また、カウンセラーの条件となる基本的な態度や面接技法について、討議や演習を通して実践的に理解する。</p>		
8. 学習目標	<p>1. カウンセリングの基本的な概念や用語を理解し、自分の言葉で説明できる。 2. カウンセリングの一般的なプロセスと展開について説明できる。 3. カウンセリングの基本的な理論と技法について理解し、説明できる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業は講義のほかに、グループ発表とロールプレイに分けて行うので、それぞれ準備と振り返りが必要である。体験的に学び、それを振り返ることでカウンセリングの基礎を行動レベルで体得されることを目指します。</p> <p>【グループ発表】 参考書の担当箇所について、グループプレゼンテーションをする (各グループ 10 分程度の発表)。担当箇所やグループは、第 1 回のオリエンテーションで決めるので必ず出席すること。</p> <p>【ロールプレイレポート 1, 2, 3, 4】 ロールプレイを振り返るレポートを提出してもらう。</p> <p>【期末レポート課題】 5 回のロールプレイを通して、体験したことをレポートする</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】長尾博『やさしく学ぶカウンセリング 26 のレッスン』 金子書房 2008 年 【参考書】東山紘久『プロカウンセラーの聞く技術』 創元社 2004 年 佐治守夫・岡本達也・保坂亨『カウンセリングを学ぶ』 東京大学出版会 1996 年</p>		
11. 成績評価の方法	<p>・授業の参加度 (授業態度を含む) …30% ・発表…30% ・レポート課題…40% ・私語、携帯電話の操作、授業時間中での教室の出入り、その他周囲の学生に迷惑がかかる行為は「授業態度」として、減点の評価を行います。また、理由の申し出がない欠席、遅刻、早退も減点の対象です。 なお、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>人と人のかかわりの中で、相手を理解するということを体験的に学ぶ場を作りたいと思います。疑問や意見に限らず、講義を受けていて少しでも気になったことを講義の中で学生が発表することや、レスポンスシートに書くことを歓迎します。学生とできる限り交流しながら授業を進めていきたいと思っています。そのため、学生の理解度・達成度・要望によって講義の進捗や内容を一部調整する場合があります。 その他、初回授業で受講ルールや成績評価の詳細を説明し、グループ発表の担当決め、ロールプレイのペア組みを行いますので、受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。</p>		
13. オフィスアワー	<p>決まり次第授業で告知 メールアドレス : tesawa@ed.tokyo-fukushi.ac.jp</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション カウンセリングとは何か	事前学習	シラバスを熟読し臨むこと。
		事後学習	カウンセリングの定義についてまとめる。
第 2 回	「聴く」ことの力について	事前学習	「聴く」ことの意味を考えてくる。
		事後学習	配布されたプリント課題に取り組む。
第 3 回	カウンセリングで求められる基本態度 1 ～共感的態度などを学ぶ	事前学習	「共感的態度」について自分なりに調べてくる。実際例を考えておく。
		事後学習	配布されたプリントを読んで振り返る。
第 4 回	カウンセリングで求められる基本態度 2 ～受容的態度などを学ぶ	事前学習	「受容的態度」について自分なりに調べてくる。実際例を考えておく。
		事後学習	配布されたプリントを読んで振り返る。
第 5 回	カウンセリングで求められる基本態度 3 ～「自己一致」などを学ぶ	事前学習	「自己一致」について自分なりに調べてくる。
		事後学習	配布されたプリントを読んで振り返る。
第 6 回	カウンセリングで求められる基本技法 1 ～理解したことを伝え返すこと、など	事前学習	理解したことを伝え返す方法を自分なりに考えてみる。
		事後学習	配布されたプリントを読んで振り返る。
第 7 回	カウンセリングで求められる基本技法 2 ～非言語的なコミュニケーション、など	事前学習	非言語的なコミュニケーションはどんなものがあるか考えてくる。
		事後学習	配布されたプリントを読んで振り返る。
第 8 回	カウンセリングで求められる基本技法 3 ～精神病の問題などの対応について	事前学習	カウンセリングの限界について自分なりに考えてくる。
		事後学習	配布されたプリントを読んで振り返る。
第 9 回	学校でのカウンセリング	事前学習	自身の小・中学校時代にスクールカウンセラーが居ればその働きについて思い出しておく。
		事後学習	配布されたプリントを読んで振り返る。
第 10 回	職場でのカウンセリング ロールプレイ 1	事前学習	職場の対人関係でカウンセリングがどのように生かせるか考えておく。
		事後学習	ロールプレイの簡単な逐語録、振り返りを行う。
第 11 回	カウンセリングの起こり (歴史) ロールプレイ 2	事前学習	それぞれの時代でカウンセラーの役割を果たしていた人について考える。
		事後学習	ロールプレイの簡単な逐語録、振り返りを行う。
第 12 回	カウンセリングの理論	事前学習	来談者中心療法について調べておく。

平成 28 年度

	～来談者中心療法の理論を学ぶ ロールプレイ 3	事後学習	ロールプレイの簡単な逐語録、振り返りを行う。
第 1 3 回	カウンセリングの理論 ～精神分析的心理療法の理論を学ぶ ロールプレイ 4	事前学習	精神分析的な心理療法について調べておく。
		事後学習	ロールプレイの簡単な逐語録、振り返りを行う。
第 1 4 回	カウンセリングの理論 ～行動主義的心理療法の理論を学ぶ ロールプレイ 5	事前学習	行動療法について調べてみる。
		事後学習	学期末レポートに取り組む。
第 1 5 回	カウンセリングの理論 まとめ ～3 大心理療法の相違と共通点を学ぶ	事前学習	カウンセリングで特に重要なことは何かを考える。
		事後学習	今まで配布されたプリントをまとめる。カウンセリングで特に重要なことは何かをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	学習心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP2351
2. 授業担当教員	末永 叔子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	人間は、生まれてから死ぬまでの間に、さまざまなことを学習したり、忘れたりする。さらに、過去の学習を基盤として新しい学習を行うといったように、日常生活においては常に学習をしている。本科目では、こうした学習の仕組みや働きに関する代表的な学習理論について学んでいく。		
8. 学習目標	1. 学習心理学の基礎的な理論や研究方法についての知識を習得する。 2. 学習心理学の知識が臨床、教育、福祉等の他分野でどのように生かされているのかを理解し、説明できる。 3. 身近な問題行動の理解や改善に、習得した学習心理学の知識や研究方法を活用することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	理解度確認のため小テストを実施します (小テストの内容は以下の授業内容の欄を参照)。事後復習を欠かさないようにしてください。 実験に関するレポート作成を課します。内容は授業中に指示します。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 特に指定しない 【参考書】 実森正子・中島定彦『学習の心理-行動のメカニズムを探る』サイエンス社。 山内光哉・春木豊 (編著)『グラフィック学習心理学 行動と認知』サイエンス社。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度・授業態度 15% 小テスト 60% レポート 25%		
12. 受講生への メッセージ	「学習心理学」はなじみのない分野かもしれませんが、我々の日常生活に深く関係しています。人間行動の理解に欠かせない「学習」という現象についての幅広い知識を身につけてください。 学生の理解度によってシラバスを変更する場合があります。疑問点やわからないことは積極的に質問してください。		
13. オフィスアワー	詳細な時間は授業開始後に指示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス	事前学習	シラバスをよく読み、これから学習する内容を把握する。
		事後学習	心理学概論で学んだ「条件づけ」や学習・記憶に関する ことを復習する。
第 2 回	古典的 (レスポネント) 条件づけ (1): 理論と現象の理解	事前学習	古典的条件づけに関する基本的な用語 (条件刺激、無条件刺激など) を復習し、講義に備える。
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、理解不足が無い確認し、 専門用語を覚える。
第 3 回	古典的 (レスポネント) 条件づけ (2): 臨床場面での応用	事前学習	日常生活での古典的条件づけの例を五つ考える、また、 前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、臨床場面でどのように古 典的条件づけが用いられているか理解する。
第 4 回	オペラント条件づけ (1): 理論と現象の理解	事前学習	レスポネント条件づけに関する基本的な用語を復習 し、講義に備える。また、前回の授業で不明点があれば 質問内容を整理する。
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、理解不足が無い確認し、 専門用語を覚える。
第 5 回	オペラント条件づけ (2): 臨床場面での応用	事前学習	日常生活でのオペラント条件づけの例を五つ考える。ま た、前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、臨床場面でオペラント条 件づけがどのように用いられているかを理解する。
第 6 回	ここまでのまとめと小テスト (古典的条件づ け、オペラント条件づけ)	事前学習	これまでの授業を振り返り、2 種類の条件づけの理論や 臨床応用を復習し、小テストに備える。
		事後学習	理解不足な点を再度復習する。
第 7 回	技能学習	事前学習	技能学習について調べ、講義に備える。
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、技能学習とは何か、また その成立の仕組みを理解する。
第 8 回	社会的学習 (1): 社会的学習とはなにか	事前学習	社会的学習について調べ、講義に備える。また、前回の 授業で不明点があれば質問内容を整理する。
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、社会的学習のパターンを 理解する。
第 9 回	社会的学習 (2): 社会的学習の理論	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、社会的学習が生じるメカ ニズムについて、科学的に理解する。
第 10 回	問題解決と推論	事前学習	私たちが問題解決場面 (例: いつも使っている電車が運 転見合わせだ。どうやって大学にたどり着く?) に遭遇 したとき、どのようにその問題を解決しているか考える。 また、前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、問題解決の方法や推論の 種類について理解する。

第 1 1 回	ここまでのまとめと小テスト (技能学習、社会的学習、問題解決と推論)	事前学習	これまでの授業を振り返り、技能学習、社会的学習、問題解決と推論についての理論を復習し、小テストに備える。
		事後学習	理解不足な点を再度復習する。
第 1 2 回	記憶と学習	事前学習	ものを「覚える」とはどういうことか、「忘れる」とはどういうことかを考え、講義に備える。
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、記憶の構造について理解する。「忘れる」原因は何か、また「忘れる」ことの利点を理解する。
第 1 3 回	記憶の実験体験	事前学習	前回の授業で指示した実験材料を作成し、実験に備える。また、前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。
		事後学習	実験内容を復習し、自分の記憶の特徴について考える。
第 1 4 回	実験結果のまとめ	事前学習	前回の授業で行った自分の実験データをまとめ、授業に備える。
		事後学習	われわれの記憶の特徴について考察を深める。
第 1 5 回	総括	事前学習	これまでの授業で学んだことをふまえ、レポートを作成する。
		事後学習	授業を振り返り、学習がわれわれの生活にどのように関わっているか考察を深める。

1. 科目名 (単位数)	家族心理学 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3360
2. 授業担当教員	沢 哲司			
4. 授業形態	講義および演習・ディスカッション・グループ発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	人間は生涯を通じて他者との中で生きて行く。その最も身近な人間関係の中の一つに「家族」がある。本講義では、家族システム理論を始めとする家族を理解するための鍵概念を解説し、①家族のライフコースと発達、②家族内(夫婦、親子、兄弟姉妹など)の心理構造、③家族療法の概要について学びます。講義による解説とディスカッション・グループ発表を通し、人が成長していくうえで重要な役割を持つ家族の心理に関して理解を深め、日常生活の場で起きている家族の諸問題を考察し、受講生にとっての家族観の再考を促すことを目的としています。			
8. 学習目標	家族心理学が終了した時点で下記の目標達成をすることが期待されます。 1. 家族の在り方と家族メンバーの心理的ウェルビーイングとの深い関係を理解し、説明できるようになる。 2. 家族の発達と共に起こりうる諸問題について指摘できるようになる。 3. 家族心理学の理論と実践の違いを理解し、説明できるようになる。 4. 家族臨床の歴史と近年の主たる理論とアプローチについて、説明できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	家族について説明する力を培うために、グループ発表とレポート課題を出す。 【グループ発表】 教科書の担当箇所について、グループプレゼンテーションをする(各グループ20分程度の発表)。 担当箇所やグループは、第1回のオリエンテーションで決めるので必ず出席すること。 【レポート課題】 課題1: 東豊著『セラピスト入門—システムズアプローチへの招待』日本評論社を読み、2000字程度でレポートしなさい。 課題2(期末課題): あなたの家族、もしくは授業で出された家族ケースについて、ジェノグラムを描き、家族心理学の視点から理解できることを2000字程度でレポートしなさい。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 平木典子 中釜洋子著『家族の心理—家族への理解を深めるために』サイエンス社。 【参考書】 授業中に必要に応じて紹介します。			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での発表と積極的な参加度(授業態度を含む)と毎授業のレスポンスシート…25% ・グループプレゼンテーション…25% ・課題1…20% ・課題2(期末課題)…30% ・私語、携帯電話の操作、授業時間中での教室の出入り、その他周囲の学生に迷惑がかかる行為は「授業態度」として、減点の評価を行います。また、理由の申し出がない欠席、遅刻、早退も減点の対象です。 なお、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めません。			
12. 受講生への メッセージ	自身の家族について理解が深まる授業を行いたいと思います。疑問や意見に限らず、講義を受けていて少しでも気になったことを講義の中で学生が発表することや、レスポンスシートに書くことを歓迎します。学生とできる限り交流しながら授業を進めていきたいと思っています。そのため、学生の理解度・達成度・要望によって講義の進度や内容を一部調整する場合があります。 その他、初回授業で受講ルールや成績評価の詳細を説明し、グループ発表の担当決めを行いますので、受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。			
13. オフィスアワー	決まり次第授業で告知 メールアドレス: tesawa@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション	事前学習	シラバスを熟読する。	
		事後学習	発表グループと発表の打ち合わせをする。	
第2回	家族とは何か	事前学習	教科書の第1章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。	
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。	
第3回	家族の健康とは	事前学習	教科書の第2章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。	
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。	
第4回	家族づくりの準備	事前学習	教科書の第3章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。	
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。	
第5回	夫婦の発達とは	事前学習	教科書の第4章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。	
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。	
第6回	子供が育つ場としての家族	事前学習	教科書の第5章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。	
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。	
第7回	変化する社会の中の家族	事前学習	教科書の第6章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、	

			調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 8 回	家族理解に役立つ臨床理論	事前学習	教科書の第 7 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 9 回	家族の変化に役立つ臨床的援助技法	事前学習	教科書の第 8 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 10 回	家族への臨床的アプローチの実際	事前学習	教科書の第 9 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 11 回	家族のアセスメント	事前学習	配布されたプリントを読み、設問に答える。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 12 回	家族療法～システムズアプローチとは	事前学習	課題 1 に取り組む。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 13 回	家族療法～システムズアプローチの実際例	事前学習	配布されたプリントを読み、設問に答える。
		事後学習	課題 1 で取り組んだレポートを検証する。
第 14 回	家族をめぐる心理学の課題と展望	事前学習	教科書の第 10 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 15 回	全体のまとめ（レポート）	事前学習	課題 2（期末課題）に取り組む。
		事後学習	ノートを振り返りながら、あなたの家族があなた自身に与えた影響について考える。

1. 科目名 (単位数)	韓国の文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	GECM1315 GECM1325
2. 授業担当教員	郭 末任			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	2002年ワールドカップ日韓共催以後、K-POPを始め、韓国ドラマやハングルに対する関心が急速に高まっている。こうしたことを踏まえて、本学でも韓国の大学と協定を結び、また、韓国短期研修も実施している。そのため、本講義ではハングルや韓国に関心がある初心者の学生を対象に基本的なハングルを学びながら、韓国の文化や社会についても学習することを目的にする。講義内容は難しい文法よりは、分かりやすい日常会話、すなわち実用会話を中心に学習する。また、韓国の文化や社会などについても学習し、韓国社会の理解を高めることにする。			
8. 学習目標	学生には下記の目標を達成することが期待される。 1. 韓国社会や文化に対して基本的なことを理解する。 2. ハングルの文字を覚え、韓国語の読み、書きができる。 3. 簡単な日常会話ができる。 4. 韓国語で簡単な自己紹介ができる。 5. 韓国旅行のとき必要な基本的な言葉を覚える。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	課題1: 5回の授業までにハングルの文字を覚える。 課題2: 最終の授業に韓国語で自己紹介をする。 課題3: 韓国語や文化に関する情報や考えを持ち寄る発表をする。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】授業中に随時プリントを配る。 【参考書】授業中に随時示す。 木内明 著『基礎から学ぶ韓国語講座初歩』国書刊行会 2014 金真 他『韓国文化を読む』朝日出版社 2011			
11. 成績評価の方法	成績の判断基準は試験、日常の取り組み、レポートの3つに基づく。評価の割合は、1学期100点満点で、試験を50点、日常の取り組みを30点、レポートを20点にする。試験による評価は、何らかの小テストと期末試験を行う。小テストは途中の理解度を測定するため授業中に何度か行う。日常の取り組みは韓国語や文化に関する情報や考えを持ち寄る情報コーナーでの発表による。レポートは1学期を通してこんなことができるようになりたいという自己目標を設定し、成果を学期末に提出する			
12. 受講生への メッセージ	始まらないと結果もなし。とりあえず、やってみましょう。本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的に参加し発音などの練習のときは大きな声を出すこと。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠りまた途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときは傾聴すること。			
13. オフィスアワー	授業中に通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 授業概要についてシラバスを中心に説明する	事前学習	シラバス確認および学習用ノートを準備し 講義へ臨むこと	
		事後学習	自己目標の設定	
第2回	韓国語の理解 (ハングルの特徴と構成) 韓国の家屋	事前学習	ハングルの特徴と構成を理解する	
		事後学習	韓国語に関する理解内容をノートにまとめる	
第3回	基本母音(文字と発音)	事前学習	基本母音を10回ずつノートに記入	
		事後学習	基本母音の理解を確認	
第4回	基本子音(文字と発音) 韓国の飲食	事前学習	基本子音を10回ずつノートに記入	
		事後学習	基本子音の理解を確認	
第5回	合成母音(文字と発音) 韓国の衣服	事前学習	合成母音を10回ずつノートに記入	
		事後学習	合成母音の理解を確認	
第6回	合成子音(文字と発音) 韓国の音楽	事前学習	合成子音を10回ずつノートに記入	
		事後学習	合成子音の理解を確認	
第7回	私は○○です(名前と職業) 韓国の舞踊	事前学習	新出単語を10回ずつノートに記入	
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる	
第8回	この人は誰ですか(三人称代名詞) 韓国の伝統工芸	事前学習	新出単語を10回ずつノートに記入	
		事後学習	単語の暗記	
第9回	家族の呼び方 韓国の伝統工芸	事前学習	自分の家族を韓国語でノートに記入	
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる	
第10回	N+ガ/はどこにありますか(位置関係の言葉) 韓国の陶磁器	事前学習	新出単語を10回ずつノートに記入	
		事後学習	活用練習をまとめる	
第11回	N+をしますか	事前学習	新出単語を10回ずつノートに記入	

平成 28 年度

	韓国の世界遺産	事後学習	活用練習をまとめる
第 12 回	N+に/へ行きますか (時間関係の言葉) 韓国の観光	事前学習	新出単語を 10 回ずつノートに記入
		事後学習	時間と曜日関係の言葉の覚えを確認
第 13 回	漢数字と電話番号 韓国の現在 (人口と経済など)	事前学習	漢数字を 10 回ずつノートに記入
		事後学習	漢数字の覚えを確認
第 14 回	韓国語及び文化に関する発表	事前学習	韓国語及び文化に関する資料の収集及び整理
		事後学習	韓国語または文化に関する発表をまとめ
第 15 回	全体まとめ	事前学習	ハングルで自己紹介を書いて授業に臨むこと
		事後学習	学期初めに設定した自己目標の成果のまとめ
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	韓国の文化と言語Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GECM1316 GECM1326
2. 授業担当教員	郭 末任		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	韓国の文化と言語Ⅰでは言語を中心に講義を行なったが、Ⅱでは言語と文化両方を学習する。言語については基本的な挨拶から日常会話をはじめ、漢数詞、固有数詞などを応用し、会話を深める。文化については一般的な理論講義と共にビデオや現地見学(コリアタウン、高麗神社)などを併行して講義を行ない、より深い韓国文化の理解を高めることも目的とする。したがって、本授業は基本的なハングル文字を理解し、韓国の文化に興味を持っている学生が授業の対象として望ましい。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハングルの文字と単語を覚える 2. 基本的な日常会話ができるように学習する 3. 現代の韓国社会の政治・経済・社会・文化などについて理解する。 4. 韓国の伝統文化・名節について理解する。 5. 韓国の歴史や世界遺産などについて理解する。 6. 韓国の文化を直接的に体験し、より深い文化を理解する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 個人レポート：韓国文化の中で一つを選び、日本との相違点や類似点についてまとめる。 2) グループレポート：グループで発表した内容をまとめる。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 授業中に随時プリントを配る。 【参考書】 授業中に随時示す。 木内明 著『基礎から学ぶ韓国語講座初歩』国書刊行会 2014 金真 他『韓国文化を読む』朝日出版社 2011		
11. 成績評価の方法	成績の判断基準は試験、日常の取り組み、レポートの3つに基づく。評価の割合は、1 学期 100 点満点で、試験を 50 点、日常の取り組みを 30 点、レポートを 20 点にする。試験による評価は途中の理解度を測定するため授業中に何度か小テスト行う。日常の取り組みは韓国語や文化に関する情報や考えを持ち寄る情報コーナーでの発表による。レポートは1 学期を通してこんなことができるようになりたいという自己目標を設定し、成果を学期末に提出する。		
12. 受講生への メッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的に授業に参加し発音などの練習のときは大きな声を出すこと。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠りまた途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときは傾聴すること。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの説明	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバスに目を通し、講義へ臨むこと
		事後学習	自己目標の設定
第 2 回	ハングル文字 (母音と子音) 現代韓国社会の理解	事前学習	母音と子音を 10 回ずつノートに書く
		事後学習	覚えたハングル文字を確認する
第 3 回	挨拶言葉 韓国のお寺	事前学習	挨拶言葉を 10 回ずつノートに書く
		事後学習	覚えた挨拶言葉を確認する
第 4 回	教室の言葉 韓国の特産物	事前学習	教室言葉を 10 回ずつノートに書く
		事後学習	覚えた教室言葉を確認する
第 5 回	否定文 韓国の伝統文化	事前学習	否定の例文を 10 個ノートに書く
		事後学習	伝統文化の映像を見て理解したことをノートにまとめる
第 6 回	尊敬語 韓国の歴史	事前学習	尊敬の例文を 10 個ノートに書く
		事後学習	韓国歴史を時期区分しノートにまとめる
第 7 回	職業の言葉 韓国の世界遺産	事前学習	職業の言葉を 10 回ずつノートに書く
		事後学習	職業の言葉を確認する
第 8 回	漢数字と固有数字 韓国と儒教	事前学習	漢数字を 1 から 10 まで覚える
		事後学習	儒教が韓国社会に及ぼした影響についてノートにまとめる
第 9 回	食堂での言葉 食文化の日韓比較	事前学習	注文の例文を 10 個ノートに書く
		事後学習	食文化の日韓異同をノートにまとめる
第 10 回	買い物の言葉 衣文化の日韓比較	事前学習	買い物の例文を 10 個ノートに書く
		事後学習	韓国衣文化の特徴についてノートにまとめる
第 11 回	家族の呼称	事前学習	家族関係言葉を 10 回ずつノートに書く

平成 28 年度

	家族関係と家族制度の日韓比較	事後学習	日韓家族制度の異同をノートにまとめる
第 12 回	位置関係の言葉 現代音楽の日韓比較	事前学習	位置関係の言葉を 10 回ずつノートに書く
		事後学習	日韓現代音楽の異同をノートにまとめる
第 13 回	過去形 韓国の名節	事前学習	過去形の例文を 10 個ノートに書く
		事後学習	韓国社会（名節）についてノートにまとめる
第 14 回	韓国語及び文化に関する発表	事前学習	韓国語及び文化に関する資料の収集及び整理
		事後学習	韓国語または文化に関する発表をまとめる
第 15 回	全体まとめ	事前学習	学期初めに設定した自己目標成果をまとめる
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる

1. 科目名 (単位数)	基礎演習 I (1 単位)	3. 科目番号	GEBS1108
2. 授業担当教員	木村 純	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	演習・ディスカッション・グループ発表		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	心理学とはどのような学問領域なのか、また、主な研究テーマや研究方法にはどのようなものがあるのかについて体験的に理解することを目標とする。 具体的には身近なテーマについて、質問紙法、実験法、観察法、事例研究といった心理学における代表的な研究方法を用いた簡単な演習を通して、自分自身の心理的特徴について理解し、あわせて基礎的な知識や技術を習得する。		
8. 学習目標	1. 心理学という学問領域、主な研究テーマ、研究方法について説明することができる。 2. データ (事実) に基づいて、理論的・批判的に考え、意見を述べることができる。 3. 心理学的なもの見方、考え方を日常生活で応用することができる。 4. 心理学を通して自己や他者、社会を理解することができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎回、当該のテーマに関するワークシートに取り組み、授業の最後にそれを提出する。または翌週までに提出する。 2. ディスカッションについては発表のための資料を作成し終了後に提出する。または翌週までに提出する。 3. 他のグループの発表についてのコメントや感想などをまとめ提出する。または翌週までに提出する。 4. 適宜、準備として資料集めや下調べの課題を課すことがある。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特になし。 【参考書】 必要に応じて、適宜、資料を配付する。また、他に参考書がある場合はその都度指示する。		
11. 成績評価の方法	平常点 (授業への積極的参加度、発表、発言) 40% 課題 (ディスカッションのまとめシート、ワークシート、レポート、図形・絵画) 60%		
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業に積極的に参加すること。 2. 正当な理由なく、遅刻、欠席、早退をしないこと。 3. 授業の妨害行為および他者への迷惑行為 (私語、居眠り、携帯の使用、実習やディスカッションへの不参加など) をしないこと。これらの不適切な行為がみられた場合は厳格に対処する。 疑問がある場合は積極的に質問するなどして解決すること。		
13. オフィスアワー	簡単な質問であれば授業前後の時間に受け付ける。オフィスアワーについては最初のガイダンスで周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス：授業内容の案内。心理学という学問についての説明	事前学習	心理学について知っていることをまとめてくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第 2 回	はじめに知っておくべきこと：心理学の研究法と倫理について	事前学習	心理学の倫理的な問題が発生する場合とその事例 (架空のものでもよい) を考える。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第 3 回	人の認知の不思議 (1)：私たちにとっての現実とは	事前学習	「感覚の不確かさ」についての事例を考えてくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第 4 回	人の認知の不思議 (2)：さまざまな錯視の体験、日常の中の錯視	事前学習	錯視の図形、絵画などを考えてくる。
		事後学習	錯視の図形、絵画の作成と提出。
第 5 回	人の認知の不思議 (3)：さまざまな錯視の体験、日常の中の錯視	事前学習	錯視の図形、絵画などを考えてくる。
		事後学習	錯視の図形、絵画の作成と提出。
第 6 回	自分や他者を理解する (1)：パーソナリティの理論について	事前学習	パーソナリティとは何か。パーソナリティテストの体験などをまとめてくる。
		事後学習	レポートの作成と提出。
第 7 回	自分や他者を理解する (2)：パーソナリティ分析の実習	事前学習	パーソナリティテストについてまとめてくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第 8 回	自分や他者を理解する (3)：自己理解：自己とは何か。どのようにすれば自己は理解できるのか。	事前学習	「自己理解」についてまとめてくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第 9 回	自分や他者を理解する (4)：自己と他者：まずは対象をよく見る。そして何を見るのか	事前学習	日常で行える簡単な他者理解についてまとめてくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第 10 回	自分や他者を理解する (5)：まとめ <ディスカッションと発表>	事前学習	ディスカッションと発表の準備をする。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第 11 回	心理的な障害と治療 (1)：心理的な障害についての基礎知識	事前学習	心理的な障害について知っていることをまとめてくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第 12 回	心理的な障害と治療 (2)：さまざまな心理的な障害について事例の検討 1	事前学習	資料を通読する。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第 13 回	心理的な障害と治療 (3)：さまざまな心理的な障害について事例の検討 2	事前学習	資料を通読する。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第 14 回	世の中にある様々な問題と心理学	事前学習	資料を通読する。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第 15 回	授業の総括：今までの内容の振り返りとまとめ。予備	事前学習	これまでの授業で扱った様々なテーマについて配付資料を用いて総括する。
		事後学習	今までの授業を概観し、心理学についてのイメージが変わったか、深まったか等について省察する。

1. 科目名 (単位数)	基礎演習Ⅱ (1 単位)	3. 科目番号	GEBS2108
2. 授業担当教員	新井 洋輔	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	演習、発表、グループ討議		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理学は科学として在ることを示すことで生まれ、また経験と実践の学としても積みあげられてきている。学問としての心理学を学んでいくにあたり、心理学的なものの方や考え方を養うことは欠かせない。これは、先人の研究成果を正確に読み取り、自身の意見を論理的に組み立てることであつたり、臨床心理学的な観点から人間理解を深めることであつたりする。</p> <p>本講義においては、心理学の専門的内容を学び始める準備として、心理学の基本的なテーマを取りあげながら、基礎的な知識を身につけると同時に、学問としての心理学の視点・観点を身につけることをねらいとする。講義においては演習や議論、発表を通して、知識と同時に体験的な理解を深めていく。</p>		
8. 学習目標	<p>1 心理学的なものの方や考え方を体験的に身につけていく。</p> <p>2 心理学の基本的なテーマについて基礎知識を学ぶ。</p> <p>3 自ら学び、まとめる過程を通して、心理学的視点を身につけ、応用する力を養う。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>主にレポート作成と資料収集に関するアサイメントが課される。各回の事前・事後学習を十分に達成してから講義に臨むこと。本ページ末尾の「まとめる」とは原則として400字程度とするが、異なる場合には個別に講義内で指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 松井豊 (著) 『改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために—』河出書房新社。</p> <p>【参考書】 B・フィンドレイ (著) 細江達郎・細越久美子訳 『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>受講態度、演習 (発表) への取り組み・成果、期末レポートから総合的に評価する。</p> <p>授業への積極的参加度 : 30%</p> <p>演習への取り組み・成果 : 40%</p> <p>期末レポート : 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「心理学基礎実験」等、今後の受講に必要なレポート作成に必要な知識・技術を身につけるための授業であり、1年次の「心理学概論」「心理統計法」に継続した内容ですので、これらの講義内容を復習してから臨んでください。なお、皆さんの理解度・達成度によって講義内容を変更する場合があります。</p> <p>わからないことについては、質問を歓迎します。なお、演習の課題への取り組みを評価しますので、事前に通知のない欠席・遅刻・早退や、内容に関連しない私語、居眠り等は減点の対象となります。また、授業内での携帯電話の使用は厳禁とします。</p> <p>初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業内で提示する。授業時間外での質問・相談を希望する場合は、yoara1@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 宛に、一週間前までに「授業名・クラス・学籍番号・質問の概要」を記載したメールで予約をとること。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	受講契約、オリエンテーション—研究レポートとは—	事前学習	本シラバスの内容を熟読し、本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく
		事後学習	「感想文」と「学術レポート」の違いを明確にし、まとめる
第2回	心理学のレポートとは心理学知見の収集方法	事前学習	一年次秋期の「心理統計法」「心理学概論」を復習し、レポート記載ルールを確認しておく
		事後学習	教科書1章の内容のまとめを作成し、誤った理解をしていた箇所を確認する
第3回	研究レポートの書き方①: 文献収集—資料の検索と根拠の提示—	事前学習	前回決定したテーマについて、心理学の文献を検索・収集して引用文献一覧を作成する
		事後学習	講義内容をもとに、引用文献一覧の修正を行う
第4回	研究レポートの書き方②: 研究史—引用と主張の違い—	事前学習	教科書2章を熟読し、引用と主張の違いや引用文献の記載法についてまとめておく
		事後学習	講義内容を踏まえ、引用文献をもとに研究史を執筆する
第5回	研究レポートの書き方③: 目的—資料の読み取りと主張点の記述—	事前学習	教科書3章を熟読し、研究史をもとに先行研究の問題点などを指摘して「目的」を執筆する
		事後学習	講義内容を踏まえ、事前学習で執筆した「目的」を修正する
第6回	研究レポートの書き方④: 方法—再現性のある研究方法の記述—	事前学習	教科書4章を熟読したうえで、「目的」までを背景とした研究計画を作成し、その研究を実施したものと仮定して「方法」を執筆する
		事後学習	講義内容を踏まえ、事前学習で執筆した「方法」を修正する
第7回	研究レポートの書き方⑤: 結果—客観性を保った解析結果の記述—	事前学習	教科書5章を熟読したうえで、「方法」に沿った分析案を「心理統計法」で学んだ解析方法の中から選択し、分析を実施したものとして仮想データでの「結果」を執筆する
		事後学習	講義内容を踏まえ、事前学習で執筆した「結果」を修正する
第8回	研究レポートの書き方⑥: 考察—データの解釈と考察の記述—	事前学習	教科書6章を熟読したうえで、「結果」に沿った「考察」を執筆する。
		事後学習	講義内容を踏まえ、事前学習で執筆した「考察」を修正する
第9回	客観的資料に基づく主張: ディベート第1回	事前学習	根拠に基づく主張とは何か、これまでの講義内容を復習しておく
		事後学習	クリティカル・シンキングとは何か、主張を補強するためのデータとは何かをまとめる

第 10 回	客観的資料に基づく主張:ディベート第 2 回	事前学習	テーマ設定に沿った主張に用いることのできるデータ(新聞記事等)を収集しておく
		事後学習	ディベートの結果を踏まえ、不足していた知見や追加したい知見は何か確認する
第 11 回	客観的資料に基づく主張:ディベート第 3 回	事前学習	テーマ設定に沿った主張に用いることのできるデータ(心理学的知見)を収集しておく
		事後学習	ディベートの結果を踏まえ、より信頼性の高い心理学知見を検索・確認する
第 12 回	レポート最終修正 発表を行う際の留意事項について	事前学習	教科書 p. 179 のコラムを熟読しておく 第 11 回までの講義内容を踏まえて、第 8 回までに作成したレポートを修正・出力しておく
		事後学習	講義内でのディスカッションの結果を踏まえて、レポートを修正・完成させる
第 13 回	発表および質疑応答①	事前学習	発表の予行演習を行い、時間内に主張点を適切に発表できる準備を行っておく
		事後学習	発表する際の注意点をまとめる 発表と質疑の結果を踏まえてレポートの修正を行う
第 14 回	発表および質疑応答②	事前学習	前回発表の内容を踏まえて発表内容および方法を再度吟味しておく
		事後学習	質問する際の注意点をまとめる 発表と質疑の結果を踏まえてレポートの修正を行う
第 15 回	発表および質疑応答③ まとめ	事前学習	前回発表の内容を踏まえて発表内容の最終案を確定しておく 前年度「心理学入門」「心理学概論」で提出し返却されたレポートを持参する
		事後学習	前年度に作成したレポートと、第 8 回までに作成したレポートと見比べ、レポートに関するルールを再確認する

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (教養コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3213
2. 授業担当教員	成田 成		GECD3264
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講義では、主に公務員や会社員を目指す学生を対象としており、キャリアアップにつながる「教養」を身に付けるための一環として、効果的な考え方や勉強法を学習参考例や演習問題を使用しながら実践的に理解する。具体的には、基礎力を高める SPI 適性問題、人文科学・自然科学・社会科学の公務員関連問題などを解いて、考え方や解き方のコツをマスターする。また、職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めるために、社会で問題になっている点などを取り上げて、グループでのディスカッション、クラスでの発表、各人の小論文指導などを行い、社会現場で役立つ実践的な能力を身に付けていく。</p>		
8. 学習目標	<p>本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。</p> <p>①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。</p> <p>②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。</p> <p>③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。</p> <p>④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。</p> <p>⑤上記の①～④を兼ね備えた、総合的な教養と実践力を身に付けられる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題：最終日の授業時間には「就職先では自分の経験や知識をどのように活かすか」というテーマで、1,000字程度のレポートを作成していただく。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】教科書は使用せずに、分かりやすい学習参考例を配付して授業を進めていく。</p> <p>【参考書】参考書は指定しないが、自分が受験する試験に関する参考書や問題集の中でも、解説が詳しく分かりやすいものをお薦めである。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題：60 点、授業態度 (宿題、質問、発表などを含む)：40 点、総合点：100 点 4 分の 3 以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業を通じて、自分の希望する就職先や資格などについて真剣に考え、それらの目標を達成させるために、自主的に教養を高めてキャリアアップを図れるようになってほしい。</p>		
13. オフィスアワー	<p>時間：授業のある日の休み時間または放課後 場所：伊勢崎キャンパス：4 号館 1 階 120 研究室</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、効果的な勉強法	事前学習	将来、自分がやりたい職業について考えてくる。
		事後学習	効果的な勉強法について、要点を再確認する。
第 2 回	就職活動に関する基本的な流れ	事前学習	就職活動を行うために何をすべきかを考えてくる。
		事後学習	希望する就職先について調査してみる。
第 3 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 4 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 5 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 6 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 7 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 8 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 9 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 10 回	施設・会社等の訪問の仕方 (アポイントの取り方、マナーなど)	事前学習	施設・会社等の訪問の仕方について調べてくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことについて復習する。
第 11 回	長期休暇期間におけるキャリアアップ法 (効果的な勉強法、有効な過ごし方など)	事前学習	夏休み期間中の有効な過ごし方について考えてくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことを参考にして夏休みの計画に役立てる。
第 12 回	適性問題、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習をしてくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 13 回	適性問題、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習をしてくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 14 回	小論文の書き方	事前学習	小論文の書き方について調べてくる。
		事後学習	小論文の書き方について復習してくる。
第 15 回	レポート (就職先では自分の経験や知識をどのように活かすか)	事前学習	レポートの下書きを作成してくる。
		事後学習	作成したレポートについて要点を再確認する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I A (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3211
2. 授業担当教員	チームティーチング		GECD3261
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	2年次までの教職課程科目並びにキャリア基礎演習 I /キャリア基礎演習 II をすでに単位取得していることが望ましい。		
7. 講義概要	教員には、校種別の専門的知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身に付けることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習 I (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習 II A (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習 I A (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア開発演習 I A においては、「教職教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力を身につけることを目標とする。各回の演習においては、「教職教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する基礎的な教養を身に付け、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得することができる。 2. 教職教養の各領域の出題傾向を理解したうえで、各自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 教職教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 教職教養の各領域の過去問演習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集等に取り組み、自己学習できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の確認テスト 2. 習熟度確認テストおよびレポート課題 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 東京教友会編著『教職教養ランナー 2017 年度版』一ツ橋書店。</p> <p>【配布資料】 各回の演習で資料を配布する。</p> <p>【参考書】 協同教育研究会編『教職教養の精選実施問題』、協同出版。 協同教育研究会編『過去問シリーズ：〇〇県 (自治体別に出版) の教職教養』、協同出版。 資格試験研究会編『教職教養らくらくマスター』、実務教育出版。 その他、自らが学習しやすい参考書を参照すること。</p>		
11. 成績評価の方法	各回の確認テスト 20% 習熟度確認まとめテスト 80%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本演習においては、教員採用試験合格を目指して、基礎力・実践力を身につけることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業ごとに限られた時間の中で重要ポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ② 「確認テスト」までの暗記・反復学習時間は、静粛に取り組むこと。 ③ 遅刻および授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ④ わからなかった点は各担当教員に積極的に質問すること。 ⑤ 本演習を契機として、各自が積極的に学習を進めること。重要ポイントの暗記、問題の反復練習が重要である。 <p>*なお、本演習は各分野の専門教員による T, T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合があります。その際にはコーディネーターが事前に連絡します。</p>		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワー (時間割掲載のオフィスアワー欄を参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション *本演習の目標と進め方。	事前学習	シラバスで授業内容を確認しておくこと。
		事後学習	テキストの「まえがき」の部分を熟読しておくこと。
第 2 回	現代の教育 (pp. 189~216) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 3 回	教育史① (pp. 217~268) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 4 回	教育史② (pp. 217~268) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 5 回	教育史③ (pp. 217~268) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 6 回	教育課程と教授・学習 (pp. 303~310) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 7 回	教育法規① (pp. 7~138)	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。

	* 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 8 回	教育法規② (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 9 回	教育法規③ (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 10 回	教育法規④ (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 11 回	教育法規⑤ (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 12 回	教育法規⑥ (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 13 回	特別支援教育の制度① * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	特別支援教育についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 14 回	特別支援教育の制度② * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	特別支援教育についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 15 回	習熟度確認まとめテスト／授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること。
		事後学習	習熟度確認まとめテストの結果を通じて自己の成果と課題を確認すること。
第 16 回	教育心理① (pp. 269～302) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 17 回	教育心理② (pp. 269～302) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 18 回	教育心理③ (pp. 269～302) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 19 回	教育時事① * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	最近の教育問題についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 20 回	教育時事② * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	最近の教育問題についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 21 回	教育時事③ * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	最近の教育問題についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 22 回	教育時事④ * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	最近の教育問題についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 23 回	学習指導要領① (pp. 311～359) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 24 回	学習指導要領② (pp. 311～359) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 25 回	学習指導要領③ (pp. 311～359) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 26 回	生徒指導・安全指導① (pp. 139～168) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 27 回	生徒指導・安全指導② (pp. 139～168) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 28 回	人権尊重の教育① (pp. 169～188) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわ

			からなかった点など復習しておくこと。
第 29 回	人権尊重の教育② (pp. 169~188) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 30 回	習熟度確認まとめテスト/授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること。
		事後学習	習熟度確認まとめテストの結果を通じて自己の成果と課題を確認すること。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I B (教員コース) (養護) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3212
2. 授業担当教員	石垣 久美子		GECD3262
4. 授業形態	講義・問題演習・実技演習・グループ討議	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、養護教諭教員採用試験対策を柱に据えつつ、養護教諭としての資質・能力をさらに向上させることを第一の目的とする。教員採用試験に向けた問題演習を入り口として、これまでに身につけてきた養護教諭としての基礎的な能力をさらに発展させ、児童生徒の複雑かつ多様な健康課題に対応できる高度な専門性を習得することを目指す。また講義に取り組む中で、養護教諭という職業への責任と使命感を再確認し、意欲的な自己学習を定着させていくことを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員採用試験に合格し、養護教諭として現場で活躍するための発展的知識・技術を確実に習得し、実践に活かすことが出来る。 2. 児童生徒の健康課題に対する判断力・対応力を磨き、高度な専門職としての資質をさらに向上させる。 3. 教員採用試験の動向を知ることによって、今後の学習計画を明確化する。 4. 講義中の取り組みを通して自分なりの学習スタイルを見つけ、家庭での自己学習につなげる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内で扱った内容の復習を行い、内容の定着を図る。 2. 毎授業後、演習問題振り返りシートへの記入を行い、今後の学習目標の整理を行う。 3. 翌週の講義内容に関連する事項について、予習を行う。 4. 養護教諭の職務に関する小論文執筆 (夏季および冬季休業期間中) 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 東京アカデミー編『オープンセサミシリーズ 2017 年度教員採用試験ステップアップ問題集①養護教諭』七賢出版、2015。 <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版学校保健実務必携 第 2 次改訂版』第一法規、2009。(購入済み) 2) 『教員採用試験よくわかるシリーズ「よくわかる養護教諭」』時事通信出版局。(購入済み) 3) 文部科学省、日本学校保健会より出版されている冊子など 		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度 (30%) 2. 演習問題の振り返りおよび日常的な自己学習への取り組み (20%) 3. 毎回の演習問題、半期ごとのまとめ課題への取り組み (30%) 4. 養護教諭の職務に関する小論文 (20%) 		
12. 受講生への メッセージ	養護教諭専門科目での既習事項とリンクさせながら、2 年次までに身につけてきた養護教諭としての基礎基本をさらに発展させ、教員採用試験 1 次試験合格を目指しましょう。養護教諭としての専門性をさらに向上させ、学校現場で活躍することのできる知識・技術の習得を目標に、一つ一つクリアしていきましょう。		
13. オフィスアワー	初回講義にて告知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・全国の出題傾向等 ・教員採用試験にむけた準備態勢を整える。	事前学習	養護教諭を目指す理由や、理想とする養護教諭像を振り返る。
		事後学習	自らの受験する自治体の受験情報を調べ、必要な準備についての見通しを持つ。
第 2 回	学校保健 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校保健に関するページ (pp. 2~10) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った学校保健の演習問題に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 3 回	学校安全 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校安全に関するページ (pp. 19~25) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った学校安全の演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 4 回	養護教諭の職務と保健室 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の養護教諭に関するページ (pp. 33~48) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った養護教諭に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 5 回	保健教育① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の保健教育に関するページ (pp. 66~84) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った保健教育に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 6 回	保健教育② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の保健教育に関するページ (pp. 66~84) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った保健教育に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 7 回	健康診断① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康診断に関するページ (pp. 108~123) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康診断に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 8 回	健康診断② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康診断に関するページ (pp. 108~123) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康診断に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。

第 9 回	健康相談・健康観察 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康相談に関するページ (pp. 146~157) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康相談に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 10 回	疾病とその予防① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の疾病に関するページ (pp. 169~205) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った疾病に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 11 回	疾病とその予防② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の疾病に関するページ (pp. 169~205) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った疾病に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 12 回	救急処置① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の救急処置に関するページ (pp. ~25) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った救急処置に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 13 回	救急処置② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の救急処置に関するページ (pp. ~25) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った救急処置に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 14 回	論文文① 「不登校の子どもへの養護教諭の支援」 (グループ討議・振り返り)	事前学習	不登校の児童生徒への対応について、既習科目での学習内容を振り返っておく。
		事後学習	グループ討議をもとにして実際に小論文を執筆する。
第 15 回	春期問題演習のまとめと振り返り 今後の自己学習の進め方	事前学習	春期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	半期の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標や自己学習計画を明確化する。
第 16 回	学校環境衛生 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校環境衛生に関するページ (pp. 301~310) を読んでおく。
		事後学習	本時に行った学校環境衛生に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 17 回	関係法規 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の関係法規に関するページ (pp. 321~329) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った関係法規に関連する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 18 回	実践問題① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでに実施した演習問題をふりかえり、苦手分野について復習する。
		事後学習	本時に行った実践問題に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 19 回	実践問題② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでに実施した演習問題をふりかえり、苦手分野について復習する。
		事後学習	本時に行った実践問題に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 20 回	全国過去問演習① (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 21 回	全国過去問演習② (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 22 回	全国過去問演習③ (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 23 回	全国過去問演習④ (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 24 回	養護教諭採用試験合格者体験談 (グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでの学習を振り返り、教員採用試験に関する疑問等をまとめておく。
		事後学習	先輩の合格体験談を聞いた感想をまとめ、今後自分が取り組むべき課題を明確化する。
第 25 回	論文文②： 「いじめに対する養護教諭の支援」 (グループ討議・振り返り)	事前学習	いじめへの対応について、既習科目での学習内容をふりかえり、自分の考えをまとめる。
		事後学習	グループ討議をもとにして実際に小論文を執筆する。
第 26 回	全国過去問演習① (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。

第 27 回	全国過去問演習②（記述式） （解説・討論・実技）	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 28 回	全国過去問演習③（記述式） （解説・討論・実技）	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 29 回	全国過去問演習④（記述式） （解説・討論・実技）	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 30 回	秋期過去問演習のまとめと振り返り 今後の自己学習課題のまとめ	事前学習	秋期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	1 年間の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標を明確化する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (教養コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD4213 GECD4264 GECD4214
2. 授業担当教員	成田 成		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、主に公務員や会社員を目指す学生を対象としており、就職試験や資格試験のためだけでなく、有能な社会人として必要な「教養」を身に付けるための一環として、効果的な勉強法を資料や演習問題を使用しながら実践的に理解する。具体的には、基礎力を高める SPI 適性問題、人文科学・自然科学・社会科学の公務員関連問題などを解いて、解き方のコツをマスターする。また、職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めるために、社会で問題になっている点などを取上げて、グループでのディスカッション、クラスでの発表、各人の小論文指導なども行い、現場で役立つ実践的な能力を身に付ける。		
8. 学習目標	<p>本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。</p> <p>①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。</p> <p>②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。</p> <p>③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。</p> <p>④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。</p> <p>⑤上記の①～④を兼ね備えた、有能な社会人として活躍できる総合的な教養力や実践力を身に付けられる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：最終日の授業時間には、「有能な社会人となるためにはどうすべきか」というテーマで、1,000字程度のレポートを作成していただく。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】教科書は使用しないが、市販の本よりも分かりやすい学習参考例を配付して授業を進めていく。</p> <p>【参考書】参考書は指定しないが、自分が受験する試験に関する参考書や問題集の中でも、解説が詳しく分かりやすいものをお薦めである。</p>		
11. 成績評価の方法	レポート課題：60 点、授業態度 (提出課題、発表などを含む)：40 点、総合点：100 点 4 分の 3 以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	本授業を通じて、有能な社会人として活躍できる教養力を養っていただきたい。また、現場で起こり得る問題点については、それを発見して解決できる能力を身に付けてほしい。		
13. オフィスアワー	時間：授業のある日の休み時間または放課後 場所：伊勢崎キャンパス：4 号館 1 階 120 号室		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、効果的な勉強法	事前学習	有能な社会人とは、どんな人のことを言うのかについて考えてくる。
		事後学習	効果的な勉強法について、要点を再確認する。
第 2 回	適性問題、就職活動をするための事前の準備	事前学習	どこに就職したいのかを考えておく。
		事後学習	就職先に応じた事前の準備を行う。
第 3 回	適性問題、小論文問題、自己 PR の仕方	事前学習	小論文や自己 PR の原案を考えてくる。
		事後学習	ワークシートに記載した内容を再確認して練り直す。
第 4 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 5 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 6 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 7 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 8 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 9 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 10 回	適性問題、面接の受け方	事前学習	面接の受け方について練習をしてくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことについて復習する。
第 11 回	模擬面接、合格点がもらえる小論文	事前学習	小論文の書き方について予習してくる。
		事後学習	合格点がもらえる小論文のポイントについて復習する。
第 12 回	模擬面接、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 13 回	模擬面接、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことについて復習する。
第 14 回	模擬面接、時事問題	事前学習	時事問題として取り上げられそうなテーマを考えてくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 15 回	レポート (有能な社会人となるためにはどうすべきか)	事前学習	レポートの下書きを作成してくる。
		事後学習	作成したレポートについて要点を再確認する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習ⅡA (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD4211 GECD4261
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・課題演習 (論作文作成・模擬面接など)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「キャリア基礎演習Ⅰ、Ⅱ」および「キャリア開発演習Ⅰ」を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	<p>本講義では、1 年次の「キャリア基礎演習Ⅰ (一般教養)」、2 年次の「キャリア基礎演習Ⅱ (専門教養)」および 3 年次の「キャリア開発演習Ⅰ (教職教養)」で培われてきた各分野・領域における基礎学力を基盤とし、教員採用試験対策における最終的な総まとめとしての段階と位置づけ、より実践的かつ実務的な講義・演習を中心とした講座を展開する。</p> <p>各回の授業においては、各自自治体ごとの小論文および面接試験の傾向を踏まえながら、過去に出題された課題をもとにした個人および集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導などを行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 各自自治体による二次試験の出題傾向を自ら調べ対策をたてることのできる。 個人および集団面接・集団討論形式の試験において、過去に出題されたテーマに対して積極的に自らの意見を述べることで、教員になるための資質の向上を目指す。 模擬授業において、これまで各教科の指導法で学んできたことをもとに全体を見通した授業の一部を展開することのできる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 論作文などの課題提出 各回における積極的な発言、態度を評価 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業の際に適宜配布 「教職教養」「全科」「一般教養」の各ランナーやその他、自らが学習しやすい参考書を用意 		
11. 成績評価の方法	<p>各時間に出された課題 (論作文、レポートなど) の提出・・・40%</p> <p>授業態度・・・40%</p> <p>模擬テスト.....20%</p> <p>100%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業においては、教員採用試験合格を目指して、二次試験合格に向けての実践力を身につけることを目的としている。目的の達成のためには、受講生は以下の事項について守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 限られた時間の中でポイントを説明するので、授業中は集中すること。 個人および集団面接の際、予想される質問に対して端的に答えられるように十分な準備をして臨むこと。 集団面接および討論の際、積極的・意欲的に議論に参加すること。 授業中における私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁。 本授業の経験を契機として、教員採用試験合格を目指す友人と協力して個人・集団面接および集団討論に対する個々のさらなるレベルアップを図ること。面接試験対策においては、対応力が問われるため本番の面接を想定した練習を重ねることが重要である。 		
13. オフィスアワー	・各担当教員のオフィスアワーを参照		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションおよび論文の書き方について (講義) *各自自治体の採用試験の傾向および 1~3 年生までのキャリア教育・教員対策講座の振り返りをし、現時点で自分が補わなければならない部分を再確認することができる。(教職課程支援室にも依頼) 	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。改めて自分が受験する自治体の動向を確認する。
		事後学習	本講義の基本的な流れを理解し、受験する各自自治体の願書・資料の入手・収集に努める。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> 論文指導と実際 (講義・演習) *前時で課題として出した論文の執筆。課題 1 (教職課程支援室にも依頼) 	事前学習	論文を書く際に必要となる注意事項を知り、本時の課題を確認しアウトラインを練る。
		事後学習	書いた論文について自己評価を行う。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> 新任教師や臨時教員に求められる必要な教育法規 (講義) *来年度教員を目指す者および臨時教員を希望する者全てにおいて重要かつ必要な教育法規の見直しをし、再認識を行うとともにしかるべき将来に備える。 	事前学習	教育現場で求められる教師像を簡潔にまとめておく。
		事後学習	来年度教員を目指す者および臨時教員を希望する者全てにおいて重要かつ必要な教育法規を再確認する。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> 面接練習オリエンテーション (講義) *各受験自治体別にグループ分け (教職課程支援室にも依頼) 	事前学習	自分が受験する自治体の面接内容における最新の動向を調べる。
		事後学習	各自でピックアップした設問を個々で練習する。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> 個人 (集団) 面接練習① (演習) *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとともにその振り返りをする。 	事前学習	各自が重要と思われる教育法規について簡単に解説できるように構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッションを整理し、次時に生かせるようにする。

第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・個人（集団）面談練習②（演習） *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとともに集団でディスカッションを行い、よりよい応答を検討する。 	事前学習	各自が重要と思われる教育法規について簡単に解説できるように構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッションを整理し、次時に生かせるようにする。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・集団討論・場面指導オリエンテーション（講義） *校種別にグループ分け（教職課程支援室にも依頼） 	事前学習	各自が重要と思われる教育法規について簡単に解説できるように構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッションを整理する。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・集団討論練習①（演習） *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとともに集団でディスカッションを行い、よりよい応答を検討する。 	事前学習	教育現場で自分はどうのように貢献できるか具体的に述べられるよう構想を練る。
		事後学習	本時の集団討論で指摘された注意事項やディスカッションを整理し、次時に生かせるようにする。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・集団討論練習②（演習） *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとともに集団でディスカッションを行い、よりよい応答を検討する。 	事前学習	教育現場で自分はどうのように貢献できるか具体的に述べられるよう構想を練る。
		事後学習	本時の集団討論で指摘された注意事項やディスカッションを整理する。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・場面指導①（演習） *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとともに集団でディスカッションを行い、よりよい応答を検討する。 	事前学習	具体的な場面指導を想定し、実演ができるよう構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッションを整理し、次時に生かせるようにする。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・直前対策 模擬テスト① 一般教養編（演習） *採用試験で頻繁に出される設問に対して模擬テストでの実施。（教職課程支援室にも依頼） 	事前学習	事前に一般教養の領域の内容を把握しておく。
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握する。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・直前対策 模擬テスト② 教職教養編（演習） *採用試験で頻繁に出される設問に対して模擬テストでの実施。（教職課程支援室にも依頼） 	事前学習	事前に教職教養の領域の内容を把握しておく
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握する。
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・直前対策 模擬テスト③ 専門教養編（演習） *採用試験で頻繁に出される設問に対して模擬テストでの実施。（教職課程支援室にも依頼） 	事前学習	事前に専門教養の領域の内容を把握しておく。
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握する。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・直前対策 模擬テスト④ 総合編（教職課程支援室にも依頼） 	事前学習	事前に全領域の内容を把握しておく。
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握する。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・評価とまとめ（講義およびまとめのレポート） *本講座における目的や目標が達成できたか総合的評価を行う。 	事前学習	これまでの授業の流れを振り返り、意義のあった部分および問題点を整理しておく。
		事後学習	本授業における意義を再確認し、今後に向けての自分の進むべき方向性を改めて明確にし、決意を新たにす。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習ⅡB (教員コース) (養護) (2 単位)	3. 科目番号	GECD2312
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習・実技演習・グループ討議	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、教員採用試験対策に主眼をおきながら、養護教諭としての資質向上を目指す専門教育科目として展開する。全国の過去数年間の出題傾向の研究・分析を踏まえ、養護教諭採用試験の必須事項を精選して最終確認を行う。また、小論文、面接、集団討論に関する実技や演習を通して、児童生徒等の心身の健康実態、教育現場が養護教諭に求めているものを整理する。		
8. 学習目標	養護教諭採用試験で実際に出題された問題を解くことを通し、まずは1次試験合格を目指す。また、面接や討論などの練習を通して実践的な資質を向上させ、即戦力となるための力量を確かなものにする。 ＜具体的な学習目標＞ ①学校保健・学校安全に関する法令等に精通する。 ②養護教諭としての基礎知識・専門知識を広く習得する。 ③救急処置の理論と方法を確実にマスターする。 ④児童生徒のヘルスニーズの解決のための対応力を高める。 ⑤学習指導要領に精通し、指導案の作成と指導の実践力を高める。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	①演習問題の予習と、解答の再確認 (書いて覚える)。 ②受験する都道府県についての情報収集。 ③毎回、次の学習事項に関する資料と課題 (試験問題、論作テーマ等) を配付するので、学生は1週間かけて準備し、講義に臨む。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 1) 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版 学校保健実務必携 第2次改訂版』第一法規 (購入済み) 【参考書】 1) 『教員採用試験よくわかるシリーズ「よくわかる養護教諭」』時事通信出版局 (購入済み) 2) 『オープンセサミシリーズ 2016 年度教員採用試験ステップアップ問題集⑩養護教諭』東京アカデミー編、七賢出版、2014 (購入済み) 3) 日本学校保健会・文部科学省からの出版物等 4) 各自自治体過去問		
11. 成績評価の方法	1. 討論、面接等実技課題への積極的参加度 (50%) 2. 講義時間内に実施する問題演習の得点 (20%) 3. 授業ごとに出題するワークシートや事後学習への取り組み状況 (30%)		
12. 受講生へのメッセージ	やる気のある学生には、十分応える。授業中は手 (書く)・眼 (見る)・脳 (理解し、覚える) を使って集中して学ぼう。正解だけ脳に残し、間違った情報は直ちに消去する。関連のある事項は比較し、一緒に覚え、活用しよう。3年次までの講座により、努力した分、確実にその成果が上がることを体験したと思う。さらに本講座で学ぶ内容は、採用試験の為だけでなく、就任直後から職務に活用出来る重要なものである。		
13. オフィスアワー	後日連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・教員採用試験に対する心構えと応募手続きについて ・養護教諭志望理由等の再整理	事前学習	受験予定自治体の試験スケジュールや、応募に必要な準備について確認する。
		事後学習	養護教諭を志望する理由や、理想とする養護教諭像を整理する。
第2回	養護教諭専門教養問題演習① 1. 学校保健・学校安全 2. 養護教諭職務・学校保健関係職員 3. 保健室・保健室経営 4. 健康観察 5. 健康診断	事前学習	該当分野について、3年次までのテキストや演習問題の振り返りしておく。
		事後学習	答案を修正し、わからなかった問題の解説を再確認しておく。
第3回	養護教諭専門教養問題演習② 6. 学校環境衛生 7. 健康相談・健康相談活動 8. 疾病とその予防 9. 感染症	事前学習	該当分野について、3年次までのテキストや演習問題の振り返りしておく。
		事後学習	答案を修正し、わからなかった問題の解説を再確認しておく。
第4回	養護教諭専門教養問題演習③ 10. 養護教諭の基礎・専門知識 11. 救急処置 12. 救命・応急手当 13. 保健教育	事前学習	該当分野について、3年次までのテキストや演習問題の振り返りしておく。
		事後学習	答案を修正し、わからなかった問題の解説を再確認しておく。
第5回	小論文対策 ・書き方についての基本事項の再確認 ・課題に対する答え方のアイデアについて討議する。	事前学習	3年次までに実施した小論文課題を復習し、ポイントを整理しておく。
		事後学習	受験自治体の出題傾向に合わせ、小論文を執筆する。
第6回	個人・集団面接対策 ・面接票の書き方と自己PRの在り方 ・質問に対する答え方のアイデアについて討議する。	事前学習	自己PRや志望理由を再整理し、後日実施するロールプレイに備える。
		事後学習	面接票に記載した内容について、自分の言葉で説明できるように練習をする。
第7回	集団討論対策 ・集団討論の基本的ルールと展開のポイント	事前学習	受験自治体の出題傾向について調べておく。
		事後学習	討論テーマについて、自分の考えを整理し、

	・テーマに対する答え方のアイデアについて討議する。		後日実施するロールプレイに備える。
第 8 回	模擬授業・救急処置実技対策 ・模擬授業、救急処置実技の留意点 ・これまでの出題テーマの分析	事前学習	自分の受験する自治体の出題傾向について調べておく。
		事後学習	後日実施するロールプレイに備え、練習をしておく。
第 9 回	面接・集団討論の実践① ・実際の面接、討論を想定したロールプレイ	事前学習	予想される出題内容について、自分の考えを整理しておく。
		事後学習	ロールプレイにおける指摘内容を整理し、改善につとめ練習をする。
第 10 回	面接・集団討論の実践② ・実際の面接、討論を想定したロールプレイ	事前学習	予想される出題内容について、自分の考えを整理しておく。
		事後学習	ロールプレイにおける指摘内容を整理し、改善につとめ練習をする。
第 11 回	模擬授業・救急処置の実践 ・実際の試験問題を想定したロールプレイ	事前学習	予想される出題内容について、自分の考えを整理し、練習をしておく。
		事後学習	ロールプレイにおける指摘内容を整理し、改善につとめ練習をする。
第 12 回	教員採用試験の振り返り ・今年度の出題傾向の分析 ・今後の課題の整理	事前学習	受験した試験の自己採点を実施し、難しかった問題について整理しておく。
		事後学習	養護教諭として教育現場に出るまでに、自らが取り組むべきことについて整理する。
第 13 回	保健室経営① ・最新の学校保健の動向に関する討議	事前学習	事前に提示されたテーマについて、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	討議によって得られた新たな視点を踏まえ、養護教諭として取り組むべきことをまとめる。
第 14 回	保健室経営② ・最新の学校保健の動向に関する討議	事前学習	事前に提示されたテーマについて、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	討議によって得られた新たな視点を踏まえ、養護教諭として取り組むべきことをまとめる。
第 15 回	まとめ ・養護教諭としての資質向上における課題の整理 ・卒業後の進路決定における課題の整理	事前学習	本講義における半年間の取り組みについて、振り返りをする。
		事後学習	整理した課題に基づき、具体的な行動につなげる。

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習Ⅰ (2 単位)	3. 科目番号	GECD1311 GECD1261
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>教員になるためには「一般教養」をはじめ、校種・教科別の「専門教養」、あるいは教職に関する基礎的な教養としての「教職教養」等の知識を確実に身につけることが求められる。本学の教員採用試験対策は、1 年次 (秋期) のキャリア基礎演習Ⅰ (「一般教養」対策)、2 年次のキャリア基礎演習ⅡA (「専門教養」対策)、3 年次のキャリア開発演習ⅠA (「教職教養」対策) という一貫したプログラムで構成されている。キャリア基礎演習Ⅰでは、教員になるための第一歩としての幅広い一般教養を身につけるために、各分野の担当教員が指定の教科書 (=テキスト) を使用して高等学校卒業までに学んでおくべき学習内容を再確認しながら、教員採用試験における「一般教養」の各分野 (人文科学・自然科学・社会科学) の重要ポイントをわかりやすく解説した上で、各回、授業内で問題演習を行うことにより、学習内容の理解のみならず、知識の確実な定着を図ることを目標とする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本演習をとおして、高等学校卒業までに学んでおくべき学習内容に関する自らの未習得部分を確認することができる。 2. よりよい教員になるために必要な知識を学ぶ上での基本的な「学習の仕方」「学習計画の立て方」を習得する。 3. 自らの未習得あるいは苦手部分を克服するために、本講義で学んだ「学習の仕方」にしたがって基本を見据えた自己学習に取り組むことができる。 4. 各系統・各分野の重要ポイントを理解し、問題演習時の応用問題に対しても柔軟に対応できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の問題演習 (=「確認テスト」) 2. 次時の学習範囲の予習 3. 前時の学習範囲の復習 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 資格試験研究会編『教員採用試験一般教養らくらくマスター 2018 年度版』実務教育出版。 *大学の書籍販売等を通じて、必ず授業開始までに入手しておくこと。</p> <p>【参考書】 各回、担当教員が適宜資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>以下の3つの観点から総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の「確認テスト」・・・20% ・授業態度・・・30% ・習熟度確認まとめテスト・・・50% 		
12. 受講生への メッセージ	<p>教員採用試験合格に向けての第一歩では、基本的な知識習得のための暗記・反復学習が重要となる。本演習においては、その基礎力を身につけることが目標であるため、受講生は以下のことを遵守すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指定の教科書 (=テキスト) を必ず毎回持参すること。 ②授業ごとに限られた時間の中で重要ポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ③「確認テスト」までの暗記・反復学習時間は、静粛に取り組むこと。 ④遅刻および授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ⑤わからなかった点は各担当教員に積極的に質問すること。 ⑥学習の際には、その内容を理解するにとどまらず、中学生や高校生にわかりやすく教えるための方法を考え、独自のノートづくりにも取り組むなど、各自が積極的に自己学習を進めること。 <p>*なお、本演習は各分野の専門教員による T.T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合があります。その際にはコーディネーターが事前に連絡します。</p>		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを参照		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション *本演習の進め方および予習・復習の仕方、テキスト内容の確認	事前学習	シラバスを熟読し、授業内容を確認しておくこと。
		事後学習	テキストの「本書の特長と活用法」「出題傾向と対策」の部分を熟読しておくこと。
第2回	人文科学① (国語分野 pp. 14~41) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第3回	人文科学② (日本史分野 pp. 42~59) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第4回	人文科学③ (世界史分野 pp. 60~77) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第5回	自然科学① (数学分野 pp. 196~211) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第6回	人文科学④ (美術分野 pp. 118~124) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。

第 7 回	人文科学⑤（音楽分野 pp. 125～129） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 8 回	人文科学⑥（英語分野 pp. 130～140） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 9 回	自然科学②（物理分野 pp. 212～223） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 10 回	自然科学③（化学分野 pp. 224～235） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 11 回	自然科学④（地学分野 pp. 248～260） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 12 回	自然科学⑤（生物分野 pp. 236～247） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 13 回	人文科学⑦（倫理分野 pp. 108～117） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 14 回	社会科学（政治・経済・社会・労働分野 pp. 150～189） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 15 回	習熟度確認まとめテスト／授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習しておくこと。
		事後学習	習熟度確認まとめテストの結果を通じて自己の成果と課題を確認すること。

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習ⅡA (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD2311 GECD2261
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係	「キャリア基礎演習Ⅰ (教員コース)」を履修していることが望ましい		
7. 講義概要	<p>教員には、校種別の専門知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身につけることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。</p> <p>本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習Ⅰ (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習ⅡA (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習ⅠA (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア基礎演習ⅡA においては、「専門教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力をつけることを目標とする。</p> <p>各回の演習においては、「専門教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する基礎的な教養を身につけ、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得する。 2. 専門教養の各領域の出題を理解したうえで、各自自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 専門教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 専門教養の各領域の過去問練習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集などに取り組み、自己学習できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の確認テスト 2. 次時の学習範囲の予習 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】小学校各学習指導要領解説書 (各教科・道徳・特別活動・外国語活動)</p> <p>資格試験研究会編『教員採用試験小学校全科らくらくマスター 2017 年度版』実務教育出版。</p> <p>【参考書】各回の演習で担当教員から適宜資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>各回の確認テスト・・・20%</p> <p>授業への積極性・・・30%</p> <p>習熟度確認まとめテスト・・・50%</p> <p>-----</p> <p>100%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本演習においては、教員採用試験合格を目指して、基礎力・実践力を身につけることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の決まりを守る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①限られた時間の中でポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ②自己学習の際には、静粛に取り組むこと。 ③私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ④本演習を契機として、各自が積極的に学習を進めること。重要ポイントの暗記、問題の反復練習が重要である。 		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを参照		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション *本演習における特性と今後の展望。教科書の確認。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。
		事後学習	小学校全科における学習内容を大まかに理解する (各教科等における年間時数表等を参照し把握)。
第 2 回	算数① (らくらくマスター pp. 85~124) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 3 回	算数② (らくらくマスター pp. 85~124) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 4 回	算数③ (らくらくマスター pp. 85~124) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 5 回	社会① (らくらくマスター pp. 39~84) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 6 回	社会② (らくらくマスター pp. 39~84) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 7 回	社会③ (らくらくマスター pp. 39~84) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 8 回	図画工作① (らくらくマスター pp. 229~254) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	「確認テストで出題された部分を見直し、よくわ

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3131
2. 授業担当教員	成本 忠正		
4. 授業形態	講義および演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	教育心理学とは、子どもを教育していく上で必要となる人間科学の知識を提示し、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から解説する学問である。教育心理学の基礎とされる発達、学習、人格、測定・評価の4つの領域について基礎知識を深め、今日の教育の現場が必要としている問題解決のための諸要因を解説する。本講義では、以上のような基礎的知識の修得に加え、事例に則り、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのかを検討する。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用も考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学と心理学の深い関係を理解し、説明できるようになる。 2. 学習の場における諸問題について指摘できるようになる。 3. 子どもの発達と学習能力を高めるさまざまな要因について理解できるようになる。 4. 教育の目的から考える学校生活のあり方：理論と実践の違いを理解し、説明できるようになる。 5. 学習の場におけるウェルビーイングを考え、理想的な教育の姿を考察できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業で紹介された教育心理学研究で得られた知見について詳細にリサーチし、それが教育現場でどのように貢献しているのかについてレポートを作成する。 2 各テーマの終了後に簡単な小テスト (15分程度) を実施する。 3 グループディスカッションの結果を発表する。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 <ol style="list-style-type: none"> 1 工藤俊郎・高井直美・上田恵津子・菅原康二『基礎から学ぶ教育心理学』八千代出版、2004。 2 適宜、関連テーマの資料を配布する。 		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 グループディスカッションでの活発な意見交換と発表 総合点の50% 2 課題レポート 総合点の30% 3 小テスト 総合点の20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育心理の考え方、視点を修得すると、人生のあらゆる場面においても応用可能と考えられます。それを修得するため、まず他の学習者との相互学習を通して、授業で出された様々な課題に積極的に取り組んでください。特にクラスへの貢献度を積極的に評価します。その一方、遅刻、欠席、早退、一時の無断退室、代返、私語、居眠り、携帯いじり、演習やディスカッションへの不参加、その他授業妨害や迷惑行為が減点の対象となりますので、注意してください。 2 初回授業で受講ルールの詳細を説明するので、受講者は必ず初日の授業に出席してください。 3 受講生の理解度や要望によりシラバス内容を調整する場合があります。 		
13. オフィスアワー	オフィスアワーについては初回の授業で周知する。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 教育心理学とは何か	事前学習	教科書【教育心理学の成り立ち】を読み、教育心理学とは何かを考える。
		事後学習	教育心理学の全体内容のイメージをつくる。
第2回	教育心理学の歴史と研究方法を知る	事前学習	教科書【教育心理学の成り立ち】を読み、教育心理学の歴史と研究方法を読む。
		事後学習	教育心理学の意義について復習する。
第3回	発達の基礎概念について理解する	事前学習	教科書【発達の基礎概念】を読み、人の発達特徴を理解する。
		事後学習	発達に影響を与える要因について復習する。
第4回	発達段階 (理論とモデル) について理解する	事前学習	教科書【発達段階理論】を読み、各モデルの特徴を理解する。
		事後学習	認知・社会性・道徳の発達モデルの特徴および相違について復習する。
第5回	発達に関する研究成果を知る	事前学習	教科書【一般的発達区分】を読み、近年における研究成果を理解する。
		事後学習	知性・社会性に関する知見について復習する。
第6回	動機に関する理論を理解する	事前学習	教科書【動機づけ】を読み、社会的動機づけを理解する。
		事後学習	社会的動機づけの種類と特性を復習する。
第7回	動機づけ (欲求) を理解する	事前学習	配布資料【動機づけ】を読み、摂食障害・欲求不満・葛藤について理解する。
		事後学習	欲求のメカニズムを復習する。
第8回	学習意欲について理解する	事前学習	教科書【学習意欲】を読み、どのような要因で学習意欲が高まるのかを理解する。
		事後学習	教育場面における達成欲求について復習する。
第9回	古典的条件づけ学習について理解する	事前学習	教科書【学習の理論】を読み、古典的条件づけ学習のメカニズムを理解する。
		事後学習	教育現場における古典的学習の効果について復習する。
第10回	オペラント条件づけ学習について理解する	事前学習	教科書【学習の理論】を読み、オペラント条件

			づけ学習のメカニズムを理解する。
		事後学習	教育現場におけるオペラント学習の効果について復習する。
第 1 1 回	学習理論の応用を理解する	事前学習	配布資料【学習理論の応用】を読み、学習理論の社会的貢献について理解する。
		事後学習	罰・学習性無力感をさらに深く理解する。
第 1 2 回	学習指導の理論を理解する	事前学習	配布資料【学習指導】を読み、学習意欲を妨げる要因について理解する。
		事後学習	発達障害児・学習意欲が低い生徒に対する効果的な方法について復習する。
第 1 3 回	前半テーマに関するグループ発表	事前学習	発表準備。
		事後学習	グループ発表。
第 1 4 回	前半テーマに関するグループ発表	事前学習	グループ発表。
		事後学習	グループ発表。
第 1 5 回	前半テーマに関するグループ発表	事前学習	グループ発表。
		事後学習	グループ発表。
第 1 6 回	知能（知能モデル）について理解する	事前学習	教科書【知能】を読み、複数の知能モデルが存在することを理解する。
		事後学習	知能とは何かを考える。
第 1 7 回	創造性（定義と役割）について理解する	事前学習	教科書【創造性】を読み、問題解決能力との関連性を理解する。
		事後学習	創造性とは何かを考える。
第 1 8 回	教育評価について理解する	事前学習	教科書【評価】を読み、評価方法の種類とそれぞれの特徴を理解する。
		事後学習	各評価方法の種類および長所・短所について復習する。
第 1 9 回	パーソナリティのモデルを知る	事前学習	教科書【パーソナリティ】を読み、複数のモデルが存在することを理解する。
		事後学習	各モデルの特徴について復習する。
第 2 0 回	パーソナリティ形成について理解する	事前学習	教科書【パーソナリティ理解の方法】を読む。
		事後学習	観察法・面接法・検査法の利点と欠点について復習する。
第 2 1 回	社会との関係（向社会的行動）を理解する	事前学習	配布資料【向社会的行動】を読み、この行動を引き起こす要因を理解する。
		事後学習	向社会的行動の生起要因を復習する。
第 2 2 回	社会との関係（学級集団）を理解する	事前学習	配布資料【学級集団】を読み、社会性がどのように育まれるのかを理解する。
		事後学習	社会性を育てる学級集団の役割を復習する。
第 2 3 回	集団を理解する	事前学習	配布資料【集団】を読み、個人に与える影響について理解する。
		事後学習	集団の特性について復習する。
第 2 4 回	学校適応（不適応行動）を理解する	事前学習	配布資料【不適応行動】を読み、その特徴を理解する。
		事後学習	その種類と行動傾向について復習する。
第 2 5 回	学校適応（不適応行動の要因）を理解する	事前学習	配布資料【不適応行動】を読み、その原因を理解する。
		事後学習	不適応行動の要因である神経症・精神病について復習する。
第 2 6 回	不適応行動に対応する心理療法を理解する	事前学習	配布資料【心理療法】を読み、様々なアプローチがあることを理解する。
		事後学習	カウンセリングの種類とその効果を復習する。
第 2 7 回	後半テーマに関するグループ発表	事前学習	発表準備。
		事後学習	グループ発表。
第 2 8 回	後半テーマに関するグループ発表	事前学習	グループ発表。
		事後学習	グループ発表。
第 2 9 回	後半テーマに関するグループ発表	事前学習	グループ発表。
		事後学習	グループ発表。
第 3 0 回	まとめ	事前学習	教育心理学研究の意義とは何かを考える。
		事後学習	これまでの授業内容を自分なりにまとめ、教育心理学の重要性を理解する。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (養護) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE4395
2. 授業担当教員	石垣 久美子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>養護実習の振り返り、実習日誌を基に自分の課題を明確にし、近年の子ども達の抱える健康課題を自主的にテーマ設定し、課題発表をする。発表から見える子どもの健康課題から実際の実習中の子どもの捉え方を検討し、養護教諭としての実践的な関わりについて理解を深める。</p> <p>この学習を通して、社会性や対人関係、コミュニケーション、コーディネート能力を培い、養護教諭としての意識や使命感を高めるとともに、保健教育教材研究において実習中実施した保健指導、保健学習の指導案について、現場での指導講評を踏まえディスカッションを取り入れ、指導案改定案を作成しプレゼンテーションの力も養い、実践的な指導力や向上につながる課題解決のための能力の伸長をめざす。</p>		
8. 学習目標	<p>養護実習の振り返りを活かし、養護教育に関する自己課題を見出すことができる。</p> <p>教員に求められる資質 (職務への使命感・責任感、子どもに対する愛情) を身につけることができる。</p> <p>養護活動に必要な能力や保健室経営等に関する基礎的な能力を身につけることができる。</p> <p>保健室経営におけるコミュニケーション力を高め、自らの目指す養護教諭像を明らかにできる。</p> <p>健康教育に必要な指導力の基礎を形成することができる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 授業毎に、講義内容についての感想、まとめに関するレポートを出題する。 中間課題レポート：保健室経営案の作成 最終課題レポート：「あなたが目指す養護教諭像」について自分の考えを記述する。(800字程度) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【参考書】</p> <p>学校保健・安全実務研究会編著『新訂版 学校実務必携 第2次改訂版』第一法規、2009年。(購入済み)</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言等の積極的な活動 (60%) 中間課題レポート (20%) 最終課題レポート (20%) 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>養護実習の振り返りを活かし、お互いがそれぞれの現地実習で学んだことや、気づいたことをディスカッションし、抱えた問題ケースを出し合い、学びの幅を広げていきましょう。より子どもを理解し、より学校を理解し、より地域を理解してどのように専門性を発揮していくかを一緒に学びより高めていきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知いたします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	「教職実践演習」の目的、意義、授業運営の説明 「履修カルテ」の記入	事前学習	各自の実習後の目的や意義を振り返りまとめておく。
		事後学習	授業の目的、意義について理解したことをまとめる。
第2回	◆養護実習の振り返りと今後の課題 ① ・実習日誌をもとに、各自の実習について振り返り、実践演習で明らかにしておきたいことを明確化する。	事前学習	各自の実習の振り返りから自分の課題を考えまとめておく。
		事後学習	自分の振り返りから、本演習で明らかにしたいことをまとめる。
第3回	◆養護実習体験の共有 ・実習日誌をもとに各自の実習について振り返り、実習校の概要、実習中で経験したこと等をグループで話し合い発表	事前学習	実習日誌から学校概要、学びの経験等まとめておく。
		事後学習	他者の実習経験を聞いて感じたこと、わかったことをまとめる。
第4回	◆実習校の児童生徒の健康課題① ・健康診断や、実習中のかかわりからとらえた健康課題についての検討	事前学習	実習中に関わった子どもの健康課題についてまとめておく。
		事後学習	ディスカッションを通してわかった、現代の子どもたちの健康課題について総括し、自分の考えをまとめる。
第5回	◆実習校の児童生徒の健康課題② ・児童生徒の健康課題を理解し、養護教諭のかかわり方を検討	事前学習	実習日誌から見える養護教諭の子どもへのかかわり方をまとめておく
		事後学習	ディスカッションを通してわかった、子どもたちの健康課題とこれに応じた養護教諭の対応のあり方について総括し、自分の考えをまとめる。
第6回	◆保健室での遭遇した救急処置事例、いじめや不登校・保健室登校の問題について (事例討論)	事前学習	実習中に経験した救急処置、不登校、いじめ、保健室登校についてまとめておく。
		事後学習	各事例に対しての討論を総括し、養護教諭の対応のあり方について、自分の考えをまとめる。
第7回	◆学校保健年間計画 ・各校の年間保健計画の内容や実践状況について検討	事前学習	自校の保健年間計画から保健行事との関係をまとめておく。
		事後学習	本時の講義やディスカッションからわかった、各学校の学校保健計画の実態について自分の考えをまとめる。
第8回	◆保健室経営案 ・各校の保健室経営案内容や実践状況について検討	事前学習	自校の保健室経営案について発表できるようにまとめておく。
		事後学習	本時の講義やディスカッションからわかった、各学校の保健室経営案の実態や実践状況について、自分の考えをまとめる。

第 9 回	◆健康診断 ・養護実習で経験した健康診断計画立案から実施、事後措置について検討	事前学習	実習校での健康診断計画を振り返り、反省点や改善点をまとめておく。
		事後学習	本時の講義やディスカッションからわかった、健康診断の進め方における留意点について、自分の考えをまとめる。
第 10 回	◆健康教育・保健教育教材研究① ・実習中に実施した保健指導、保健学習の指導案について、現場の指導講評を踏まえたディスカッション実施	事前学習	各自の実施した保健指導案、保健学習指導案の指導講評をまとめておく。
		事後学習	本時の講義やディスカッションからわかった、保健教育の進め方における留意点について、自分の考えをまとめる。
第 11 回	◆健康教育・保健教育教材研究②	事前学習	自校で実施した指導案の指導講評と、前時のディスカッションの内容をまとめておく。
		事後学習	指導講評を活かし、指導案の改訂案を作成する。
第 12 回	◆健康相談事例検討① ・養護実習中に経験した困難事例等に関するディスカッション	事前学習	自校で扱った困難事例についての「事例検討資料」を作成し、発表できるようにまとめておく
		事後学習	本時の講義やディスカッションからわかった、健康相談の進め方における留意点について、自分の考えをまとめる。
第 13 回	◆健康相談事例② ・①の検討事例を基にしたロール・プレイ	事前学習	前授業で話し合われた事例についての役割り分担を話し合い事例を良く理解しておく。
		事後学習	本時の講義やディスカッションからわかった、健康相談の進め方における留意点について、自分の考えをまとめる。
第 14 回	◆保健室経営におけるコミュニケーションと連携 ・児童生徒の発達段階とコミュニケーションの取り方についてのディスカッション（親連携・担任連携含む）	事前学習	実習校の児童生徒の実態と発達段階の特徴をまとめ、担任、保護者の連携について整理しておく。
		事後学習	養護教諭の職務を推進する上でのコミュニケーションの重要性について、自らの考えをまとめる。
第 15 回	◆求められる養護教諭 ・大学での学びや養護実習を総括し、自らの目指す養護教諭像を明らかにする。 ・本演習を通して明確化された、今後の研鑽を積むべき事項について整理する。	事前学習	養護実習、本演習を総括し、自ら目指す養護教諭像をまとめておく。
		事後学習	本授業から明確化された自分自身の今後の研鑽事項についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教養基礎演習 I (2 単位)		3. 科目番号	GELA1104 GELA1131
2. 授業担当教員	アカデミック・アドバイザー			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	大学は専門的職業への学習・準備期間である。この 4 年間でうまくデザインして、自分の夢を実現することは、学生に課せられた課題である。それを援助するのが、この講座の目的である。そこで本講座は、この 4 年間の生活の仕方から始まり、授業の受け方や行事の意義並びに学ぶ仲間との交流の仕方を体得していく。最終的には、卒業時の就職や進学に関する内容を学び、日々の勉強への意欲を高めていく。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で共に学びあう仲間をつくる。 2. 時間の流れから将来計画をどのように考えていくべきかを理解し、将来の目標を明確に持つことができるようになる。 3. より現実的な将来を切り開くため、自分の特性や家庭事情も含めて考えることができる。 4. 就職や進学のためにこの 4 年間にどのような準備が必要か理解でき、行動に移すことができる。 5. キャリアを人生プロセスの中で考えられ、修正できる柔軟性を身につける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生としての学びは高等学校とは何が違うのか。ー本学の授業に期待することー 2. 赤城山宿泊研修から学ばされたことー学びの友と心の友との関係ー 3. 親にしてもらったこと、迷惑をかけたこと、して返したことー親からの自立とは何かー 4. 自分が将来就きたい職業を考える。ーその職業に就いた時、どんな人物像でありたいかー 5. この半年間での私の進歩 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『学生生活の手引き』			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点(授業態度・発表・発言など) 50% 2. レポート 5 本 (9. で示したもの) 50% 			
12. 受講生へのメッセージ	他の大学と異なり、本学の学生生活にはかなり厳しいものがある。例えば、授業への出席やレポートや発表は義務づけられ、かつディスカッションがふんだんに課せられるからである。そこで、入学後には、早速、高等学校時代とは異なる大きな段差があることになる。そこで、それにつまずかないよう、かつ将来を見据えた生活設計ができるよう本講座は設けられているので、必ず出席し、課題に取り組んでいただきたい。			
13. オフィスアワー	各アカデミック・アドバイザーの指示に従ってください。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション(教員の自己紹介/大学における履修方法および成績評価について学ぶ)	事前学習	春期オリエンテーションで分からなかったところを整理しておく。	
		事後学習	履修方法や成績評価について分からなかったことを質問する。	
第 2 回	仲間作り (これまでの友人関係や部活での活動等について語り合う)	事前学習	これまでの友人関係や部活での活動等について思い出し、整理しておく。	
		事後学習	同級生の話を聞き、自分との共通点や相違点についてまとめる。	
第 3 回	海外にも視野を広げてみよう	事前学習	海外留学でどのような能力を身に付けることができるのかについて事前に考えておく。	
		事後学習	海外留学で学べることについてまとめる。	
第 4 回	コミュニケーション・スキル学習	事前学習	自分が周りの友人や家族にどのようなコミュニケーションをしているのかについて振り返り、整理しておく。	
		事後学習	授業で学んだことをまとめ、今後のコミュニケーションに活用する。	
第 5 回	将来計画と今すべきこと・したいことを考える	事前学習	大学に入学してからどのようなことをしてきたかについて振り返り、整理しておく。	
		事後学習	授業で学んだことを活用し、今すべきことを計画通り実行していく。	
第 6 回	親との関係を見直す。心の自立をすることは何か。	事前学習	親からの影響を考えてみる。	
		事後学習	親にしてもらったこと、返したことについて箇条書きにする。	
第 7 回	職業について考える	事前学習	自分が将来就きたい職業について考えを整理しておく。	
		事後学習	自分が将来就きたい職業に就くにはどうしたらよいかについて自ら調べる。	
第 8 回	各学部における専門教育への導入①	事前学習	自分が所属している学部学科ではどのような専門性を身に付けることができるのかについてシラバスや大学のホームページを見て、確認しておく。	
		事後学習	授業中に示された各学部学科の専門教育に必要な基礎知識について復習する。	

第 9 回	野外活動を通じての仲間作り	事前学習	小・中・高校時代に体験した野外活動について思い出しておく。
		事後学習	赤城山宿泊研修での心構えなどについて再度、確認しておく。
第 10 回	各学部における専門教育への導入②	事前学習	各学部における専門教育への導入①での学習内容を復習しておく。
		事後学習	各学部における専門教育への導入②での学習内容を復習する。
第 11 回	本学の試験に備えてすべきこと	事前学習	自分が受講している授業のシラバスを確認し、各授業の成績評価の方法を確認しておく。
		事後学習	授業で学んだことを活用し、テストやレポートに向けて学習する。
第 12 回	体を鍛えて明日の自分を考える	事前学習	大学に入り、どのような運動をしてきたかについて思い出しておく。
		事後学習	合同スポーツデイに向けて体力作りに励む。
第 13 回	卒業生・先輩から学生生活、就職について話をきく	事前学習	卒業生や先輩に質問したいことを事前にまとめておく。
		事後学習	卒業生や先輩から聞いた話をまとめ、今後の学生生活の中で活用していく。
第 14 回	各学部における専門教育への導入③	事前学習	各学部における専門教育への導入①②での学習内容を復習しておく。
		事後学習	各学部における専門教育への導入③での学習内容を復習する。
第 15 回	この半年間で学んできたもの	事前学習	これまでの学習内容について整理しておく。
		事後学習	今後の学生生活を有意義に過ごすために教養基礎演習Ⅰの中で学んだものを活用していく。

1. 科目名 (単位数)	教養基礎演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GELA2104 GELA2304 GELA2131
2. 授業担当教員	多比良 和誠		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、「教養」を身に付けるための一環として、わかりやすい資料などを用いながら、①国語問題(間違えやすい漢字や熟語など)、②数学問題(計算、図形など)、③英語問題(長文読解、熟語など)、④理科問題(物理、生物など)、⑤社会問題(歴史、地理など)を解き、⑥小論文を作成する。また、それらの問題を解くための技法や留意点などについて理解を深め、応用力を高めていく。さらに、「教養」とは何かを再認識し、それを身に付けることの意義についても考察する。その他、問題発見・解決能力や協調性を高めるためのディスカッション、表現力を高めるための発表、人間性を高めるための教材なども授業に取り入れ、幅広い意味での教養を身に付ける。		
8. 学習目標	本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。 ①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。 ②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。 ③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。 ④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。 ⑤教養を身に付けることについて、その意義を十分に理解し、自ら実践することができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<期末レポート> 最終日の授業時間には与えられた課題(最近注目されている話題)について、1,000字程度のレポートを作成して提出する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】教科書を使用せずに、分かりやすい学習参考例を使用する。 【参考書】国語辞典、英和辞典、高校時代に使用した教科書や参考書 古郡廷治 著『論文・レポートの文章作法』有斐閣新書、2006年。 高橋俊一 著『すっきり! わかりやすい! 文章が書ける』すばる舎、2012年。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、毎週の口頭試験テスト、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加度 総合点の20% 2 受講態度 総合点の15% 3 毎週の確認テスト 総合点の25% 4 課題レポート 総合点の40% 期末試験は実施しないので、各授業での「確認テスト」が重要になる。欠席すると、「確認テスト」が受けられないだけでなく「授業への積極的参加」の評価が低くなる。 なお、4分の3以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	本授業を通じて、「基本的な勉強法」や「教養を身に付けることの意義」を学んでいただき、自分の将来の目標に向かって、自らが積極的に勉強できるようになることを願っている。		
13. オフィスアワー	時間: 授業がある日の昼休みと放課後 場所: 王子キャンパス 管理・研究棟3階の2号室		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、マナーなど)および就職試験や資格試験に合格するための心得(就職指導、勉強法、最近の傾向など)	事前学習	教養基礎演習Ⅱの学習用ノートを準備して講義へ臨むこと。また、レポート(文章表現)の基礎となる構文について自分なりに調べておく。
		事後学習	配布資料(参考書の抜粋)の要点を学習用ノートにまとめる。 四字熟語などの暗記を始める。
第2回	国語問題(間違えやすい漢字の読み書き)	事前学習	配布資料(参考書の抜粋)の熟読。 四字熟語の暗記。
		事後学習	学習用ノートの個別確認。注意事項を今後の学習用ノート作成に反映させる。 四字熟語の暗記。
第3回	国語問題(四字熟語・反意語など)	事前学習	国語問題(間違えやすい漢字)の復習。 四字熟語の暗記。
		事後学習	国語問題(四字熟語・反意語など)の要点を学習用ノートにまとめる。四字熟語の暗記。
第4回	計算問題(比例・反比例)	事前学習	数学の問題に目を通す。
		事後学習	計算問題(比例・反比例)の要点を学習用ノートにまとめる。 化学の計算問題に目を通す。
第5回	計算問題(化学)	事前学習	計算問題(比例・反比例)の復習。 化学の計算問題に目を通す。
		事後学習	計算問題(化学)の要点を学習用ノートにまとめる。
第6回	計算問題(化学)	事前学習	計算問題(化学)の復習。
		事後学習	計算問題(化学)の要点を学習用ノートにまとめる。

第 7 回	環境問題を考えるビデオ（鑑賞、レポート作成）	事前学習	これまでの配布資料の復習。
		事後学習	レポート作成。人体の資料に目を通す。
第 8 回	生物問題（人体の臓器の役割と場所）	事前学習	人体の臓器の役割について調べる。
		事後学習	臓器の場所を描けるようになる。
第 9 回	英語問題（人体の臓器の名称など）	事前学習	臓器の場所を描く。
		事後学習	臓器等の名称を英語で学習用ノートにまとめる。臓器等の英名を暗記する。
第 10 回	英語問題（間違いやすい単語や熟語）	事前学習	臓器等の英名を暗記する。
		事後学習	英語問題（間違いやすい単語や熟語）の要点を学習用ノートにまとめる。 日本史の資料に目を通す。
第 11 回	社会問題（日本史）	事前学習	日本史の資料に目を通す。
		事後学習	社会問題（日本史）の要点を学習用ノートにまとめる。
第 12 回	社会問題を考えるビデオ（鑑賞、レポート作成）	事前学習	社会問題（日本史）を暗記する。
		事後学習	レポート作成。
第 13 回	期末レポートに関するパワーポイント講義	事前学習	これまでの文章表現資料・テキストの復習。
		事後学習	期末レポートのアウトラインの作成。
第 14 回	期末レポートのアウトラインの作成・下書き	事前学習	期末レポートのアウトラインの下書き。
		事後学習	期末レポートの個別チェック。
第 15 回	期末レポートの清書・提出 授業評価	事前学習	期末レポートの最終チェック。
		事後学習	清書した期末レポートの提出。

1. 科目名 (単位数)	経済学 (国際経済を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA2318						
2. 授業担当教員	田中 正秀								
4. 授業形態	講義、学生による発表	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	<p>本科目は、経済が動く仕組みがよく理解できるように、必要とされる経済学 (国際経済を含む) の基礎知識を体系的に得ることを目的のひとつとする。</p> <p>さらに、そうした基礎知識を「生きた知識」として活用させ、世界や日本国内で起こっている各種の経済問題やそこで活躍する企業や政府などについて理解することによって、分析するツールとして利用できるようになることが最終的な目的となる。</p>								
8. 学習目標	<p>1. 経済現象の背後に貫徹する法則を説明できるようになる。</p> <p>2. 財政金融関係の基礎知識、企業経済・労働経済について学び、説明できるようになる。</p> <p>3. 国際経済・日本経済の歴史について、自らの意見をレポートにまとめ発表することができるようになる。</p>								
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>経済学の基礎知識を教科書から学ぶ方法として、受講者には個人又はグループ単位で教科書の担当部分をまとめて、授業中に発表することを求めるので、その準備が必要となる。また、授業参加のためには発表者以外の者についてもテキストを予め熟読しておくことが求められる。</p> <p>小テストはそれまでに学んだ知識について、言葉とその意味をどれだけ理解しているかという観点から出題する。</p>								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 井堀利宏『コンパクト経済学』新世社、2009。 授業開始までに用意すること。</p> <p>【参考書】 ニューズウィーク日本版ペーパーバック 経済超入門 CCC メディアハウス その他、経済学の入門書は数多く出版されている。書店等で実際に手に取り、自分に合うものを選んで欲しい。</p>								
11. 成績評価の方法	<table> <tr> <td>授業への積極的参加度</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>授業での発表</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>小テスト (数回)</td> <td>10%</td> </tr> </table>			授業への積極的参加度	70%	授業での発表	20%	小テスト (数回)	10%
授業への積極的参加度	70%								
授業での発表	20%								
小テスト (数回)	10%								
12. 受講生への メッセージ	<p>経済は常に動いている。受講者は、日ごろから経済関係の新聞記事や雑誌に目を通し、関心のある経済ニュースなどについて、その意味を自分でよく考えておくこと。ただ話を聞くだけでなく、自ら問いかける姿勢が必要である。受講生の高い問題意識と、積極的な参加を期待する。</p>								
13. オフィスアワー	授業内で通知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	イントロダクション 経済学とは (第 1 章)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。						
		事後学習	何のために経済学を学ぶのかを考えておくこと。						
第 2 回	第 2 章 消費者の行動 ・消費と効用 (pp. 22~28) ・所得効果 (pp. 28~34)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。						
		事後学習	効用の概念について理解しておくこと。						
第 3 回	第 3 章 企業の行動 ・価格弾力性・労働供給の決定 (pp. 34~39) ・企業と生産行動 (pp. 42~48)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。						
		事後学習	企業の役割について理解しておくこと。						
第 4 回	第 3 章 企業の行動 (続き) ・完全競争企業と利潤最大化 (pp. 49~51) ・独占企業 (pp. 52~57)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。						
		事後学習	企業の行動について理解しておくこと。						
第 5 回	第 4 章 市場のメカニズム ・完全競争 (pp. 60~64) ・完全競争市場のメリット (pp. 64~70)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。						
		事後学習	完全競争市場の条件について理解しておくこと。						
第 6 回	第 4 章 市場のメカニズム (続き) ・寡占とカルテル (pp. 70~76) 第 5 章 市場の問題 ・市場の失敗：公害 (pp. 78~84)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。						
		事後学習	市場の外部効果について理解しておくこと。						
第 7 回	第 5 章 市場の問題 (続き) ・市場の失敗：情報 (pp. 84~90) ・独占と公的規制の問題 (pp. 92~96, 91)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。						
		事後学習	独占の効果について理解しておくこと。						
第 8 回	第 6 章 政府 ・政府の役割・公共財 (pp. 98~106) ・税金・政府の選択 (pp. 106~113)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。						
		事後学習	公共財について理解しておくこと。						
第 9 回	中間まとめ 近年の経済ニュースについて	事前学習	配布資料を熟読しておくこと						
		事後学習	これまでの部分について復習しておくこと。						
第 10 回	第 7 章 金融 ・貨幣 (pp. 116~120) ・金融商品とその選択 (pp. 120~129)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。						
		事後学習	貨幣の役割について理解しておくこと。						

第 1 1 回	第 8 章 マクロ市場 ・ GDP (pp. 132~138) ・ IS-LM モデル① (pp. 138~142)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	GDP に含まれるものについて理解しておくこと。
第 1 2 回	第 8 章 マクロ市場 (続き) ・ IS-LM モデル② (pp. 142~148) 第 9 章 マクロ政策 ・ 財政政策 (pp. 152~158)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	IS-LM モデルと経済政策の関連について理解しておくこと。
第 1 3 回	第 9 章 マクロ政策 (続き) ・ 財政赤字の問題 (pp. 158~165) ・ 金融政策 (pp. 166~172)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	金融政策の手法について理解しておくこと。
第 1 4 回	第 10 章 国際経済 ・ 貿易 (pp. 178~184) ・ 国際収支と為替レート (pp. 184~191)	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	貿易のメリットについて理解しておくこと。
第 1 5 回	最終まとめ 近年の経済動向について	事前学習	配布資料を熟読しておくこと
		事後学習	これまでに学んだものを踏まえて、経済ニュースを読むこと。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2 単位)		3. 科目番号	GEHL1301
2. 授業担当教員	田中 マキ子			
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技 (現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	レクリエーション関連の授業を履修すると理解が深まる。			
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しみながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツディは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 			
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合って成り立っていることを理解し、自ら実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 			
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	課題 I 自分自身の一週間のライフスタイルを記録し、健康、運動について考える			
10. 教科書・参考書・ 教材	【参考書】安部孝・琉子友男『これからの健康とスポーツの科学 第3版』講談社。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度	50%		
	課題レポート、提出物	20%		
	実技	30%		
12. 受講生への メッセージ	肥満、高血圧、加齢、睡眠、食と健康など、受講生の日常生活もそのまま該当する内容を扱っていきます。人体の仕組みや生理についてよく理解し、生活習慣の改善、運動スポーツの実践ができるようになってください。			
13. オフィスアワー	授業前後の休み時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 日常生活と健康の関わり	事前学習	大学生になって、自分は日常生活をどのように過ごしているのか、客観的に把握しておく	
		事後学習	健康という観点から自分の生活状況をどのように評価するか。問題点、改善点を具体的に考え、記述する	
第2回	日本人のライフスタイル 生活リズムについて考える	事前学習	生活習慣の乱れは身体にどのような影響をもたらすか 考えたいうえで授業に臨む	
		事後学習	講義内容および視聴覚教材から自分が受容したことについて専用紙にまとめる	
第3回	身体の仕組み ① 喫煙の恐怖 (呼吸器) 飲酒について	事前学習	喫煙に関する健康の害および他人に及ぼす悪影響について調べて臨む	
		事後学習	講義内容および視聴覚教材から自分が受容したことについて専用紙にまとめる	
第4回	身体の仕組み ② 食と健康	事前学習	自分自身の食生活についてまとめ、健康的な食生活とは何か考える	
		事後学習	授業で行った内容についてまとめ、実生活に活かしていく	
第5回	身体の仕組み ③ 生活習慣病の原因とメカニズム	事前学習	生活習慣病について 事前学習して授業に臨む	
		事後学習	講義の内容および視聴覚教材から受容したことを専用紙にまとめる	
第6回	身体の仕組み ④ 心とからだの健康	事前学習	準備運動と、整理運動の重要性について考えて臨む	
		事後学習	講義内容について自分の考えを専用紙にまとめる	
第7回	運動による身体の変化 ① 肥満の原理、ダイエット方法	事前学習	肥満は何故健康に良くないのかを調べて臨む。ダイエットの方法について、身の回りの事例、体験等からまとめておく	

		事後学習	講義内容についての自分の感想を専用用紙にまとめる
第 8 回	運動による身体の変化 ② ロコモティブシンドローム	事前学習	ロコモティブシンドロームとはなにか、調べておく
		事後学習	正しいダイエットを理解する。第 3 者にもアドバイスできるように理解する。前回の授業内容を加味して自分の受容したことを総括してまとめる
第 9 回	【実技】 ストレッチング、軽運動	事前学習	ストレッチについて調べておく
		事後学習	複数の他学生のテーマに対する考えを聴き。自分の運動感の視点と対比し、自分の運動感を確立する
第 10 回	【実技】 生涯スポーツについて	事前学習	生涯スポーツとは何か、調べておく
		事後学習	生涯スポーツを通して、今後社会で活用できることは何か考える。
第 11 回	【実技】 G ボールを使った運動 (バランスボール)	事前学習	G ボールについて調べておく
		事後学習	学習した内容の一部を普段の生活に取り入れ、実践する。
第 12 回	【実技】 トレーニングの原理・原則 運動処方	事前学習	体力の概念と向上のためのトレーニング法を調べておく
		事後学習	トレーニングの原理・原則に基づいた健康維持のための運動プログラムの作成方法をまとめる
第 13 回	【実技】 疲労回復法 疲労しにくい身体づくり	事前学習	疲労を回復するためのいろいろな方法を調べて授業に臨む
		事後学習	自分なりの疲労回復方法についてまとめ上げ、実践する
第 14 回	低体温、免疫について	事前学習	低体温になることで、どんな影響があるかについて事前に調べておく
		事後学習	免疫力を高めるための方法を専用用紙にまとめる
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	健康とは何か、これまでの授業を振り返り自分の考えをまとめておく
		事後学習	資料、講義内容を参考にし自分の健康観をまとめ、健康行動を実践するという意識をもつ

1. 科目名 (単位数)	健康心理学 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3361
2. 授業担当教員	織田 正美			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>健康心理学 (Health psychology) は、比較的新しい学問で、欧米では約 40~50 年、わが国では約 25 年の歴史がある。</p> <p>この学問の目的は、人間の「心と体」の健康の維持・増進、疾病の予防のために、心や体の健康を阻害する危険因子 (risk facton) を、lio-psycho-socio の 3 つの観点から発見し、それを防除することを目的とするものである。従来の心理学的研究方法を用いて様々なテーマを対象に研究を行うが、「疫学的」な研究方法も用いることもある。</p> <p>この学問は、いわゆる「研究」も行うが、最終的には、「実践」の学問であるといえる。すなわち、人間の心と体の健康のために役立つ具体的な「プログラム」を提示することが重要な課題であるといえる。</p>			
8. 学習目標	新しい学問としての、健康心理学の本質を理解し、自己の心と体の健康の維持・増進または疾病予防のために、日常習慣をどのように改善すればよいか理解し、自分の考えを述べることができるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	この授業では、教科書と配布資料に基づいて講義とディスカッションを行う。「心身の健康を維持・増進するためにはどうしたらよいか」について、レポートを書く。ストレス及びその対処法についてグループディスカッションを行う。各週の授業のまとめについて、3~5 回宿題を出す。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 日本健康心理学会編『健康心理学概論』実務教育出版。(2002)			
11. 成績評価の方法	受講態度 60% 授業への積極的参加度 20% 宿題レポートの採点結果 20%			
12. 受講生へのメッセージ	自分の心と体、特に精神面について関心のある学生には有益な授業である。どのようにしてストレスや悩みに対処するかなどを知りたい学生には役に立つ。 大学は学問を学ぶところであること、十分自覚すること。			
13. オフィスアワー	毎週、授業終了後 1 時間程度。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	健康心理学とは	事前学習	自分の心と体の健康について、考えておくこと。	
		事後学習	健康心理学とはどのような学問かについて、A4 版 1 枚 400 字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第 2 回	健康心理学の基礎理論①	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。	
		事後学習	健康心理学の理論について、A4 版 1 枚 400 字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第 3 回	健康心理学の基礎理論②	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。	
		事後学習	健康心理学の理論について、A4 版 1 枚 400 字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第 4 回	健康維持の身体・生理学的メカニズム	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。	
		事後学習	身体・生理学的メカニズムについて A4 版 1 枚 400 字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第 5 回	ストレスと健康①	事前学習	自分のストレスについて考えておくこと。	
		事後学習	ストレスとは何か？ストレスを克服する方法について A4 版 1 枚 400 字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第 6 回	ストレスと健康②	事前学習	自分のストレスについて考えておくこと。	
		事後学習	ストレスとは何か？ストレスを克服する方法について A4 版 1 枚 400 字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第 7 回	健康行動と疾病予防	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。	
		事後学習	健康を維持し、病気を予防する方法を A4 版 1 枚 400 字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第 8 回	生活習慣病の予防	事前学習	生活習慣病にはどのようなものがあるか考えておくこと。	
		事後学習	生活習慣病のリスクファクターと予防について A4 版 1 枚 400 字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第 9 回	ソーシャルサポートとヘルスケアシステム	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。	
		事後学習	ソーシャルサポートと健康の関係を A4 版 1 枚 400 字にまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第 10 回	健康心理学におけるアセスメント法①	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。	
		事後学習	心と体の健康をアセスメントする方法について A4 版 3 枚 1200 字にまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第 11 回	健康心理学におけるアセスメント法②	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。	

		事後学習	心と体の健康をアセスメントする方法について A4 版 3 枚 1200 字にまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 1 2 回	健康心理学におけるアセスメント法③	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。
		事後学習	心と体の健康をアセスメントする方法について A4 版 3 枚 1200 字にまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 1 3 回	健康心理学とカウンセリング	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。
		事後学習	健康を維持するためのカウンセリングの理論と方法について、A4 版 2 枚 800 字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 1 4 回	健康増進のための実践プログラム	事前学習	健康を増進するために自分が普段実践している方法について考えておくこと。
		事後学習	事前学習と講義の内容を A4 版 1 枚 400 字以内でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 1 5 回	全体のまとめ 健康心理学とはどのような学問か、心と体の健康を阻害する要因は何か、心と体の健康を維持・増進する方法は何か、について A4 版 4 枚 1600 字でまとめる。	事前学習	教科書全体の章を読み直しておくこと。
		事後学習	今後の日常生活における心と体の健康を維持・促進するために生活習慣をどのように改善すればよいか、これまでの授業を振り返り自分の考えをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	権利擁護と成年後見 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3401
2. 授業担当教員	上野 義光			
4. 授業形態	講義・討議	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	1 権利擁護の基本的な考え方・成年後見制度の概要・成年後見人の活動の実際について、実務の動向も含めて学ぶとともに、成年後見制度と関わりのある諸制度や専門職の役割について学ぶ。 2 権利擁護・成年後見制度の理解の前提となる憲法と民法の基本的な考え方を学ぶ。			
8. 学習目標	1 権利擁護相談援助と日本国憲法、民法、行政法とのかかわりを理解、習得し、説明できる。 2 成年後見制度の概要及び成年後見人等の役割、実務について理解、習得し、説明できる。 3 日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携について理解し、説明できる。 4 成年後見活動の実際及び権利擁護活動の実際について考察し、理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート設題：「成年後見制度と日常生活自立支援事業について 2,000字程度にまとめて提出する。提出期限については追って知らせる。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第19巻 権利擁護と成年後見制度』中央法規。			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度とレポートなどを総合して行う。 1. レポート 総合点の 30% 2. 学期末試験 総合点の 30% 3. 授業出席 総合点の 30% 4. 日常の学習態度 総合点の 10%			
12. 受講生へのメッセージ	日常生活に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身に付けておくことは大切です。年々、成年後見制度や日常生活自立支援事業の需要が増加しており、援助の専門職として法制度と実際の知識が必要です。法律は難解な用語が多いので分りやすく説明します。 授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。学生としてのマナーを守ってください。			
13. オフィスアワー	休憩時間に相談に応じる (5号館 2階非常勤講師室)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション、相談援助活動において想定される法律問題	事前学習	教科書第1章第1節 (pp.2~6) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	相談援助活動における法律問題について、その内容をまとめる。	
第2回	日本国憲法 (近代憲法の基本原理、憲法上の権利と基本的人権、自由権と社会権) の理解	事前学習	教科書第1章第2節 (pp.7~16) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	特に基本的人権、社会権に関する理解を深め、その内容をまとめる。	
第3回	日本国憲法 (外国人と法人の人権、統治機構、地方自治、財政の原理等) の理解	事前学習	教科書第1章第2節 (pp.16~27) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	統治機構、地方自治、財政について、その内容をまとめる。	
第4回	行政法 (行政法とは何か、行政行為、行政事件訴訟、行政不服申立制度、国家賠償法等) の理解	事前学習	教科書第1章第3節 (pp.28~47) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	行政行為、行政事件訴訟、行政不服申立制度、国家賠償法について、その内容をまとめる。	
第5回	民法 (総則・自己決定と代理、物権と債権、契約と消費者保護) の理解	事前学習	教科書第1章第4節 (pp.48~62) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	民法総則、物権と債権、契約と消費者保護についての理解を深め、その内容をまとめる。	
第6回	民法 (不法行為と損害賠償、親族法、相続法) の理解	事前学習	教科書第1章 (pp.62~78) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	不法行為と損害賠償、親族法、相続法について、その内容をまとめる。	
第7回	成年後見制度 (成年後見・保佐・補助の概要、申立の流れ) について	事前学習	教科書第2章 (pp.82~106) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	成年後見制度について理解し、その内容をまとめる。	
第8回	成年後見制度 (任意後見制度、成年後見人等の義務と責任、成年後見制度の動向) について	事前学習	教科書第2章 (pp.107~127) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	任意後見制度、成年後見人等の義務と責任について理解し、その内容をまとめる。	
第9回	日常生活自立支援事業 (日常生活自立支援事業の概要、日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携) について	事前学習	教科書第3章 (pp.130~138) を熟読し、その要点をまとめる。	

	て	事後学習	日常生活自立支援事業について理解を深め、その内容をまとめる。
第 10 回	成年後見制度利用支援事業（成年後見制度利用支援事業の概要、その他の財政支援の活用）について	事前学習	教科書第 4 章（pp.140~145）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	成年後見制度利用支援事業について、その内容をまとめる。
第 11 回	権利擁護にかかわる組織・団体（家庭裁判所・法務局・市町村の役割）について	事前学習	教科書第 5 章（pp.148~161）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	特に家庭裁判所、法務局の役割について理解を深め、その内容をまとめる。
第 12 回	権利擁護にかかわる組織・団体（社会福祉協議会・児童相談所の役割）について	事前学習	教科書第 5 章（pp.162~171）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	社会福祉協議会と児童相談所の役割について、その内容をまとめる。
第 13 回	権利擁護にかかわる専門職（弁護士・司法書士・公証人・医師の役割等）について	事前学習	教科書第 6 章（pp.174~196）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	弁護士・司法書士等の役割について、その内容をまとめる。
第 14 回	成年後見活動の実際（事例検討）	事前学習	教科書第 7 章（pp.198~214）を吟味し、その要点をまとめる。
		事後学習	グループで検討したことを、もう一度振り返ってみる。
第 15 回	権利擁護活動の実際（事例検討）	事前学習	教科書第 8 章（pp.216~243）を吟味し、その要点をまとめる。
		事後学習	グループで検討したことを、もう一度振り返ってみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	更生保護 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP4101 PSMP4401 SCMP4301 SBMP4301
2. 授業担当教員	藤田 尚	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答、途中確認テスト・小テストの併用、期末に試験を行う。		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び犯罪や非行を起こさせないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉という自立支援が必要である。これらの支援は、警察、検察、裁判、矯正の各段階で行われているが、本科目では、この内の社会の中での働きかけ(処遇)を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、心神喪失等の状態で重大な犯罪を行った人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度の概要、さらには、更生保護制度の運用の実際と今後の展望等について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉との関連において必要とされる更生保護制度の基礎的知識について理解し、説明することができるようになる。 2 更生保護の組織を中心に、刑事司法・少年司法分野で犯罪前歴者等の支援活動に関与する組織、団体及び専門職について理解し、説明することができるようになる。 3 更生保護制度における関係機関・団体との連携のあり方について理解し、説明することができるようになる。 4 保護観察所が担う新たな役割として、福祉機関・団体などとの密接な連携の下に実施される被害者支援や医療観察制度について理解し、説明することができるようになる。 5 更生保護の運用の実際と今後の展望について考察し、自分の言葉で表明することができるようになる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	アサインメントとしては、講義前にはテキストの該当箇所を読み、講義後は知識の定着を図るため、再度、テキストやレジュメに目を通す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 20 更生保護制度 [第 3 版]』中央法規出版、2014。 【参考書】 松本勝編『更生保護入門 [第 4 版]』成文堂、2015。 法務省法務総合研究所『平成 27 年版 犯罪白書』日経印刷株式会社、2015。		
11. 成績評価の方法	授業中の態度・授業(グループ討議も含む)への参加度など(20%)。途中確認テスト・小テスト(80%)。		
12. 受講生へのメッセージ	聞きなれない法律用語等が数多くあると思いますが、なるべくわかりやすく図表を用いて説明したいと思いますので、わからない用語については積極的に質問して下さい。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 更生保護制度の概要 I (更生保護とは、刑事司法の中の更生保護)	事前学習	シラバス、テキスト pp. 1~14 を読んで授業に臨む。
		事後学習	オリエンテーションで学んだことを整理するため、再度、テキストの該当箇所を読み直す。
第 2 回	更生保護制度の概要 II 仮釈放等	事前学習	テキスト pp. 15~22 を読んで授業に臨む。
		事後学習	仮釈放等について学んだことを整理するため、テキスト及び参考書の該当箇所を読み直し、質問等があればまとめる。
第 3 回	更生保護制度の概要 III 保護観察	事前学習	テキスト pp. 23~35 を読んで授業に臨む。
		事後学習	保護観察の内容について復習し、重要箇所をまとめる。
第 4 回	更生保護制度の概要 IV 生活環境の調整、更生緊急保護	事前学習	テキスト pp. 36~48 を読んで授業に臨む。
		事後学習	生活環境の調整、更生緊急保護に関して、要点をまとめる。
第 5 回	更生保護制度の概要 V 更生保護における犯罪被害者等の施策	事前学習	テキスト pp. 49~51 を読んで授業に臨む。
		事後学習	犯罪被害者等に関する 4 つの施策を中心にまとめる。
第 6 回	更生保護制度の概要 VI 恩赦、犯罪予防活動	事前学習	テキスト pp. 52~59 を読んで授業に臨む。精読しておく。
		事後学習	恩赦の種類とその内容、犯罪予防活動の意義及び内容について、要点をまとめる。
第 7 回	更生保護制度の担い手 I 保護観察官、保護司	事前学習	テキスト pp. 61~67 を読んで授業に臨む。
		事後学習	保護観察官と保護司の各役割を整理し、両者がどのように協働しているかをまとめる。
第 8 回	更生保護制度の担い手 II 更生保護施設、民間協力者	事前学習	テキスト pp. 68~77 を読んで授業に臨む。
		事後学習	更生保護施設の内容、更生保護女性会・BBS・協力雇用主を中心とする民間協力者の役割についてまとめる。
第 9 回	更生保護制度における関係機関・団体との連携 I 裁判所、検察庁とのかかわり	事前学習	テキスト pp. 79~89 を読んで授業に臨む。
		事後学習	刑事司法制度の流れを念頭に置きながら、裁判所、検察庁とのかかわりについて整理する。

第 1 0 回	更生保護制度における関係機関・団体との連携Ⅱ 矯正施設、児童相談所、公共職業安定所・福祉事務所、民間団体とのかかわり	事前学習	テキスト pp. 90～102 を読んで授業に臨む。
		事後学習	施設内から社会内処遇へ移行する際に、どのような関係機関や団体がかかわっているかを意識しながら、要点をまとめる。
第 1 1 回	医療観察制度の概要Ⅰ 医療観察法に基づく処遇制度の創設、生活環境の調査、生活環境の調整	事前学習	テキスト pp. 103～110 を読んで授業に臨む。
		事後学習	医療観察制度における処遇の流れをもとに、各段階での内容を押さえる。
第 1 2 回	医療観察制度の概要Ⅱ 地域社会における処遇（精神保健観察）、関係機関との連携	事前学習	テキスト pp. 111～115 を読んで授業に臨む。
		事後学習	前回の流れを踏まえ、社会復帰調整官による精神保健観察、関係機関との連携について整理し、まとめる。
第 1 3 回	更生保護制度の運用の実際と今後の展望Ⅰ 保護観察官の業務の実際、社会復帰調整官の業務の実際	事前学習	テキスト pp. 117～141 を読んで授業に臨む。
		事後学習	事例を思い浮かべながら、保護観察官及び社会復帰調整官の業務内容について整理し、まとめる。
第 1 4 回	更生保護制度の運用の実際と今後の展望Ⅱ 更生保護の課題と今後の展望	事前学習	テキスト pp. 142～150 を読んで授業に臨む。
		事後学習	更生保護制度改革を契機とする様々な施策について整理し、まとめる。また、最終講義へ向け、質問等があればまとめておく。
第 1 5 回	小テスト(論述形式)	事前学習	提示した課題について、まとめておく。
		事後学習	テストでできなかった点について、復習を行う。

1. 科目名 (単位数)	公的扶助論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2106 SCMP2106 SBMP2106 PSMP2406
2. 授業担当教員	本沢 一善	5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	講義、グループ学習等		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	我が国の社会保障制度の一部であり、生活を支えるうえでの「セーフティネット」ともいわれる公的扶助に関する制度の基礎知識を体系的に学習する。具体的には、貧困や低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際などに着目しながら、公的扶助の考え方やその歴史について学習する。また、我が国の公的扶助として中心的な役割を持つ生活保護制度について、その原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務、相談援助活動や自立支援の取り組みを学ぶとともに、低所得層対策の考え方や具体的な制度について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代における貧困・低所得者の問題について理解し、説明することができる。 2 社会保障制度における公的扶助の役割について理解し、説明することができる。 3 公的扶助制度の歴史について理解し、説明することができる。 4 生活保護制度と低所得者支援の制度について理解し、説明することができる。 5 生活保護の動向と課題について理解し、説明することができる。 6 生活保護制度・低所得者支援における相談援助活動について理解し、説明することができる。 7 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の試験問題（低所得者支援と生活保護制度）について、解ける力を持つ。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	数回、講義内容の中で重要なテーマにつき、1000字程度のレポートを課し、採点し返却する。事前・事後学習の提出についても採点・返却する。状況により、授業内容のなかから90分以上の項目を選び、グループ学習とする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 新社会福祉士養成講座編集委員会編 『低所得者に対する支援と生活保護制度 (第4版)』中央法規出版、2014年。		
11. 成績評価の方法	授業態度、事前・事後学習の提出など 20% 授業への積極的参加度 20% レポート・試験 60% 学ぼうとする基本姿勢を重視し、おしゃべり、配布の印刷物などのわずれ、授業のぬけ出などは評価にカウントする。		
12. 受講生へのメッセージ	公的扶助に関する学習は、理念、原理、原則が重要であるとともに、最近では援助技術への理解が重視されています。また、社会福祉士・精神保健福祉士の資格試験の科目でもあり、しっかり勉強しておきたい科目の1つです。90分、15回では、効率的な学習が必要です。そこで、数人で協力し合って学習するグループ学習の方法も採ります。この学習方法が成功する鍵はお互いに信頼できるような取り組みが必要です。真摯で積極的な授業参加をお願いします。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (授業の概要、授業の進め方)、貧困・低所得の問題	事前学習	「第1章 第1節 B 公的扶助と社会保険」を熟読し、原則A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第1章 第1節 C 公的扶助の範囲など、第2節 公的扶助の意義など」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第2回	公的扶助の意義、公的扶助制度の役割	事前学習	「第2章 第1節 貧困・低所得」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第2章 第2節 A 絶対的貧困と相対的貧困、B 社会的排除など」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第3回	公的扶助制度の歴史 (1)	事前学習	「第3章 第1節 A 救貧法、B 救貧施設と金銭給付」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第1節 C 救貧法の展開など、D 公的扶助の誕生」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第4回	公的扶助制度の歴史 (2)	事前学習	「第2節 日本の歴史」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第3節 貧困・低所得者対策の動向」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第5回	生活保護制度の仕組み (1)	事前学習	「第4章 第1節 A 生活保護法の目的、B 生活保護法の基本原理」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第1節 C 保護の原則」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第6回	生活保護制度の仕組み (2)	事前学習	「第2節 A 生活扶助」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第2節 D 医療扶助、E 介護扶助」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第7回	生活保護制度の仕組み (3)	事前学習	「第3節 保護施設」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第5節 不服申立と訴訟」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第8回	生活保護基準と最低生活保障水準	事前学習	「第5章 第2節 生活保護基準の考え方」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第3節 生活保護基準の実際」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。

第 9 回	生活保護に関する統計の動向	事前学習	「第 6 章 第 1 節 A 被保護人員、B 被保護世帯数」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 保護の開始・廃止の動向、第 3 節 医療扶助・介護扶助の動向」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 10 回	低所得者対策 (1) 生活福祉資金	事前学習	「第 7 章 第 1 節 A 世帯更生資金貸付制度の制立など」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「B 生活福祉資金貸付制度の概要」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 11 回	低所得者対策 (2) 公営住宅・ホームレス対策など	事前学習	「第 3 節 ホームレス対策」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 C 児童手当、第 4 節 A 公営住宅制度」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 12 回	生活保護の運営体制と関係組織 (国・都道府県等)・専門職 (現業員等)	事前学習	「第 8 章 第 1 節 D 国の役割」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 1 節 C 地方分権一括法など、第 2 節 福祉事務所の役割」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 13 回	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動、福祉事務所の役割と連携	事前学習	「第 9 章 第 1 節 A 生活保護における相談援助活動の特徴」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 1 節 B 相談援助活動のプロセス、第 3 節 他機関などとの連携等」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 14 回	自立支援プログラムの意義と実際	事前学習	「第 10 章 第 1 節 自立とは」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 自立支援プログラムの位置づけ」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 15 回	総合まとめ	事前学習	過去問をベースに 15 題 (項目は 75) の印刷を前もって配布する。そこから 3 題選び、内容をまとめて提出する。
		事後学習	国試の過去問をベースに、全体の理解を深める
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	高齢者福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1101
2. 授業担当教員	宮崎 栄二		
4. 授業形態	講義、グループレポート作成と発表、ディスカッション、小テスト	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>人類の長年の願望だった長寿化社会の実現が先進国のみならず開発途上国でも見られる現象となった。現在日本は、少子高齢化の影響で人口の減少と介護人材の不足が社会問題となっており、社会が健全に発展するためには、少子・高齢社会的な現状の把握と問題の本質を理解し、ニーズに基づいた積極的な対応が必要である。</p> <p>本講義では、第 1 に、人口構造と世帯構成、高齢者の精神的・身体的状態、経済的状态など高齢者を取り巻く環境について理解を深める。第 2 に、高齢者福祉の発展過程として高齢者福祉制度の萌芽から老人福祉法、現在に至るまでの変化について検討する。第 3 に、支援が必要な虚弱高齢者、予防高齢者と要介護高齢者の現状、公的サービスの現状と問題点などについて把握する。第 4 に、介護保険法に規定されている介護に関連する介護予防と各種サービス、ケアマネジメント、終末期ケアなど諸事項に関する法律について、現状と問題点を検討する。最後に、要介護状態になっても住み慣れた地域や選好する場所で生活し続けるためには、どのような政策や実践が必要であるかを地域で調査を実施し、社会に貢献できることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人口学的特徴とライフサイクルの観点から高齢者の生活実態や世帯構成、経済的状況について理解を深める。 2. 高齢者福祉制度の仕組み、発展過程と課題について理解を深め、今後実現可能な政策とは何かを調査する。 3. 公的介護保険制度の現状と問題点について把握し、要介護高齢者の介護ニーズに適切に対応するために解決すべき課題を把握する。 4. 高齢者ニーズを満たす方法として、血縁関係のみならず地域ネットワークの在り方についても理解を深め、高齢者が社会参加を積極的にするためには、どのような環境づくりが必要であるか、調べる。 5. 終末期ケアの在り方 (人間観や倫理を含む) について理解し、高齢者が望む場所で最期を迎えるために、必要な政策と地域ネットワークのありがたを理解する。 6. 介護保険制度の仕組みについて理解を深め、介護サービス事業所の現状と問題点を調査し、改善策を把握する。 7. 相談援助活動において、要介護高齢者の人権を守るための成年後見制度など法制度の内容を理解し、成年後見制度が普及しない理由や問題点を把握する。 8. 本科目は、国家試験科目であり、国家試験に通用するレベルまで実力アップを図ることを目指す。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学生本人が居住している市町村を訪ねて、その市町村が発行している高齢者福祉、介護保険関連のパンフレット、冊子等を収集し、その町独自のサービスなどを理解する。 ・同時に、それぞれの市町村の介護保険事業の実態 (高齢者人口、要介護認定者数、施設利用者数等) を調査する。 ・その他の課題は、授業の際に提示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 杉本敏夫・橋本有里子編『学びを迫及する高齢者福祉』保育出版社。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。 *授業中に適宜資料を配布する。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点 (授業への積極的参加度・授業態度) 30% 2. レポートと課題 30% 3. 期末筆記試験 40% <p>計 100%</p> <p>なお、本学規定により、単位取得のためには 3/4 以上の出席を必要とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者になることは、誰にも避けることが出来ないことです。高齢化が著しく進む日本で、高齢者福祉・介護福祉は大変大きな、深刻な課題です。十分に学習し、理解しなければなりません。 ・介護保険制度は主要な柱です。興味を持って学習してください。 ・介護保険制度は変化が急です。国家試験に対応するために新たな情報にも注意して下さい。 ・授業内容は、基本的に教科書に沿って進めていくので、必ず予習してきて下さい。 <p>履修にあたっては次の事を最低限守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指定の教科書は授業の際、必ず持参すること ②別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。 ③席は前から男女で座ること。 ④他の人が発言している時には、他の受講生は静かに傾聴すること。 ⑤授業中の私語や携帯電話の使用は禁止します。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 講義概要について説明 教科書『学びを迫及する高齢者福祉』 第 1 章 高齢者の生きがいと社会的参加について、居場所を中心に理解する。	事前学習	教科書第 1 章 1 節を読み、高齢者の生きがいとは何かについて調べる。
		事後学習	高齢者の社会参加への課題と対応策をまとめる。

第 2 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 2 章 1 節 高齢化の現状をととして、少子高齢社会と社会的問題、少子高齢社会の実態とその要因、地域間格差について理解する。	事前学習	教科書第 2 章 1 節を読み、自分の住んでいる市町村の高齢化実態の概略を調べる。
		事後学習	一人暮らし高齢者や高齢者夫婦の実態をまとめる。
第 3 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 3 章 日本の高齢者福祉の発展過程と諸外国の高齢者福祉の発展過程を比較し違いを理解する。	事前学習	教科書第 3 章 1 節を読み、高齢者保健福祉制度の歩みを、戦後の日本を中心に、概略を調べる。
		事後学習	日本の平成年間に入ってから、高齢者保健福祉制度理念の変化についてまとめる。
第 4 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 4 章 高齢者の加齢に伴う身体的、心理的、社会的変化に対する理解を深める。ライフサイクル・コースについて理解する。	事前学習	教科書第 4 章 2 節を読み、高齢者の有訴者率と受療率を調べる。
		事後学習	ライフサイクルとライフコースについてまとめる。
第 5 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 5 章 介護の概念、対象と、高齢者虐待について、最近の動向を理解する。	事前学習	教科書第 5 章 1 節を読み、介護の現状を調べる。
		事後学習	高齢者虐待の現状を、「高齢社会白書」などを使ってまとめる。
第 6 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 6 章 認知症ケアを中心に、高齢者のケアを理解する。	事前学習	教科書第 6 章 3 節を読み、認知症について調べる。
		事後学習	終末期ケアと高齢者の人権、家族の生活維持についてまとめる。
第 7 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 7 章 高齢者福祉に関わる法制度を理解する。	事前学習	教科書第 7 章 1 節を読み、老人福祉法成立の経緯について調べる。
		事後学習	高齢者医療制度をめぐる動向と課題をまとめる。
第 8 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 8 章 介護保険制度の全体像、制度成立の背景について理解する。	事前学習	教科書第 8 章 1 節を読み、介護保険制度の概要を調べる。
		事後学習	介護保険制度の今後の課題をまとめる。
第 9 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 9 章 介護保険制度における介護サービスについて理解する。	事前学習	教科書第 9 章 2 節を読み、介護保険居宅サービスの概要を調べる。
		事後学習	介護サービス実施における、介護サービス事業者、専門職の連携（多職種連携）についてまとめる。
第 10 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 10 章 介護保険 3 施設を中心に、施設の役割と他の専門機関を理解する。	事前学習	教科書第 10 章 1 節を読み、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）を調べる。
		事後学習	地域包括支援センターについて、その役割や配置される専門職についてまとめる。
第 11 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 11 章 高齢者福祉、介護保険制度における、国、都道府県、市町村などの役割を理解する。	事前学習	教科書第 11 章 1 節を読み、介護保険制度における国・都道府県の役割を調べる。
		事後学習	介護保険制度における、市町村の役割をまとめる。（練習問題）
第 12 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 12 章 高齢者に対する相談援助の実際を理解する。	事前学習	教科書第 12 章 1 節を読み、個別援助技術を念頭に、高齢者の相談援助を介護保険を中心に調べる。
		事後学習	グループワークを念頭に、地域を活用した当事者グループ結成などの事業について、メディアを利用してまとめる。（練習問題）
第 13 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 13 章 高齢者の住まい方について、自宅と老人ホームなどを比較しながら理解する。	事前学習	教科書第 13 章 1 節を読み、有料老人ホームについて調べる。
		事後学習	サービス付高齢者住宅についてまとめる。（練習問題）
第 14 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 14 章 福祉用具と福祉住環境について理解する。	事前学習	教科書第 14 章 1 節を読み、福祉用具とは何か調べる。
		事後学習	バリアフリー住宅について調べ、バリアが高齢者に対しどのような影響があるかまとめる。（練習問題）
第 15 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 15 章、高齢者支援の方法と実際について、介護保険制度や介護の実際を通して理解する。（全体のまとめ）	事前学習	教科書第 15 章「事例研究 在宅福祉」を読み、要介護・要支援高齢者が地域での生活を継続していくには、どう対応すればよいか調べる。
		事後学習	介護保険制度について、自分の住んでいる市町村のパンフレットなどで全体像を改めてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	国際関係論 (国際法を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA3318
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目履修にあたっては事前に以下に挙げる科目の事前・事後履修を推奨します。履修可能な範囲で意欲的に取り組んで下さい。 事前・事後履修を推奨する科目：「政治学」「経済学」「国際社会と日本」「世界史」「日本史」		
7. 講義概要	本科目は、国際政治や国際経済に関する諸問題について理解を深めることを目的とする。また、人権、国家主権や領土の問題など、国際法の考え方についても取り上げる。 本科目では、国際関係論の全体を概観し、公務員試験や教員採用試験にも関連する内容も取り上げながら展開していく。		
8. 学習目標	1) 国際関係論における基本的な考え方、重要な概念について理解し説明できる。 2) 国際社会における政治・経済動向について関心を持ち、諸問題について多面的に検討し思考することができるようになる。 3) 国際社会における行動主体とその関係について理解できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	リーディングアサインメントを課します。論述で解答する場合と確認テストにて解答を求める場合があります。基本的に、2回以降はテキスト (中西寛ほか『国際政治学』有斐閣、2013年) 持参が必須になります。前回講義時に指定された範囲のテキストの読み込みとともに、各講義回に設定された課題について自分なりの解答をもって講義に臨んでください。 講義では上記をリーディングアサインメント (RA) と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習のちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。配付を受けるまでは上記課題を意識してテキストの各章を読んでみましょう。また、講義配当時間の関係上、テキスト掲載のすべての章を取り扱うことはできないので、今回対象外とする章については以下に示す課題例を参考に各自で読み進めるようにしてください。各回で関連ある内容の章を紹介します。課題例はその都度補足します。 課題例：第 5 章；安全保障という考え方が定着するようになった背景はどのようなものだろうか。テキスト pp. 232-252. を読みまとめてみよう。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 中西寛ほか『国際政治学』有斐閣、2013 年 (以下、シラバス内ではこの文献をテキストと呼称する。) 【参考書】 1) 原康著『岩波ジュニア新書 国際関係がわかる本』岩波書店、1999 年。 高橋和志ほか『岩波ジュニア新書 国際協力ってなんだろう』岩波書店、2010 年。 教科書の内容に難しさを覚えた学生は参照することをお勧めします。後者は教科書の第 6 章～10 章で取り扱いのある、アジアの状況について中心的に取り上げております。 2) 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』。有斐閣ブックス、2004 年。 国際政治、国際経済の分野の専門用語、トピック 163 項目を解説しています。「集団安全保障」「開発主義」といった本科目でも取り扱う概念について更に理解を深めたいときに有益です。 3) 羽場久美子・増田正人編『21 世紀国際社会への招待』有斐閣ブックス、2003 年。 最新事情については参照できないが、1990 年代からの国際社会の変化について 22 のトピックで分かりやすく解説している。 4) 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 ほか、高等学校歴史地理において使用した世界史資料集などが本科目の学習の手助けになる。		
11. 成績評価の方法	リーディングアサインメント (40%)、授業への取り組み (授業内発表なども含む) (20%)、試験 (40%) を評価の配分とします。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めません。		
12. 受講生へのメッセージ	国際関係論が取り扱う領域は広範にわたります。原則、テキストのトピックについて学習を進めていくこととなります。そのため、シラバスの授業内容に無いトピックで、学生側からの希望があれば、内容を確認し、受講者とともに審議したうえで授業内容として取り上げるようにしていきます。 本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。 ①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 また、教員は次のことを実行します。 ①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 ②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言・発表等) できる双方向対話型の学習環境を作ります。 ④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話 (メール・通話) の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。		

	本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくは e-mail にて対応します。 toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバスの解説がありますので本講座該当ページのみ印刷するなどでもよいので必ず持参のこと) 国際関係論についての基礎知識	事前学習	テキストの目次を参考に国際関係論（国際政治学）が議論する観点を見ておくこと。その中で関心を持ったテーマについて各章の summary を読んでおくこと。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント（RA）に取り組む。
第 2 回	国際政治学の見取り図① 国際政治の悲劇性とリアリズム・リアリズムへの挑戦 …テキスト第 1 章	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。 課題：リアリズムとリベラリズムとは何か。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 3 回	国際政治学の見取り図② 三つの分析レベル・国際政治から世界政治へ …テキスト第 1 章	事前学習	課題：ウォルツ『戦争原因論』およびウォラーステイン『世界システム論』について調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 4 回	国際政治の歴史的視角① 主権国家体制以前の「世界秩序」 …テキスト第 2 章	事前学習	課題：東アジア国際体制について調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 5 回	国際政治の歴史的視角② 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（1） ドイツ三十年戦争およびウェストファリア体制の現代的評価 …テキスト第 2 章	事前学習	課題：ドイツ三十年戦争の経過を教科書以外の参考文献も活用して調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 6 回	国際政治の歴史的視角③ 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（2） ドイツに見る「国民国家」形成の過程 …テキスト第 2 章	事前学習	課題：ドイツ国家の国民意識が形成される過程には何があったのだろうか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 7 回	国際政治の歴史的視角③ 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（3） ヨーロッパ外世界との関係 …テキスト第 2 章	事前学習	課題：19 世紀頃までのヨーロッパ諸国による植民地獲得とアメリカおよび日本との関わり方について（pp.76-79.）調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 8 回	対外政策の選択① 外交・国内政治と対外政策 …テキスト第 3 章	事前学習	課題：アリソンは三つの政策決定モデルとは何か。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 9 回	対外政策の選択② 国家間の戦略的相互依存 …テキスト第 3 章	事前学習	課題：なぜ軍拡競争が起こるのか。囚人のジレンマの論理を手がかりに考えてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 10 回	対外政策の選択③ 認識と行動	事前学習	課題：シェリング『行動の自由の逆説』とは何か調べてみよう。

	…テキスト第 3 章	事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 1 回	対外政策の選択④ 威嚇と約束 …テキスト第 3 章	事前学習	課題：モーゲンソーの「威嚇や約束の説得力」とは何か。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 2 回	国際秩序① 領域主権国家体制 …テキスト第 4 章	事前学習	課題：国際秩序」を形作る考え方について、国内類推論とは何か調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 3 回	国際秩序② 秩序の設計と生成・国際秩序の変動と国内秩序の変動 …テキスト第 4 章	事前学習	課題：国際秩序」を形作る考え方について、市場類推論、共振論とは何か調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 4 回	国際政治経済 国際政治経済の過程グローバリゼーションとパワーシフト …テキスト第 6 章	事前学習	課題：自由な国際交易国家間の関係を平和にする効果があるのか？
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 5 回	越境的世界 文明論と国際政治 …テキスト第 7 章	事前学習	課題：グローバリゼーションによって異文化社会間の交流が深まることは、国際政治にどのような影響をもたらすか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 アサインメントすべてを見直す。 課題：今、目の前にある世界はどうしてこうなったのか。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	国際社会と日本 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1334 GELA1354
2. 授業担当教員	若狭 清紀			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、グループプレゼンテーション	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	特になし			
7. 講義概要	「グローバル化」という言葉を頻繁に耳にするようになりましたが、それは一体何を意味するのでしょうか。この授業では、国際社会の状況に関する事例を使用教材(教科書、随筆記事、映像等)を適宜用いて紹介し、それを基にグループ討議を行い、「グローバル化」が世界の人々に及ぼしている影響を多角的に学び、理解を深めます。また、学期を通して、世界各地で起こっている出来事と日本との関わりについても考察を深めていきます。			
8. 学習目標	1. 「グローバル化」がもたらしている影響について多角的な理解を深め、説明できる。 2. 「グローバル化」と日本の関わりについて多角的に考察し、自分の意見を言える。 3. 国際社会の一員として国際社会の今後の展望に関し自分の意見を言える。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	ほぼ毎回、課題を設定し、提出を求める。 「国際社会の一員として考えること」というタイトルのレポートを作成する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山本富美子編著『留学生・日本人学生のための一般教養書 国境を越えて [本文編] 改訂版』新曜社、2007。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 30% 提出物 30% レポート 40%			
12. 受講生へのメッセージ	教科書を必ず持ってきて下さい。遅刻、欠席をしないで授業中はしっかりと集中し、課題には意欲的に取り組んで下さい。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション	事前学習	教科書を購入して、全体的に目を通しておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第2回	人口動態(第2課)	事前学習	教科書第2課を読み、分からない語句について調べておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第3回	人口動態に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容を調べてまとめておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第4回	戦後の社会構造の変容(第3課)	事前学習	教科書第3課を読み、分からない語句について調べておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第5回	戦後の社会構造の変容に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容を調べてまとめておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第6回	戦後の経済構造の変容(第4課)	事前学習	教科書第4課を読み、分からない語句について調べておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第7回	戦後の経済構造の変容に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容を調べてまとめておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第8回	開発の功罪(第5課)	事前学習	教科書第5課を読み、分からない語句について調べておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第9回	開発の功罪に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容を調べてまとめておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	

第 1 0 回	レポート作成と発表の方法について	事前学習	レポートで書く内容の案を考えておく。
		事後学習	レポート作成を進めて、発表の準備をしておく。
第 1 1 回	地球規模の環境問題と対策（第 6 課）	事前学習	教科書第 6 課を読み、分からない語句について調べておく。
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。
第 1 2 回	地球規模の環境問題と対策に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容を調べてまとめておく。
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。
第 1 3 回	グローバル化時代の課題（第 9 課）	事前学習	教科書第 9 課を読み、分からない語句について調べておく。
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。
第 1 4 回	グローバル化時代の課題に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容を調べてまとめておく。
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。
第 1 5 回	レポートの発表と提出	事前学習	レポートを完成させ、発表の準備を整えておく。
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	ジェンダー論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1331
2. 授業担当教員	板井 広明	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習 (グループワーク含む)		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「女は家庭のなかで子育てをすることに向いている」とか「男は外で仕事をする事に向いている」といった「女らしさ」や「男らしさ」は、長い間、身体の仕組みや本能などの生物学的要因によって決定されるものだと考えられてきた。しかし、20 世紀の後半から、「女らしさ」「男らしさ」の区別は、社会的・文化的要因と深く関係していると考えられるようになった。「ジェンダー」とは、このような社会的・文化的に形成された性別を意味し、「女らしさ」「男らしさ」の社会的な側面に注目した概念である。本講義では、「ジェンダー」という言葉の意味を理解した上で、現代社会の様々な社会現象・社会問題に対して、「ジェンダー」の観点から関心を持ち、分析・考察し、表現する力を身につけることを目指す。		
8. 学習目標	本講義の目的を達成するために、以下の3つの到達目標を設定する。 1) 「ジェンダー」の概念とその意義を理解した上で、わかりやすく説明することができる。 2) 現代社会における家族、労働、家事、育児、介護等の諸問題に内在する「ジェンダー」に関心を持ち、それぞれの課題について他の受講者の意見を尊重した上で議論することができる。 3) 本授業での学びの成果をもとに、「ジェンダー」の観点から、現代社会における様々な社会現象・社会問題を分析・考察し、自らの意見を適切な表現を用いて表現することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	「江口某の不如意研究室」 (http://yonosuke.net/eguchi/) のページにある「勉強の仕方」の34記事すべてを第10回目までには熟読して自家薬籠中のものとしておくこと。詳しくは講義で指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】加藤秀一『ジェンダー入門』朝日新聞社、2006 年。 【参考書】加藤・海老原・石田『ジェンダー (図解雑学)』ナツメ社、2005 年。		
11. 成績評価の方法	期末試験 80% 授業への積極的参加度 (要約など) 20%		
12. 受講生へのメッセージ	「男らしくなさい」、「女らしくなさい」といった言葉に違和感を覚えた人、あるいは違和感など覚えないう人、どちらの人もし是非この講義をとってください。なぜ違和感を覚えるのか、なぜ違和感を覚えないうのかの理由がわかります。また映像資料や参考資料を元にしてディスカッションも行ないます。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ジェンダーとフェミニズム：平等か差異か	事前学習	指定テキストの「本書を手にとってくださいみなさんへ」を読んで来ること。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 2 回	ジェンダーと権力	事前学習	指定テキストの第 1 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 3 回	「男とは〜」「女とは〜」：雑すぎる序列化と差別のメカニズム	事前学習	指定テキストの第 1 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 4 回	ジェンダーとワークライフバランス	事前学習	指定テキストの第 2 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 5 回	ジェンダー論の先駆者たち	事前学習	指定テキストの第 2 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 6 回	ジェンダーと進化論	事前学習	指定テキストの第 3 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 7 回	「男」「女」とは何か? : 性別の起源	事前学習	指定テキストの第 3 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 8 回	ジェンダーとアイデンティティー	事前学習	指定テキストの第 4 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 9 回	男らしさ・女らしさ・ステレオタイプ	事前学習	指定テキストの第 4 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 10 回	ジェンダーと自然	事前学習	指定テキストの第 5 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 11 回	「〜らしさ」の強要と自然主義的誤謬	事前学習	指定テキストの第 5 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 12 回	ジェンダーと LGBT	事前学習	指定テキストの第 6 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。

平成 28 年度

第 13 回	セクシュアリティとジェンダー	事前学習	指定テキストの第 6 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 14 回	ジェンダーの平等に対するバックラッシュ	事前学習	指定テキストの第 7 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 15 回	<私>の生 (ライフ) と性 (ジェンダー)	事前学習	第 1 回～第 14 回までの講義の内容を踏まえ、ジェンダーに関する自分の考えをまとめておく
		事後学習	15 回に及ぶ講義の内容を整理し、疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	死生論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1332 GELA1352
2. 授業担当教員	鈴木 康明		
4. 授業形態	講義を中心とするが主題によっては演習を行う場合がある。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	Death Education デス・エデュケーション (生と死から学ぶいのちの教育) を枠組みに、死、生、性の事柄について多角的に考える。また、 Grief Education グリーフ・エデュケーション (悲嘆教育) も内容に含み、死別の悲しみとそこのかかわりについても学ぶ。これらの学びを通して、人間の尊厳について、存在のかけがえなさについて、異質性と普遍性についてなどを理解することで、関係存在としての自らを見つめ直す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 死、生、性、悲嘆を学ぶことで、一人一人の存在のかけがえのなさについて理解する。 2 あわせて、人間は単独では存在できない関係存在であることについて理解する。 3 これらから、生きていくことに対する肯定的な考え方の形成を目指す。 4 さらに、対人援助を志す「福祉、教育、心理」を学ぶ受講者のかかわり技術の形成を目指す。 5 ただし、技術は人間性により支えられるものであり、深く思索するパーソナリティの形成も目指す。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：新聞、インターネットなどから「生命の尊厳」に関する情報の収集を行う。 課題：それについての自分の意見をまとめる。 →単元終了後にレスポンスシートを作成する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 鈴木 康明著『生と死から学ぶ』北大路書房。 【参考書】 鈴木 康明監修『いのちの本』学研。 若林一美著『死別の悲しみを越えて』岩波書店。		
11. 成績評価の方法	レポート 60%、レスポンスシート 20%、授業への参加度 20% なお本学の規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合、単位の修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	<p>バスカルは、「人間は、死と不幸と無知とを癒すことができなかったため、幸福になるために、それらのことについて考えないことにした」(『パンセ』中央公論社・世界の名著) と述べておりまさに至言である。しかし、だからこそそれらについて受講者と考えてみたいのである。そのためには受講者一人一人の思考力、創造力、問題解決能力が必要であり、その形成を目指し、次の事柄を遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。 2 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に勤しむ。 3 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。 4 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などをせず、常にセルフモニタリングにつとめる。 <p>なお、明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であっても F 評価になることを理解しておく。</p> <p>また教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。 3 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 5 受講者が上記のメッセージ 1～4 が守られない場合、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・講義の目的と内容、評価について ・受講態度と自己教育力について →座席、私語 etc.	事前学習	受講動機を確認しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 2 回	(1) BEING 今在ること ・胎児条項と優生思想を中心に、いのちの「優劣」とはなにかについて考える。 →ペアワーク 話し合い	事前学習	教科書 pp. 1～11 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 3 回	・ダウン症と中絶を中心に、存在する「価値」について考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 p. 12、資料 2 を読みそれぞれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 4 回	(2) NOW AND HERE 今を生きる ・生涯にわたる発達と取り上げ、「関係存在」としての人間を考える。 →ペアワーク 話し合い	事前学習	教科書 pp. 20～28 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 5 回	・「青年期」の課題からこれからの自らのあり方を考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 p. 31、資料 2 を読みそれぞれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。

第 6 回	(3) PILOT 先を生きる人々 ・「古い」を理解し、高齢者へのかかわりについて考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 pp. 40～56 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	教科書 pp. 29～31 を読みそれについての意見をまとめる。
第 7 回	(4) SALAD BOWL ともに生きる ・異質性の課題から対人関係構築能力と「多文化共生」について考える →グループワーク 演習 (ある物語)	事前学習	教科書 pp. 59～67 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 8 回	(5) BE THERE ホスピスから学ぶ ・悪性新生物と痛みの事柄から、「かかわり」の意味について考える。 →ペアワーク 話し合い	事前学習	教科書 pp. 76～84 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 9 回	・ホスピス緩和ケアの活動からかかわりの意味について考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 p. 86、資料 2 を読みそれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 10 回	(6) LOST AND GAIN 死別の悲しみ ・「悲嘆と哀悼」から、人間存在の意義について考える。 →ペアワーク 演習 (かかわり技術)	事前学習	教科書 pp. 104～108 を読みそれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 11 回	・「グリーフケア」の理論と技術から、対人援助の意義について学ぶ。 →ペアワーク 演習 (かかわり技術)	事前学習	教科書 pp. 94～103 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 12 回	(※) 東日本大震災から ・自らの「これからの生き方」について考える。 →スライド	事前学習	2011 年 3 月 11 日の行動を想起しておく。
		事後学習	グループワーク わちあいの体験
第 13 回	(7) GIFT 賜物 ・デス・エデュケーションとグリーフ・エデュケーションの現状と課題について考える。 →グループワーク 情報交換	事前学習	教科書 pp. 118～127 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 14 回	(8) WILL AND WISH ・臓器移植、「長寿願望」から人間の尊厳について考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 pp. 136～144 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 15 回	(※) ダギーセンターから ・親を亡くした子どもの悲しみとかかわりについて考える。 →DVD →グループワーク 討議	事前学習	これまでの講義を通して考えたこと、気がついたことをまとめておく。
		事後学習	小論文作成

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1101 PSMP2402	
2. 授業担当教員	上木 文夫			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、 学外調査	5. 開講学期	春期/秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>「学外調査として、夏期休校期間中に、自分が居住する地域(市区町村)の『子ども家庭』に関する問題や課題について調査し、分かったこと、理解したこと、発見したこと等を報告書にまとめる。」</p> <p>※レポートのタイトルは、自分で考えて表紙に記載すること。 ※レポートは、A4サイズ横書きで3枚程度とする(表紙は枚数に含まれない)。 ※調査方法としては、可能な限り学校などの教育機関、児童館などの児童福祉施設、市(区)役所や町(村)役場、保健センターなどの機関訪問をする。又は、民生委員・児童委員など地域の「子ども家庭事情」に詳しい方から「子ども家庭」に関する話を聴くことが望ましい。子ども家庭福祉に関連する施策に関するチラシやパンフレットなども頂き、レポートに添付することが望ましい。 ※提出は、夏期休校期間明けの最初の授業時とする。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第5版 中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>①「振り返りシート」(小テスト扱い)への記入を含む授業への参加度、及び貢献度 60% ②学外調査レポート 20% ③期末試験 20% 以上、満点を100%として評価を付ける。 ※「振り返りシート」は、ランダムに数度、授業中に実施する。いわば、抜き打ちの小テストの扱いとなるが、全出席が基本となるため、日程は事前に提示しない。それまでの授業内容をきちんと理解し、自分の言葉で授業内容について考察できているか、またそれをわかりやすく論理的に読み手に説明できているかを評価基準とする。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目は、社会福祉士国家試験の出題科目であり、履修は受験資格取得において必須条件となっています。また、資格取得を目指していない学生にとっても、社会福祉における中軸の一つをなす科目ですので、真摯な気持ちで受講して下さい。また学習内容は、私達の日常生活、地域生活に直結しており、社会福祉を学ぶ者にとっての一般常識的な内容も含まれています。一方で、専門的な固有性をもった内容も含まれているため、積極的な授業への参加が求められます。「振り返りシート」はランダムに実施されますが、配点が高い評価項目です。全出席が基本ですので、体調管理に気を付けて授業に臨んで下さい。</p>			
13. オフィスアワー	<p>原則として、小さな質問については授業前後の休み時間に声掛けをして下さい。時間が掛かりそうな相談や質問の場合、授業の前後にお互いに相談(打ち合わせ)をした上で、個別に日時と場所の設定をします。</p>			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日 程	授業内容	学習課題		
第1回	ガイダンス：授業概要の説明と科目の位置づけ 「児童福祉論」から「児童・家庭福祉論」への変遷の理解	事前学習	シラバスを熟読しておく。 指定テキストが入手できたら、目次を確認しておく。	
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。	
第2回	現代の「子ども家庭」を取り巻く現状と課題① 少子高齢社会と現代社会の諸相	事前学習	日本の少子化率の推移について調べる。	
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。	
第3回	現代の「子ども家庭」を取り巻く現状と課題② 現代における子どもたちの実像	事前学習	日本の「子どもの貧困」の実態について調べる。	
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。	
第4回	「子ども」「子ども家庭」における基本原理、基本 理念と子どもの権利条約	事前学習	子どもの権利条約の成立過程についてまとめる。	
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。	
第5回	子どもの権利条約の概要について 「受動的権利」及び「能動的権利」 児童観の変遷について 子どもの捉え方と子どもの権利の変遷	事前学習	子どもの権利条約における「意見表明権」とは何かを調べる。	
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。	

第 6 回	視聴覚教材「もう泣かない」の鑑賞を通じて、子どものダイナミズムと支援者に求められる資質について考える	事前学習	「グループダイナミクス」という概念について調べる。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 7 回	視聴覚教材「もう泣かない」の鑑賞を通じて、子どもと親との関係、及び家族支援のあり方を考える。	事前学習	自分なりに、子どもが求める大人像について考えておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 8 回	子ども家庭福祉の歴史的展開について 日本の児童福祉の歴史	事前学習	戦後の児童福祉の歴史について調べておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 9 回	子ども家庭福祉の法体系について① 児童福祉法、児童虐待防止法など	事前学習	児童福祉法が、いつ頃、どのような背景の下に成立したかについて概略を調べておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 10 回	子ども家庭福祉の法体系について② DV防止法、児童買春禁止法、発達障害者支援法など	事前学習	児童福祉法以外にどのような関連法があるか調べておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 11 回	子ども家庭福祉の実施体制について 児童相談所、児童家庭支援室（福祉事務所） 民生委員・児童委員など	事前学習	児童相談所の機能と役割について調べておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 12 回	児童福祉施設の種別とサービス内容について 特に、社会的養護としての施設ケアのあり方と形態	事前学習	興味のある児童福祉施設について調べておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 13 回	障害児、難病児などの福祉とサービスについて 自閉症スペクトラムの理解を中心に	事前学習	「障害」とは何かを自分なりに考えておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 14 回	被虐待児童の実態と相談援助活動	事前学習	被虐待児童に関する相談件数の推移を調べる。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 15 回	情緒・行動障害児の実態と相談援助活動	事前学習	情緒・行動障害にはどのようなものがあるかを調べる。
		事後学習	期末試験の対策をしっかりとしておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	児童心理学 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP1110
2. 授業担当教員	石 曉玲		
4. 授業形態	講義、討議、発表、実習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学概説」または「心理学入門」の単位を修得した後に履修することが望ましい。児童期までの心身の発達を理解することで、次年度の発達心理学の授業につながる。		
7. 講義概要	児童心理学の研究手法と主要な概念について紹介し、身体的発達・認知的発達・社会的発達・人格的発達などの諸機能の発達の特徴を概説する。さらに、子ども個人の発達という枠組みではなく、家族、友人、環境としての学校、文化という広い枠組みでとらえ、どのような支援が必要なのかを学ぶ。また、発達を阻害する要因についても学び、その支援についても考究していく。		
8. 学習目標	1. 児童期までの発達に関する基本的な概念、用語を理解し、説明することができる。 2. 各発達段階で生じる身体的、心理的变化を理解し、説明することができる。 3. 発達上の主な問題について理解し、その支援について自分なりの考えを整理する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業内容にかかわる課題、宿題を随時提示する。 2. 子どもの発達に関するレポート課題を提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小野寺敦子著『手にとるように発達心理学がわかる本』かんき出版。 【参考書】 咲間まり子編『多文化保育・教育論』みらい社。 松原達也編『発達心理学―健やかな幸せな発達をめざして』丸善出版。 村田孝次著『児童心理学入門』培風館。 内田伸子編『発達心理学キーワード』有斐閣。		
11. 成績評価の方法	平常点 (授業態度・授業への貢献度) 30% 小テスト 50% レポート・課題 20%		
12. 受講生へのメッセージ	大学で講義を受ける基本的姿勢をまず学んでいきましょう。そこで、授業妨害となる行為は厳に慎んでください。例えば、私語、居眠り、携帯いじり、早退、一時の無断退室、代返、その他講義と関係のない行為等を絶対にしないでください。 子どもの発達について真剣に学ぶととても役立つので、是非とも積極的に講義に参加してください。		
13. オフィスアワー	授業開始時に知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス～受講に関する諸注意～児童心理学とは	事前学習	児童心理学の内容について調べる。
		事後学習	児童心理学と発達心理学の違いを確認。
第 2 回	発達の基礎理論① 歴史	事前学習	貢献した歴史上の人物を調べる。
		事後学習	3人以上の人物について説明できるようにする。
第 3 回	発達の基礎理論② 代表的な発達理論	事前学習	発達理論を調べる。
		事後学習	主な発達理論を説明できるようにする。
第 4 回	発達の基礎理論③ 発達心理学の研究手法	事前学習	発達心理学の研究手法について調べる。
		事後学習	3つ以上の研究方法を説明できるようにする。
第 5 回	胎児期・乳児期の発達① 胎児の発達	事前学習	胎児期の発達について調べる。
		事後学習	胎児期の発達の特徴について説明できるようにする。
第 6 回	胎児期・乳児期の発達② 新生児の発達	事前学習	新生児期の発達について調べる。
		事後学習	新生児期の発達の特徴について説明できるようにする。
第 7 回	胎児期・乳児期の発達③ 赤ちゃん研究の最前線	事前学習	赤ちゃんの能力について調べる。
		事後学習	赤ちゃんの能力をまとめる。
第 8 回	胎児期・乳児期の発達④ 愛着形成	事前学習	愛着について調べる。
		事後学習	安定性の愛着形成には重要な要素とは何かをまとめる。
第 9 回	幼児期の発達① 自己理解の発達と移行対象	事前学習	移行対象について調べる。
		事後学習	移行対象の発達の意味をまとめる。
第 10 回	幼児期の発達② 思考の発達と心の理論	事前学習	ピアジェの認知発達理論について調べる。
		事後学習	ピアジェの認知発達理論を説明できるようにする。また心の理論を理解する。
第 11 回	幼児期の発達③ 子どもの遊びと発達	事前学習	子どもの遊びについて調べる。
		事後学習	遊びの発達の役割をまとめる。
第 12 回	幼児期の発達④ 絵の発達	事前学習	子どもの絵を収集し、観察しておく。収集できた絵をこの回の授業に持ってくる。
		事後学習	子どもの絵の特徴をまとめる。
第 13 回	幼児期の発達⑤ 友人関係の形成	事前学習	幼児の仲間関係について調べる。
		事後学習	幼児期の仲間関係についてのまとめ。
第 14 回	これまでの講義のまとめ	事前学習	これまでの学習内容を復習。
		事後学習	疑問点などを教科書で確認。
第 15 回	様々な観点から児童心理学を学ぶ (1)	事前学習	文化の観点から幼児教育について調べる。

		事後学習	文化の観点からみた幼児教育についての自分の理解をまとめる。
第 16 回	様々な観点から児童心理学を学ぶ (2)	事前学習	日本の子育てについて調べる。
		事後学習	日本の子育てについての自分の観点をまとめる。
第 17 回	児童期の発達① 児童期とは？	事前学習	児童期について調べる。
		事後学習	児童期の発達の特徴についてまとめる。
第 18 回	児童期の発達② 子どもは大人の模倣をする	事前学習	観察学習・道徳性の発達について調べる。
		事後学習	観察学習・道徳性の発達の内容をまとめる。
第 19 回	青年期の発達① 青年期とは？	事前学習	青年期の発達について調べる。
		事後学習	青年期の発達の特徴をまとめる。
第 20 回	青年期の発達② アイデンティティの確立と心理的危機	事前学習	アイデンティティの形成について調べる。
		事後学習	アイデンティティ形成についての内容のまとめ。
第 21 回	学習ポイントの提示、質疑応答	事前学習	ここまでの学習内容の確認。
		事後学習	ここまでの学習内容を振り返る。
第 22 回	ここまでのまとめ	事前学習	これまでの学習内容を復習。
		事後学習	理解の不足点を確認。
第 23 回	児童期の発達③ 学校生活で起こる問題：不登校	事前学習	不登校について調べる。
		事後学習	不登校の理解と対応をまとめる
第 24 回	児童期の発達④ 学校生活で起こる問題：いじめ	事前学習	いじめについて調べる。
		事後学習	いじめの理解と対応をまとめる。
第 25 回	児童期の発達⑤ 発達障害～広汎性発達障害～	事前学習	広汎性発達障害について調べる。
		事後学習	広汎性発達障害の理解と対応をまとめる。
第 26 回	児童期の発達⑥ 発達障害～注意欠陥・多動性障害～	事前学習	ADHD について調べる。
		事後学習	ADHD の理解と対応をまとめる。
第 27 回	児童期の発達⑦ 発達障害～学習障害～	事前学習	LD について調べる。
		事後学習	LD の理解と対応をまとめる。
第 28 回	学校臨床についてのまとめ	事前学習	スクール・カウンセラーの役割を調べる。
		事後学習	学校臨床の内容を確認。
第 29 回	様々な観点から児童心理学を学ぶ (3)	事前学習	全体の内容について復習する。
		事後学習	発表内容を振り返る。
第 30 回	全体のまとめ	事前学習	児童心理学から見た発達の視点・考え方をまとめておく。
		事後学習	今後の学習への展望。

1. 科目名 (単位数)	社会学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1113 GELA1334 GELA1313
2. 授業担当教員	若狭 清紀	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・ディスカッション・グループワーク		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目は、国が定める社会福祉士および精神保健福祉士の養成カリキュラムにおける「社会理論と社会システム」に対応するものである。対人援助職に就く者には、被援助者とそのニーズを、社会的な関係性の中で把握することが求められる。人間は社会的な関係の中で生まれ育つものであるし、援助を必要とするような問題（ニーズ）も社会的関係の中から生ずるものだからである。こうしたことから、援助職に就こうとする者には、人間を取り巻く「社会」のなりたちや変化について観察・分析する学問である社会学の学習が必要となるのである。この講義では、社会学の基本的な考えかたと対象について幅広く取り上げる。また、国家試験などで求められる社会学の基本的な用語や知識についても学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会についての基礎知識を身につけて、物事をその社会的背景から考えられるようになる。 2. 人間と社会の関係について学び、人間を社会的関係の中で捉えられるようになる。 3. 社会問題について深く考察できるようになる。 4. 人々の生活について多角的に考えられるようになる。 5. さまざまな社会理論について学び、社会的な考え方ができるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>毎回の授業の事前学習・事後学習の記録を、指定する書式で提出してもらう。 夏休み前に、「自分の生活史、生活経験に関して、いくつかのテーマを設定して、教科書の記述と関連させながら社会的に考察しなさい。」という設題のレポートを提出してもらう。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新社会福祉士養成講座編集委員会『社会理論と社会システム (第3版)』中央法規出版、2014年</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度等 : 20% レポート : 50% 学習記録 : 30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>社会学が扱う「社会」は、常に変化している。授業の中でも最新の動向を紹介するが、ぜひ日頃から新聞や雑誌を読む習慣をつけてほしい。 授業中は私語をしない、携帯電話を鳴らさないなどの基本的なマナーを守るように努めてもらいたい。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション：社会とは何か、社会学とは何か	事前学習	シラバスに目を通しておき、授業時に持って来ること。教科書 pp. 2～3 の 21 行目を読む。
		事後学習	学習記録への記入
第2回	社会システム ～社会システムとは、社会システムの構造と機能、規範	事前学習	教科書 p. 14 の 3 段落目まで、pp. 16 の最終段落～17 の 5 段落目、pp. 19 の 2 段落目～20 の 1 行目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第3回	社会変動 ～社会変動とは何か、近代化	事前学習	教科書 pp. 58～62 の 5 行目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第4回	人口変動とその影響 ～少子化、高齢化	事前学習	教科書 pp. 76～80 の 2 段落目、pp. 82 の 3 段落目～83 の 8 行目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第5回	生活の捉え方 ～ライフサイクル、ライフコース、生活の質	事前学習	教科書 pp. 95 の 3 段落目～96 の 2 段落目、pp. 99 の下から 9 行目～104 を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第6回	家族 (1) ～家族と世帯	事前学習	教科書 pp. 105～108 の 4 段落目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第7回	家族 (2) ～家族の機能、家族の変容	事前学習	教科書 pp. 108 の最終行～109、pp. 112 の 4 段落目～116 の 4 段落目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第8回	地域 ～地域・コミュニティの概念、都市化	事前学習	教科書 pp. 120～124 の 2 段落目、pp. 126 の最終行～127 の 3 段落目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第9回	社会関係 ～社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマ	事前学習	教科書 pp. 145 の下から 8 行目～146、pp. 151～152 の 3 行目、pp. 153 の最終行～155 の 4 の前、p. 176 の下から 6 行目まで、p. 183 の 2 段落目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第10回	社会集団と組織 ～集団の概念・類型、官僚制	事前学習	教科書 pp. 164 の下から 2 行目～169 の 4 段落目、pp. 170 の最終段落～171 の 2 段落目、pp. 172 の最終段落～173 の 2 段落目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入

第 1 1 回	社会関係資本と社会的連帯 ～中間集団の解体、社会関係資本	事前学習	教科書 pp. 187～188 の下から 6 行目、pp. 189 の下から 4 行目～191 の 1 行目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第 1 2 回	社会病理と逸脱 ～文化学習理論、社会緊張理論、機会構造論、ラベリング理論	事前学習	教科書 pp. 200～207 の 2 段落目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第 1 3 回	社会問題① ～貧困、ワーキングプア	事前学習	教科書 pp. 211～215 の 4 行目、pp. 53 の最終段落～54 の 2 段落目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第 1 4 回	社会問題② ～非行、いじめ、ハラスメント、ひきこもり	事前学習	教科書 pp. 215 の 2 段落目～220 の 3 段落目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第 1 5 回	社会問題③ ～DV、児童虐待、高齢者虐待	事前学習	教科書 pp. 220 の 4 段落目～224 を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入

1. 科目名 (単位数)	社会心理学 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP2128
2. 授業担当教員	丹野 宏昭		
4. 授業形態	講義・演習(ディスカッション・フィールドワークを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「心理学入門」、「心理学概論」を履修済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	<p>人は他者と関わり、集団に所属しながら生活している。そして人は、他者や集団や社会から様々な影響を受けると同時に、自らも対人関係や集団に影響を及ぼしている。社会心理学は、社会学と心理学の境界領域にあたる学問領域であり、人と他者・集団との関係の中で、人の態度や認知に表れるさまざまな変化を明らかにすることを主なねらいとしている。</p> <p>本科目では、社会心理学の主要な研究分野である自己、対人認知、対人関係、集団等の心理について、基礎的な知見を学習するとともに、現代社会における諸現象について、社会心理学的視点から読み解いていく。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 心理学における社会心理学の位置づけについて理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2. 社会心理学における主要トピックスの要点を理解し、説明することができるようになる。</p> <p>3. 日常生活や社会現象について、社会心理学で提唱されている理論を用いて考察できるようになる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	事前に次週のトピックに関する問題を設ける。それについて検討しておくことをアサイメントとする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】特に指定しない。</p> <p>【参考書】山田一成・結城雅樹・北村英哉『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>期末試験および小テストを 70%、授業態度を 30%とする。</p> <p>なお、遅刻、早退は、授業態度点において減点とする。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>講義の最初に小テストを頻繁に行うため、出席前に前回講義の復習をしておくことを推奨する。</p> <p>講義内容の詳細については初回講義にて説明するので、必ず出席すること。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス：社会心理学とは	事前学習	心理学概論・入門の内容の復習
		事後学習	社会心理学の位置づけの確認
第 2 回	社会心理学の研究方法及び研究領域	事前学習	心理学概論・入門の内容の復習
		事後学習	社会心理学の位置づけの確認
第 3 回	集団と個人	事前学習	身の回りの集団現象について想定
		事後学習	再度、身の回り集団について、社会心理学的に考察
第 4 回	集団の種類と特性	事前学習	想定した集団特性について整理
		事後学習	集団現象について再考し、小テストに備えること
第 5 回	集団の中での課題遂行	事前学習	所属する集団の役割について想定
		事後学習	所属集団の役割について、社会心理学的に再考察
第 6 回	集団による問題解決	事前学習	集団の問題発生時の解決方法を想定しておく
		事後学習	集団内過程に関して再考し、小テストに備えること
第 7 回	集団による意思決定	事前学習	集団意思決定時の様子を想定
		事後学習	実際に集団意思決定を実施したときの状況について再考察
第 8 回	集団の影響過程	事前学習	所属集団が個人にどのような影響を与えているかを想定
		事後学習	集団内過程に関して再考し、小テストに備えること
第 9 回	集団間葛藤	事前学習	集団間で生じる葛藤状況について想定
		事後学習	実際の集団間葛藤時の対策を検討
第 10 回	集団に関するワーク	事前学習	これまでの集団理論について復習しておくこと
		事後学習	集団と個人の関連について再考察する
第 11 回	対人関係の諸理論	事前学習	身の回りの対人関係を想定して整理
		事後学習	想定した対人関係について社会心理学的に再考察する
第 12 回	発達にともなう親密関係の変化	事前学習	これまでの人生における対人関係を振り返る
		事後学習	人生における対人関係の変化を再考し、小テストに備える
第 13 回	親密化と段階理論	事前学習	他者との関係形成について再考
		事後学習	親密化過程の社会心理学的理論について整理する
第 14 回	対人魅力	事前学習	実際の社会で一般的な対人魅力のあり方について想定
		事後学習	親密関係の様相について再考し、小テストに備える

第 15 回	友人関係	事前学習	身の回りの友人関係を想定して整理
		事後学習	想定した友人関係について社会心理学的に再考察する
第 16 回	恋愛関係	事前学習	身の回りの恋愛関係を想定して整理
		事後学習	想定した恋愛関係について社会心理学的に再考察する
第 17 回	ソーシャルネットワーク	事前学習	自分の所属するネットワークを想定する
		事後学習	ネットワークの種類や役割について社会心理学的に考察する
第 18 回	対人関係に関するワーク	事前学習	これまでの対人関係理論について復習しておく
		事後学習	再度、対人関係理論を整理する
第 19 回	情報処理と認知	事前学習	実際の社会的情報のあり方を想定する
		事後学習	情報処理に関するメカニズムを社会心理学的に考察する
第 20 回	社会的認知と説得	事前学習	現実場面での説得手法をまとめる
		事後学習	説得技法の社会心理学的知見を再考する
第 21 回	マスコミュニケーション	事前学習	マスコミの情報について、いくつか調べておく
		事後学習	マスコミの影響過程について再考しまとめる
第 22 回	流言	事前学習	実際に生じた流言騒動について調べておく
		事後学習	流言の過程について再考しまとめる
第 23 回	FTF と CMC	事前学習	利用している CMC の種類と特性をまとめておく
		事後学習	CMC の特徴を社会心理学的に再考する
第 24 回	インターネットの心理	事前学習	自身のインターネット利用について整理する
		事後学習	インターネットにおける心理について再考する
第 25 回	組織とコミュニケーション	事前学習	フォーマルな組織における特性について想定する
		事後学習	組織内のコミュニケーション形態について社会心理学的に考察する
第 26 回	リーダーシップ	事前学習	リーダーシップの要素を想定する
		事後学習	再度、社会心理学的知見にもとづき、リーダーシップの要件を考察する
第 27 回	コミュニケーションと適応	事前学習	他の心理学領域におけるコミュニケーションに関する知見を調べる
		事後学習	コミュニケーションの社会臨床的役割をまとめる
第 28 回	ソーシャルサポート	事前学習	ソーシャルサポートに関する先行研究を調べる
		事後学習	サポートのあり方について考察を行う
第 29 回	総括 集団と個人	事前学習	これまでの講義内容を復習しておく
		事後学習	期末テストに備える
第 30 回	総括 社会と個人	事前学習	これまでの講義内容を復習しておく
		事後学習	期末テストに備える
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会政策論 / 社会政策 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3308 SBMP2134
2. 授業担当教員	齋藤 有里			
4. 授業形態	講義、学生による発表とディスカッション		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	現代社会は、様々な社会問題を抱えている。その問題群に対応する政策が社会政策であり、労働・人口変動・生活保障など幅広い分野をカバーしている。一方で、社会政策が十分に機能しているかという点、不十分な点も多くあり、さらには政策自体が逆に問題を大きくしている場合もある。 この授業では、そのような社会問題や、社会政策について勉強し、少しでも良い方向に向かわせるためにはどうすればいいかを、自分の住んでいる社会のこととしてとらえ、一緒に考えてもらいたい。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の様々な社会問題について、様々な視点からとらえられるようになる。 ・社会問題に対する社会政策について調べ、その概要を説明できるようになる。 ・新聞等で取り上げられている社会問題について考え、自らの意見が発表できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業期間中に、授業の理解度の確認のため小テストをおこなう。また授業の中で、学習内容の要約の発表や問題提起などをしてもらおう。発表者となった学生は、自らが重要と思ったポイントや自分の考えなどをA4用紙1枚にまとめたものを準備する。 このほかに、A4用紙・3枚程度の小レポートを実施する。レポートについては、授業時にテーマや書き方などを明記したプリントを配布し、詳しく説明する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 授業時にプリントを配布する。 【参考書】 石畑良太郎、牧野富夫著『よくわかる社会政策』ミネルヴァ書房、2014。			
11. 成績評価の方法	評価については、理解度確認のための小テストおよび期末試験 50%、小レポートと発表 25%、授業態度および積極的参加度 (授業への取り組み・発言) 等 25%で判断する。			
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題の理解や課題解決のため、積極的に授業に参加すること。 2. 新聞等を読んで、労働関連の問題に目を向けてもらいたい。 3. 欠席、遅刻、早退をしないようにすること。 4. 授業中の私語、携帯電話等の操作は禁止。 			
13. オフィスアワー	第1回目の授業で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、 評価方法など) 社会政策とは何か	事前学習	社会政策とはどのようなものか、考える。	
		事後学習	これから学んでいく社会政策の中で、自分が興味を持った内容をまとめておく。	
第2回	社会政策論の誕生と様々な学派	事前学習	社会政策が誕生したきっかけなどについて、調べておく。	
		事後学習	社会政策の歴史的な流れを整理する。	
第3回	日本における社会政策	事前学習	福祉国家と社会政策との関わりについて考える。	
		事後学習	社会政策の考え方を整理する。	
第4回	労働と賃金	事前学習	賃金の役割について調べておく。	
		事後学習	授業内容を復習し、要点をまとめる。	
第5回	賃金と社会政策	事前学習	賃金格差がもたらす問題にはどのようなものがあるか調べておく。	
		事後学習	賃金制度について、要点をまとめる。	
第6回	私たちの生活との労働時間	事前学習	労働時間の長時間化がもたらす問題点を調べておく。	
		事後学習	労働時間の内容と諸問題をまとめる。	
第7回	雇用と失業政策の沿革	事前学習	なぜ失業が発生するのか、原因を考えておく。	
		事後学習	多様な雇用形態について要点をまとめる。	
第8回	働き方の多様化と失業問題	事前学習	雇用と失業に関する様々な制度を調べておく。	
		事後学習	授業で取り上げた制度の特徴と役割をまとめる。	
第9回	労使関係とは	事前学習	労働組合の役割を調べておく。	
		事後学習	日本の労使関係の特徴をまとめる。	
第10回	少子・高齢化と社会政策	事前学習	高齢化の現状について、高齢化率などを調べておく。	
		事後学習	高齢化の特徴や現状、高齢化がもたらす課題をまとめる。	
第11回	高齢社会と生活の保障	事前学習	高齢者にかかわりのある政策を調べておく。	
		事後学習	高齢者のための政策とその他の保障の要点をまとめる。	
第12回	社会保障制度の構造と役割	事前学習	社会保障の役割について調べておく。	
		事後学習	授業で取り上げた各制度の特徴を整理し、まとめる。	
第13回	社会保険制度の内容とその他の制度 について	事前学習	社会保険制度には具体的にどんな制度があるか調べておく。	
		事後学習	授業で取り上げた各制度の特徴を整理し、まとめる。	
第14回	男女平等とさまざまな格差	事前学習	働き方などによって発生する格差の問題点を考える。	
		事後学習	どんな課題があるか、要点をまとめる。	
第15回	外国人労働者と社会政策	事前学習	外国人労働者が直面している問題を調べておく。	
		事後学習	授業内容を整理し、自分の考えをまとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	社会病理 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP2306
2. 授業担当教員	高木 俊彦			
4. 授業形態	講義、集団討議、グループ研究、同結果プレゼンテーション、学生との応答		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>社会病理現象の分析を通じて、社会と私たちの関わり方を科学的に分析する視点を養うことを目的とする。</p> <p>(1) 社会病理とは何か、(2) 社会病理の発生・形成過程、(3) 社会生活に及ぼす影響等について、具体的には、犯罪や非行の問題、いじめや自殺 (自死) の問題、格差社会の進展とワーキング・プアの問題、青少年のモラトリアムや引き籠もりの問題、児童虐待や男女間のDVの問題、少子・高齢化がもたらす問題、福祉の施設化の問題、性の商品化の問題、カルト集団の問題など、新旧さまざまな「社会病理現象」を、主として社会学、さらに心理学や社会心理学の知見を踏まえて解説していく。</p> <p>これらの問題、病理の内容に応じてグループ研究などを実施し、受講生自らが主体的にそれらの社会病理現象を調査・考察、その打開策を模索していくという参加型の授業形態を採る。</p> <p>個々の病理現象の臨床的考察から、その社会的背景の分析、実践的対応の提示まで、社会病理学への要請に応える授業内容とする。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな社会病理について理解し、説明することができるようになる。 2 それぞれの社会病理の社会的背景や発生のメカニズムについて理解し、説明することができるようになる。 3 グループ討議・研究を通して社会病理学の観点を実践的に学び、その結果を説明できるようになる。 4 社会病理を打開するため実践されている対応策や、それらの対応策を実施している組織・機関の役割・機能について理解し、説明することが説明できるようになる。 5 その他社会病理学に関係する諸科学、諸理論についての知識を得ることができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 予め個人又はグループ毎にテーマを与え、調査研究をし、発表の準備作業をする。 2 調査研究の結果をレポートにまとめ、資料として配付の上、各個人又はグループごとにプレゼンテーションをする。 3 第11回の授業終了後に各自が自らテーマを選びレポートを作成し、冬休み明けに提出する。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>山本公平・高原正興・佐々木嬉代三 編著『社会病理のリアリティ』学文社、2006 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業中の態度・授業 (個人又はグループ研究・発表) への参加度 (40%)、 2 レポート提出・小テスト (60%) <p>を総合して行う。受講生が多い場合は期末試験を行い、その結果を加味する</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 常に新聞・テレビ・インターネット・雑誌などマスメディアに関心を寄せ、社会病理現象と思われる問題について、その社会的、心理学的背景を考える習慣を身に付けるなど、積極的態度で受講されたいこと。 2 授業に集中すること。私語、携帯・スマホのON、ゲーム、飲食、中抜けなど授業の支障となる行為をするものは受講を遠慮願いたい。 			
13. オフィスアワー	初回の授業開始時 (初回授業) に担当教官からお知らせします。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション —社会病理とは何か (受講生の所感等も踏まえグループ討議)—	事前学習	各受講生 1 例ずつ現在の「社会病理」について調べる。	
		事後学習	個人又はグループごとに、担当する社会病理の各テーマにつき、調査・研究・取りまとめの計画を立てる。	
第 2 回	犯罪と非行、犯罪集団の社会病理 (講師によるモデル発表と講義)	事前学習	テーマ発表の仕方について、関係知識を得、その結果を学習ノートにまとめる。(テキスト第 1 章参照)	
		事後学習	「犯罪と非行、犯罪集団の社会病理」についての講師の発表から、学んだものを学習ノートにまとめ、各グループの準備作業に役立てる。	
第 3 回	自殺 (自死) の社会病理	事前学習	「自殺 (自死) の社会病理」の担当希望者がある場合はその発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。(テキスト第 2 章参照)	
		事後学習	担当個人又はグループによる発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。	
第 4 回	中高年男性をめぐる社会病理	事前学習	「中高年男性をめぐる社会病理」の担当希望者がある場合はその発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。(テキスト第 3 章参照)	
		事後学習	担当個人又はグループによる発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。	
第 5 回	モラトリアムと引き籠もりの社会病理	事前学習	「モラトリアムと引き籠もりの社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。(テキスト第 4 章、第 5 章参照)	
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。	
第 6 回	児童虐待といじめの社会病理	事前学習	「児童虐待といじめの社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する	

			情報の事前収集。(テキスト第 6 章参照)
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 7 回	福祉の施設化がもたらす社会病理	事前学習	「福祉の施設化がもたらす社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。(テキスト第 7 章参照)
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 8 回	男女間DV、ストーカーの社会病理	事前学習	「男女間DV、ストーカーの社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。(テキスト第 8 章参照)
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 9 回	性の商品化をめぐる社会病理	事前学習	「性の商品化をめぐる社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 10 回	カルト集団をめぐる社会病理	事前学習	「カルト集団をめぐる社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 11 回	格差社会とワーキング・プアの社会病理	事前学習	「格差社会とワーキング・プアの社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 12 回	少子・高齢化がもたらす社会病理	事前学習	「少子高齢化がもたらす社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 13 回	情報化社会、IT 社会の社会病理	事前学習	「情報化社会、IT 社会の社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 14 回	都市化がもたらす社会病理	事前学習	「都市化がもたらす社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 15 回	まとめ(社会病理の改善・解決策)	事前学習	授業を通して学んだことを各自でまとめる。
		事後学習	社会病理の改善・解決策について学んだことを、学習ノートにまとめる。
期末試験(受講生が多い場合は期末試験を行い、その結果を加味する)			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉運営管理論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP4102 SCMP4302 SBMP4102
2. 授業担当教員	宮崎 栄二		
4. 授業形態	講義、グループ討議	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。 ・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 ・福祉サービスの経営と管理運営について理解する。 		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスにおける組織と経営の概要について理解し、説明することができる。 ・福祉サービスに係る組織や団体の役割や税制等について理解し、説明することができる。 ・福祉サービスの組織、経営、集団の力学、リーダーシップ等に関する基礎理論について理解し、説明することができる。 ・福祉サービスの管理運営の方法（サービス管理、人事・労務管理、会計・財務管理、情報管理）について理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	A4用紙1枚、1000～1500字程度のを1回課す予定。内容については授業内で周知する。 (前年度例：社会福祉法人経営の現状と課題について。) 参考図書を含め、関係図書を数多く読むこと。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座 第11巻 福祉サービスの組織と経営』、中央法規。		
11. 成績評価の方法	平常点 (授業への積極的参加度) 30% 中間レポート 30% 期末筆記試験 40% 計100% なお、本学規定により、単位取得のためには3/4 以上の出席を必要とする。		
12. 受講生への メッセージ	将来的には、自らが福祉サービス経営・管理を行うという感覚で授業に臨んでください。 履修にあたっては次の事を最低限守ってください。 ①指定の教科書は授業の際、必ず持参すること ②別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。 ③授業中の私語や携帯電話の使用は禁止します。		
13. オフィスアワー	授業時間内に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第1章第1・2節 オリエンテーション (シラバスの説明・講義の進め方 等)、最近の福祉サービスの動向について学ぶ。	事前学習	社会福祉法、教科書 pp. 2～3 を読み、福祉サ ービスの概念を調べる。
		事後学習	「市場」と「準市場 (社会市場)」をまとめる。 福祉サービス提供主体者の経営倫理をまとめ る。
第2回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第2章第1・2節 福祉サービスに係る組織や団体 (社会福祉法人制度) に ついて学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 18～22 を読み、法人とは何か、法 人の統治 (ガバナンス)、法令遵守とは何か を調べる。
		事後学習	社会福法人の定義、社会福祉法人に求められ る役割など、基本的性格をまとめる。
第3回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第2章第3・4節 福祉サービスに係る組織や団体 (特定非営利活動法人制 度、その他の団体) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 44～47 を読み、特定非営利活動促 進法、NPO 法人の定義と活動の範囲につい て調べる。
		事後学習	特定非営利活動法人の課題について、教科書 p 52 を参考にしてまとめる。
第4回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第3章第1・2節 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 (経営に関す る基礎理論) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 68～73 を読み、戦略と戦術につい て基礎概念を調べる。
		事後学習	福祉サービスにおける経営戦略策定につい てまとめる。コトラーの戦略についてまとめ る。
第5回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第3章第3節 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 (組織に関す る基礎理論) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 83～84 を読み、コンティンジェン シー理論を調べ、福祉サービス組織の概念に ついて考える。
		事後学習	専門家の原則、権限・責任一致など、組織構 造と組織原則についてまとめる。
第6回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第3章第4節 福祉サービスの組織の経営に係る基礎理論 (管理運営に 関する基礎理論) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 89～90 を読み、福祉サービス管理 の必要性・対象について調べる。
		事後学習	福祉サービスにおける管理の手法につい てまとめる。(PDCA サイクル)
第7回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第3章第5・6節 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 (リーダーシ ップに関する基礎理論等) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 97～99 を読み、バーナードの公式 組織の理論について調べる。
		事後学習	福祉サービス組織におけるリーダーシ ップのあり方についてまとめる。

第 8 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 4 章第 1 節 福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理 (サービスマネジメント) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 112～113 を読み、サービスマネジメントの対象領域について調べる。
		事後学習	サービスの品質の規定要素としての三つの P についてまとめる。
第 9 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 4 章第 2 節 福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理 (サービスの質の評価) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 128～131 を読み、「福祉サービスの質の向上に関する基本指針」について調べる。
		事後学習	福祉サービス第三者評価の今後の課題についてまとめる。
第 10 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 4 章第 3・4 節 福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理 (苦情対応、リスクマネジメントの方法等) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 143～148 を読み、リスクマネジメントについて調べる。
		事後学習	ハインリッヒの法則・リーゾンの軌道モデルについてまとめる。
第 11 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 5 章第 1 節 福祉サービスの管理運営の方法②人事管理と労務管理 (人事管理) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 166～170 を読み、マズローの五段階論・マクレガーの X 理論と Y 理論について調べる。(練習問題)
		事後学習	人材の評価 (人事考課) についてまとめる。
第 12 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 5 章第 2 節 福祉サービスの管理運営の方法②人事管理と労務管理 (労務管理・人材育成) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 189～193 を読み、労務管理とは何か、その概要について調べる。
		事後学習	平成 19 年の社会福祉事業における、「新人材確保指針」についてまとめる。(練習問題)
第 13 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 6 章 福祉サービスの管理運営の方法③会計管理と財務管理 (社会福祉法人の経営と財務管理) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 214～217 を読み、ランニングコスト・イニシャルコストについて調べる。
		事後学習	社会福祉法人の財務管理の特殊性についてまとめる。(練習問題)
第 14 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 7 章 1～4 福祉サービスの管理運営の方法④情報管理と戦略的広報 (高度情報社会の進展と福祉サービス) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 246～248 を読み、高度情報社会の問題点について調べる。
		事後学習	パブリック・リレーションズについてまとめる。(練習問題)
第 15 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 7 章 5～7 福祉サービスの管理運営の方法④情報管理と戦略的広報 (個人情報保護と情報開示) 等について学ぶ。全体のまとめを行う。	事前学習	教科書 pp. 254～255 を読み、個人情報の確保に関する法律を読み、個人情報についての定義を調べる。
		事後学習	公益通報者保護法について、制度創設の背景、目的、事業者ガイドラインについてまとめる。(練習問題)
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉原論 (4 単位)	3. 科目番号	SCMP1103
2. 授業担当教員	村本 浄司		SSMP1103
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 3. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 4. 福祉政策の課題について理解する。 5. 福祉政策の構成要素 (福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。) について理解する。 6. 福祉政策と関連政策 (教育政策、住宅政策、労働政策を含む。) の関係について理解する。 7. 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 		
8. 学習目標	<p>以下について学習、理解し、説明できるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎理論としての概念と思想を学習する。 2. 日本と欧米の社会福祉の歴史と現代社会を理解する。 3. 社会福祉の援助体制と福祉ニーズを理解する。 4. 社会福祉の制度と行財政のあり方を学習する。 5. 現代における社会福祉政策とソーシャルワークについて理解する。 6. 社会福祉の担い手と専門職制度について学習する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループディスカッションの内容についてグループごとに授業終了後に提出する。 2. 授業の最後にその日の講義内容について課題を設定し、提出を求める。 3. レポート課題1500字以上「戦後の日本の福祉政策についてまとめ、それに対するあなたの考えを述べなさい」 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 小田憲三・杉本敏夫編著『社会福祉概論 第3版 ー現代社会と福祉ー』勁草書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①レポート 30% ②授業への積極的参加度 40% ③毎回の講義のまとめ 30% 		
12. 受講生への メッセージ	<p>本講義は社会福祉を学ぶ上で基礎的な内容であり、将来、学生の皆さんが福祉関連業務に従事した際に、支援の背景的理論を担う重要なものです。そのため、講義に対しては集中して取り組んでいただきますようお願い致します。講義はなるべくわかりやすく理解できるように努めますが、疑問点や質問などがありましたら、遠慮なく尋ねるようにしてください。</p>		
13. オフィスアワー	初回授業で連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要、講師紹介等) 社会福祉の新たな展開、福祉政策理解の枠組み、伝統社会から近代社会へ①	事前学習	教科書を準備し、シラバスを確認して講義へ臨むこと。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉の展開と福祉政策について考える。
第 2 回	社会福祉の新たな展開、福祉政策理解の枠組み、伝統社会から近代社会へ②	事前学習	教科書を熟読し、福祉の展開と福祉政策を理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、伝統社会から近代社会についてまとめる。
第 3 回	市民権の確立と福祉国家の成立、福祉国家の変容	事前学習	教科書を熟読し、福祉国家について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉国家の成立と変容についてまとめる。
第 4 回	現代社会の変化と福祉	事前学習	教科書を熟読し、現代社会の変化と福祉について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、現代社会の変化と福祉についてまとめる。
第 5 回	価値規範としての福祉、社会福祉の拡大と限定	事前学習	教科書を熟読し、福祉の範囲について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉政策についてまとめる。
第 6 回	施策コラボレーションとしての福祉政策	事前学習	教科書を熟読し、施策コラボレーションについて理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、施策コラボレーションについてまとめる。
第 7 回	社会福祉士の役割と機能、福祉の思想	事前学習	教科書を熟読し、福祉の思想について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉の思想のまとめを完成させる。
第 8 回	市場の論理と倫理	事前学習	教科書を熟読し、市場の論理と倫理について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、市場の論理についてまとめる。
第 9 回	ロールズとセンに学ぶもの	事前学習	教科書を熟読し、ロールズとセンについて理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、ロールズとセンのまとめを完成させる。
第 10 回	社会政策のなかの福祉政策	事前学習	教科書を熟読し、福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉政策についてまとめる。
第 11 回	近代化と福祉政策	事前学習	教科書を熟読し、近代化と福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、近代化と福祉政策についてまとめる。

第 1 2 回	戦後改革と高度経済成長期の福祉政策①	事前学習	教科書を熟読し、戦後の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、戦後の福祉政策についてまとめる。
第 1 3 回	戦後改革と高度経済成長期の福祉政策②	事前学習	教科書を熟読し、戦後の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、欧米諸国における「貧困の発見」についてまとめる。
第 1 4 回	福祉政策の調整と進展	事前学習	教科書を熟読し、戦後の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、1980 年代までの福祉政策についてまとめる。
第 1 5 回	1990 年代および 2000 年代以降の福祉政策①	事前学習	教科書を熟読し、戦後の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、1990 年代の福祉政策についてまとめる。
第 1 6 回	1990 年代および 2000 年代以降の福祉政策	事前学習	教科書を熟読し、戦後の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、2000 年代以降の福祉政策についてまとめる。
第 1 7 回	福祉政策における必要と資源	事前学習	教科書を熟読し、福祉政策の必要と資源について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉における「必要」とは何かについてまとめる。
第 1 8 回	福祉政策の理念と資源の配分システム	事前学習	教科書を熟読し、福祉政策資源の配分システムについて理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉政策の理念と配分システムについてまとめる。
第 1 9 回	福祉政策の手法と政策決定過程・評価	事前学習	教科書を熟読し、福祉政策の手法と政策決定過程・評価について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉政策の手法と政策決定過程・評価についてまとめる。
第 2 0 回	人権擁護と福祉政策	事前学習	教科書を熟読し、人権擁護と福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、人権擁護と福祉政策についてまとめる。
第 2 1 回	雇用と福祉政策、教育と福祉政策、住宅福祉政策、震災と福祉政策①	事前学習	教科書を熟読し、雇用・教育と福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、雇用と福祉政策、教育と福祉政策についてまとめる。
第 2 2 回	雇用と福祉政策、教育と福祉政策、住宅福祉政策、震災と福祉政策②	事前学習	教科書を熟読し、住宅・震災の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、住宅・震災の福祉政策についてまとめる。
第 2 3 回	社会福祉制度の構造、社会福祉制度と福祉サービス①	事前学習	教科書を熟読し、社会福祉制度の構造について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、社会福祉制度の構造についてまとめる。
第 2 4 回	社会福祉制度の構造、社会福祉制度と福祉サービス②	事前学習	教科書を熟読し、社会福祉制度と福祉サービスについて理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉サービスについてまとめる。
第 2 5 回	福祉サービスの提供	事前学習	教科書を熟読し、福祉サービスの提供について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉サービスの提供についてまとめる。
第 2 6 回	多元化する福祉サービス提供方式と社会福祉制度、福祉サービスの提供	事前学習	教科書を熟読し、福祉サービスの提供について理解する。
		事後学習	第 24 回過去問題を復習する。
第 2 7 回	相談援助の原則・視点・考え方と方法	事前学習	教科書を熟読し、バイステックの 7 原則について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、相談援助の原則についてまとめる。
第 2 8 回	福祉政策の国際比較	事前学習	教科書を熟読し、諸外国の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、諸外国の福祉政策についてまとめる。
第 2 9 回	福祉政策の課題と展望	事前学習	教科書を熟読し、福祉政策の課題と展望について理解する。
		事後学習	福講義資料を確認し、社政策の課題と展望についてまとめる。
第 3 0 回	これまでのまとめと過去の国家試験問題	事前学習	教科書を熟読し、これまでの講義内容について理解する。
		事後学習	社会福祉士国家試験の過去問題を復習する。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉士養成演習 I (2 単位)	3. 科目番号	GECD3221
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ますます複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、福祉の専門家として地域や施設で福祉の向上のために活躍するためには、まず社会福祉士の資格を取得することが求められます。この講義では、過去問題を使用した演習を徹底して行います。その中で、試験に合格するための知識を定着させ、合格へと導いていきます。</p>		
8. 学習目標	<p>社会福祉士の国家試験に合格するためには、次のような基準を満たすことが必要になります。</p> <p>(I) 問題の総得点の6割程度以上の得点があること。</p> <p>(II) 受験で課されるすべての科目において得点があること (1科目でも0点を取ると不合格になる)</p> <p>これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストは皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に得点できるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・毎回の授業の最後に行う確認テストは、満点が取れるまで演習を繰り返して下さい。</p> <p>・定期試験 (共通科目・専門科目) では、本番の試験の合格基準に従って、</p> <p>① 全体の60%以上の得点がある。</p> <p>② 全ての科目で得点がある (0点科目がない) 。ことを課題とします。 (不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務付けます。)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】授業内配布テキスト、『社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規。</p> <p>【参考文献】『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>各授業に行う確認テスト 50%</p> <p>定期試験 (共通科目・専門科目) 50%</p> <p>30 コマ中、8 回以上欠席した場合は、単位修得できません。</p> <p>10 分以上の遅刻、早退は 2 回で 1 回の欠席とみなします。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国家試験に合格するためには、「過去問題集」をどれだけ暗記できるかによって決まるので、本講義を受講する学生は、1 問 1 問真剣に取り組んでください。</p> <p>授業の内容や進行順は変更することがあります。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業開始時に提示します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス (試験の概要・傾向等) (合格基準の確認、授業の進め方とその学習方法について理解する)	事前学習	シラバスを事前によく読んでくる 教科書を必ず購入して、事前に目次に目を通しておく
		事後学習	学習方法の確認
第 2 回	【人体の構造と機能及び疾病】 (「人の成長・発達」「心身機能と身体構造の概要」「健康の捉え方」「疾病と障害の概要」「リハビリテーションの概要」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 3 回	【心理学理論と心理的支援】 (「人の心理学的理解」「人の成長・発達と心理」「心理的支援と方法と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 4 回	【社会理論と社会システム】 (「現代社会の理解」「生活の理解」「人と社会の関係」「社会問題の理解」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 5 回	【現代社会と福祉①】 (「福祉の原理をめぐる理論と哲学」「福祉制度の発達過程」「福祉政策におけるニーズと資源」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 6 回	【現代社会と福祉②】 (「福祉政策の課題」「福祉政策の構成要素」「福祉政策と関連政策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 7 回	【地域福祉の理論と方法①】 (「地域福祉の基本的考え方」「地域福祉の主体と対象」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 8 回	【地域福祉の理論と方法②】 (「地域福祉に係る組織、団体、及び専門職や地域住民」「地域福祉の推進方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 9 回	【福祉行政と福祉計画】 (「福祉行政の実施体制」「福祉計画の意義と目的」「福祉計画の主体と方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 10 回	【社会保障】 (「現代社会における社会保障制度の課題」「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「社	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習

	会保障制度の体系」「年金保険制度の具体的内容」「医療保険制度の具体的内容」について)		
第 1 1 回	【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】 (「障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要」「障害者の日常生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」「障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際」「障害者総合支援法における専門職の役割と実際」「相談支援事業所の役割と実際」「児童福祉法(障害児支援関係)」「障害者の雇用の促進等に関する法律(障害者雇用促進法)」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 2 回	【低所得者に対する支援と生活保護制度】 (「低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「生活保護制度」「福祉事務所の役割と実際」「自立支援プログラムの意義と実際」「低所得者対策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 3 回	【保健医療サービス】 (「医療保険制度」「診療報酬」「保健医療サービスの概要」「保健医療サービスにおける専門職の役割と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 4 回	【権利擁護と成年後見制度】 (「相談援助活動と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。)との関わり」「成年後見制度」「成年後見制度利用支援事業」「権利擁護活動の実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 5 回	共通科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 春期(共通科目)			
第 1 6 回	【社会調査の基礎①】 (「統計法」「社会調査における倫理」「量的調査の方法①」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 7 回	【社会調査の基礎②】 (「量的調査の方法②」「質的調査の方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 8 回	【相談援助の基盤と専門職】 (「社会福祉士の役割と意義」「相談援助の理念」「相談援助に係る専門職の概念と範囲」「専門職倫理と倫理的ジレンマ」「総合的かつ包括的な援助と多職種連携(チームアプローチを含む)の意義と内容」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 9 回	【相談援助の理論と方法①】 (「様々な実践モデルとアプローチ」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 0 回	【相談援助の理論と方法②】 (「相談援助の過程」「ケースマネジメントとケアマネジメント」「相談援助における社会資源の活用・調整・開発」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 1 回	【相談援助の理論と方法③】 (「スーパービジョン」「記録」「相談援助と個人情報の保護の意義と留意点」「相談援助における情報通信技術(IT)の活用」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 2 回	【福祉サービスの組織と経営①】 (「福祉サービスに係る組織や団体」「福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 3 回	【福祉サービスの組織と経営②】 (「福祉サービス提供組織の経営と実際」「福祉サービスの管理運営の方法と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 4 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度①】 (「高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む)」「介護過程」「介護と住環境」「介護保険法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 5 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度②】 (「介護保険法における組織及び団体の役割と実際」「地域包括支援センターの役割と実際」「高齢者の虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律(高齢者虐待防止法)」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 6 回	【児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】(「児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「児童・家庭福祉制度の発展過程」「児童福祉法」「DV 防止法」「母子保健法」「児童手当法」「次世代育成支援対策推進法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 7 回	【就労支援サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習

平成 28 年度

	(「雇用・就労の動向と労働施策の概要」「就労支援に係わる専門職の役割と実際」「就労支援分野との連携と実際」について)	事後学習	確認テストの復習
第 28 回	【更生保護制度】 (「更生保護制度の概要」「更生保護制度の担い手」「医療観察制度の概要」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 29 回	専門事例問題	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 30 回	専門科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 秋期 (専門科目)			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉士養成演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GECD4221
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習 (指定座席による問題演習)	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ますます複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、福祉の専門家として施設や地域で福祉の向上のために活躍するためには、まず社会福祉士の資格を取得することが求められます。この講義では、社会福祉士養成演習Ⅰで身につけた基本的知識の定着を図るとともに、実際の試験に対応できる応用力を身につけていきます。過去の試験において出題が多くみられる項目を中心について問題演習を行い、最新の福祉の動向も踏まえながら、社会福祉士国家試験合格に必要な力を養成していきます。</p>		
8. 学習目標	<p>社会福祉士の国家試験に合格するためには、次のような基準を満たすことが必要になります。</p> <p>(Ⅰ) 問題の総得点の6割程度以上の得点があること。</p> <p>(Ⅱ) 受験で課されるすべての科目において得点があること (1科目でも0点を取ると不合格になる)</p> <p>これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストは皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に得点できるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・予め配布する「一問一答」の中から、毎回授業の最後に確認テストを行うので、満点が取れるまで予習復習を繰り返してください。</p> <p>・期間の途中で行う「実力確認テストⅠ (共通科目) ・Ⅱ (専門科目)」では、本番の試験の合格基準に従い、</p> <p>③ 全体の60%以上の得点がある</p> <p>④ 全ての科目で得点がある (0点科目がない) ことを課題とします。</p> <p>(不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務付けます)</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『2016 社会福祉士国家試験過去問題集』中央法規 (3 年生の養成演習Ⅰで購入したテキストです。3 年次に養成演習Ⅰを受講していなかった学生は、事前に購入しておくこと。) 『大学作成の授業内配布テキスト』 『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』、中央法規 (秋期の開始時に購入します)</p> <p>【参考文献】 『2017 社会福祉士国家試験過去問題集』中央法規 『社会福祉士国家試験模擬問題集 2017』中央法規 『社会福祉士・精神保健福祉士受験ワークブック 共通科目編 2015』中央法規。 『社会福祉士受験ワークブック 専門科目編 2015』中央法規。 『社会福祉士の合格教科書 2017』医学評論社</p>		
11. 成績評価の方法	<p>月に1回行う確認テスト 50%</p> <p>期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ (共通科目) ・Ⅱ (専門科目)」と 12 月に実施する校内模試の結果 50%</p> <p>60 コマ中、16 コマ以上欠席した場合は、単位修得できません。</p> <p>10 分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。</p> <p>※期末試験は、試験期間において実施する (春学期のみ)。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>国家試験に合格するためには、「過去問題集」にどれだけ真剣に取り組み、どれだけ暗記できたかにかかっています。本講義を受講する学生は、試験に絶対受かるという決意をもって、1 問 1 問真剣に取り組んでください。</p> <p>授業の内容や進行順は変更することがあります。</p>		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (春期) (試験の概要・傾向等) 【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】	事前学習	各自で過去問演習を行っておく
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第2回	【福祉行政と福祉計画】【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第3回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第4回	【地域福祉の理論と方法】【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第5回	実力確認テストⅠ (共通科目) (今までの授業で取り上げた問題を中心に、過去問題全般を出題範囲とする)	事前学習	今までに授業で取り上げた問題及び関連した問題の見直し
		事後学習	不正解であった問題及びその関連問題の演習
第6回	【社会調査の基礎】【相談援助の基盤と専門職】【福祉サービスの組織と経営】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第7回	【高齢者に対する支援と介護保険制度】【児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】【就労支援サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第8回	【相談援助の理論と方法】【更生保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習

第 9 回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【福祉行政と福祉計画】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 10 回	【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】 【障害者に対する支援と障害者自立支援法】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 11 回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】 【保健医療サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 12 回	【地域福祉の理論と方法】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 13 回	【社会調査の基礎】【相談援助の基盤と専門職】 【福祉サービスの組織と経営】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 14 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度】 【児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】 【就労支援サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 15 回	【相談援助の理論と方法】 【更生保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
期末試験（実力確認テストⅡ）（専門科目）			
第 16 回	ガイダンス（秋期） 共通科目基礎徹底理解①（共通科目ランダム問題） （制度を中心とした内容理解）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 17 回	共通科目基礎徹底理解②（共通科目ランダム問題） （人物・年代を中心とした内容理解）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 18 回	専門科目基礎徹底理解（専門科目ランダム問題）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 19 回	利用者を理解する科目の徹底理解 （医学・心理学・介護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 20 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解① （社会学・法学）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 21 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解② （法人）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 22 回	社会保障を理解する科目の徹底理解① （社会保障・低所得者・高齢者）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 23 回	社会保障を理解する科目の徹底理解② （障害者・権利擁護・就労支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 24 回	社会保障を理解する科目の徹底理解③ （行政・保健医療・児童・更生保護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 25 回	社会福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解① （基盤と専門職・社会調査）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 26 回	社会福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解② （理論と方法）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 27 回	事例問題の演習①（理論と方法）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 28 回	事例問題の演習②（高齢者・児童・就労支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 29 回	事例問題の演習③（共通科目編）	事前学習	指定された科目の過去問演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 30 回	自己採点・出題科目の総括的振り返り	事前学習	（試験の問題冊子を持参する）
		事後学習	（最後まで合格を信じること）

1. 科目名 (単位数)	社会福祉入門 (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1101 GELA1101 GELA1301
2. 授業担当教員	宮崎 栄二		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、ディスカッション			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。			
8. 学習目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	A4用紙1枚、1000～1500字程度のを1回課す予定。内容については授業内で周知する。 (前年度例：社会福祉の基本概念・領域について) 参考図書を含め、関係図書を数多く読むこと。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉 (第10版)』ミネルヴァ書房。 【参考書】 基礎からの社会福祉編集委員会編『社会福祉概論 (第2版)』ミネルヴァ書房。 【教材】 必要に応じて資料を配布			
11. 成績評価の方法	・平常点 (授業への積極的参加度) 30% ・中間レポート 30% ・期末筆記試験 40% 計100% なお、本学規定により、単位取得のためには3/4 以上の出席を必要とする。			
12. 受講生への メッセージ	この科目は、社会福祉実践への入口でもある。少子・高齢社会にあって、自らがどう福祉と関わっていくかを考えるよい機会にすることが要求される。授業では積極的な意見発表を期待するとともに、教科書等を含めて関連する書物を数多く読み込んでいただきたい。 履修にあたっては次の事を最低限守ってください。 ①指定の教科書は授業の際、必ず持参すること ②別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。 ③人が発言している時には、他の受講生は静かに傾聴すること。 ④授業中の私語や携帯電話の使用は禁止します。			
13. オフィスアワー	授業時間内に提示します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (講義の概要・授業の進め方)、最近の話題から	事前学習	現代社会にあって、社会福祉が市民 (自分を含め) 一人ひとりにとって、日常生活上どの様な関わりを持っているか調べる。	
		事後学習	社会福祉の枠組みと、今日、話題となっている生活保護の給付実態等を通して、「自立」と「支え合い」をまとめる。	
第2回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅰ 社会福祉の基礎概念について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 16～17 を読み、社会福祉の対象とニーズを調べる。	
		事後学習	社会福祉の専門性と、バイスティックの7原則をまとめる。	
第3回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅱ 社会福祉をとりまく状況について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 22～23 を読み、少子化について調べる。	
		事後学習	高齢化社会と介護問題についてまとめる。	
第4回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅲ 社会福祉の歴史と展開について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 32～35 を読み、福祉国家の成立と主な社会福祉実践家を調べる。	
		事後学習	社会福祉基礎構造改革についてまとめる。	
第5回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅳ 社会福祉の仕組みと運営について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 48～49 を読み、社会福祉行政の仕組みを調べる。	
		事後学習	社会福祉サービスの利用システムについてまとめる。	
第6回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅴ 社会福祉の機関と施設について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 64～65 を読み、福祉事務所について調べる。	
		事後学習	社会福祉法人についてまとめる。	
第7回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅵ 社会福祉の援助と方法について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 78～79 を読み、ソーシャルワーカーについて調べる。	
		事後学習	ソーシャルワークの展開過程についてまとめる。	
第8回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅶ 社会保障・公的扶助について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 102～103 を読み、社会保障の機能について調べる。	
		事後学習	生活保護の原理と原則をまとめる。	
第9回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅷ 子ども家庭福祉について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 122～123 を読み、子ども家庭福祉の考え方を調べる。	
		事後学習	児童虐待についてまとめる。	
第10回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅸ 高齢者福祉について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 144～145 を読み、高齢者福祉の理念を調べる。	
		事後学習	介護保険制度の概要をまとめる。	
第11回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅹ 障害者福祉について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 168～169 を読み、障害者福祉の基本理念を調べる。	
		事後学習	障害者の権利保障とアドボカシーについてまとめる。	
第12回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅺ 地域福祉について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 198～199 を読み、地域社会におけるコミュニティとはなにかについて調べる。	
		事後学習	ソーシャルインクルージョンについてまとめる。	
第13回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅻ これからの社会福祉の課題について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 210～211 を読み、苦情解決について調べる。	
		事後学習	福祉情報システムについてまとめる。	

平成 28 年度

第 1 4 回	教科書『よくわかる社会福祉』XIII 社会福祉を支える人たちについて学ぶ	事前学習	教科書 pp. 222～223 を読み、社会福祉専門職の現状と課題について調べる
		事後学習	社会福祉士についてまとめる。
第 1 5 回	全体のまとめ（最近の話題から） 社会福祉の現代的課題－自己決定と自己責任－について学ぶ	事前学習	社会的自由とはなにかについて調べる。
		事後学習	自己決定・自己責任についてまとめる。 社会福祉の観点から、今後の学習での自己課題等をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会保障論 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2105 SCMP2105 SBMP2105 PSMP2405
2. 授業担当教員	齋藤 有里	5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	講義、学生発表、グループディスカッション、演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、社会保障を構成している年金、医療、介護保険、労働保険などを、それぞれの沿革にまでさかのぼり、理論的に解説する。そのことにより社会福祉の現場で働く場合に必要となる社会保障に関する専門的かつ正確な知識を体得する。</p> <p>社会保障の理念や範囲、期待する社会保障の機能などは国によって異なっており、その相違が主に市場経済の構造や社会的慣行にあるとすれば、今後、わが国が豊かな社会保障を構築するためにどのような条件整備を進めていくべきかを探っていく必要がある。</p> <p>教科書をベースに、下記の講義日程に沿って授業を進める。聞き漏らし部分を含め、授業中および授業終了後等に質問する習慣を身に付け、その日のうちに不明部分を解消することが必要である。本科目の学習分野は膨大であり、講義日程に沿って授業が進行するので、後日まとめた一括つめこみは難しい。</p> <p>事前学習が済んでいることが前提であるから、説明は要点のみとなる。黒板への原則、板書は行わない。論点のいくつかに関して、学生による事前学習成果の発表と質疑討論を授業に組み入れる。</p> <p>制度知識を確実なものとするため、社会福祉士国家試験の過去問等を活用してのグループ討議を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障の基本理念と役割を理解し、文章で説明できるようになる。 2 社会保障の各制度について、その適用や給付にとどまらず、運営の仕組みや財源確保の仕組みについても、わかりやすい自分の言葉で口頭説明できるようになる。 3 少子高齢化、政府財政悪化、企業福祉後といった環境変化の中で、社会保障制度の持続性を確保するには何が求められ、国民としてどう行動すべきなのかについて、自身の分析と対案を提示できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業期間中に、授業の理解度の確認のため小テストを数回行う。 2. 事前学習の発表を行う際には、発表者はA4用紙1枚程度の原稿を準備すること。 3. また社会保障制度の役割や機能に関して、各自の理解度および問題意識をより明確にするために、A4用紙3枚程度の課題レポートがある。課題レポートについては、授業時にテーマなどを明記したプリントを配布し、詳しく説明する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 学内作成のオリジナル教科書</p> <p>【参考書】 『新・社会福祉要説』『保育児童福祉要説』『教職科目要説 (初等教育編・中等教育編)』.</p>		
11. 成績評価の方法	評価については、理解度を確認するために行う小テストおよび期末試験 55%、課題レポートおよび事前学習に関する発表 25%、授業態度および積極的参加度 (授業への取り組み・発言) 等 20% で判断する。		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題の理解や課題解決のため、積極的な態度で臨むこと。 2. 新聞等に目を通すなど、最近の社会保障制度の動向についても興味を持ってもらいたい。 3. 授業中の私語、携帯電話等の操作は禁止。 4. 欠席、遅刻、早退をしないようにすること。 		
13. オフィスアワー	第 1 回目の授業で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	社会保障制度の概要： 社会保障の体系、機能、方法	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	社会保障制度の体系などを整理する。
第 2 回	社会保険・公的扶助・社会手当のそれぞれの役割	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	各制度の役割の違いを整理する。
第 3 回	社会保障制度の財源： 社会保障給付費、財源構成	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	財源構成や年次推移などのポイントを理解する。
第 4 回	社会保障の実施体制	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	社会保障をめぐる財政の流れを整理する。
第 5 回	少子高齢化・雇用と社会保障： 人口問題、少子高齢化の状況	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	少子高齢化の状況や問題点をまとめる。
第 6 回	労働環境の変化、働き方の多様化	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	働き方による格差や雇用にかかわる様々な問題点を整理する。
第 7 回	社会保障制度の発達： 社会保障制度の成立の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	社会保障制度の歴史の大きな流れを整理する。
第 8 回	日本の社会保障制度の発展	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	日本の制度の変遷を整理する。
第 9 回	年金保険制度の概要と沿革： 年金保険制度の構造	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	年金制度の役割や体系を整理する。

第 10 回	年金保険制度の歴史	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	年金制度の沿革を整理する。
第 11 回	国民年金（基礎年金）制度： 国民年金制度	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	国民年金の被保険者や保険料、制度の役割など整理する。
第 12 回	国民年金基金	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	国民年金との関わりを意識しながら、国民年金基金の役割を整理する。
第 13 回	厚生年金保険制度： 厚生年金保険制度の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	厚生年金の被保険者や保険料、制度の役割など整理する。
第 14 回	年金保険制度の保険給付と旧共済年金の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	他の年金制度と比較しながら、旧共済年金の被保険者や保険料、制度の役割など整理する。
第 15 回	医療保険制度の概要と沿革： 医療保険制度の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	医療保険制度の役割や体系を整理する。
第 16 回	医療保険制度の歴史	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	医療保険制度の沿革をまとめる。
第 17 回	健康保険制度： 健康保険制度の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	健康保険制度の被保険者や保険料などについて整理する。
第 18 回	健康保険制度の給付	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	健康保険制度の給付内容を整理する。
第 19 回	国民健康保険制度・高齢者医療制度： 国民健康保険制度の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	国民健康保険制度の被保険者や保険料について整理する。
第 20 回	高齢者医療制度の概要、その他の公的医療保険制度	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	高齢者医療制度の被保険者や給付内容などを整理する。
第 21 回	介護保険制度： 介護保険制度の沿革と概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	介護保険制度の沿革をまとめ、被保険者や制度の概要を整理する。
第 22 回	介護保険制度の給付内容と制度改正	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	介護保険制度の内容や制度改正の要点をまとめる。
第 23 回	雇用保険： 雇用保険の沿革と仕組み	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	雇用保険の沿革をまとめ、被保険者や保険料について整理する。
第 24 回	雇用保険の給付および各種制度	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	雇用保険の給付内容などについてまとめる。
第 25 回	労災保険： 労災保険の沿革と仕組み	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	労災保険の沿革をまとめ適用労働者や保険料について整理する。
第 26 回	労災の認定と保険給付	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	労災保険の給付内容などについてまとめる。
第 27 回	諸外国の社会保障制度： 先進国の社会保障制度、主要国の年金制度	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	諸外国の社会保障制度の特徴をまとめる。
第 28 回	主要国の医療保障、社会保障の国際化	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	諸外国の社会保障制度の特徴をまとめる。
第 29 回	保険の意義、企業年金と社会保障の直近の動き： 民間保険と社会保障	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	社会保険と民間保険との違いや、保険の原則についてまとめる。
第 30 回	企業年金、社会保障をめぐる直近の動き	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	企業年金などの役割についてまとめる。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	就労支援 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3102 PSMP3402
2. 授業担当教員	白井 絵里子			
4. 授業形態	講義・ディスカッション等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>社会福祉士が行う相談援助業務の一部として位置づけられる就労支援は、福祉サービスの利用者として位置づけられてきた人々が広い意味での「就労」を通して自立や社会参加を実現していくための支援として重要性を増している。</p> <p>この授業では、テキストを使用して就労支援に係る関係法規や制度、就労支援に関わる組織・団体や専門職についての知識を習得する。</p> <p>就労支援に関する基本的な内容を理解したうえで、就労支援が実際にどのように行われているのかを具体的な事例をもとに学習し、応用力を養っていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就労支援が求められる背景について理解し、説明することができる。 2. 労働施策の概要について理解し、説明することができる。 3. 就労支援制度について理解し、説明することができる。 4. 就労支援に係る組織・団体及び専門職について理解し、説明することができる。 5. 就労支援における支援のプロセスについて理解し、説明することができる。 6. 就労支援を行ううえで社会福祉専門職に求められる価値観、視点、態度について理解し、自分の言葉でまとめることができる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の理解度を把握するため、夏季休暇終了時にレポート (3000 字程度) の提出を求める。 2. 授業内容の定着度を確認するため、第 15 回授業内でレポートを作成する。 上記のレポート課題については授業の中で指示する。 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 朝日雅也・布川日佐史編著 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック第 16 巻 就労支援 (第 2 版)』ミネルヴァ書房、2013 年。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座第 18 巻 就労支援サービス (第 3 版)』中央法規、2013 年。 この他、必要に応じて参考資料等を使用する。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度 20% 2. 夏季休暇終了後の課題レポート 40% 3. 授業内レポート 40% <p>遅刻、早退は 3 回で 1 回欠席とします。私語、携帯電話の使用、無断退出等、他の学生に迷惑がかかる行為は減点の対象とします。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>就労支援の意義や内容、課題についてより深く理解するために、関連領域 (障害者福祉論、公的扶助論等) で学習した内容と関連づけて学習するようにしましょう。社会情勢に合わせて就労環境は変化していくので、就労環境をとりまくさまざまな動きにも着目しておくことが必要です。</p> <p>また、学習を通して、自らの「就労」に対する考え方に向き合ってください。その経験が、社会福祉専門職として就労支援を実践する際に活かされると思います。</p> <p>履修にあたっては、真摯かつ積極的な態度で授業に臨むことを期待します。シラバスに記載してある事前学習を必ずしておいてください。</p>			
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際にお伝えします。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義の概要、学習目標、講義の進め方についての説明)	事前学習	シラバスとテキスト序章を読んでおく。	
	テキスト序章「社会福祉士と就労支援」 —社会福祉士に就労支援が求められる背景と就労支援を行う際の視点について学ぶ	事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。	
第 2 回	テキスト第 1 章「就労支援とは」 —就労支援の基本的な視点とソーシャルワークとの関係について学ぶ	事前学習	テキスト第 1 章を読んでおく。	
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。	
第 3 回	テキスト第 2 章「現代社会の労働市場と労働法規」 第 1 節～第 4 節 —今日の労働をとりまく状況について学ぶ	事前学習	テキスト第 2 章第 1 節～第 4 節を読んでおく。	
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。	
第 4 回	テキスト第 2 章「現代社会の労働市場と労働法規」 第 5 節 —労働法規について学ぶ	事前学習	テキスト第 2 章第 5 節を読んでおく。	
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。	
第 5 回	テキスト第 3 章「就労支援の実施体制」 —就労支援の実施体制や就労支援に関わる専門職について学ぶ	事前学習	テキスト第 3 章を読んでおく。	
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。	
第 6 回	テキスト第 4 章「障害のある人への就労支援」第 1 節 —障害者の就労をとりまく情勢と障害者の雇用に関わる法律について学ぶ	事前学習	テキスト第 4 章第 1 節を読んでおく。	
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。	

第 7 回	テキスト第 4 章「障害のある人への就労支援」第 2 節、第 4 節 —障害者福祉施策における就労支援について学ぶ	事前学習	テキスト第 4 章第 2 節、第 4 節を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 8 回	テキスト第 4 章「障害のある人への就労支援」第 3 節、第 5 節 —障害者雇用施策における就労支援について学ぶ	事前学習	テキスト第 4 章 3 節、第 5 節を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 9 回	テキスト第 4 章「障害のある人への就労支援」第 6 節、第 7 節 —障害者への就労支援における実態と今後の課題について学ぶ	事前学習	テキスト第 4 章 6 節、第 7 節を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 10 回	テキスト第 5 章「低所得者への就労支援」 —低所得者への就労支援について学ぶ	事前学習	テキスト第 5 章を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 11 回	テキスト第 6 章「母子家庭の母への就業支援」 —ひとり親家庭への就労支援について学ぶ	事前学習	テキスト第 6 章を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 12 回	テキスト第 7 章「ホームレスへの就労支援」 —ホームレスへの就労支援について学ぶ	事前学習	テキスト第 7 章を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 13 回	就労支援をめぐる今日的な動きについて学ぶ	事前学習	事前に配布する資料を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 14 回	テキスト終章「これからの就労支援と社会福祉士」 —就労支援を行う際に求められる社会福祉士の役割について学ぶ	事前学習	テキスト終章を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 15 回	これまで学習してきた内容についての確認 (授業内でレポートを作成)	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分であると思われる点について参考書等を活用して知識の補足をしておく。
		事後学習	レポート作成を通して考察した就労支援の意義と役割を实践するために、自らが今後取り組むべき課題はどのようなものかを明確にしておく。

1. 科目名 (単位数)	障害児・者の心理 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3124
2. 授業担当教員	沢 哲司			
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	様々な障害の特性によってもたらされる様々な心理的影響を知り、併せて、それぞれの障害を持つことでの発達段階に応じた心理的影響も理解する。また、障害を持つ当事者だけでなく、その人を取り巻く家族の心理を理解する。そして、障害の特性に応じた心理的援助のあり方について学ぶ。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な障害の種類について理解し、一般的な心理的傾向を把握し、説明することができる。 2. 障害児・者を持った家族の心理を理解し、説明することができる。 3. 障害受容の一般的な過程とその実態について理解し、説明することができる。 4. 障害に種別に応じた援助のあり方を理解し、自分の考えを述べることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>障害者の心理を理解する力とプレゼンの力を培うために以下のアサイメント及び課題を出します。</p> <p>【発表】 各障害の担当箇所について、グループプレゼンテーションをする (20分)。 担当箇所やグループは、第1回のオリエンテーションで決めるので必ず出席すること。</p> <p>【レポート課題】 課題：グループプレゼンテーションを実施する前に、各自調べたことや考え取りまとめたレポート及びグループでレジメを提出してもらおう予定である。障害児・者の心理を理解する力や現力を伸ばす課題になる。 期末レポート課題：障害児・者をテーマにした著作物を読み、2000字程度でレポートする。 他、必要に応じて授業中に宿題を課す予定である。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 特に指定しない。プリント教材を使用する。</p> <p>【参考書】 ・池田 勝昭 (著) 目黒 達哉 (著) 『障害者の心理・『こころ』—育ち、成長、かかわり』 学術図書出版社。 ・授業中に紹介する</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での発表と積極的な参加度 (授業態度を含む) と毎授業のレスポンスシート…30% ・グループプレゼンテーション…30% ・課題…40% ・私語、携帯電話の操作、授業時間中での教室の出入り、その他周囲の学生に迷惑がかかる行為は「授業態度」として、減点の評価を行います。また、理由の申し出がない欠席、遅刻、早退も減点の対象です。 <p>なお、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>あなたが障害を抱えている人に出会った際に理解し、支援できる授業を目指します。疑問や意見に限らず、講義を受けていて少しでも気になったことを講義の中で学生が発表することを歓迎します。学生とできる限り交流しながら授業を進めていきたいと思ひます。そのため、学生の理解度・達成度・要望によって講義の進捗や内容を一部調整する場合があります。</p> <p>その他、初回授業で受講ルールや成績評価の詳細を説明し、グループ発表の担当決めをしますので、受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。</p>			
13. オフィスアワー	決まり次第授業で告知 メールアドレス：tesawa@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 障害者の心理を学ぶにあたって	事前学習	シラバスを熟知しておく。	
		事後学習	発表グループと発表の打ち合わせをする。	
第2回	軽度発達障害児・者の心理 (1) 制御力の問題を中心に	事前学習	軽度発達障害児・者について調べておく。	
		事後学習	配布資料を整理し、まとめておく。	
第3回	軽度発達障害児・者の心理 (2) 社会性の問題を中心に	事前学習	軽度発達障害児・者について調べておく。	
		事後学習	布資料を整理し、まとめておく。	
第4回	軽度発達障害児・者の心理 (3) 知能の問題を中心に	事前学習	軽度発達障害児・者について調べておく。。	
		事後学習	布資料を整理し、まとめておく。	
第5回	言語障害者の心理	事前学習	言語障害者について調べておく。	
		事後学習	布資料を整理し、まとめておく。	
第6回	精神障害者の心理 (1) 心因性の問題を中心に	事前学習	精神障害 (心因性) について調べておく。	
		事後学習	布資料を整理し、まとめておく。	
第7回	精神障害者の心理 (2) 内因性の問題を中心に	事前学習	精神障害 (内因性) について調べておく。	
		事後学習	布資料を整理し、まとめておく。	
第8回	精神障害者の心理 (3) 外因性・認知症を中心に	事前学習	精神障害 (外因性) について調べておく。	
		事後学習	布資料を整理し、まとめておく。	
第9回	視覚障害者の心理	事前学習	視覚障害者について調べておく。	
		事後学習	布資料を整理し、まとめておく。	
第10回	聴覚障害者の心理	事前学習	聴覚障害者について調べておく。	
		事後学習	布資料を整理し、まとめておく。	
第11回	肢体不自由者の心理	事前学習	肢体不自由者について調べておく。	
		事後学習	布資料を整理し、まとめておく。	
第12回	障害者を持つ家族の心理	事前学習	障害児・者を持つ家族心理について調べておく。	
		事後学習	布資料を整理し、まとめておく。	

平成 28 年度

第 1 3 回	障害者への心理支援	事前学習	いままで学んだ障害児者についてどんな心理支援があるかまとめておく。
		事後学習	期末課題レポートを行う。
第 1 4 回	障害児・者の福祉	事前学習	障害児・者を支える福祉機関について調べておく。
		事後学習	自身の地域の障害児の福祉施設について調べておく。
第 1 5 回	まとめ	事前学習	期末課題レポートを見直しておく。
		事後学習	今まで配布した資料を読み返す。

1. 科目名 (単位数)	障害者福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SCMP2101 SBMP2301 SSMP2101 PSMP2401
2. 授業担当教員	西村 明子		
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>障害者を取り巻く福祉制度・政策は、日々、劇的な変化を遂げている。そして、障害者のニーズも複雑・多様化している。実践現場では、これに適切に対処することができるソーシャルワーカーが求められている。本講義においては、激しく移り変わる障害福祉制度や情勢、さらには障害者の実情について学び、ソーシャルワーカーが主体的に問題解決に取り組むことができるように知識を身につけていく。</p> <p>また、ソーシャルワーカーは多面的な視点を必要とすることから、新聞記事等、資料も用いて障害者問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ、福祉問題について共に考えていく。</p> <p>そして、障害者福祉論は、社会福祉士国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目となる。同国家試験の合格を目指すためには、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」が得点源となるような受験対策が必要となる。そのため、本講義においては、過去の国家試験を分析・検討し、それに沿った内容も講義する。</p>		
8. 学習目標	<p>障害者福祉論が終了した時点で、具的に以下の点を理解し、説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者を取り巻く社会情勢と生活実態 ・障害者福祉制度の発展過程 ・障害者自立支援制度と近年における改正状況 ・障害者福祉に関連する法令の概要 ・相談支援事業所の役割と実際 ・障害者福祉の専門職の役割と実際 ・障害者福祉の他職種連携・ネットワーク ・障害者自立支援制度と介護保険制度の関係 ・障害者権利条約の批准 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>講義を聞いているだけでは、その内容を理解することは難しい。そのため、学生の理解度を上げるため、講義内において課題を設定し、それを行うことを予定している。</p> <p>具体的には次のような課題である。①障害者の生活実態、②障害者基本法の体系、③身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉法の概要、④障害者虐待防止法・バリアフリー法・障害者雇用促進法・障害者差別解消法の概要、⑤障害者総合支援法への改正点等</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (第 5 版)』中央法規。 参考図書等については随時提示する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>①中間試験 40% ②期末試験 40% ③授業への積極的参加度及びレポート 20% ①～③を総合的に評価する。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合には単位の修得を認めない。 また、公欠以外の欠席や遅刻は減点の対象となる。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本講義においては、学生の理解度を上げるため、さまざまな箇所において、学生の意見や感想、さらにはこれまでに学んだ福祉の知識について、質問していくという形式で講義を進めていく。その際、学生からの積極的な参加を望んでいるので、その内容が優れていると判断した場合には、大いに講義内評価として加味していく。授業の進捗状況・理解度にあわせ、順番等を変更する場合もある。</p> <p>また、学生自身により講義の質を高めるため、以下の点に注意して受講しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講する。 ・理解できないことは、講義外において積極的に質問する。 ・明らかに態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。それでも改善が見られない場合には、たとえば皆出席であっても F 評価とする。 ・講義中、私語、居眠りは絶対にしてはならない。 		
13. オフィスアワー	初回授業で連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 障害者を取り巻く社会情勢と生活実態① 戦後の障害者福祉の展開・障害の理念	事前学習	教科書を準備し、シラバスに目を通してから講義へ臨むこと
		事後学習	戦後の障害者福祉の展開を理解する
第 2 回	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態② 障害者権利条約批准の意味するところ 障害者の生活実態	事前学習	教科書 pp. 14～25 を熟読し、障害者の現状を理解する
		事後学習	障害者の現状について、配布プリントの復習
第 3 回	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態③ 「障害」の多様な見方・国際生活機能分類 (ICF)	事前学習	教科書 pp. 26～30 を熟読し、ICF を理解する。
		事後学習	ICF と医学モデル/社会モデルについて配布プリントの復習
第 4 回	障害者にかかわる法体系① 障害者基本法の概要 障害者差別解消法と合理的配慮	事前学習	教科書 pp. 32～45・pp69～70 を熟読し、障害者基本法を理解する。
		事後学習	障害者基本法・障害者差別解消法の概要について配布プリントの復習

第 5 回	障害者にかかわる法体系② 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉法の概要と課題	事前学習	教科書 pp.46～58 を熟読し、身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉法を理解する
		事後学習	身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉法の概要について配布プリントの復習
第 6 回	障害者にかかわる法体系③ 障害者虐待防止法・医療観察法・バリアフリー新法・障害者雇用促進法の概要と課題	事前学習	教科書 pp.59～73 を熟読し、障害者虐待防止法・医療観察法・バリアフリー新法・障害者雇用促進法を理解する
		事後学習	障害者虐待防止法・医療観察法・バリアフリー新法・障害者雇用促進法の概要について配布資料を復習
第 7 回	第 1 回から第 6 回までのまとめ・中間試験	事前学習	第 1 回～第 6 回までを復習する
		事後学習	中間試験で、出来なかったところを復習
第 8 回	障害者総合支援法の概要①	事前学習	教科書 pp.102～104 を熟読し、障害者総合支援法の概要を理解する。
		事後学習	障害者総合支援法の概要について配布プリントの復習
第 9 回	障害者総合支援法② 支給決定のプロセス	事前学習	教科書 pp.118～125 を熟読し、障害者総合支援法の支給決定のプロセスを理解する。
		事後学習	支給決定のプロセスについて配布プリントの復習
第 10 回	障害者総合支援法③ 自立支援給付のサービス (1) (介護給付・訓練等給付)	事前学習	教科書 pp.105～117 を熟読し、自立支援給付のサービスを理解する
		事後学習	自立支援給付のサービスについて配布プリントの復習
第 11 回	障害者総合支援法④ 自立支援給付のサービス (2) (自立支援医療・補装具・地域相談支援)	事前学習	教科書 pp.126～151 を熟読し、自立支援給付のサービスを理解する
		事後学習	自立支援給付のサービスについて配布プリントの復習
第 12 回	地域生活支援事業のサービス (都道府県地域生活支援事業・高次脳機能障害) 障害児に対する支援・	事前学習	教科書 pp.132～137 を熟読し、地域生活支援事業のサービスを理解する
		事後学習	地域生活支援事業・障害児支援のサービスについて配布プリントの復習
第 13 回	ゲストスピーカーを予定	事前学習	配布する資料を通読しておく
		事後学習	ゲストスピーカーの講義をノートに整理する
第 14 回	障害者の所得保障・国家試験過去問題 (事例問題)	事前学習	教科書 pp.78～79 を熟読し、障害者の所得保障の理解と提示した国家試験過去問題を解いてくる
		事後学習	障害者の所得保障について配布プリント・国家試験問題の復習
第 15 回	まとめ	事前学習	教科書・配布したプリントを復習し、解らないところを整理しておく
		事後学習	期末試験に向けて復習
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	少年と犯罪 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1353 GELA1333
2. 授業担当教員	藤田 尚	5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	講義を中心とするが、グループ討議やケース研究の演習などを併用する。		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>日本は犯罪発生率の低い治安の良好な国として世界に知られているが、次代を担う少年によるいじめ、非行や犯罪の発生状況とその様態にはかなりの問題があり、福祉国家を標榜するわが国の将来にとって深刻な社会問題となっている。そこで、少年による犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判の取り組み、児童福祉・少年院・保護観察所などの諸機関における処遇システムなどについて理解を深め、更には犯罪、非行の発生機序について素質と環境の両面から解明を試みる。また、効果的な治療、処遇の方法、犯罪被害者の支援等についても考察する。</p> <p>合わせて、近年、少年非行は凶悪化していると言われるが、本当に少年事件は凶悪化しているのか科学的、統計的に検証するとともに、少年非行に対する刑罰と保護のあり方について考察を加える。</p>		
8. 学習目標	<p>1 少年非行の実情及び時代背景を反映した非行内容等の変化について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2 犯罪・非行の原因とその発生機序について、素質・環境の両面から理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2 非行少年にかかる刑事司法機関、少年保護機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>3 事例研究(ケーススタディ)に基づき、少年非行の原因や適切な処遇のあり方について理解し、発表することができるようになる。</p> <p>4 以上を通じて、将来、この種の専門機関(少年処遇機関)で働くことの意義を理解し、説明できるようになるとともに、就職のために必要な関連知識を修得することができる。</p>		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	アサシメントとしては、講義前にはテキストの該当箇所を読み、講義後は知識の定着を図るため、再度、テキストやレジュメに目を通す。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 教科書は使用せずに、レジュメを基に講義を行う。</p> <p>【参考書】 澤登俊雄『少年法入門 第6版』有斐閣、2015年。 丸山雅夫『少年法講義 第2版』成文堂、2012年。 守山正=後藤弘子編『ビギナーズ少年法 第2版補訂版』成文堂、2009年。 田宮裕=廣瀬健二編『注釈少年法 第3版』有斐閣、2009年。 川出敏裕=金光旭『刑事政策』成文堂、2012年。 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房、2011年。 法務省法務総合研究所『平成27年版 犯罪白書』日経印刷株式会社、2015年。</p>		
11. 成績評価の方法	授業中の態度・授業(グループ討議も含む)への参加度など(20%)。小テスト(80%)。		
12. 受講生へのメッセージ	受講生と同年代の少年が、なぜ犯罪を行わざるを得なかったかについて、平日頃から新聞やニュース等に関心を持ち、その理由を考えてほしいと思います。また、本講義を通して、少年犯罪に興味を持ち、一人でも多くの少年を更生させるための支援を担ってほしいと考えます。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、少年非行とは	事前学習	少年非行とは何かについて、参考書等を参照する。
		事後学習	少年非行とは何かについて、再度、レジュメ及び参考書を読み直し、理解を深める。
第2回	少年非行の動向及び要因	事前学習	少年非行の動向や要因について、参考書における該当箇所を読んでおく。
		事後学習	レジュメ等を参考に、少年非行の動向や要因について理解し、私見をまとめる。
第3回	少年法の理念と基本構造	事前学習	少年法の理念である健全育成を中心に、その目的や基本構造について、参考書等を読んで授業に臨む。
		事後学習	少年法の理念や基本構造について整理し、まとめる。
第4回	非行の発見過程	事前学習	発見活動の主体と対象及びその方法について調べておく。
		事後学習	理解しにくい箇所のため、レジュメや参考書を振り返りながら、発見の主体と対象をしっかりと区別しながら、まとめる。
第5回	事件の受理と調査過程	事前学習	家庭裁判所によって事件が受理され、調査が始まるのだが、その一連の流れについて調べておく。
		事後学習	観護措置や家庭裁判所調査官の役割等について、まとめる。
第6回	審判過程	事前学習	審判の意義、対象、関係者等について調べて授業に臨む。
		事後学習	審判については、裁定合議制、検察官関与、被害者等の

			傍聴等、少年法改正による様々な論点があるため、論点に対する私見をまとめておく。
第 7 回	少年の刑事事件	事前学習	少年の保護事件と刑事事件の違いについて調べておく。
		事後学習	少年の保護事件と刑事事件の差異について、再度、レジュメ等を参考に整理し、理解を深める。
第 8 回	非行少年の処遇① 保護観察	事前学習	保護処分の 1 つである保護観察の内容について、参考書等を用いて調べる。
		事後学習	成人に対する保護観察との違いを意識しつつ、保護観察の内容についてまとめる。
第 9 回	非行少年の処遇② 児童福祉施設における処遇	事前学習	児童養護施設や児童自立支援施設の役割等について調べておく。
		事後学習	児童養護施設と児童自立支援施設の役割について、少年院との違いを念頭に置きながら、まとめる。
第 10 回	非行少年の処遇③ 少年院における処遇	事前学習	少年院の種類及び対象について調べて授業に臨む。
		事後学習	少年院における矯正教育をはじめとする処遇がどのようなものかについて、まとめる。
第 11 回	少年に対する刑罰の執行 少年刑務所における処遇	事前学習	少年刑務所の対象者及びどのような手続きを経て入所しているかについて調べておく。
		事後学習	少年院と少年刑務所の対象及び処遇の内容等について、比較をしながら、まとめる。
第 12 回	少年法及び少年院法改正の動向	事前学習	少年法及び少年院法改正には、どのような背景があるのかについて調べておく。
		事後学習	少年法及び少年院法改正の内容について、それぞれの改正ごとにまとめる。
第 13 回	グループディスカッション及びグループ発表 ①	事前学習	これまでの授業を振り返り、関心のあるテーマをピックアップしておく。
		事後学習	グループで決めたテーマを基に、グループ間で協力しながら、発表に向けた準備を行う。
第 14 回	グループディスカッション及びグループ発表 ②	事前学習	グループ発表のための、準備を行う。また、最終講義のため、疑問点等があればまとめておく。
		事後学習	グループ発表を基にレポート作成を行う。また、期末試験へ向け、これまでの講義内容を確認する。
第 15 回	小テスト(論述形式)	事前学習	提示した課題について、まとめておく。
		事後学習	テストでできなかった点について、復習を行う。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GEBS1104
2. 授業担当教員	木村 純			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。			
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎回、テーマに応じた実習課題を提出する。または次週までに提出する。 2. ワークシートを用いる回では終了後にそれを提出する場合がある。または次週までに提出する。 3. 適宜、準備として資料集めや下調べの課題を課すことがある。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健 共著『Microsoft Office 2013 を使った 情報リテラシーの基礎』、近代科学社。 【参考書】 必要に応じて、適宜、資料を配付する。また、他に参考書がある場合はその都度指定する。			
11. 成績評価の方法	平常点 (授業への積極的参加度、ディスカッション、発表) 40% 課題 (ワークシート、実習課題) 60%			
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業に積極的に参加すること。 2. 正当な理由なく、遅刻、欠席、早退しないこと。 3. 授業の妨害行為および他者への迷惑行為 (私語、居眠り、携帯の使用、実習やディスカッションへの不参加、パソコン等の授業外の目的での使用、など) をしないこと。これらの不適切な行為がみられた場合は厳格に対処する。 4. 情報処理室では飲食は厳禁である。違反した場合はペナルティが科される。 5. 疑問がある場合は積極的に質問するなどして解決すること。			
13. オフィスアワー	簡単な質問であれば授業前後の時間に受け付ける。オフィスアワーについては最初のガイダンスで周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	ガイダンス：情報リテラシーとは何か。情報リテラシーについてのアンケート	事前学習	情報処理についての抱負を考えておく。	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第2回	パソコンについての基礎知識：パソコンの各部の説明、OSの基本操、タイピング <タイピングトライアル>	事前学習	教科書 pp. 27～86 で、自分に基礎的な知識や技能があるかチェックしておく。	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第3回	インターネットの基礎知識 (1)：ブラウザの使用方法、WWWとは、インターネットの光と影 <ディスカッションと発表>	事前学習	教科書 pp. 1～26 を一通りながめ、情報化社会と情報リテラシーについて考えておく。	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第4回	インターネットの基礎知識 (2)：情報検索	事前学習	普段行っている自分の情報検索について振り返る。	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第5回	インターネットの基礎知識 (3)：電子メールの使い方	事前学習	普段行っている自分の電子メール利用について振り返る。	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第6回	インターネットの基礎知識 (4)：コンピュータとインターネットの歴史 <ビデオ>	事前学習	コンピュータとインターネットの歴史を調べておく。	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第7回	インターネットの基礎知識 (5)：その他	事前学習	インターネット検索、倫理についての課題	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第8回	Microsoft Word (1)：基本操作	事前学習	普段行っている文書処理について振り返る。	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第9回	Microsoft Word (2)：文書の作成 1 文書作成の基本とレイアウト	事前学習	教科書 pp. 87～166 を適宜参照し技能を整理	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第10回	Microsoft Word (3)：文書の作成 2 さまざまなテクニック	事前学習	教科書 pp. 87～166 を適宜参照し技能を整理	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第11回	Microsoft Word (4)：文書の作成 3 画像や特殊効果を用いた美しい文書	事前学習	教科書 pp. 87～166 を適宜参照し技能を整理	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第12回	Microsoft Word (5)：表の作成	事前学習	教科書 pp. 87～166 を適宜参照し技能を整理	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第13回	Microsoft Word (6)：その他、<タイピングトライアル>	事前学習	教科書 pp. 87～166 を適宜参照し技能を整理	
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出	
第14回	統計ソフトの運用：SPSS とはどのようなソフトか	事前学習	統計分析の意義について考える。	

	社会科学における統計ソフトの利用ー	事後学習	課題、ワークシートの作成と提出
第 15 回	統計ソフトの運用：SPSS の簡単な使い方	事前学習	開室時間を利用し SPSS に触れてみる。
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出
第 16 回	Microsoft Excel (1)：基本操作	事前学習	教科書 pp. 167～246 を適宜参照し技能を整理
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出
第 17 回	Microsoft Excel (2)：表の作成	事前学習	教科書 pp. 167～246 を適宜参照し技能を整理
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出
第 18 回	Microsoft Excel (3)：グラフの作成	事前学習	教科書 pp. 167～246 を適宜参照し技能を整理
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出
第 19 回	Microsoft Excel (4)：関数の利用	事前学習	教科書 pp. 167～246 を適宜参照し技能を整理
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出
第 20 回	Microsoft Excel (5)：データベースとデータの取り扱	事前学習	教科書 pp. 167～246 を適宜参照し技能を整理
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出
第 21 回	Microsoft Excel (6)：その他	事前学習	教科書 pp. 167～246 を適宜参照し技能を整理
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出
第 22 回	Microsoft Power Point (1)：基本操作	事前学習	教科書 pp. 247～300 を適宜参照し技能を整理
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出
第 23 回	Microsoft Power Point (2)：さまざまな入力操作 1 さまざまなテクニック	事前学習	教科書 pp. 247～300 を適宜参照し技能を整理
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出
第 24 回	Microsoft Power Point (3)：さまざまな入力操作 2 画像やアニメーション	事前学習	教科書 pp. 247～300 を適宜参照し技能を整理
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出
第 25 回	Microsoft Power Point (4)：効果的なプレゼンテー ションとは	事前学習	教科書 pp. 247～300 を適宜参照し技能を整理
		事後学習	課題、ワークシートの作成と提出
第 26 回	Microsoft Power Point (5)：＜発表＞	事前学習	発表の準備と振り返り
		事後学習	発表の準備と振り返り、評価票の記入
第 27 回	Microsoft Power Point (6)：＜発表＞	事前学習	発表の準備と振り返り
		事後学習	発表の準備と振り返り、評価票の記入
第 28 回	Microsoft Power Point (7)：＜発表＞	事前学習	発表の準備と振り返り
		事後学習	発表の準備と振り返り、評価票の記入
第 29 回	Microsoft Power Point (8)：＜発表＞	事前学習	発表の準備と振り返り
		事後学習	発表の準備と振り返り、評価票の記入と提出
第 30 回	授業の総括：まとめ、表彰、予備、＜タイピングトラ イアル＞	事前学習	今までの内容を総括し、疑問点をおさらいす る。
		事後学習	今までの内容を総括し、疑問点をおさらいす る。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GEBS1104
2. 授業担当教員	清水 文也		5. 開講学期	通年
4. 授業形態	講義および演習			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。			
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	演習課題提出時に提出できなかった場合は、持ち帰り宿題になり次回までに提出する			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】実教出版編集部著『30時間でマスター Windows8 対応 Office2013』実教出版、2014。			
11. 成績評価の方法	1. Word, Excel, PowerPoint の3つの演習課題提出：60% 2. 最終プレゼンテーションの内容と発表及び提出：40% ※ファイル未提出及びプレゼン未実施は大幅な減点対象となります。			
12. 受講生への メッセージ	大学生は学生から社会人に切り替わるための準備期間でもあります。本講義には企業での社内研修に参加する想定で受講してください。社会人は研修を正当な理由なく欠席したり遅刻したりはしません。ましてや、研修中に私語・居眠り・他の用事・スマホなどをすることもありません。それは社会人経験のない大学生でも想像できるかと思います。受講の際は、この点を意識して切り替えるつもりで受講してください。連続性のある演習科目ですので欠席は遅れるだけでなく知識定着の妨げにもなるので皆勤を目指しましょう。			
13. オフィスアワー	初回時に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	講義ガイダンス ・学習目標及び成績評価の解説 ・タイピング演習	事前学習	シラバスをしっかりと読んでおく。	
		事後学習	タイピングの復習をしておく	
第2回	Windowsの基本操作演習 ・OSの基本操作(フォルダ&ファイル) ・インターネットとメールのマナー	事前学習	教科書(pp.4~31)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第3回	Microsoft Word(1) ・文字、文章の入力とファイルの保存	事前学習	教科書(pp.32~48)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第4回	Microsoft Word(2) ・文書の作成と文字の修飾	事前学習	教科書(pp.49~64)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第5回	Microsoft Word(3) ・表の挿入と編集	事前学習	教科書(pp.65~78)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第6回	Microsoft Word(4) ・画像と図形の挿入と編集	事前学習	教科書(pp.79~95)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第7回	Microsoft Word(5) ・レポート、論文の文書編集①	事前学習	レポート、論文の記述方法を学習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第8回	Microsoft Word(6) ・レポート、論文の文書編集②	事前学習	レポート、論文の記述方法を学習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第9回	Microsoft Word(7) ・その他の機能	事前学習	これまでの演習を復習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第10回	Microsoft Word(8) ・Word総復習と課題提出	事前学習	これまでの演習を復習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第11回	Microsoft Excel(1) ・データ入力とオートフィル	事前学習	教科書(pp.96~111)を読んでおく。	
		事後学習	単独でできるように復習しておく。	
第12回	Microsoft Excel(2) ・計算式と関数	事前学習	教科書(pp.112~127)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第13回	Microsoft Excel(3) ・相対参照と絶対参照	事前学習	教科書(pp.128~141)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第14回	Microsoft Excel(4) ・グラフ作成と編集	事前学習	教科書(pp.142~151)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第15回	Microsoft Excel(5) ・条件判定と検索関数	事前学習	教科書(pp.152~167)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第16回	Microsoft Excel(6) ・セルの参照機能とフィルター	事前学習	教科書(pp.168~193)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第17回	Microsoft Excel(7) ・その他の機能	事前学習	これまでの演習を復習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	

第 18 回	Microsoft Excel (8) ・Excel 総復習と課題提出	事前学習	これまでの演習を復習しておく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 19 回	Microsoft PowerPoint (1) ・スライド作成と図形の挿入	事前学習	教科書 (pp. 194~209) を読んでおく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 20 回	Microsoft PowerPoint (2) ・グラフとアニメーション効果	事前学習	教科書 (pp. 210~217) を読んでおく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 21 回	Microsoft PowerPoint (3) ・表の挿入とワードアート	事前学習	教科書 (pp. 218~225) を読んでおく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 22 回	Microsoft PowerPoint (4) ・その他の機能とスライドショー	事前学習	教科書 (pp. 226~247) を読んでおく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 23 回	Microsoft PowerPoint (5) ・PowerPoint 総復習と課題提出	事前学習	これまでの演習を復習しておく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 24 回	情報リテラシーと最新テクノロジー ・情報リテラシーと情報倫理 ・“サイバー” という第 5 の空間	事前学習	情報リテラシーについて調べておく。
		事後学習	講義内容について要点をまとめておく。
第 25 回	自己プレゼンテーションの準備① ・フレームワークをもとに自己分析を行う ・自分の取扱説明書を作成する	事前学習	自己分析の準備をしておく。
		事後学習	プレゼン用に自己分析を整理しておく。
第 26 回	自己プレゼンテーションの準備② ・プレゼン用スライドの作成 ・プレゼン評価の説明	事前学習	スライド作成の復習をしておく。
		事後学習	スライドを完成させる
第 27 回	自己プレゼンテーションの実施 (発表①) ・質疑応答と相互評価	事前学習	プレゼンテーションのリハーサルをしておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 28 回	自己プレゼンテーションの実施 (発表②) ・質疑応答と相互評価	事前学習	プレゼンテーションのリハーサルをしておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 29 回	自己プレゼンテーションの実施 (発表③) ・質疑応答と相互評価	事前学習	プレゼンテーションのリハーサルをしておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 30 回	講義のまとめと振り返り	事前学習	これまでの講義について質問を用意すること。
		事後学習	これまでのすべての講義内容を復習しておく。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	GECM2104 GECM2304
2. 授業担当教員	加藤 卓	5. 開講学期	通年
4. 授業形態	講義および演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。</p> <p>マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<p>情報の発信者、作成者として必要な基礎技能を習得すると共に、社会の情報化の進展に伴って様々な問題が顕在化している現状に鑑み、技術的側面だけでなく、情報そのものや情報機器、コンピュータネットワークを取り扱う際にどのような姿勢で臨むべきかに関しても学習し、説明できるようになる事を目標とする。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業のレベルを満たすSiteを作成できる知識・技能を各自が習得するため、以下の課題に取り組む。</p> <p>課題 1 (春期末課題) SEOに則ったSiteを、HTMLとCSSにより構築し運用する。</p> <p>課題 2 (秋期末課題) JavaScript言語のプログラミングを習得し、自Siteに適用する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】授業内で、教材を提示する(複数の最新書籍の指定では高額になるため)。</p> <p>【参考書】必要に応じて授業内で参考書を紹介する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>講義内容レベルの Web Site の作成能力を習得できない場合、欠席が無くとも再履修となる。</p> <p>1. 授業への積極的参加度 … 30% (半期欠席 4 回・通年欠席 8 回で単位取得資格を失う。遅刻は 2 回で欠席 1 回とする。1 時間以上遅れた遅刻については原則として出席と認めない。山手線の遅延は、初回の遅延証のみ認める。半期 4 回目以降の遅延は遅刻扱いとする。学習不能に陥らぬよう、初回から遅延・遅刻・欠席の皆無を期すること。)</p> <p>2. 前期期末課題 (Web Site 作成) … 40%</p> <p>3. 後期期末課題 (SEO 対策+Java script の Web Site 作成) … 30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>先に学習した情報処理演習Ⅰを、サンシャイン 60 の最上階にエレベーターで昇ることに例えるならば、情報処理演習Ⅱは、徒歩で海拔 0m から富士山頂まで登ることに相当する。頂上を極めたい方は、相当の覚悟を持ち一步一步努力されたい。積極的に学ぶ意欲がない、反復習得を好まない方には、非常に単位取得困難な科目である。</p> <p>検索上位に表示されない Site は、その存在すら認識してもらえない。就職先が求めている人材とは、検索で上位に表示されるよう、SEO 対策や運用術まで習得済みの Webmaster である。なぜならば、Site の検索ヒット率が、就職先の宣伝・説明責任・収益に直結しているからである。</p> <p>Webmaster は、情報生産者であるため、就職や経済面で非常に有利である。プログラミングの考え方や技能を習得するためには、長時間にわたって集中して作業することが必要であるため、自分への先行投資として PC の個人所有等の環境整備を強く勧める。</p> <p>SEO 対策まで習得するためには、従来は幾度か学び直しをしなければならなかったが、本講義では、最初から SEO 対策に有効な Site の作り方を学び、自分の Site を自己責任で実際に運用する。</p> <p>1. 学生証を必ず持参し、授業中は机上に提示しておくこと。(出席点検・加減点に使用するため。)</p> <p>2. 正当な理由がある欠席・遅刻・早退は、理由を書面にて提出すること。</p> <p>3. 授業開始 3 分前から真剣に取り組み、他受講者の学ぶ権利を侵害することがないように、私語・電話やメールや SNS での携帯の使用・居眠り・飲食等を禁止する。</p> <p>4. 事前学習点検に備え、予習・復習の習慣をつけること。</p> <p>5. 受講者の学力・理解度・作業速度等により、内容を一部変更する場合がある。</p>		
13. オフィスアワー	<p>第 1 回目の講義で提示する(シラバス記載時点で、講義時間割が未定であるため)。</p> <p>Office Hour でも不在の場合があるので、予めアポイントメントを取ること。</p> <p>E-mail address ta-kato アットマーク ed.tokyo-fukushi.ac.jp</p> <p>研究室所在地 13 号館 5 階 957 研究室</p>		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 【ICT モラル】 著作権・肖像権・パブリシティ権 無料ホームページサービスへの申請	事前学習	シラバス・著作権を調べる。
		事後学習	プロバイダへの申請をする。
第 2 回	【Site の基礎知識】 Site 構築の考え方 SEO, 言語とツール, Site の構想・基本構造・配置・階層・色彩設計 Google アカウント取得	事前学習	Web の仕組みについて調べる。
		事後学習	春期末課題作品の構想を練る。
第 3 回	Ez-html の使用方法, head と body の記述, CSS と html の記述方法, #タグ, 色の記述, メモの仕方	事前学習	春期末課題作品のイメージを持つ。
		事後学習	春期末課題作品の構想を決定する。Ez-html の操作の復習をする。
第 4 回	【ベースのページの作成】 ①ヘッダー部分の作成 Site 名の記述, パンくずリストの作成, トップのリンクメニュー, H1 タグの記述	事前学習	Site の基本構造を調べる。
		事後学習	ヘッダー部分やパンくずリストを修正する。
第 5 回	Google Add Words の使用方法, keywords の決定, title の記述	事前学習	Meta タグについて調べる。
		事後学習	keywords・title について復習をする。
第 6 回	description の記述	事前学習	description について調べる。

		事後学習	更により Meta タグを構想する。
第 7 回	②サイドメニュー部分の作成 リストの記述	事前学習	リストのタグを調べる。
		事後学習	サイドメニュー部分を修正する。
第 8 回	③メイン部分の作成 囲み, margin と padding, 文章の記述	事前学習	文書領域について調べる。
		事後学習	文書領域のサイズや配置を修正する。
第 9 回	画像の修正 写真やイラストの挿入	事前学習	画像の拡張子について調べる。
		事後学習	画像を修正・挿入してみる。
第 10 回	④フッター部分の作成 常時掲載項目の記述	事前学習	footer について調べる。
		事後学習	不足している素材を集める。
第 11 回	ベースのページの完成 レイアウト・色彩デザインの最終仕上げ	事前学習	色彩デザインについて調べる。
		事後学習	ベースのページを完璧に仕上げる。
第 12 回	【サイトの構築と運用】 CSS の追い出し, ページの複数化	事前学習	Site の構造について調べる。
		事後学習	Site のファイル・フォルダ構成を修正する。
第 13 回	Site 全体の構造化 作業しやすいサイトの構造化	事前学習	他のページの作成を進める。
		事後学習	Site のフォルダ構成を修正する。
第 14 回	複数ページの作成 サイトの複数ページの改訂	事前学習	複数ページの作成を進める。
		事後学習	複数ページの完成度を高める。
第 15 回	作品の最終確認 点検表で不具合を修正し作品の完成度を高める	事前学習	春期提出作品を完成させる。
		事後学習	点検表に従い前期提出作品の総点検をする。
第 16 回	Google Webmasters tools について 作品の確認と春期作品の提出	事前学習	Google Webmasters tools について調べる。
		事後学習	春期作品を修正してアップロードする。
第 17 回	【SEO 対策による改善】 LPO の適用	事前学習	LPO について調べる。
		事後学習	秋季期末課題の構想を練る。
第 18 回	2 つの Site map の作成 XML-Sitemaps Generator について	事前学習	Site map について調べる。
		事後学習	XML-Sitemaps Generator の操作の復習をする。
第 19 回	アクセス解析ツール Google Analytics の使用について	事前学習	アクセス解析ツールについて調べる。
		事後学習	Google Analytics の操作の復習をする。
第 20 回	外部対策とサテライトブログ サテライトブログの作成	事前学習	外部対策について調べる。
		事後学習	作成したサテライトブログを修正してみる。
第 21 回	【動的ページの作成】 JavaScript について ソースの基本的な記述	事前学習	JavaScript について調べる。
		事後学習	入力したソースを修正・復習する。
第 22 回	JavaScript について メモの活用	事前学習	JavaScript のソースについて調べる。
		事後学習	自分の Site への適用の構想を練る。
第 23 回	HTML に働く JavaScript について デバックの作法	事前学習	HTML に働く JavaScript について調べる。
		事後学習	入力したソースを修正・復習する。
第 24 回	HTML に働く JavaScript について イベントハンドラと function	事前学習	HTML に働く JavaScript について調べる。
		事後学習	自分の Site への適用の構想を練る。
第 25 回	CSS に働く JavaScript について if を使ったイベントの仕分け	事前学習	CSS に働く JavaScript について調べる。
		事後学習	入力したソースを修正・復習する。
第 26 回	CSS に働く JavaScript について タブ式ページの完成	事前学習	CSS に働く JavaScript について調べる。
		事後学習	自分の Site への適用の構想を練る。
第 27 回	【WEB を活用した問題発見・問題解決能力】 JavaScript の自サイトへの移植 バナー作成とアップ	事前学習	JavaScript の適用について調べる。
		事後学習	該当回のページを自 Site に移植・修正する。
第 28 回	他の JavaScript を適用してみる ファビコンの作成とアップ	事前学習	Web 検索により他の JavaScript を調べる。
		事後学習	自分の Site へ適用する。
第 29 回	他の JavaScript の適用を完成させる アクセス解析・Meta タグ・サイトマップの確認	事前学習	Web 検索により他の JavaScript を調べる。
		事後学習	自分の Site への適用を完了させる。
第 30 回	講義のまとめ・秋期最終作品の提出	事前学習	講義終了後のサイト発展の構想を練る。
		事後学習	講義全体の復習・秋期最終作品のアップロード

1. 科目名 (単位数)	人格心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP2358
2. 授業担当教員	織田 正美	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>人格心理学とは、個人の内側から人間の行動の法則をみようとするものである。なお人格とは、性格とほぼ同じ意味で用いられるが、態度、興味、価値観並びに知的理解度などを含んだ全体的な特徴を指す。ここでは人格と性格とを分けない考え方に立ち、さまざまな観点から人格の特徴を明らかにしていく。</p> <p>次のことを理解していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性格とは何か、その研究史からも理解できる。 2. 性格に関する諸理論が分かり、多面的に人の行動をみることができる。 3. 性格の診断の仕方が理解できる。 4. 性格の形成のされ方が分かる。 5. 性格の正常・異常について様々な観点から理解できる。 		
8. 学習目標	<p>人間とはなにか。人間の本質を理解し、自己理解だけでなく、他者を理解し、人を見る目を養成することがこの授業の最大の目標である。人を見るときに、様々なバイアスがかかるが、それがなぜかということを理解し、説明できるようになることも学習目標の一つである。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>この授業では、配布資料に基づいて講義とディスカッションを行う。 「自分の人格・性格について」レポートを書く。 人格とはなにかについて、グループディスカッションを行う。 各回の授業内容についてのまとめ・要約を3～5回、宿題として課す。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】教科書に代わる資料を一式配付する。 【参考文献】授業開始の日に紹介する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>受講態度 60% 授業への積極的参加度 20% 宿題・レポートの採点結果 20%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>自己の本質を理解し、合わせて他者理解を深めることが目標であるから、グループディスカッションが要となる。また客観的に自己をとらえるための心理テストを随時行う。 大学は学問を学ぶところであること、十分自覚すること。</p>		
13. オフィスアワー	<p>毎週、授業終了後 1時間程度。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	人格とはなにか	事前学習	自分の性格の特徴、長所、短所について考えておくこと。
		事後学習	人格(性格)とは何かについて、A4版1枚400字にまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第2回	人格形成の要因	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	人間の人格はどのようにして形成されるか、A4版2枚800字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第3回	人格のアセスメント(測定と診断)①	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版1枚400字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第4回	人格のアセスメント(測定と診断)②	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版1枚400字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第5回	人格のアセスメント(測定と診断)③	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版1枚400字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第6回	知能とはなにか	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	知能とは何か、知能の規定する要因についてA4版2枚800字にまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第7回	知能のアセスメント(測定と診断)①	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版3枚1200字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第8回	知能のアセスメント(測定と診断)②	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版3枚1200字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第9回	知能のアセスメント(測定と診断)③	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版3枚1200字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。

第 1 0 回	動機 (づけ)	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともに A4 版 1 枚 400 字でまとめること。
第 1 1 回	感情と情緒	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともに A4 版 1 枚 400 字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 1 2 回	欲求と適応	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともに A4 版 1 枚 400 字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 1 3 回	人格の理論①	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともに A4 版 1 枚 400 字でまとめること。
第 1 4 回	人格の理論②	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともに A4 版 1 枚 400 字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 1 5 回	全体のまとめ 人格とは何か、人格を形成する要因、人格を測定・診断する方法について A4 版 4 枚 1600 字でまとめること。	事前学習	配布資料のすべての部分を読み直しておくこと。
		事後学習	これまでの授業を振り返り、人格についての理解が深まったことを省察し、現実場面における問題に活用する方法について考えをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	人権教育 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1305
2. 授業担当教員	上木 文夫	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議、発表等		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>○人権教育とは「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」(「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律第2条」)であり、国民は「人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、人権が尊重される社会の実現に寄与するよう努めなければならない。」(同法律第6条「国民の責務」)とされている。</p> <p>○上記の趣旨を受けて、本科目においては、わが国の人権課題(問題)の現状や解決・改善の取り組みについて理解を深める学習を行う。</p> <p>○学校や社会における継続した人権教育の必要性やその在り方を実践的に学習し、人権感覚を磨き、身に付けられるようにする。</p> <p>○人権教育に関わる基本的な法例等についても学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>○人権の歴史や日本国憲法における国民の権利について再確認し、重要点についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権教育の根拠法である「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」や「人権教育・啓発に関する基本計画」について、目的、基本理念、内容について理解を深めることができる。</p> <p>○『人権教育・啓発白書』に示されている我が国の人権課題を把握し、人権尊重に関する現状と諸課題についての理解を深め、人権課題の解決に努めていこうとする姿勢を身に付ける</p> <p>○学校や社会において、人権感覚を磨き身に付ける継続した取り組みの必要性についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権擁護を目的とする種々の国際法(条約)や国内法の概要を理解できる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題 「自分の関心のある人権問題について一つを取り上げ、人権侵害の背景、内容、課題、対策などについてまとめる。」</p> <p>※A4レポートに3枚程度とする。</p> <p>※提出は、第六回目の授業時とする。</p> <p>※クラス全員分のレポートをこちらで冊子にする。</p> <p>※冊子が完成したら、一人ひとりに発表(プレゼンテーション)してもらう。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 指定なし。配布資料にて対応する。</p> <p>【参考書】 中野 光、小笠 毅編著『ハンドブック 子どもの権利条約』岩波書店、1996年 中野陸夫編著『早わかり人権小辞典』明治図書、2003年 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)改訂版』ミネルヴァ書房、2015年 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)改訂版』ミネルヴァ書房、2015年</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート 総合点の40%</p> <p>授業への参加貢献度(発表など) 総合点の30%</p> <p>期末試験 総合点の30%</p> <p>総合点100%を100点として評価する。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>人権教育はすべての人々が人権を享有することのできる社会の実現を目指します。したがって、この授業で学習したことが皆さんの日常生活で活かされることが肝要です。理論と実践を一体化して、人権を相互に尊重し合い、心の豊かさを育むことに誰もが関心を寄せる社会の実現に役立つ人権教育の在り方を学び探りましょう。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業前後の休憩時間。但し、時間を要する場合は、双方で相談の上、日時や場所を決めましょう。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業ガイダンス 自己紹介 「基本的な人権」とは何か	事前学習	人権とは何か。自分の考えを整理する。専用ノートを準備する。
		事後学習	基本的人権の特性について、整理し、まとめる。
第2回	「人権教育」に係る法制度と人権課題 学校教育の中の人権教育	事前学習	自分の人権意識について、考え、まとめる。
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノートにまとめる。
第3回	子どもの人権と人権教育について 子どもの権利条約と「意見表明権」	事前学習	子どもの権利条約について調べ、まとめる。
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノートにまとめる。
第4回	子どもの人権と人権教育について 「義務教育」と不登校問題、ひきこもり問題	事前学習	不登校問題について調べ、まとめる。
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノートにまとめる。
第5回	障害者の人権と人権教育について 障害の多様性と学校生活	事前学習	身近な障害者差別の実態について、書き出しておく。
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノートにまとめる。
第6回	高齢者の人権と人権教育について 認知症高齢者の権利擁護とアドボカシー	事前学習	認知症高齢者の実態について調べ、まとめる。
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノートにまとめる。
第7回	犯罪者、及び犯罪被害者の人権と人権教育について	事前学習	犯罪者の人権について考える。
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノート

			トにまとめる。
第 8 回	同和問題と人権教育について	事前学習	同和問題とは何かを調べ、まとめる。
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノートにまとめる。
第 9 回	アイヌ民族と人権教育について	事前学習	アイヌ民族の歴史を調べ、まとめる。
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノートにまとめる。
第 10 回	エイズ患者と人権教育について	事前学習	エイズと HIV の違いについて調べ、まとめる。
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノートにまとめる。
第 11 回	ジェンダーと人権問題について	事前学習	ジェンダーとは何かを調べ、まとめる。
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノートにまとめる。
第 12 回	報告会 発表①	事前学習	プレゼンテーション準備
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノートにまとめる。
第 13 回	報告会 発表②	事前学習	プレゼンテーション準備
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノートにまとめる。
第 14 回	報告会 発表③	事前学習	プレゼンテーション準備
		事後学習	授業で学習した重要ポイントを整理し、専用ノートにまとめる。
第 15 回	人権教育のあり方 人権教育の視点の再確認 授業評価	事前学習	人権教育の総合的な有り方について、自分なりにまとめる。
		事後学習	この科目で学習した内容が、今後の自己学習や各種現場実習、将来専門職になってからどのように生かせるのかを考える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1111
2. 授業担当教員	新井 洋輔	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)		
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学入門」を履修済みであること。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目は、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学び、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。また、心理学の基礎理論の理解を通して、心理学的思考方法の習得を促す。		
8. 学習目標	1. 心理学の基本的な考え方を身につける。 2. 心理学の主要な分野における代表的な研究知見について理解し、説明できるようになる。 3. 心理学の考え方や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。 4. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・授業で扱うトピックに取り組む前に、授業時間外での自学自習を必須とします。 ・本シラバスの「事前学習・事後学習」欄における○章とは、教科書①を指します。 ・オフィスアワー等でも質問を受け付けますが、知識の共有のため、授業時間内での質問を歓迎します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 松井豊 (著) 『改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために—』河出書房新社。 【参考書】 ① 菊池聡・谷口高士・宮元博章 (著) 『不思議現象なぜ信じるのか こころの科学入門』北大路書房。 ② 東京福祉大学 (編) 『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	受講態度、演習への取り組み、期末レポートから総合的に評価する。 授業への積極的参加度 30% グループ発表 40% レポート 30%		
12. 受講生へのメッセージ	春期の「心理学入門」で学んだ理論や知識を必要とする内容ですので、「心理学入門」の内容をしっかりと復習してから臨んでください。なお、皆さんの理解度・達成度によって講義の進度を調整する場合があります。わからないことについては、講義内またはオフィスアワーでの質問を歓迎します。なお、演習の課題への取り組みを評価しますので、事前に通知のない欠席・遅刻・早退や、内容に関連しない私語、居眠りは減点の対象となります。また、授業内での携帯電話の使用は厳禁とします。初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。		
13. オフィスアワー	授業内で提示する。授業時間外での質問・相談を希望する場合は、yoarai@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 宛に、一週間前までに「授業名・クラス・学籍番号・質問の概要」を記載したメールで予約をとること。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 心理学とは何か 心理学の領域と方法	事前学習	本シラバスの内容を熟読して本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく。さらに、教科書の序章を熟読しておくこと
		事後学習	講義内で発想した 50 の問題・課題・疑問 (以下、問題意識と記述) を、各 20 字くらいの箇条書きに整理しておく
第2回	生理心理学・神経心理学	事前学習	専門書における生理心理学的視点 (参考書①における第8章 (pp. 195~) 以下同じ) などを読み、第1回に挙げた問題意識を解決する方略の案を作成しておく
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第3回	認知心理学 (思考)	事前学習	1章 (pp. 19~) などを読み、第1回に挙げた問題意識を認知心理学的視点 (特に思考の側面) から解決する方略を完成させる
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第4回	記憶心理学	事前学習	2章 (pp. 49~) などを読み、第1回に挙げた問題意識を記憶に関する心理学的視点から解決する方略をまとめる
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第5回	感情心理学	事前学習	4章 (pp. 93~) などを読み、第1回に挙げた問題意識を感情心理学的視点から解決する方略をまとめる
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第6回	学習心理学	事前学習	これまでのワークの内容を参考に、第1回に挙げた問題意識を学習心理学的視点 (条件づけ) から解決する方略をまとめる。参考書のほか、必要に応じて春期の「心理学入門」の内容を参照してもよい
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第7回	性格 (人格心理学) と測定	事前学習	5章 (pp. 115~) などを読み、第1回に挙げた問題意識を人

			格心理学的視点から解決する方略をまとめる
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第 8 回	発達心理学 (青年期)	事前学習	6 章 (pp. 145～) などを読み、第 1 回に挙げた問題意識を青年心理学的視点から解決する方略をまとめる
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第 9 回	発達心理学 (学童期まで)	事前学習	7 章 (pp. 169～) などを読み、第 1 回に挙げた問題意識を発達心理学的視点から解決する方略をまとめる
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第 10 回	感覚・知覚心理学	事前学習	第 1 回に挙げた問題意識を感覚・知覚心理学的視点 (認知過程も含めてよい) から解決する方略をまとめる。参考書のほか、必要に応じて春期の「心理学入門」の内容を参照すること
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第 11 回	社会心理学 (社会的認知・対人・説得)	事前学習	3 章のうち説得に関わる箇所 (pp. 78～) を読み、第 1 回に挙げた問題意識を社会心理学的視点から解決する方略をまとめる
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第 12 回	社会心理学 (集団・マス)	事前学習	3 章のうち集団とマスの影響に関わる箇所 (pp. 70～) を読み、第 1 回に挙げた問題意識を社会心理学的視点から解決する方略をまとめる
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第 13 回	健康心理学 (ストレス)	事前学習	第 1 回に挙げた問題意識を健康心理学的視点 (主としてストレス対処) から解決する方略をまとめる。参考書のほか、必要に応じて春期の「心理学入門」の内容を参照してもよい
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第 14 回	臨床心理学 (対人援助)	事前学習	6 章 (pp. 145～) を読み、第 1 回に挙げた問題意識を臨床心理学的視点から解決する方略をまとめる
		事後学習	講義内での議論の内容を踏まえ、解決方略の追加と修正をしてレポートを完成させる
第 15 回	まとめ	事前学習	それぞれの回で作成したレポートから一つを選び、再度修正して出力し、提出できる準備をしておく (2 部用意すること)
		事後学習	講義内で説明されたレポート作成の注意点を踏まえ、来年度「基礎演習Ⅱ」のシラバスを読んで自分のレポートの弱点を知っておくこと

1. 科目名 (単位数)	心理学基礎実験 (4 単位)		3. 科目番号	PSMP2142
2. 授業担当教員	末永 叔子・丹野 宏昭		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義・実習(グループ活動)・演習(グループ活動)・ディスカッション			
6. 履修条件・他科目との関係	「統計学」および「心理統計法」の単位を履修した後に履修することが望ましい。			
7. 講義概要	<p>心理学を研究するための基礎となる各手法をとり上げ、生理、記憶、学習、認知、人格、社会等、心理学の主要な分野の知識を身につけながら、それらの知識や考え方に基づく科学的レポートの書き方を学ぶ。実験等の体験を通して、心理学の理論を机上に終わらせることなく、身近なものとして体得することができる。</p> <p>なお本科目は認定心理士の資格科目であり、受講生は規定数以上の実験等に参加し、レポートを提出することが義務付けられている。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験等の演習を通して、心理学を含む社会科学全般に必要な不可欠である各種研究法の基礎理論や技法、基本姿勢を理解し、身につける。 2. 実験等の演習によって得られたデータについて、コンピュータを用いて統計処理することができるようになる。 3. 目的、方法、結果、考察から成る心理学研究レポートの記述の仕方を習得し、心理学的事象について、統計処理の結果を用いて、説明、解釈できるようになる。 			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	各実験を行った後に、その実験に関するレポートを提出する。レポートの作成を通じて実験内容についての理解を深め、またレポート作成のルールを理解する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】木下富雄『教材心理学』ナカニシヤ出版。</p> <p>【参考書】授業中に適宜指示する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度 10%</p> <p>レポート 70%</p> <p>グループ発表 20%。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>教科書に指定している『教材心理学』を用いて実験を行いますので、初回の授業までに購入し、毎回忘れずに持ってきて下さい。第 1 回目の授業で『心理学基礎実験の手引き』を配布します。必ず初回の授業に出席し、手引きを受け取るとともに、授業の注意事項をよく聞き、その後の実験実習に備えること。この授業は全回出席を前提として授業を進めます。やむを得ぬ理由で遅刻・欠席する場合は必ず本人が事前に担当教員に連絡すること。</p> <p>認定心理士の資格科目であり、5 種類以上の実験に参加し、それぞれの実験についてレポートを提出することが義務づけられています。高い緊張感を持って授業に望み、学習目標を達成して下さい。また、携帯電話を授業中に操作しないこと。他の受講生に迷惑をかける行為(私語、居眠り、グループ活動に参加しないなど)をつつしむこと。</p>			
13. オフィスアワー	詳細な時間は授業開始後に指示します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業ガイダンス	事前学習	『教材心理学』を購入し、授業に備える。	
		事後学習	『心理学基礎実験の手引き(以降、手引き)』を熟読する。	
第 2 回	実験計画法、実験レポートの構成。	事前学習	『手引き』のレポートに関する項目を熟読する。	
		事後学習	授業内で学んだ内容をまとめる。	
第 3 回	実験 1: 実験計画の立案	事前学習	『手引き』のレポートについての項目を復習し、授業で行う実験のどこに注意を払うべきか確認する。	
		事後学習	実験手続きを復習する。	
第 4 回	実験 1: 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。	
		事後学習	行った実験内容を復習する。	
第 5 回	実験 1: 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。	
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。	
第 6 回	実験 1: レポートの作成	事前学習	『手引き』のレポートの項目を復習する。	
		事後学習	『手引き』をもとにレポートを完成させる。	
第 7 回	実験 2: 実験計画の立案	事前学習	前回の実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。	
		事後学習	実験手続きを復習する。	
第 8 回	実験 2: 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。	
		事後学習	行った実験内容を復習する。	
第 9 回	実験 1: レポートの返却	事前学習	実験 1 の内容を復習する。	
		事後学習	返却されたレポートのコメントを熟読する。	
第 10 回	実験 1: レポートの修正	事前学習	『手引き』を再読し、返却されたレポートの修正点を確認する。	
		事後学習	レポートを修正する。	
第 11 回	実験 2: 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。	
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。	
第 12 回	実験 2: レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。	
		事後学習	レポートを完成させる。	
第 13 回	実験 3: 実験計画の立案	事前学習	前回までの実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。	
		事後学習	実験手続きを復習する。	
第 14 回	実験 3: 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。	

		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 15 回	実験 3 : 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 16 回	実験 3 : レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。
第 17 回	実験 4 : 実験計画の立案	事前学習	前回までの実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 18 回	実験 4 : 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 19 回	実験 4 : 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 20 回	実験 4 : レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。
第 21 回	自由実験 : 実験計画の立案 (1)	事前学習	どの分野の実験を行いたいか考える。
		事後学習	グループでの話し合いを元に、先行研究を調べ、どのような実験を行うのか考える。
第 22 回	自由実験 : 実験計画の立案 (2)	事前学習	各自実験計画書を作成する。
		事後学習	実験計画書を完成させる。
第 23 回	自由実験 : 実験計画の発表と討議 (1)	事前学習	発表準備を行う。
		事後学習	発表で指摘された点を修正する。
第 24 回	自由実験 : 実験計画の発表と討議 (2)	事前学習	発表準備を行う。
		事後学習	発表で指摘された点を修正する。
第 25 回	自由実験 : 実験の実施 (1)	事前学習	実験手続きを確認する。
		事後学習	実験手続きに改善点があれば修正する。
第 26 回	自由実験 : 実験の実施 (2)	事前学習	実験手続きを確認する。
		事後学習	実験データをまとめる。
第 27 回	自由実験 : 実験結果の整理 (1)	事前学習	どの統計手法を使うのかを考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理を施したデータについて、結果をまとめる。
第 28 回	自由実験 : 実験結果の整理 (2)	事前学習	未処理のデータを確認する。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 29 回	自由実験 : グループ発表 (1)	事前学習	発表準備を行う。
		事後学習	発表で指摘された点をどのように修正するか、今後の展望を考える。
第 30 回	自由実験 : グループ発表 (2)	事前学習	発表準備を行う。
		事後学習	発表で指摘された点をどのように修正するか、今後の展望を考える。

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3143
2. 授業担当教員	成本 忠正		
4. 授業形態	講義・実習・演習(ディスカッションを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	心理学入門、心理学概論、統計学、心理統計法、心理学基礎実験の全てを履修済みであること。		
7. 講義概要	<p>心理学は、具体的に見ることのできない人の心を対象としていることから、一般の人にも興味を持たれやすい学問であり、身近なもののように思われる。しかし学問としての心理学は実証科学としての性格を持っており、具体的に見ることのできる対象を扱う自然科学の方法論と共通するところが多い。そのため、心理学を研究する際、具体的に見ることのできない心を見えるようにするための工夫が求められることから、人の心という対象を実証科学的に扱う方法は、本質的な難点を伴っている。</p> <p>そこで、本科目では、心理学を科学として研究するための代表的な方法である実験法、調査法、観察法、検査法、面接法等について、それぞれの長所短所の両面を学び、実践するために必要な知識を身につけることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学としての心理学であることの認識を持ち、実証科学的方法の手順を理解する。 2. 心理学の代表的な研究方法について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。 3. 心理的な問題をいかに研究に乗せていくかについて、自ら考え、実践できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 心理学研究で得られた知見について詳細にリサーチし、それが社会 (福祉・教育・企業) でどのように貢献しているのかについてレポートを作成する。 2 各テーマの終了後に簡単な小テスト (15分程度) を実施する。 3 演習・グループディスカッションの結果を発表する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】南風原朝和編著『心理学研究法入門：調査・実験から実践まで』東京大学出版会、2001。</p> <p>【参考書】中澤潤他著『心理学マニュアル (要因計画法)』北大路書房、2000。 中澤潤他著『心理学マニュアル (観察法)』北大路書房、1997。 中澤潤他著『心理学マニュアル (質問紙法)』北大路書房、1998。 中澤潤他著『心理学マニュアル (面接法)』北大路書房、2000。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の 30% 2 課題レポート 総合点の 20% 3 グループ発表 総合点の 30% 4 小テスト 総合点の 20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本講義は、実際的な問題をいかに心理学の研究に載せて検討し問題解決に至るかに重点を置いている。従って、援助職などに多大な興味のある学生を前提としている。そこで、学生には以下のことを守って頂きたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 居眠りや私語は禁止。 2. 授業には、予習をして積極的な態度で臨むこと。理解できないことがあれば、授業以外でも質問し、仲間同士で研鑽して欲しい。 3. レポートの提出期限は厳守すること。レポートの提出期限が守られない場合は、正当な理由がない限り、受け取り拒否となる。 4. 欠席、遅刻、早退をしない。正当な理由により、欠席等をした場合にはその理由を書面にして報告する。 		
13. オフィスアワー	※ 別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	講義ガイダンス (授業の進め方) 心理学研究法とは何か?	事前学習	教科書【心理学の研究とは】を読む。
		事後学習	研究法の意義について理解する。
第 2 回	研究法の種類とそれぞれの特徴を理解する	事前学習	教科書【心理学研究の特徴とその過程】を読む。
		事後学習	探索型研究と検証型研究について復習する。
第 3 回	質的研究：観察法の論理を理解する 1	事前学習	教科書【質的調査】を読む。
		事後学習	観察法で何がわかるのかについて復習する。
第 4 回	質的研究：観察法の論理を理解する 2	事前学習	配付資料【観察法】を読む。
		事後学習	観察法の利点と限界について復習する。
第 5 回	質的研究：面接法の論理を理解する 1	事前学習	教科書【質的調査】を読む。
		事後学習	面接法で何がわかるのかについて復習する。
第 6 回	質的研究：面接法の論理を理解する 2	事前学習	配布資料【面接法】を読む。
		事後学習	面接法の利点と限界について復習する。
第 7 回	量的研究：実験法の理論を理解する 1	事前学習	教科書【実験の理論と方法】を読む。
		事後学習	実験法で何がわかるのかについて復習する。
第 8 回	量的研究：実験法の理論を理解する 2	事前学習	配付資料【実験法】を読む。
		事後学習	実験法の利点と限界について復習する。
第 9 回	量的研究：調査法の理論を理解する 1	事前学習	教科書【量的調査】を読む。
		事後学習	量的調査で何がわかるのかについて復習する。
第 10 回	量的研究：調査法の理論を理解する 2	事前学習	配付資料【質問紙法】を読む。
		事後学習	質問紙法の利点と限界について復習する。
第 11 回	演習①：一対比較法を習得する	事前学習	尺度構成について復習しておく。
		事後学習	一対比較法の利点を理解する。
第 12 回	演習①：一対比較法を習得する	事前学習	グループで調査の準備。

		事後学習	グループで調査の準備。
第 13 回	演習①：一対比較法を習得する	事前学習	グループで調査を実施する。
		事後学習	グループで調査を実施する。
第 14 回	演習①：一対比較法を習得する	事前学習	グループでデータを集計・分析する。
		事後学習	グループでデータを集計・分析する。
第 15 回	演習①：一対比較法を習得する	事前学習	グループでデータを集計・分析する。
		事後学習	グループでデータを集計・分析する。
第 16 回	演習①：調査結果の発表準備	事前学習	グループで結果の発表準備をする。
		事後学習	グループで結果の発表準備をする。
第 17 回	演習①：調査結果のグループ発表	事前学習	口頭発表。
		事後学習	口頭発表。
第 18 回	演習①：調査結果のグループ発表	事前学習	口頭発表。
		事後学習	口頭発表。
第 19 回	演習①：調査結果のグループ発表	事前学習	口頭発表。
		事後学習	口頭発表。
第 20 回	演習②：SD法を習得する	事前学習	量的調査の利点について復習しておく。
		事後学習	SD法の利点について理解する。
第 21 回	演習②：SD法を習得する	事前学習	グループで調査の準備。
		事後学習	グループで調査の準備。
第 22 回	演習②：SD法を習得する	事前学習	グループで調査を実施する。
		事後学習	グループで調査を実施する。
第 23 回	演習②：SD法を習得する	事前学習	グループでデータを集計・分析する。
		事後学習	グループでデータを集計・分析する。
第 24 回	演習②：SD法を習得する	事前学習	グループでデータを集計・分析する。
		事後学習	グループでデータを集計・分析する。
第 25 回	演習②：調査結果の発表準備	事前学習	グループで結果の発表準備をする。
		事後学習	グループで結果の発表準備をする。
第 26 回	演習②：調査結果のグループ発表	事前学習	口頭発表。
		事後学習	口頭発表。
第 27 回	演習②：調査結果のグループ発表	事前学習	口頭発表。
		事後学習	口頭発表。
第 28 回	演習②：調査結果のグループ発表	事前学習	口頭発表。
		事後学習	口頭発表。
第 29 回	心理学研究法の意義	事前学習	心理学研究法の社会的貢献を理解しておく。
		事後学習	心理学研究法の意義について復習する。
第 30 回	講義のまとめ	事前学習	心理学研究の意義とは何かを考える。
		事後学習	これまでの授業内容を自分なりにまとめ、心理学研究法の重要性を理解する。

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3143
2. 授業担当教員	丹野 宏昭	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・実習・演習(ディスカッションを含む)		
6. 履修条件・他科目との関係	心理学入門、心理学概論、統計学、心理統計法、心理学基礎実験の全てを履修済みであること。		
7. 講義概要	<p>心理学は、具体的に見ることのできない人の心を対象としていることから、一般の人にも興味を持たれやすい学問であり、身近なもののように思われる。しかし学問としての心理学は実証科学としての性格を持っており、具体的に見ることのできる対象を扱う自然科学の方法論と共通するところが多い。そのため、心理学を研究する際、具体的に見ることのできない心を見えるようにするための工夫が求められることから、人の心という対象を実証科学的に扱う方法は、本質的な難点を伴っている。</p> <p>そこで、本科目では、心理学を科学として研究するための代表的な方法である実験法、調査法、観察法、検査法、面接法等について、それぞれの長所短所の両面を学び、実践するために必要な知識を身につけることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<p>4. 科学としての心理学であることの認識を持ち、実証科学的方法の手順を理解する。</p> <p>5. 心理学の代表的な研究方法について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。</p> <p>6. 心理的な問題をいかに研究に乗せていくかについて、自ら考え、実践できるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	課題については講義内で適宜指示する。 最終的に心理学の研究論文に則した形式のレポート提出と、学会発表形式のプレゼンテーションを求める。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 質問紙調査と心理測定尺度—計画から実施・解析まで サイエンス社</p> <p>【参考書】 心理学論文の書き方 河出書房</p>		
11. 成績評価の方法	プレゼンテーションおよび期末レポート 60% 受講態度 (積極的参加度含む) 40%		
12. 受講生へのメッセージ	グループで実際に心理学の研究を計画して、実施し、発表する。 受講生には、積極的な参加と議論を求める。 また、講義の詳細については第1回講義(ガイダンス)にて説明するので、受講予定の学生は必ず出席すること。		
13. オフィスアワー	※ 別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	講義ガイダンス	事前学習	統計学・心理学基礎実験の復習
		事後学習	統計学・心理学基礎実験の復習
第2回	科学としての心理学とは	事前学習	統計学・心理学基礎実験の復習
		事後学習	統計学・心理学基礎実験の復習
第3回	心理学研究法の概観	事前学習	教科書第1章の通読
		事後学習	心理学研究法の整理をしておく
第4回	心理学研究の流れ	事前学習	教科書第1章の通読
		事後学習	心理学研究法の整理をしておく
第5回	面接法	事前学習	面接法の特徴を整理
		事後学習	実際の面接法の知見について検討する
第6回	観察法	事前学習	観察法の特徴を整理
		事後学習	実際の観察法の知見について検討する
第7回	実験法	事前学習	実験法の特徴を整理
		事後学習	実際の実験法の知見について検討する
第8回	質問紙調査法	事前学習	質問紙調査法の整理
		事後学習	実際の質問紙調査法について検討する
第9回	先行研究の探し方	事前学習	心理学論文を探しておく
		事後学習	指定した論文を探す
第10回	先行研究の読み方・まとめ方	事前学習	心理学論文を読み、まとめる
		事後学習	指定した論文をまとめる
第11回	研究計画(1) 先行研究の整理	事前学習	グループで研究計画を立てる
		事後学習	グループで研究計画を立てる
第12回	研究計画(2) 先行研究から目的をたてる	事前学習	グループで研究計画を立てる
		事後学習	グループで研究計画を立てる
第13回	研究計画(3) 仮説の設定	事前学習	グループで研究計画を立てる
		事後学習	グループで研究計画を立てる
第14回	研究計画(4) 方法の検討	事前学習	グループで研究計画を立てる
		事後学習	グループで研究計画を立てる
第15回	研究計画発表の準備	事前学習	研究計画発表の準備をする
		事後学習	研究計画発表の準備をする
第16回	研究計画発表	事前学習	研究計画発表の準備をする
		事後学習	研究計画の再考・修正を行う
第17回	調査・実験の準備(1) 研究計画の修正	事前学習	調査・実験を実施するための準備を行う
		事後学習	調査・実験を実施するための準備を行う
第18回	調査・実験の準備(2) 方法の再検討	事前学習	調査・実験を実施するための準備を行う

		事後学習	調査・実験を実施するための準備を行う
第 19 回	調査・実験の準備(3) 調査・実験資料の収集	事前学習	調査・実験を実施するための準備を行う
		事後学習	調査・実験を実施するための準備を行う
第 20 回	調査・実験の準備(4) 調査票・実験刺激作成の準備	事前学習	調査・実験を実施するための準備を行う
		事後学習	調査・実験を実施するための準備を行う
第 21 回	調査・実験の準備(5) 調査票・実験刺激の作成	事前学習	調査・実験を実施するための準備を行う
		事後学習	調査・実験を実施するための準備を行う
第 22 回	調査・実験の準備(6) 調査・実験の事前テスト	事前学習	調査・実験を実施するための準備を行う
		事後学習	調査・実験を実施するための準備を行う
第 23 回	調査・実験の実施(1) 調査・実験の依頼と教示	事前学習	調査・実験を実施するための準備を行う
		事後学習	データの整理
第 24 回	調査・実験の実施(2) データの取得	事前学習	調査・実験を実施するための準備を行う
		事後学習	データの整理
第 25 回	データ分析(1) 分析ツールの説明	事前学習	データの整理
		事後学習	結果の考察
第 26 回	データ分析(2) 解析の実施	事前学習	データの整理
		事後学習	結果の考察
第 27 回	発表準備(1) 発表資料の作成	事前学習	結果の考察
		事後学習	発表準備
第 28 回	発表準備(2) スライドの作成	事前学習	結果の考察
		事後学習	発表準備
第 29 回	グループ研究の発表	事前学習	発表準備
		事後学習	発表の再考
第 30 回	講義のまとめ	事前学習	発表の再考
		事後学習	レポートの完成

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法演習 I (II) (2 単位)		
2. 授業担当教員	鈴木 康明、多比良 和誠、成本 忠正、新井 洋輔、大島 朗生、木村 純、河野 等、沢 哲司、末永 叔子、丹野 宏昭、谷口 恵子 *指導教員を一人選び、論文作成のための指導を受ける授業です	3. 科目番号	PSMP3371
4. 授業形態	演習 (一部講義)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要 (心理学研究法 1)	心理学の基礎・応用分野における講義にて学習した内容を踏まえながら、心理学における主要文献の講読を行うとともに、文献内における重要ポイントを読み解き、他者に説明する力を身につける。この基礎として、学生自身が心理学の関連文献を検索することも学習の課題とする。さらに、各文献内における問題点を見つけ出し、どのような心理学的研究を行うことによって、その問題を解決することができるのかを考察する。演習形式により、最終的には、心理学研究における課題発見から研究計画までの流れを理解する。		
8. 学習目標	研究論文を作成するための文献研究を中心に学習し、自らの課題を発見し、研究計画を立てる。詳細については、担当教員が授業の中で提示する。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	担当教員が授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	担当教員が授業の中で提示する。		
11. 成績評価の方法	担当教員が授業の中で提示する。		
12. 受講生への メッセージ	担当教員が授業の中で提示する。		
13. オフィスアワー	担当教員が授業の中で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
担当教員	授業内容		
鈴木 康明	<p>【研究領域】 臨床心理学、臨床死生学</p> <p>【受講者へのメッセージ】 対人援助活動に役立つ方法と技術について、芸術療法を中心に学びます。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>		
多比良 和誠	<p>【研究領域】 遺伝子工学、生命科学、分子細胞生物学</p> <p>【受講者へのメッセージ】 遺伝子工学の進歩で、犯罪者の遺伝情報すべてが、残された髪の毛一本から解明できるようになりました。“がん”や他の病気も一滴の血液から検出できるようになるでしょう。奥深い遺伝子を学びたい人をサポートします。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>		
成本 忠正	<p>【研究領域】 認知心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】 認知心理学分野のテーマを考えてもらいます。研究は実験法を用いてください。興味がある方はご相談ください。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>		
新井 洋輔	<p>【研究領域】 社会心理学 (集団・組織心理学、対人心理学)</p> <p>【受講者へのメッセージ】 ①集団・組織の発足・運営に関わる問題と対応策、②集団・組織内における 2 者の対人関係 (キャリア教育やスキル継承に関わる問題) の研究を歓迎します。「組織心理学」を履修していることが望ましく、研究手法は面接法と質問紙法が主になります。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>		
大島 朗生	<p>【研究領域】 臨床心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】 将来、臨床心理士として働くことを希望している方々と一緒に学んでいければと思っています。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>		

木村 純	<p>【研究領域】社会心理学、政治心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】社会心理をマクロ的視点からとらえる研究に興味がある人はご相談ください。質問紙調査と統計的分析を用いた実証的研究を基本としていますが、内容分析、面接調査、資料に基づいた歴史・文化研究などにも対応します。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
河野 等	<p>【研究領域】高齢者福祉、国際政治</p> <p>【受講者へのメッセージ】介護予防がどのようなシステムや概要になっており、どのような課題があるのか一緒に考えましょう。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
沢 哲司	<p>【研究領域】発達相談、発達査定</p> <p>【受講者へのメッセージ】発達（障害）に関する研究に興味がある人はご相談ください。認知機能検査を用いた分析や事例研究を基本としています。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
末永 叔子	<p>【研究領域】生理心理学、学習心理学、行動科学</p> <p>【受講者へのメッセージ】実験的手法を用いて心理現象を解明していきます。専門分野の文献講読から始めて、徐々に実験手法を学んでもらいます。生理心理学と認知心理学を履修していることが望ましいです。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
丹野 宏昭	<p>【研究領域】社会心理学、対人心理学、社会調査</p> <p>【受講者へのメッセージ】質問紙調査もしくは社会心理学的実験で測定できる現象であれば検討が可能です。心理学基礎実験・心理学研究法の講義で扱った知識・技術は習得済みであることが大前提としてすすめます。目的意識が明確であることが望まれます。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
谷口 恵子	<p>【研究領域】ソーシャルワーク教育、児童福祉、精神保健福祉</p> <p>【受講者へのメッセージ】ソーシャルワーク研究において最も大切なことは、「社会の役に立つ研究であること」と学生時代に教わりました。自身の中でも研究の意義を明確にし、取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法演習Ⅱ (2 単位)		
2. 授業担当教員	鈴木 康明、多比良 和誠、成木 忠正、新井 洋輔、大島 朗生、木村 純、河野 等、沢 哲司、末永 叔子、丹野 宏昭、谷口 恵子 *指導教員を一人選び、論文作成のための指導を受ける授業です	3. 科目番号	PSMP4371
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学研究法演習Ⅰ」の単位取得後に受講可能です。		
7. 講義概要	心理学関連分野における近年の課題を探し出し、その課題達成に結びつくような研究テーマの設定を試みる。さらに、演習形式により調査法・実験法・介入法・質的研究法などを選択してデータの収集を行い、データの分析および得られた分析結果の考察までを行う。学生自身が心理学における知見と自らの興味関心とを結びつけながら研究テーマの設定を行い、研究計画から研究実施や考察までを行うことにより、心理学的研究を行うための基礎力を身につける。		
8. 学習目標	心理学研究法演習Ⅰの研究計画に基づいて、データの収集、分析、考察を行う。詳細については、担当教員が授業の中で提示する。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	担当教員が授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	担当教員が授業の中で提示する。		
11. 成績評価の方法	担当教員が授業の中で提示する。		
12. 受講生へのメッセージ	担当教員が授業の中で提示する。		
13. オフィスアワー	担当教員が授業の中で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
担当教員	授業内容		
鈴木 康明	<p>【研究領域】臨床心理学、臨床死生学</p> <p>【受講者へのメッセージ】対人援助活動に役立つ方法と技術について、芸術療法を中心に学びます。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>		
多比良 和誠	<p>【研究領域】遺伝子工学、生命科学、分子細胞生物学</p> <p>【受講者へのメッセージ】遺伝子工学の進歩で、犯罪者の遺伝情報すべてが、残された髪の毛一本から解明できるようになりました。“がん”や他の病気も一滴の血液から検出できるようになるでしょう。奥深い遺伝子を学びたい人をサポートします。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>		
成木 忠正	<p>【研究領域】認知心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】認知心理学分野のテーマを考えてもらいます。研究は実験法を用いてください。興味がある方はご相談ください。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>		
新井 洋輔	<p>【研究領域】社会心理学 (集団・組織心理学、対人心理学)</p> <p>【受講者へのメッセージ】①集団・組織の発足・運営に関わる問題と対応策、②集団・組織内における2者の対人関係 (キャリア教育やスキル継承に関わる問題) の研究を歓迎します。「組織心理学」を履修していることが望ましく、研究手法は面接法と質問紙法が主になります。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>		
大島 朗生	<p>【研究領域】臨床心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】将来、臨床心理士として働くことを希望している方々と一緒に学んでいければと思っています。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>		
木村 純			

	<p>【研究領域】社会心理学、政治心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】社会心理をマクロ的視点からとらえる研究に興味がある人はご相談ください。質問紙調査と統計的分析を用いた実証的研究を基本としていますが、内容分析、面接調査、資料に基づいた歴史・文化研究などにも対応します。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
河野 等	<p>【研究領域】高齢者福祉、国際政治</p> <p>【受講者へのメッセージ】介護予防がどのようなシステムや概要になっており、どのような課題があるのか一緒に考えましょう。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
沢 哲司	<p>【研究領域】発達相談、発達査定</p> <p>【受講者へのメッセージ】発達（障害）に関する研究に興味がある人はご相談ください。認知機能検査を用いた分析や事例研究を基本としています。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
末永 叔子	<p>【研究領域】生理心理学、学習心理学、行動科学</p> <p>【受講者へのメッセージ】実験的手法を用いて心理現象を解明していきます。専門分野の文献講読から始めて、徐々に実験手法を学んでもらいます。生理心理学と認知心理学を履修していることが望ましいです。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
丹野 宏昭	<p>【研究領域】社会心理学、対人心理学、社会調査</p> <p>【受講者へのメッセージ】質問紙調査もしくは社会心理学的実験で測定できる現象であれば検討が可能です。心理学基礎実験・心理学研究法の講義で扱った知識・技術は習得済みであることが大前提としてすすめます。目的意識が明確であることが望まれます。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
谷口 恵子	<p>【研究領域】ソーシャルワーク教育、児童福祉、精神保健福祉</p> <p>【受講者へのメッセージ】ソーシャルワーク研究において最も大切なことは、「社会の役に立つ研究であること」と学生時代に教わりました。自身の中でも研究の意義を明確にし、取り組んでいただきたいと思えます。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>

1. 科目名 (単位数)	心理学入門 (2 単位)	3. 科目番号	GEBS1110
2. 授業担当教員	新井 洋輔	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・演習(ディスカッションを含む)		
6. 履修条件・他科目との関係	心理学系科目の中で最初に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目では、心理学という学問の入門的な学習として、歴史的背景や特徴を含めた基本的な考え方について、心理学の主要な分野における最も基礎的な概念と理論に幅広くふれながら、理解する。		
8. 学習目標	1. 心理学への興味を高め、後の心理学系専門科目の学習につなげることができる。 2. 心理学が生まれてきた歴史を概観し、説明することができる。 3. 心理学的な思考方法を身につけ、心理学系専門科目を学ぶための基礎を身につける。 4. 世間一般の心理学のイメージと、学問としての心理学との違いを理解し、説明することができる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	各回の終了後にアサイメントが、夏期休暇中にレポートが、それぞれ課される。事前・事後学習における「まとめ」は、原則として各400字程度を目安とするが、個別に講義内で指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 武藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 (著)『心理学』有斐閣。 【参考書】 講義内で適宜紹介する。		
11. 成績評価の方法	授業への積極参加度：40% 小テスト：60%		
12. 受講生へのメッセージ	心理学は、これまでに蓄積されてきた研究知見を、日常生活や社会活動に応用できる学問です。講義の内容から、自分自身や周囲の人々を理解し、今後の社会生活に活かせる視点を獲得できるよう、積極的に取り組んでください。なお、皆さんの理解度によっては講義内容を変更する場合があります。講義に関する疑問については、質問を歓迎します。なお、受講態度と毎回の課題への積極的な取り組みを評価しますので、授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話の使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。		
13. オフィスアワー	授業内で提示する。授業時間外での質問・相談を希望する場合は、yoarai@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 宛に、一週間前までに「授業名・クラス・学籍番号・質問の概要」を記載したメールで予約をとること。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、受講契約	事前学習	本シラバスの内容を熟読し、本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく
		事後学習	講義で議論した「禁止事項」と、自分のもつ「常識」の感覚との差異について内観しまとめる
第2回	心理学への関心の自覚、心理学の歴史	事前学習	自分が「心理学」に対して持っている期待や関心を内観し、まとめておく
		事後学習	配布したプリントにある、ヴントの功績とその後の心理学の歴史に関してまとめる
第3回	心理学のイメージと学問としての心理学	事前学習	自分が「心理学」を学ぶことで「できるようになる」と期待していることをまとめておく
		事後学習	講義で取り組んだワークから、「心理学の応用」にはどんなものがあるかを考え、まとめる
第4回	感覚・知覚	事前学習	第3章 (pp. 55~78) のうち、Sec1、Sec2、Sec3 (知覚の恒常性)、Sec5 (文脈の効果) をまとめておく
		事後学習	講義で挙げた keywords について復習するとともに、教科書 p. 78 の問題に取り組む
第5回	欲求	事前学習	第9章 (pp. 192~211) 「動機づけ」を熟読し、まとめておく (動機づけ=欲求)
		事後学習	教科書 p. 211 の問題に取り組むとともに、達成欲求以外の欲求についても調べる
第6回	感情	事前学習	第8章 (pp. 171~189) を熟読し、「感情」「気分」「情動」の定義を把握しておく
		事後学習	「情動と生理反応」に関する説 (shactor の二要因理論を含む) について整理し、まとめる
第7回	学習	事前学習	第5章 (pp. 103~124) を熟読し、2種の条件づけの過程についてまとめておく
		事後学習	教科書 p. 124 の問題に取り組む、条件づけの現実場面への応用について考える
第8回	記憶	事前学習	第4章 (pp. 79~102) を熟読し、記憶の過程、記憶の種類の過程についてまとめておく
		事後学習	講義の最後に挙げる課題への回答を作成するとともに、忘却に関する知見を調べる

第 9 回	発達	事前学習	第 11・12 章 (pp. 235～261) を熟読し、ピアジェとエリクソンの理論をまとめておく
		事後学習	p. 280 の課題を通して、青年期以降の各段階における発達課題達成の具体的方策をまとめる
第 10 回	人格と心理測定	事前学習	第 10 章 (pp. 214～234) を熟読し、「類型説と特性説とは何か」についてまとめておく
		事後学習	性格テストに関する留意事項をまとめ、科学的性格測定の内容を再確認する
第 11 回	社会	事前学習	目次で第 13 章～第 18 章の項目を読み、社会心理学の分野を把握する。第 13 章の「互恵性」について学習し、p. 302 の②の課題に取り組む
		事後学習	講義内で紹介された理論のそれぞれについて「名称」「その内容」「応用方法」を含めた計 400 字にまとめる
第 12 回	臨床と対人援助	事前学習	第 12 回：「健康とは何か」について自分の言葉でまとめておく (200 字程度。辞書を使つてはならない) 第 13 回：自分がプロの臨床家になったものと仮定し、「心の病に悩む人に自分ができること」の案をまとめておく
		事後学習	講義で学んだ内容を踏まえて、事前学習の内容を再度行い、内省・比較する
第 13 回	心理学知見の利用	事前学習	前講義で配布した各分野の心理学知見に関する keywords を元に、50 の文章を作成する
		事後学習	講義内でのワークの結果を踏まえ、知見に関する思索の足りない箇所を内省し、不足点を補う
第 14 回	心理学を学ぶということ	事前学習	第 2 回・第 3 回の自分の事前学習結果を見直し、現在の認識との差異を内観し、まとめる
		事後学習	「学問としての心理学」の位置づけや役割と、心理学知見を現実場面における問題に応用する方法についてまとめる
第 15 回	科学としての心理学	事前学習	科学としての心理学に求められる要件とは何かを「統計学」の知識も応用してまとめておく。
		事後学習	「客観性」と「再現性」とは何かを整理し、批判的思考のために必要な考え方についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	心理検査法 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3144
2. 授業担当教員	大島 朗生		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>臨床心理学において、必須の知識である必要な心理査定技術の基礎を習得する。担当教員が選定した代表的な心理検査について、1. 理論的背景、2. 実施方法、3. 結果の整理方法、4. 解釈方法、5. 利用上の注意点、6. 適応範囲と限界などを理解することを目的とする。心理検査法の基礎的な事項（理論や施行法）を身に付けるために、演習を重視する。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当箇所の心理検査をレジュメにまとめて、プレゼンテーションを行う。 2. 検査者・被検査者体験、心理検査の事例等に関してグループディスカッションを行う。 3. 実施した心理検査に関して、レポートを提出する。 <p>といった方法で、各検査法の特徴と臨床現場での使用の仕方を体験的に学ぶ。</p> <p>また、時間がゆるせば、1. 査定法の選び方、2. 環境の整え方、3. 結果の報告やフィードバックの仕方 などについても検討する。</p>		
8. 学習目標	心理査定法の中でも、特に心理検査法に焦点をあてる。演習を行うことによって心理査定技術の基礎的な技術を身につけ、活用できる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	代表的な心理検査について、基礎的な知識が身についていることを確認するためのレポート課題を課す。レポート課題は全部で3本程度課す予定でいる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 松原達哉編『臨床心理アセスメント 新訂版』丸善出版、2013。 ※必要に応じて、適宜資料を配布する。 ※心理検査に関しては、実習を伴うために別途実費（検査用紙代等）が必要な場合がある。 委細は開講時に説明する。</p> <p>【参考書】 松原達哉・福島脩美『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』金子書房、2011。 松原達哉『第4版心理テスト法入門』日本文化科学社、2004。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>積極的授業態度 50%</p> <p>発表態度・演習に対する参加度 30%</p> <p>心理検査に関するレポート課題 20%</p> <p>※ 詳細に関しては、改めて開講時に周知する</p>		
12. 受講生への メッセージ	他の授業との関係で、重複して取り扱われる心理検査が出てくることが考えられるため、心理検査法で取り扱う心理検査の詳細については開講時に改めて周知する。 心理検査の実習を通じて、自分自身を再発見することを期待している。		
13. オフィスアワー	伊勢崎キャンパスの学生相談業務と兼任のため、授業開講時に周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	臨床心理査定概論	事前学習	教科書の第1章を熟読し、「臨床心理アセスメントの目的」についてまとめる。
		事後学習	心理アセスメントの目的について、グループディスカッションをした内容を整理してまとめる。
第2回	臨床心理査定の種類	事前学習	教科書の第3章を熟読し、「心理検査の種類と内容」についてまとめる。
		事後学習	心理査定の内容について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第3回	心理検査各論Ⅰ 発達検査1	事前学習	教科書の第4章を熟読し、「発達検査総論」の要旨をまとめる。
		事後学習	発達検査について、グループディスカッションをした内容を整理してまとめる。
第4回	心理検査各論Ⅰ 発達検査2	事前学習	教科書の第4章を熟読し、「遠城寺式乳幼児分析的発達検査」の概要についてまとめる。
		事後学習	遠城寺式乳幼児分析的発達検査について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第5回	心理検査各論Ⅱ 知能検査1	事前学習	教科書の第5章を熟読し、「知能測定の意義と目的」についてまとめる。
		事後学習	知能測定の目的について、グループディスカッションをした内容を整理してまとめる。
第6回	心理検査各論Ⅱ 知能検査2	事前学習	教科書の第5章を熟読し、「ビネー式知能検査」の概要についてまとめる。
		事後学習	ビネー式知能検査について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第7回	心理検査各論Ⅱ 知能検査3	事前学習	教科書の第5章を熟読し、「WISC-IV」の概要についてまとめる。
		事後学習	WISC-IVについて、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第8回	心理検査各論Ⅱ 知能検査4	事前学習	教科書の第5章を熟読し、「高齢者の認知機能に関する検査」の概要についてまとめる。

		事後学習	高齢者の認知機能に関する検査について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 9 回	心理検査各論Ⅲ 質問紙法（性格・人格検査）1	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「人格検査の種類」についてまとめる。
		事後学習	人格検査の種類について、グループディスカッションをした内容を整理してまとめる。
第 10 回	心理検査各論Ⅲ 質問紙法（性格・人格検査）2	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「TEG」の概要についてまとめる。
		事後学習	TEG について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 11 回	心理検査各論Ⅲ 質問紙法（性格・人格検査）3	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「YG 性格検査」の実施方法についてまとめる。
		事後学習	YG 性格検査の実施方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 12 回	心理検査各論Ⅲ 質問紙法（性格・人格検査）4	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「YG 性格検査」の採点方法・解釈方法についてまとめる。
		事後学習	YG 性格検査の解釈方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 13 回	心理検査各論Ⅳ 質問紙法（不安・ストレス検査）1	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「SDS」の概要についてまとめる。
		事後学習	SDS について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 14 回	心理検査各論Ⅳ 質問紙法（不安・ストレス検査）2	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「ISE-R」の概要についてまとめる。
		事後学習	ISE-R について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 15 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（ロールシャッハテスト）1	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「ロールシャッハテスト」の施行方法についてまとめる。
		事後学習	ロールシャッハテストの施行方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 16 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（ロールシャッハテスト）2	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「ロールシャッハテスト」の採点方法についてまとめる。
		事後学習	ロールシャッハテストの採点方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 17 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（ロールシャッハテスト）3	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「ロールシャッハテスト」の解釈方法についてまとめる。
		事後学習	ロールシャッハテストの解釈方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 18 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（ロールシャッハテスト）4	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「ロールシャッハテスト」の理論的背景についてまとめる。
		事後学習	ロールシャッハテストの理論的背景について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 19 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（ロールシャッハテスト）5	事前学習	配付資料を熟読し、「ロールシャッハテスト」の事例について理解する
		事後学習	ロールシャッハテストの事例に関して、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 20 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（ロールシャッハテスト）6	事前学習	配付資料を熟読し、「ロールシャッハテスト」の結果をどのように活用するかについて理解する
		事後学習	ロールシャッハテストの結果の活用方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 21 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（TAT）1	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「TAT」の施行方法についてまとめる。
		事後学習	TAT の施行方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 22 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（TAT）2	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「TAT」の採点方法・解釈方法についてまとめる。
		事後学習	TAT の解釈方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 23 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（SCT）1	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「SCT」の施行方法についてまとめる。
		事後学習	SCT の施行方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 24 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（SCT）2	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「SCT」の採点方法・解釈方法についてまとめる。
		事後学習	SCT の解釈方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 25 回	心理検査各論Ⅵ 描画法 1	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「バウムテスト」の施行方法についてまとめる。
		事後学習	バウムテストの施行方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 26 回	心理検査各論Ⅵ 描画法 2	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「バウムテスト」の採点方法・解釈方法についてまとめる。

		事後学習	バウムテストの解釈方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 27 回	心理検査各論Ⅵ 描画法 3	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「人物画テスト」の施行方法についてまとめる。
		事後学習	人物画テストの施行方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 28 回	心理検査各論Ⅵ 描画法 4	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「人物画テスト」の採点方法・解釈方法についてまとめる。
		事後学習	人物画テストの解釈方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 29 回	心理検査各論Ⅵ 描画法 5	事前学習	配付資料を熟読し、「動的家族画」の施行方法についてまとめる。
		事後学習	動的家族画の施行方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 30 回	まとめ	事前学習	教科書のすでに学習した部分を熟読して、記憶が曖昧な部分を明確にしておく。
		事後学習	学習した内容を再度整理しておく。

1. 科目名 (単位数)	心理検査法演習 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3354						
2. 授業担当教員	水國 照充								
4. 授業形態	演習およびグループワーク	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	「心理検査法」の単位を修得した後に履修することが望ましい。								
7. 講義概要	心理臨床の現場でよく使用されている主な質問紙法検査や投影法検査等の理論、実施方法、結果の解釈について学習する。自らが心理検査の実施者と被検者の役割をとることによって、心理検査の目的、特徴、有効性や限界について体験的に学ぶとともに、他のアセスメント方法とも合わせて総合的に事例を理解できるようになることを目指す。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査の種類・特徴および長所・短所を理解し、説明できるようになる。 2. 心理検査の実際を体験的に学び、使用できるようになる。 3. 心理検査の結果からのアセスメントができるようになる。 4. 心理検査における心理臨床の倫理について理解し、説明できるようになる。 								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各心理検査の実施と解釈について、課題シートに理解したこと、想定事例での解釈をまとめて記述、提出すること。 2. グループディスカッション毎に配布するディスカッションシートを各自でまとめ、授業終了時に提出すること。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 上野一彦、松田 修、小林 玄、木下智子 著『日本版 WISC-IV による発達障害のアセスメント - 代表的な指標パターンとの解釈と事例紹介 - 』日本文化科学社、2015 ※その他、必要に応じて、適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 1. 村上 宣寛、村上 千恵子 著『改訂 臨床心理アセスメントハンドブック』北大路書房、2008 2. アウレリオ・プリフィテラ、ドナルド・H・サクロフスキー、ローレンス・G・ワイス 編／上野一彦 監訳／上野一彦、バーンズ亀山静子 訳『WISC-IV の臨床的利用と解釈』日本文化科学社、2012</p>								
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>受講態度 (積極的な参加姿勢等)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>授業時に実施する課題シートによる評価</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>50%</td> </tr> </table> <p>注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の規定により全講義回数のうち 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 2. 遅延の場合は遅延証明書を当日または次回講義までに担当教員に提出すること。 3. 遅延の累積回数が多い場合には、遅延を認めない場合もあるため注意すること。 4. 積極的な受講態度や参加姿勢は加点的な対象とする。 5. 受講態度や参加姿勢について、特に以下に示す様態は減点的な対象とする。私語、居眠り、携帯いじり、無断退室、出席の代返、その他授業と関係のない行為等。注意しても学習態度に改善が見られない場合は F 評価とする。 			受講態度 (積極的な参加姿勢等)	20%	授業時に実施する課題シートによる評価	30%	期末試験	50%
受講態度 (積極的な参加姿勢等)	20%								
授業時に実施する課題シートによる評価	30%								
期末試験	50%								
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習形式での授業ですので、欠席すると授業についていけなくなります。くれぐれも欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合は、休んだ回の復習を必ずしてきてください。 2. 座席指定で授業をおこないます。指定された座席で授業を受けてください。席の移動は認めません。 3. 指定された座席に基づくグループを作り演習を行います。 4. 授業妨害となる行為は厳に慎んでください (上記、成績評価の方法参照)。 5. 学期末試験の持込み (ノート、配布資料等) の可否は、全受講生の受講態度や参加姿勢によって決定します。一部の受講生の授業態度が悪い場合でも、すべての受講生の持込みを不可としますので、お互いに声をかけあって積極的に授業に参加してください。 								
13. オフィスアワー	授業中に周知する。(掲示参照)。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション 演習の目的、評価方法の説明	事前学習	教科書の目次を一読して、演習用ノートを作成しておく。参考書は必ず購入する必要はないが、図書館等で借りて熟読しておくこと。						
		事後学習	シラバスの再確認。授業ルールや学習目標と内容を理解する。						
第 2 回	心理検査の実施にあたって 1～初回面接の進め方～	事前学習	初回面接で注意することや想定される問題をノートにまとめる。						
		事後学習	初回面接の手順をノートにまとめ、グループメンバーで面接演習を行うこと。						
第 3 回	心理検査の実施にあたって 2～個人情報と守秘義務～	事前学習	教科書 pp. 17～19 を熟読し、心理検査の倫理規定をノートにまとめる。						
		事後学習	グループ討議の内容を振り返り、ノートにまとめる。						
第 4 回	質問紙法にもとづく検査の演習 1 5 因子性格検査理論	事前学習	性格理論のうち、特性論についてノートにまとめる。						
		事後学習	授業中にまとめたノートと参考書 1 の第 4 章を熟読し、ノートにまとめる						
第 5 回	質問紙法にもとづく検査の演習 2 5 因子性格検査手順	事前学習	事前配布資料を熟読し、わからない用語を調べてノートにまとめる。						

		事後学習	グループメンバーと次回演習までに1回以上、手順について練習をする。
第6回	質問紙法にもとづく検査の演習3 5 因子性格検査解釈	事前学習	事前資料を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	グループでまとめた事例について、文献等からさらに理解を深める。
第7回	知能検査の演習1～Wechsler 検査の理論	事前学習	教科書 pp. 3～14 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	知能の定義と構造をノートにまとめる。
第8回	知能検査の演習2～Wechsler 検査の実施手順	事前学習	教科書 pp. 27～30、を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	グループ討議の内容を振り返り、ノートにまとめる。
第9回	知能検査の演習3～Wechsler 検査の実施	事前学習	教科書 pp. 51～67 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	グループメンバーで実施の仕方を復習する(次回までに1回以上は練習する)。
第10回	知能検査の演習4～Wechsler 検査の解釈	事前学習	教科書 pp. 68～88 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	VCI、PRI、WMI、PSI の高低が事例のどのような認知特性に影響を及ぼしているかを調べておく。事例毎のプロフィールをノートにまとめる。
第11回	知能検査の演習5～Wechsler アセスメント・レポートの書き方	事前学習	事前配布資料を熟読し、総合的解釈とその留意点をまとめる。
		事後学習	総合的解釈をもとにアセスメント・レポートをまとめる。
第12回	知能検査の演習6～事例検討①小学生	事前学習	事例を事前に検討しておく。
		事後学習	支援方法のうち、参考になる図書を1冊以上熟読する。
第13回	知能検査の演習7～事例検討②中学生	事前学習	事例を事前に検討しておく。
		事後学習	支援方法のうち、参考になる図書を1冊以上熟読する。
第14回	その他の心理検査 ～投影法の演習～	事前学習	実施する投影法について事前に内容をノートにまとめておく。
		事後学習	実施した投影法についてグループで振り返り作業を行う。
第15回	性格検査・知能検査・その他の検査を活用してアセスメント・バッテリーを組む	事前学習	これまで演習してきた心理検査をまとめる
		事後学習	これまでの学習内容についてノートを見て振り返り、理解できているか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理統計法 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP1141
2. 授業担当教員	新井 洋輔		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理学を修める上で、統計学の知識は、データを正しく扱い読み取るために必須の教養のひとつである。本講義では、統計学に関する正しい知識を習得するとともに、データを収集し、分析し、結果を読み取る能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本講義は、「統計学」の講義に継続する内容として、実際にデータを収集し、統計ソフト(SPSS)を用いて、「統計学」で習得した記述統計を実施するとともに、各種の統計的仮説検定の実際について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>代表的な統計処理について自ら統計ソフト(SPSS)を用いて実践することで、基本的なデータの扱いと読み取り方法を習得する。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができる。 2. データに合った解析法を選択できる。 3. 選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができる。 4. 解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>毎回の演習内容についての予習と、自宅での復習が必須となるため、本シラバスの事前学習・事後学習の内容を熟読して臨むこと。</p> <p>レポートの提出はメールにて行うため、大学発行のメールアドレスを利用可能な状態にしておくこと。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 岸学著『SPSS によるやさしい統計学 (改訂版)』オーム社。</p> <p>【参考書】 山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>受講態度、演習への取り組み、期末レポートから総合的に評価する。</p> <p>積極的受講態度：30% 各回のレポート：30% 小テスト：40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>春期の「統計学」「情報処理演習 I」「文章表現」に継続する内容ですので、しっかり復習してから臨んでください。なお、皆さんの理解度・達成度によって講義内容を変更する場合があります。</p> <p>わからないことについては、講義内またはオフィスアワーでの質問を歓迎します。なお、演習の課題への取り組みを評価しますので、事前に通知のない欠席・遅刻・早退や、内容に関連しない私語・居眠りは減点の対象となります。また、授業内での携帯電話の使用は厳禁とします。</p> <p>初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第 1 回の授業に出席してください。</p>		
13. オフィシアワー	授業時間内に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション：受講契約	事前学習	本シラバスの内容を熟読し、本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく
		事後学習	情報処理室の利用可能時間を調べ、大学所定の手続きに従ってコンピュータを操作する
第 2 回	「統計学」達成度確認テスト	事前学習	春期の「統計学」の講義内容 (尺度水準・記述統計・推測統計) について復習しておく
		事後学習	達成度確認テストの中で理解度が足りなかった点について、「統計学」の教科書・資料で十分に知識を補完する
第 3 回	データの入力と尺度水準：Excel・データの変換と整形：Excel→SPSS	事前学習	春期「情報処理演習 I」におけるエクセルの基本操作を復習するとともに、教科書「統計解析の準備をする」を熟読しておく
		事後学習	教科書にある仮想データを入力し、SPSS のデータに変換する
第 4 回	レポート報告の基本的なルールについて	事前学習	大学発行のメールアドレスの ID およびパスワードを確認し、テスト送信をしておくこと
		事後学習	エクセルファイルを添付し、テストメールを送信する
第 5 回	1 変数の記述一度数分布・代表値・散布度	事前学習	教科書「記述統計 データをわかりやすく表現する」を熟読しておく
		事後学習	講義内で扱った変数以外について代表値と散布度を求めるとともに、グラフで出力する
第 6 回	統計的仮説検定の意義	事前学習	春期の「統計学」で学習した統計的仮説検定 (z 検定および t 検定) の内容を復習しておく
		事後学習	講義内で配布するレジュメに沿って「統計的仮説検定」の手順をまとめる
第 7 回	関係の分析 1 - 相関係数と無相関検定 1 : 解析と読み取りの基本手順 -	事前学習	「第 8 章 関係を分析する」の「間隔・比率尺度同士の関係 (pp.103~)」を熟読しておく
		事後学習	講義で扱った「学習意欲得点」以外について相関係数を算出してエクセルの表にまとめる

第 8 回	関係の分析 3 - 2 × 2 のクロス集計表における ϕ 係数の算出と χ^2 検定 -	事前学習	「第 8 章 関係を分析する」の「名義尺度同士の関係 (pp. 122 ~)」を熟読しておく
		事後学習	講義で扱った変数以外の組み合わせについて χ^2 検定結果と ϕ 係数を報告にまとめる
第 9 回	関係の分析 4 - 2 × 3 のクロス集計表における V の算出と χ^2 検定後の残差分析 -	事前学習	「第 8 章」の「名義尺度同士の関係」(前回箇所+p. 131 クラメールの V) を熟読しておく
		事後学習	講義で扱った変数以外の組み合わせについて χ^2 検定結果と V を報告にまとめる
第 10 回	差の分析 1 : 対応のない t 検定	事前学習	「第 9 章 差を分析する」を熟読し、検定の選択のチャート図を理解するとともに「対応なしの t 検定」の手順を把握しておく
		事後学習	「使用教材」によって「試験 2 回目」に有意な差がみられるか検定を実施し報告にまとめる
第 11 回	差の分析 2 : 対応のある t 検定	事前学習	「第 9 章」の「差を分析する」のうち、「対応ありの t 検定」の手順を把握しておく
		事後学習	「試験 2 回目」と「試験 3 回目」に有意な差がみられるか検定を実施し、報告をまとめる
第 12 回	差の分析 3 : 対応のない一元配置分散分析と多重比較	事前学習	「第 10 章」の「差を分析する(分散分析法)」(教科書 pp. 159 ~) のうち、一要因分散分析の手順を把握しておく
		事後学習	「3 つの部署」で「試験 1 回目」に差があるかを検定し、結果を報告にまとめる
第 13 回	差の分析 4 : 対応のない一元配置分散分析と多重比較	事前学習	「第 10 章」の「差を分析する(分散分析法)」(教科書 pp. 159 ~) のうち、一要因分散分析に続く多重比較の意味と手順を把握しておく
		事後学習	「3 つの部署」で「試験 1 回目」に差があるかを検定し、多重比較 (tukey の HSD 法) の結果を含めた報告をまとめる
第 14 回	差の分析 5 : 対応のある一元配置分散分析と多重比較	事前学習	「第 10 章」の「差を分析する(分散分析法)」(教科書 pp. 159 ~) のうち、対応のある一要因分散分析の手順を把握しておく
		事後学習	講義内で指示した以外の変数について一要因分散分析を実施し、報告にまとめる
第 15 回	統計データの読み取りとは	事前学習	新聞記事など、身近にある統計データを根拠とした議論を用意する
		事後学習	「科学的報告におけるクリティカル・シンキングの意義」について 400 字にまとめる

1. 科目名 (単位数)	心理統計法 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP1141
2. 授業担当教員	末永 叔子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理学を修める上で、統計学の知識は、データを正しく扱い読み取るために必須の教養のひとつである。本講義では、統計学に関する正しい知識を習得するとともに、データを収集し、分析し、結果を読み取る能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本講義は、「統計学」の講義に継続する内容として、実際にデータを収集し、統計ソフト(SPSS)を用いて、「統計学」で習得した記述統計を実施するとともに、各種の統計的仮説検定の実際について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>代表的な統計処理について自ら統計ソフト(SPSS)を用いて実践することで、基本的なデータの扱いと読み取り方法を習得する。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができる。 2. データに合った解析法を選択できる。 3. 選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができる。 4. 解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回の演習内容についての予習と、自宅での復習が必須となるため、本シラバスの事前学習・事後学習の内容を熟読して臨むこと。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】岸学著『SPSS によるやさしい統計学 (改訂版)』オーム社。</p> <p>【参考書】山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>受講態度、課題への取り組み、小テストから総合的に評価する。</p> <p>積極的受講態度：10%</p> <p>課題提出 : 70%</p> <p>小テスト : 20%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>春期の「統計学」「情報処理演習 I」「文章表現」に継続する内容ですので、しっかり復習してから臨んでください。なお、皆さんの理解度・達成度によって講義内容を変更する場合があります。</p> <p>わからないことについては、講義内またはオフィスアワーでの質問を歓迎します。課題への取り組みを評価しますので、事前に通知のない欠席・遅刻・早退や、内容に関連しない私語・居眠りは減点の対象となります。なお、授業で課す課題の提出が成績評価の対象となるため、やむを得ず欠席・早退した場合は、必ず授業内容を確認し、課題が未提出とならないよう気をつけること。</p> <p>初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、必ず第 1 回の授業に出席してください。</p>		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション	事前学習	本シラバスの内容を熟読し、本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく
		事後学習	情報処理室の利用可能時間を調べ、大学所定の手続きに従ってコンピュータを操作する
第 2 回	「統計学」達成度確認テスト	事前学習	春期の「統計学」の講義内容 (尺度水準・記述統計・推測統計) について復習しておく
		事後学習	達成度確認テストの中で理解度が足りなかった点について、「統計学」の教科書・資料で十分に知識を補完する
第 3 回	データの入力と尺度水準: Excel・データの変換と整形: Excel→SPSS	事前学習	春期「情報処理演習 I」におけるエクセルの基本操作を復習するとともに、教科書「統計解析の準備をする」を熟読しておく
		事後学習	教科書にある仮想データを入力し、SPSS のデータに変換する
第 4 回	レポート報告の基本的なルールについて。エクセルを用いたグラフ、表の作成。	事前学習	ワードおよびエクセルの操作方法を復習する。
		事後学習	授業で作成したグラフと表をワードに転記し、印刷する。
第 5 回	1 変数の記述一度数分布・代表値・散布度	事前学習	教科書「記述統計 データをわかりやすく表現する」を熟読しておく
		事後学習	講義内で扱った変数以外について代表値と散布度を求めるとともに、グラフで出力する
第 6 回	統計的仮説検定の意義	事前学習	春期の「統計学」で学習した統計的仮説検定 (z 検定および t 検定) の内容を復習しておく
		事後学習	講義内で配布するレジュメに沿って「統計的仮説検定」の手順をまとめる
第 7 回	関係の分析 1 - 相関係数と無相関検定 1 : 解析と読み取りの基本手順 -	事前学習	「第 8 章 関係を分析する」の「間隔・比率尺度同士の関係 (pp. 103-111)」を熟読しておく
		事後学習	講義で扱った「学習意欲得点」以外について相関係数を算出して結果を文章にまとめ、エクセルで表を作成する。
第 8 回	関係の分析 3 - 2 × 2 のクロス集計表における ϕ 係数の算出と χ^2 検定 -	事前学習	「第 8 章 関係を分析する」の「名義尺度同士の関係 (pp. 122-131)」を熟読しておく
		事後学習	講義で扱った変数以外の組み合わせについて χ^2 検定結果と ϕ 係数を報告にまとめる

第 9 回	関係の分析 4 - 2 × 3 のクロス集計表における V の算出と χ^2 検定後の残差分析	事前学習	「第 8 章」の「名義尺度同士の関係」(前回箇所+p. 131 クラメールの V)を熟読しておく
		事後学習	講義で扱った変数以外の組み合わせについて χ^2 検定結果と V を報告にまとめる
第 10 回	差の分析 1 : 対応のない t 検定	事前学習	「第 9 章 差を分析する」を熟読し、検定の選択のチャート図を理解するとともに「対応なしの t 検定」の手順を把握しておく
		事後学習	「使用教材」によって「試験 2 回目」に有意な差がみられるか検定を実施し、報告をまとめる
第 11 回	差の分析 2 : 対応のある t 検定	事前学習	「第 9 章」の「差を分析する」のうち、「対応ありの t 検定」の手順を把握しておく
		事後学習	「試験 2 回目」と「試験 3 回目」に有意な差がみられるか検定を実施し、報告をまとめる
第 12 回	分散分析とは	事前学習	教科書 pp. 159-170 を熟読する。
		事後学習	学んだ分析手続きを復習する。
第 13 回	差の分析 3 : 対応のない一元配置分散分析と多重比較	事前学習	「第 10 章」の「差を分析する (分散分析法)」(教科書 pp. 170-175) を読み、一要因分散分析および多重比較の意味と手順を把握しておく
		事後学習	「3 つの部署」で「試験 1 回目」に差があるかを検定し、多重比較 (tukey の HSD 法) の結果を含めた報告をまとめる
第 14 回	差の分析 4 : 対応のある一元配置分散分析と多重比較	事前学習	「第 10 章」の「差を分析する (分散分析法)」(教科書 pp. 175-181) を読み、対応のある一要因分散分析の手順を把握しておく
		事後学習	講義内で指示した以外の変数について一要因分散分析を実施し、報告にまとめる
第 15 回	各種分析のまとめ。	事前学習	これまでに学んだ分析方法の違いと手続きを復習する。
		事後学習	仮想データを分析し、結果をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	心理療法概説 (2 単位)	3. 科目番号	EDPS3308 PSMP3382
2. 授業担当教員	水國 照充		
4. 授業形態	講義、演習、討議	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学の単位を修得しておくことが望ましい		
7. 講義概要	様々な心理療法の中から、クライアント中心療法、精神分析療法、行動療法、家族療法、芸術療法等の主要な心理療法を取り上げ、その理論と技法を体験的に学習する。また、それぞれのアプローチにおける効用と限界についての理解を深めることで、クライアント自身や問題に適した心理療法を学ぶ。		
8. 学習目標	1. 心理療法の諸理論・諸技法について、その背景となる考え方を理解し、それぞれの治療・援助の方法を具体的に知ること、その考え方や方法を日常生活に応用できるようになる。 2. 対人援助の場で、利用者や抱える問題に応じた心理的側面の援助方法を選ぶことができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業毎に課題シート (質疑応答含む) を配布するので毎時間提出すること。 2. グループディスカッション毎に配布するディスカッションシートを各自でまとめ、授業終了時に提出すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 指定はありません。資料を毎時間配布します。 【参考書】 窪内節子・吉武光世『やさしく学べる 心理療法の基礎』培風館 金沢吉展『カウンセリング・心理療法の基礎』有斐閣アルマ 青木智子、水國照充、木附千晶『エクササイズで学ぶ心理学～自己理解と他者理解のために～』北樹出版。		
11. 成績評価の方法	受講態度・参加姿勢 10% 授業時に実施する課題シート (質疑応答含む) による評価 40% 期末試験 50% 注意 1. 本学の規定により全講義回数のうち 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 2. 遅延の場合は遅延証明書を当日または次回講義までに担当教員に提出すること。 3. 遅延の累積回数が多い場合には、遅延を認めない場合もあるため注意すること。 4. 積極的な受講態度や参加姿勢は加点的な対象とする。 5. 受講態度や参加姿勢について、特に以下に示す様態は減点的な対象とする。私語、居眠り、携帯いじり、無断退室、出席の代返、その他授業と関係のない行為等。注意しても学習態度に改善が見られない場合は F 評価とする。		
12. 受講生へのメッセージ	1. 3/4 以上の出席は必須です。 2. 座席指定で授業をおこないます。指定された座席で授業を受けてください。席の移動は認めません。 3. 指定された座席に基づくグループを作り、グループディスカッションを行います。グループ毎に司会者、記録者、発表者を決めて積極的なディスカッションを行ってください。 4. 授業妨害となる行為は厳に慎んでください (上記、成績評価の方法参照)。 5. 学期末試験の持込み (ノート、配布資料等) の可否は、全受講生の受講態度や参加姿勢によって決定します。一部の受講生の授業態度が悪い場合でも、すべての受講生の持込みを不可としますので、お互いに声をかけあって積極的に授業に参加してください。		
13. オフィスアワー	授業中に周知する。(掲示参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 受講に関する諸注意	事前学習	シラバスを熟読しておく。専用ノートを用意する。
		事後学習	授業の目的、評価、授業内容についてノートにまとめる。
第 2 回	心理療法の手順～初回面接の進め方～	事前学習	授業で解説する心理療法を文献等から調べてノートにまとめておく。
		事後学習	配布された資料に挙げてある文献を 1 冊以上熟読してノートにまとめる。
第 3 回	心理療法の倫理～事例を基に考える その 1	事前学習	心理療法の倫理問題を文献等から探し 1 事例以上をノートにまとめる。
		事後学習	想定される倫理問題を 1 つ以上考えてノートにまとめる。
第 4 回	心理療法の倫理～事例を基に考える その 2	事前学習	心理療法の倫理問題を文献等から探し 1 事例以上をノートにまとめる。
		事後学習	想定される倫理問題を 1 つ以上考えてノートにまとめる。
第 5 回	心理療法の基礎～対話による支援と傾聴	事前学習	臨床心理士が行う心理療法・カウンセリングについて文献等をノートにまとめる。
		事後学習	傾聴スキル以外の主張スキル、葛藤対処スキルについてノートにまとめる。
第 6 回	精神分析の理論と技法	事前学習	フロイト (Freud, S.) について文献等で調べてノートにまとめる。
		事後学習	配布された資料に挙げてある文献を 1 冊以上熟読してノートにまとめる。

第 7 回	グループエンカウンター	事前学習	グループエンカウターの種類や効果を調べてノートにまとめる。
		事後学習	授業では扱わなかったエンカウターの技法を文献で調べてノートにまとめる。
第 8 回	行動療法の理論と技法	事前学習	アイゼンク (Eysenck, H. J.) について文献等で調べてノートにまとめる。
		事後学習	配布された資料に挙げてある文献を 1 冊以上熟読してノートにまとめる。
第 9 回	行動療法を用いた不登校事例	事前学習	文科省のウェブサイトから平成 27 年度の不登校について調べノートにまとめる。
		事後学習	他のグループが挙げた行動療法の技法を 1 つ以上ノートにまとめる。
第 10 回	クライアント中心療法の理論と技法	事前学習	ロジャーズ (Rogers, C. R.) について文献等で調べてノートにまとめる。
		事後学習	配布された資料に挙げてある文献を 1 冊以上熟読してノートにまとめる。
第 11 回	クライアント中心療法を用いたいじめ事例検討	事前学習	文科省のウェブサイトから平成 27 年度のいじめについて調べノートにまとめる。
		事後学習	「他のグループが挙げたクライアント中心療法による解釈を 1 つ以上ノートにまとめる。
第 12 回	認知行動療法の理論と技法	事前学習	欧米での認知行動療法の活用状況等についてインターネット等を使ってノートにまとめる。
		事後学習	配布された資料に挙げてある文献を 1 冊以上熟読してノートにまとめる。
第 13 回	認知行動療法を用いた気分障害事例の検討	事前学習	気分障害とは何かを調べてノートにまとめる。
		事後学習	思考記録表を使って自分の悩みや不安について、1 週間程度モニターしてみる。
第 14 回	家族療法の理論と技法	事前学習	家族療法をキーワードにインターネット等で検索し、著名な家族療法家を 1 名以上調べてノートにまとめる。
		事後学習	配布された資料に挙げてある文献を 1 冊以上熟読してノートにまとめる。
第 15 回	多世代派理論を用いたジェノグラム作成	事前学習	自分から 3 世代先までの兄弟数、仕事、特徴等を親等から聞いてノートにまとめる。
		事後学習	自分自身の未来のジェノグラムを描く。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	政治学 (国際政治を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1318 GELA1339
2. 授業担当教員	小野 智一	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、グループ討議		
6. 履修条件・他科目との関係	「国際関係論」を履修予定の学生は本科目を選択することが望ましい。本科目の履修によって左記科目の学習を充実させることができます。		
7. 講義概要	景気対策、規制緩和、地域主権、社会保障、雇用問題など「政治」の場で議論される諸問題はマスメディア報道などを通して日々われわれの耳に入ってくる。わたしたちは、住みやすい社会をつくり、市民の生活水準の向上を図るための機能を「政治」と呼んでいる。本科目では政治学の基礎的な概念を理解し、歴史的事象、時事問題を事例として政治の仕組みについて考えていく。		
8. 学習目標	1) 政治学の基本概念について理解し、説明できる。 2) 現代社会を政治学の観点から見たり考えたりすることができる。 3) 具体的な公共政策を事例として可否の検討などをとおして政治参加に必要な意思決定ができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	講義では上記をリーディングアサインメント (RA) と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習のうちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。また、講義配当時間の関係上、テキスト掲載のすべての章を取り扱うことはできないので、今回対象外とする章については以下に示す課題例を参考に各自で読み進めるようにしてください。各回で関連ある内容の章を紹介します。課題例はその都度補足します。 課題例： ①官僚と政治家どちらが信用できるのか。(第9章) ②戦前と戦後。日本をめぐる国際環境はどのように変わったのか。(第10章) ③「外庄」によって国内の仕組みが変わった？(第11章) ④環境問題の解決はなぜ難しいのか。(第12章) ⑤汚職に手を染めるものの経済発展を実現できる政治家と、清廉潔白で人間的に優れているが経済運営が下手な政治家。どちらが望まれるか。 ⑥若者は政治に無関心か？		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 北山俊哉・真淵勝・久米郁男『はじめて出会う政治学 構造改革の向こうに』有斐閣アルマ、2009 年。(以下、シラバス内ではこの文献をテキストと呼称する。) 【参考書】 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 1) 山口二郎『政治のしくみがわかる本』岩波ジュニア新書、2009 年。 教科書を一回りやさしくした内容で政治について解説しています。教科書にやや難しさを覚えたときには、参照することをお勧めします。巻末には、学術書以外で政治について学べるブックリストも付いています。 2) 久米郁男・川出良枝・古城佳子他『政治学』有斐閣、2011 年補訂。 政治学の全領域をカバーする教科書を目指して編集された本書は、おおよその政治的トピックについては参照することが可能です。しかも日本の政治の動きをベースとして政治学概念を説明しており、日本の読者にとって理解しやすい記述をしてあることも特色です。教科書のレベルを卒業した学生向きです。 3) 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 4) 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の方法	リーディングアサインメント (30%)、授業への取り組み (発表なども含む) (30%)、試験 (40%) を評価の配分とします。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めません。		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、こうしている間にも刻々と変化する社会を「政治」という視点から考えるものです。よって時にはテキストに書かれていないトピックが私たちの前に立ちはだかることがあります。そのため、シラバスの授業内容に無いトピックで、学生側からの希望があれば、内容を確認し、受講者とともに審議したうえで授業内容として取り上げるようにしていきます。「政治学」について関心あるテーマがあれば授業時に提案してください。 本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。 ①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 また、教員は次のことを実行します。 ①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 ②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言・発表等)できる双方向対話型の学習環境を作ります。 ④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話(メール・通話)の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。 本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者		

	の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。	
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくは e-mail にて対応します。 toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp	
14. 授業展開及び授業内容		
講義日程	授業内容	学習課題
第 1 回	オリエンテーション (シラバスの解説がありますので本講座該当ページのみ印刷するなどでもよいので必ず持参のこと。) 政治学のテーマである「権力」について考察する。権力を行使する主体は何か、誰が権力を行使すべきか、権力の行使がなぜ認められるのかを考察する。	事前学習 テキスト pp.239-246. に紹介されている用語についてよく知っているもの、聞いたことがあるが詳細を知らないもの、初見のものと同分類する。
		事後学習 本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のアサインメント(課題)に取り組む。
第 2 回	組織化された集団 (鉄の三角同盟、フリーライダー) 利益集団が組織されるのはなぜか。鉄の三角同盟、多元的民主主義の観点から考える。	事前学習 (第 2 回から第 15 回の事前学習) 前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。 ①なぜ特定の業界の利益が「政治」に守られるのだろうか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 3 回	官と民の関係① (市場の失敗) 市場の失敗の観点から政府の役割について考える。	事前学習 ②市場の失敗を解決するためには何が必要か?
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 4 回	官と民の関係② (政府の失敗) 政府の失敗を通して政府の限界について考察する。	事前学習 ③どうすれば政府の失敗をなくすことができるのか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 5 回	大企業と政治① (規制、資本主義、経済団体、圧力団体) 大企業の行動を事例として影響力資源について考える。	事前学習 ④企業はなぜ政権与党に政治献金をするのだろうか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 6 回	大企業と政治② (規制、資本主義、経済団体、圧力団体) 政策決定に影響力を及ぼすものは何かを考える。	事前学習 ⑤何が影響力資源となるのか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 7 回	選挙と政治① (選挙制度) 政策投票をめぐる問題を中心に選挙について考察する。	事前学習 ⑥政策で投票する議員候補を選ぶのはどうして難しいのだろうか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 8 回	選挙と政治② (政党の機能) 選挙制度の違いによって実現される世論はどう異なるのかを考える。	事前学習 ⑦政党の選挙での役割は何か。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 9 回	地方分権① (国と地方との関係、基礎自治体と市町村合併) 日本における地方自治のあり方を考える。	事前学習 ⑧日本における中央政府と地方の関係を説明しなさい。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 10 回	地方分権② (国と地方との関係、基礎自治体と市町村合併) 革新知事、革新市長はなぜ誕生したのかについて考える。	事前学習 ⑨地方政府の首長の役割とは。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。

第 1 1 回	マスメディアと政治について考える①（第 4 の権力） 第 4 の権力とは何を意味するのか考える。	事前学習	⑩テレビやラジオが法律で中立性を求められるのはなぜか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 2 回	マスメディアと政治について考える②（政治過程への影響） 政策実現過程におけるマスメディアの役割について考察する。	事前学習	⑪マスメディアの影響力は強いのか、弱いのか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 3 回	国会①（政治過程） 議院内閣制のもとでの国会の影響力について考える。	事前学習	⑫野党の国会戦術とは。国会のルールについて知ろう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 4 回	国会②（立法） 日本を事例として国会で審議される法案を手掛かりに考察する。	事前学習	⑬日本とイギリス・アメリカの国会（立法）の特徴を指摘してみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 5 回	内閣と総理大臣（議院内閣制、大統領制、行政 1） 日本の内閣総理大臣とアメリカの大統領。どちらがよりリーダーシップを行使できるのか考える。リーダーシップを発揮するための条件に付いて考える。	事前学習	⑭総理大臣が短命（任期満了以前に早期退陣）なのはよくないことなのか。 pp.239-246.に紹介されている用語についてどれだけ理解が進んだのか確認する。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神医学 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP3324 SNMP3324 SCMP2124 SBMP3324 PSMP2315 EDHE2306												
2. 授業担当教員	先崎 章、吉田 尚史														
4. 授業形態	講義、グループ発表および全体討論	5. 開講学期	春期												
6. 履修条件・ 他科目との関係															
7. 講義概要	<p>精神保健福祉士（および他の援助専門職）としての実務に役立つ精神医学の基本知識を身につける。統合失調症（精神分裂病）、躁うつ病など、主要な疾患の学習を通して、精神障害者の心理社会的側面についての理解を深める。脳および神経の生理・解剖、臨床および分子遺伝学の概要を把握し、その生物学的側面についても留意する。代表的な精神疾患の従来診断、DSM 診断、ICD 診断を学習する。薬物療法はもとより、さまざまな精神療法的アプローチについても学習する。また、精神障害者を地域社会のなかで治療するための地域精神医療について学習する。</p>														
8. 学習目標	<p>以下の項目について理解し、説明できるようになることを学習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医学、精神医療の歴史を理解する。 2. 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。 3. 精神医学の概念について理解する。 4. 精神疾患の従来診断および操作診断について理解する。 5. 代表的な精神疾患の病因・症状・経過について理解する。 6. 薬物療法およびその副作用について理解する。 7. 精神療法、家族療法など心理社会的アプローチの概要について理解する。 8. 病院精神医学および地域精神医学について理解する。 														
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>南カリフォルニア大学 (USC) 編「シミュレーションによる精神科患者インタビュー」(日本語吹きかえビデオ) 各巻を使用し、グループ発表および全員に対するレポートを課す。 各巻の内容は以下の通りである。①双極感情障害 躁病性、②神経性無食欲症、③大うつ病 単一エピソード、④反社会的人格障害、⑤アルコール乱用、⑥精神分裂病性障害 解体型、⑦双極感情障害 うつ病性、⑧気分変調性障害 抑うつ神経症、⑨依存性人格障害、⑩恐慌発作を伴う空間恐怖症、⑪アルコールおよび薬剤性痴呆、⑫精神分裂病性障害 妄想型。</p>														
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 改訂 新版 精神保健福祉士養成セミナー第 1 巻『精神医学—精神疾患とその治療』へるす出版。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 【参考書】 北村俊則著『精神・心理症状学ハンドブック』日本評論社。 笠原嘉著『精神病』岩波新書。 ヘル、フィッシャー・フェルテン著 (植木・曾根監訳)『みんなで学ぶ精神分裂病 —正しい理解とオリエンテーション』星和書店。 【教材】 南カリフォルニア大学 (USC) 編『シミュレーションによる精神科患者インタビュー』(日本語吹きかえビデオ)</p>														
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>随時行われるミニテストの総計点数</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>グループ発表の際の加点法による評価</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート課題に対する評価得点の総計</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>終講試験①多肢選択問題</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>②論述問題</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </table>			随時行われるミニテストの総計点数	15%	グループ発表の際の加点法による評価	10%	レポート課題に対する評価得点の総計	25%	終講試験①多肢選択問題	25%	②論述問題	25%	計	100%
随時行われるミニテストの総計点数	15%														
グループ発表の際の加点法による評価	10%														
レポート課題に対する評価得点の総計	25%														
終講試験①多肢選択問題	25%														
②論述問題	25%														
計	100%														
12. 受講生への メッセージ	<p>毎回、授業内容の重要項目のみゴシック体でプリントアウトしたものを全員に配付する。各自、授業を聴きながら、その余白に書き込んで自前のノートをつくる。この作業には、なによりも授業の脈絡をつかむことが要求される。ビデオ教材にもとづく症状の評価をはじめ、講義というよりは実習に近い。精神保健福祉士（および他の援助専門職）として実務をこなすための基本的な記述能力を身につけよう。 本科目における学習目標は先に掲げた通りであるが、付加価値として次の項目を補足しておく。パトグラフィ（病跡学）やアートセラピー（芸術療法）から適宜素材を選び、スライドにて提示する。精神疾患は単に障害としてだけでなく、創造と紙一重の危機としても理解できる。こういう側面についての知見を補うことは、精神疾患に対する感受性トレーニングになるはずである。</p>														
13. オフィスアワー	<p>授業中に通知する。 研究室 26 (1 号館 4 階)</p>														
14. 授業展開及び授業内容															
講義日程	授業内容	学習課題													
第 1 回	精神医学・精神医療の歴史 (欧米) : 古代、中世、近世、近代、第 2 次世界大戦後、現代 (DSM による操作主義の採用)、正統精神医学と力動精神医学	事前学習	精神科の病気について、まずイメージを思い浮かべてみよう。												
		事後学習	DSM と ICD の両方に目が配れるようにしておこう。												

第 2 回	精神医学・精神医療の歴史（日本）：わが国における精神医療の変遷（古代から近世まで、明治、大正、昭和〔敗戦まで〕、昭和〔戦後〕・平成）	事前学習	狐憑きなど、昔の日本によくみられた迷信について考えてみよう。
		事後学習	欧米と日本の精神医療史を比べて、どういう違いがあるだろうか。
第 3 回	脳および神経の生理・解剖 1：脳と心の関係、神経系の発生と構成、ニューロンおよびシナプスの構成（神経伝達物質についての知識）	事前学習	脳と心の関係について、常識的な考え方を整理してみよう。
		事後学習	脳を肉眼で側面から見た図を描き、言語中枢を指し示してみよう。
第 4 回	脳および神経の生理・解剖 2：中枢神経系（脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳：前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉、大脳辺縁系、大脳基底核）、末梢神経系	事前学習	知・情・意の脳におけるおおまかな局在を思い浮かべてみる。
		事後学習	神経伝達物質を少なくとも 4 つは列挙できるようになっているか。
第 5 回	精神医学にとって鍵となる概念：正常と異常の問題、精神病理学（了解と説明）、精神分析学（葛藤、防衛機制）、操作的診断基準	事前学習	精神の健康とはなにか、改めて自分の考えを文章に書いてみよう。
		事後学習	ヤスバースの「了解」（理解）の概念について、よく復習しておこう。
第 6 回	精神障害の成因、用語、分類：外因・内因・心因、病態・挿話、治癒・緩解、再燃・再発・増悪、ICD の診断ガイドライン、DSM の操作的診断基準	事前学習	外因・内因・心因という用語の意味について少し予習しておこう。
		事後学習	ある病態を心因によると判定するための基準について述べよ。
第 7 回	精神科における面接の仕方：問診表、面接を進めるときの注意、問診の順序、カルテ記載の仕方、精神的現在症、さまざまな状態像	事前学習	「話す能力」と「聞く能力」のうちで、どちらが大切だと思うか。
		事後学習	精神科で扱われるさまざまな状態像について、解説できるだろうか。
第 8 回	身体検査と心理検査：一般身体検査（神経学的所見）、一般臨床検査、神経学的補助診断法（頭部 X 線、CT、MRI、PET、EEG）、遺伝子診断、心理検査、症状評価尺度	事前学習	精神科で身体検査が重要なのはなぜだろうか、考えてみよう。
		事後学習	ニューロイメージングのうちで「無侵襲」といえるのはどれか。
第 9 回	症状性を含む器質性精神障害：意識障害、健忘症状群、認知症（アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、びまん性レビー小体病、ピック病など）、軽度認知機能障害（MCI）、AChE 阻害剤	事前学習	意識障害と認知症との違いについて、理解しているだろうか。
		事後学習	三大認知症を列挙し、それぞれの臨床経過をまとめておくこと。
第 10 回	精神作用物質使用による精神および行動の障害：急性中毒、依存、離脱状態、フラッシュバック、アルコール関連障害（振戦せん妄を含む）	事前学習	精神依存と身体依存の 2 つについて、少し予習しておこう。
		事後学習	覚醒剤精神病のフラッシュバックについて、説明できるだろうか。
第 11 回	統合失調症（精神分裂病）1：概念の歴史、診断・徴候・症状（プロイラーの症状基準、シュナイダーの一級症状、DSM-IV の診断基準）、病型、経過と予後	事前学習	幻覚と妄想について、これまで習ったことをもう一度復習しよう。
		事後学習	DSM-IV の診断基準のポイントをしっかりと整理しておくこと。
第 12 回	統合失調症（精神分裂病）2：疫学、病因（遺伝学的、生物学的、心理社会的）、治療（薬物療法、ECT、その他）、妄想性障害および他の精神障害	事前学習	遺伝因と環境因のどちらが重要か、自分なりに考えてみる。
		事後学習	脆弱性 - ストレスモデルについて、明解に説明できるだろうか。
第 13 回	気分〔感情〕障害（躁うつ病）1：概念と歴史、抑うつと躁状態、うつ病性障害、双極性障害、気分変調性障害	事前学習	統合失調症との一番の違いはどこに求めることができるだろうか。
		事後学習	双極 I 型と双極 II 型それぞれの臨床経過像を図示してみる。
第 14 回	気分〔感情〕障害（躁うつ病）2：病前性格と発病状況、疫学、縦断的経過のスキーマ、患者に接する際の注意点、抗うつ薬、抗躁薬、気分安定薬、SSRI（選択的セロトニン再取り込み阻害剤）	事前学習	うつ病になりやすい人のパーソナリティ特徴について考えよう。
		事後学習	代表的な気分安定薬を 3 種類列挙して試みることができるだろうか。
第 15 回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 1：恐怖症性不安障害、パニック発作、全般性不安障害、強迫性障害、重度ストレス反応および適応障害	事前学習	これが「了解可能」な精神疾患であることを銘記してほしい。
		事後学習	PTSD について、症状と経過の概要をまとめておくこと。
第 16 回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 2：解離性（転換性）障害、身体表現性障害、離人・現実感喪失症候群、神経衰弱	事前学習	フロイトの精神分析はどのような臨床経験に基づくものであったか。
		事後学習	転換ヒステリーと解離ヒステリーという分け方も理解しておく。
第 17 回	摂食障害：神経性無食欲症（anorexia nervosa）、神経症性大食症（bulimia nervosa）、社会文化的背景、行動療法・家族療法	事前学習	拒食症よりも過食症のほうが増えているのはなぜだろうか。
		事後学習	過食症に制限型と排出型の 2 種があることを銘記しよう。
第 18 回	睡眠障害：不眠、過眠、ナルコレプシー、睡眠・覚醒サイクル障害、パラソムニア、睡眠時無呼吸症候群、睡眠による脳波の変化	事前学習	一口に「不眠」と言っても、いろいろなタイプがありそうである。
		事後学習	ナルコレプシーの睡眠脳波にはどのような特徴があるだろうか。
第 19 回	精神の人格および行動の障害 1：人格障害とは、奇妙で	事前学習	最近では「人格」よりも「パーソナリティ」の

	風変わりな群、演技的・感情的でうつろいやすい群、不安や恐怖を感じやすい群		ほうが用いられる。
		事後学習	境界性パーソナリティ障害の臨床症状を整理しておくこと。
第 20 回	精神の人格および行動の障害 2 : 脳損傷および脳疾患によらない持続的人格変化、習慣および衝動の障害、性同一性障害、性嗜好障害、虚偽性障害 (ミュンヒハウゼン症候群)	事前学習	欧米に比べ、日本では、性に関する臨床研究が立ち遅れている。
		事後学習	虚偽性障害、とくに「ミュンヒハウゼン症候群」を覚えておこう。
第 21 回	精神遅滞および発達の障害 : 精神遅滞とは、精神遅滞の病因、自閉性障害 (高機能、中機能および低機能自閉症)、アスペルガー障害	事前学習	最近では「精神遅滞」よりも「知的障害」のほうが用いられる。
		事後学習	DSM-V の「自閉症スペクトラム障害」についても学習してみよう。
第 22 回	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害 : 多動性障害、行為障害、情緒障害、その他 (選択的緘黙、チック障害など)	事前学習	児童精神医学という領域は、昨今ますます重要視されつつある。
		事後学習	ADHD の治療薬として処方される薬剤の一般名を覚えておこう。
第 23 回	てんかん : 定義、疫学、病因、発作閾値、分類、発作のタイプ、診断、治療、脳波検査法と脳波周波数の分類	事前学習	てんかんが精神科の病気でもあることを銘記してほしい。
		事後学習	正常脳波と比べながら、異常脳波の特徴について理解する。
第 24 回	その他の神経系の疾患 : 感染性疾患、脱髄性疾患、代謝疾患・栄養障害、変性疾患、プリオン病、磁気共鳴映像法 (MRI)	事前学習	精神症状が身体疾患にもよくあらわれることを忘れないように。
		事後学習	CT および MRI の所見に即して、いくつかの脳疾患を復習する。
第 25 回	薬物療法とその副作用 : 向精神薬の歴史、薬物療法における注意事項、抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬、電気ショック療法	事前学習	脳内の神経伝達物質について、これまで習ったことを整理しよう。
		事後学習	新世代型抗精神病薬の最大の利点について述べられるだろうか。
第 26 回	精神療法および環境・社会療法 : 一般精神科医の精神療法、精神分析、森田療法、認知・行動療法、集団精神療法、家族療法	事前学習	正統精神医学と力動精神医学の対比のことを思い起こそう。
		事後学習	精神分析でいう「転移」および「逆転移」について説明できるか。
第 27 回	精神科リハビリテーション : 蜂矢による ICDH による障害構造論、院内および院外リハビリテーション、精神科クリニック、精神科デイケア	事前学習	「精神疾患」と「精神障害」のニュアンスの違いはどこにあるか。
		事後学習	ICDH の改訂版 ICF についても少し予習しておくことが望ましい。
第 28 回	病院精神医療から地域精神医療 : 日本における精神病院の概要、精神保健福祉法と精神病院、精神科救急医療、地域精神医療	事前学習	精神科での「保健」「医療」「福祉」をイメージアップしてみよう。
		事後学習	日本の精神科医療に「脱施設化」が生じないのはなぜだろうか。
第 29 回	授業の総括と補足 (病跡学、表現精神病理学からの話題 ; 認知神経科学、分子精神医学の展望など)	事前学習	返却されたミニ・テストの結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	現代精神医学のいくつかのトピックについて、自分で調べてみよう。
第 30 回	まとめ	事前学習	返却されたミニレポートの結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	教員との質疑で浮上した疑問点について、自分で解決しておく。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	精神科ソーシャルワーク論 I (2 単位)		3. 科目番号	SCMP2127 PSMP2427
2. 授業担当教員	藤島 薫・谷口恵子			
4. 授業形態	講義、集団討議、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	相談援助を実施するにあたって、基礎となるべき事柄を学ぶ。特に本授業では総合低包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含めた精神保健福祉士の役割と意義について学ぶ。さらに同じ相談援助の専門職である社会福祉士の役割と意義について学ぶとともに、人権尊重、社会正義、利用者主体などの相談援助の理念について理解を深め対人援助の専門職としての基盤を養うことを目的とする。			
8. 学習目標	以下の点について理解することが期待される。 ①精神保健福祉士の役割と意義 ②社会福祉士の役割と意義 ③相談援助の概念と範囲 ④相談援助の理念			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	課題レポート① 「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義 (2014)」を熟読し、「定義」、「中核となる任務」、「原則」、「知」、「実践」から一つを選択し、その解説と、自分が精神保健福祉士になった時にどのように実践に活かすかについて論述しなさい」 課題レポート② 「精神障害者のリカバリーを支えるとはどういうことかについて論述しなさい」			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 新版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂新版・精神保健福祉士養成セミナー 3「精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門]』へるす出版、2014。			
11. 成績評価の方法	評価方法 試験及びレポート：80% 授業態度：20%			
12. 受講生への メッセージ	精神科ソーシャルワーク論 I・II は精神保健福祉士の専門性を学ぶ上での基盤となる内容で連動して構成されている科目です。事前学習と事後学習をしっかりと行って授業に臨み理解を深め単位を落とすことのないようにして下さい。この科目が理解できることで、精神保健援助技術論、演習、実習へとつながることが出来ますので、しっかりと学ぶよう心がけて下さい。当然のことですが、欠席、遅刻、早退をしないことはもちろんのこと、授業中には集中して積極的に参加して下さい。			
13. オフィスアワー	別途通知する (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	近年の精神保健福祉の動向 精神科ソーシャルワーク論を学ぶ意義 精神科ソーシャルワーク論 I の授業概要	事前学習	「刊行にあたって」を読み近年の精神保健福祉の動向をまとめること。	
		事後学習	「入院から地域へ」に至る背景と、精神障害者の地域生活支援の重要性についてまとめること。	
第 2 回	精神保健福祉士の役割と意義① 精神保健福祉士成立に至る歴史的経緯	事前学習	テキスト 1～12 ページ、71～75 ページを読んでくること。	
		事後学習	精神保健福祉士が国家資格として成立するに至る経緯をまとめること。	
第 3 回	精神保健福祉士の役割と意義② 精神保健福祉士の専門性と社会福祉士の専門性	事前学習	テキスト 13～17 ページを読んでくること。	
		事後学習	法律で規定されたそれぞれの役割と機能をまとめること。	
第 4 回	精神保健福祉士の専門職倫理① 日本精神保健福祉士協会倫理綱領	事前学習	日本精神保健福祉士協会の倫理綱領を読んでくること。	
		事後学習	現行の倫理綱領に至る背景についてまとめること。	
第 5 回	精神保健福祉士の専門職倫理② 専門職倫理とジレンマ 事例によるディスカッション	事前学習	想定される専門職倫理とジレンマについて考えてくること。	
		事後学習	事例におけるジレンマ分析をふり返り、倫理綱領がどのように機能するのか考察すること。	
第 6 回	ソーシャルワークの形成課程と精神保健福祉士① ソーシャルワークの発展過程	事前学習	テキスト 29～35 ページを読んでくること。	
		事後学習	ソーシャルワークの発展過程を時系列で整理すること。	
第 7 回	ソーシャルワークの形成課程と精神保健福祉士② イギリスにおける精神保健福祉の歴史	事前学習	テキスト 59～64 ページを読んでくること。	
		事後学習	イギリスにおけるソーシャルワークの歴史とわが国への影響についてまとめること。	
第 8 回	ソーシャルワークの形成課程と精神保健福祉士③ アメリカにおける精神保健福祉の歴史	事前学習	テキスト 64～71 ページを読んでくること。	
		事後学習	アメリカの精神保健福祉発展の理解とわが国への影響をまとめること。	

第 9 回	ソーシャルワークの形成課程と精神保健福祉士④ イタリア、北欧における精神保健福祉の歴史	事前学習	イタリアの脱施設化について、文献などを探して調べてくること。
		事後学習	イタリア、北欧における精神保健福祉の歴史と新しい取組みについてまとめること。
第 10 回	相談援助の範囲と概念① ソーシャルワーク専門職のグローバル定義「定義」、「中核となる任務」、「原則」、「知」、「実践」	事前学習	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義に関する課題レポートを作成すること。
第 11 回	相談援助の範囲と概念② ソーシャルワーク実践の総合的理解	事前学習	これまでの学習を通して、ソーシャルワークとは何かについて考察をしてくる。
		事後学習	ソーシャルワーク実践の価値、目的、領域、対象、方法などの概要を体系的にまとめること
第 12 回	相談援助の価値と理念① ソーシャルワークの支援関係における価値と理念 利用者主体と自立支援、協働による支援関係とは ディスカッション	事前学習	テキスト 40～46、69～71 ページを読み、支援関係の転換についてまとめてくること
		事後学習	ディスカッションを通して考えた協働による支援関係についてまとめること
第 13 回	相談援助の価値と理念② 人権尊重、社会正義、社会的包摂、ノーマライゼーション、キーワードに基づくディスカッション	事前学習	テキスト 46～68 ページを読み、人権の尊重、社会正義などについて考えてくること
		事後学習	授業で学んだ価値と倫理のキーワードについてまとめること
第 14 回	相談援助の価値と理念③ 尊厳の保持、権利擁護、エンパワメント、リカバリー、キーワードに基づくディスカッション	事前学習	テキスト 46～68 ページを読み、尊厳の保持、権利擁護、エンパワメントなどについて考えてくること
		事後学習	精神障害者のリカバリーについて考察し、課題レポート②を作成すること
第 15 回	精神科ソーシャルワーク論 I のまとめ 授業内で指定したテーマに基づくディスカッション	事前学習	テキスト、資料などを見直し、これまでに学んだことを確認してくること
		事後学習	授業で行ったディスカッションについてまとめること。また、期末試験に向けて、各回の授業内容を再度見直し理解を深めること
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SCMP2127 PSMP2427
2. 授業担当教員	藤島 薫・小金澤 嘉			
4. 授業形態	講義、集団討議、演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解をする。保健、医療、福祉等の各分野における相談援助の対象及び相談援助の基本的考え方を理解するとともに、各分野における相談援助に係る専門職や他職種の専門性などについても理解する。また、精神障害者の相談援助における権利擁護について、自己決定のあり方や権利擁護システムなどについて具体的に学ぶ。さらに、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について学ぶことを目的とする。			
8. 学習目標	以下の点について理解することが期待される。 ①精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方。 ②相談援助に係る専門職(地域、行政、精神科病院、精神科診療所を含む)の概念と範囲 ③精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 ④精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携(チームアプローチを含む)の意義と内容			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	課題レポート① 「ライフステージにおけるメンタルヘルスの課題についてまとめ、精神保健福祉士の役割について論述しなさい」 課題レポート② 「精神保健福祉分野における権利擁護の意義と役割について、自立支援、利用者主体、自己決定など、多角的な視点を踏まえて考察し論述しなさい」			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 新版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂新版・精神保健福祉士養成セミナー 3「精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門]』へるす出版、2014。 【参考書】 新版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂新版・精神保健福祉士養成セミナー 2「精神保健の課題と支援』へるす出版、2014。			
11. 成績評価の方法	評価方法 期末試験及び課題レポート：80% 授業態度：20%			
12. 受講生への メッセージ	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱは精神保健福祉士の専門性を学ぶ上での基盤となる内容で連動して構成されている科目です。事前学習と事後学習をしっかりと行って授業に臨み理解を深め単位を落とすことのないようにして下さい。この科目の理解ができることで、精神保健援助技術論、演習、実習へとつながることがありますので、しっかりと学ぶよう心がけて下さい。当然のことですが、欠席、遅刻、早退をしないことはもちろんのこと、授業中には集中して積極的に参加して下さい。			
13. オフィスアワー	別途通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	精神科ソーシャルワーク論Ⅰのふり返り 精神科ソーシャルワーク論Ⅱの授業概要 現代のメンタルヘルスに関わる問題についてディスカッション	事前学習	現代社会における様々なメンタルヘルスに関わる課題を新聞などで探してくること。	
		事後学習	現代のメンタルヘルスの背景についてまとめること。	
第2回	精神保健福祉分野における相談援助の体系① 相談援助の基本的考え方 ミクロからマクロ、ソーシャルワークの体系、実践モデル	事前学習	テキスト 84～97 ページを読んで、実践モデルの変遷について理解してくること。	
		事後学習	ソーシャルワークの体系および実践モデルについての要点をまとめること。	
第3回	精神保健福祉分野における相談援助の体系② ソーシャルワークの基本的展開過程 ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク	事前学習	テキスト 104～123 を読んで、ケース、グループ、コミュニティの展開過程を理解してくること。	
		事後学習	それぞれの展開過程における精神保健福祉士の役割と機能についてまとめること。	
第4回	精神保健福祉分野における相談援助の体系③ 相談援助の対象 医療機関、地域生活支援、司法、精神保健センターなど	事前学習	精神障害者が生活をする上で、どのような資源を利用するのかについて考えてくること。	
		事後学習	それぞれの社会資源が対象とする利用者についてまとめること。	
第5回	精神保健福祉分野における相談援助の体系④ 相談援助の現状と今後の課題 ライフステージや職場・社会環境におけるメンタルヘルスの問題	事前学習	テキスト 21～28、158～170 を読んで、社会状況やライフステージについて理解をしてくること。	
		事後学習	講義およびディスカッションによる学びをもとにして、課題レポート①を作成すること。	
第6回	精神保健福祉に関わる専門職① 医療機関 メディカルスタッフ、コメディカルスタッフ	事前学習	医療機関にはどのような専門職がいるか調べてくること。	
		事後学習	メディカルスタッフ、コメディカルスタッフの役割についてまとめること。	

第 7 回	精神保健福祉に関わる専門職② 福祉行政・関連行政機関 福祉事務所現業員、社会復帰調整官、障害者職業カウンセラー 等	事前学習	福祉行政・関連行政機関にはどのようなものがあるか調べてくること。
		事後学習	福祉行政・関連行政機関に配置されている専門職や職員の役割についてまとめること。
第 8 回	精神保健福祉に関わる専門職③ 地域福祉施設 生活相談員、職業指導員、サービス管理責任者、等	事前学習	地域福祉施設にはどのようなものがあるか調べてくること。
		事後学習	地域福祉施設に配置されている職員の役割についてまとめること。
第 9 回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲① 相談援助における権利擁護の概念と範囲	事前学習	テキスト 150～158 を読んで、精神障害者の権利について考えてくること。
		事後学習	精神障害者の権利を擁護することについて、歴史的背景および社会状況を踏まえまとめること。
第 10 回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲② 権利擁護システムと、当事者の自己決定、意思決定能力 キーワードに関するディスカッション	事前学習	当事者の自己決定と意思決定能力について考えてくること。
		事後学習	ディスカッションを通して学んだことを踏まえ、精神障害者の権利擁護についてまとめること。
第 11 回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲③ 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割 事例を使ってディスカッション	事前学習	精神保健福祉士の倫理綱領を読み、権利擁護をどのように実践するのかについて考えてくること。
		事後学習	授業内容と事例に関するディスカッションを通して、課題レポート②を作成すること。
第 12 回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携① 総合的・包括的援助を支える理論と機能	事前学習	テキスト 137～140 ページを読んでくること。
		事後学習	精神保健福祉活動において、他職種連携の必要性についてまとめること。
第 13 回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携② 他職種連携とチームアプローチの意義と概要	事前学習	テキスト 140～149 ページを読んで精神保健福祉士が他職種と連携する上でのポイントをまとめてくること。
		事後学習	支援をする上で、他職種の連携がどのように機能するのかについてまとめること。
第 14 回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携③ 他職種連携における精神保健福祉士の役割 事例を使ったディスカッション	事前学習	支援者と当事者の連携にはどのようなメリットがあるかをまとめてくること。
		事後学習	事例を使ったディスカッションを通して、当事者や家族の参加による支援のあり方についてまとめること。
第 15 回	精神科ソーシャルワーク論Ⅱのまとめ テーマに基づくディスカッション	事前学習	テキスト、資料などを見直し、これまでに学んだこと確認してくること。
		事後学習	授業で行ったディスカッションについてまとめること。また、期末試験に向けて、各回の授業内容を再度見直し理解を深めること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神科リハビリテーション学 (4 単位)	3. 科目番号	SCMP2125 PSMP2425												
2. 授業担当教員	先崎 章、吉田 尚史	5. 開講学期	秋期												
4. 授業形態	講義、グループ発表および全体討論														
6. 履修条件・ 他科目との関係															
7. 講義概要	精神保健福祉士が行う精神科リハビリテーション業務の基本的知識を身につける。すでに学んだ精神医学の復習、これから学ぶ精神保健福祉論の予習にもなる。一般目標「障害者の全人的復権」に、精神障害ならではの独自性を加えていく。その際の基本原則、プロセスはもとより、さまざまな技術や方法についても学ぶ。生活技能訓練については、特定のシナリオを用いてシミュレーション・トレーニングを行う。総じて、他職種と連携しながら国家資格としての専門性が発揮できる素地を造り上げる。また、総合支援法や医療観察法など、関連する新しい法律についても学習を促す。														
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科リハビリテーションの概念、原則、対象、諸相について理解する。 2. 実際のプロセスを精神障害の時間的发展、精神医療の空間的拡大に即して理解する。 3. 精神障害のストレス-脆弱性-対処技能モデルについて理解する。 4. 生活技能訓練 (SST) をはじめ、さまざまなリハビリテーション技術について理解する。 5. 精神障害者ケアマネジメントの歴史、理念、類型、技法について理解する。 6. 旧精神保健福祉法の福祉的サービスから総合支援法新体系サービスへの移行について理解する。 														
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>精神科リハビリテーションの主要な対象は統合失調症 (精神分裂病) の患者である。この疾患を包括的に理解するため、クリストファー S. エイメンソン (松島義博、荒井良直訳) 『精神分裂病の家族心理教育カリキュラム』(パワーポイント教材) を利用する。</p> <p>内容は、①脳の疾患、②原因、経過、予後、③治療と回復、④抗精神病薬療法、⑤心理社会的リハビリテーション、⑥回復に必要な家族の態度と技能、以上である。各グループが 1 テーマを担当し、スライド提示による発表を行う。テーマごとに全体討論がなされ、そのつどレポート課題を抽出していく。</p>														
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 改訂 新版 精神保健福祉士養成セミナー第 5 巻『精神保健福祉におけるリハビリテーション』へるす出版。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 久保・長山・岩崎編『精神障害者地域リハビリテーション実践ガイド』日本評論社。 東大生活技能訓練研究会編『わかりやすい生活技能訓練』金剛出版。 高橋茂樹・成田すみれ監修『障害者総合支援法がわかる本』成美堂出版。 蜂矢英彦監修『コメディカルスタッフのための精神障害 Q&A』中央法規。</p> <p>【教 材】 エイメンソン (松島義博、荒井良直訳) 『精神分裂病の家族心理教育カリキュラム』(パワーポイント教材)</p>														
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>随時行われるミニ・テストの総計点数</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>グループ発表の際の加点法による評価</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート課題に対する評価得点の総計</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>終講試験①多肢選択問題</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>②論述問題</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </table>			随時行われるミニ・テストの総計点数	15%	グループ発表の際の加点法による評価	10%	レポート課題に対する評価得点の総計	25%	終講試験①多肢選択問題	25%	②論述問題	25%	計	100%
随時行われるミニ・テストの総計点数	15%														
グループ発表の際の加点法による評価	10%														
レポート課題に対する評価得点の総計	25%														
終講試験①多肢選択問題	25%														
②論述問題	25%														
計	100%														
12. 受講生への メッセージ	<p>毎回、授業内容の重要項目のみゴシック体でプリントアウトしたものを全員に配付する。各自、授業を聴きながら、その余白に書き込んで自前のノートをつくる。この作業には、なによりも授業の脈絡をつかむことが要求される。パワーポイント教材にもとづくプレゼンテーションなど、講義というよりは実習に近い。精神保健福祉士としての実務に役立つ基本的な表現能力を身につけよう。</p> <p>教科書には、諸外国の精神科リハビリテーションとしてイギリス、フランス、カナダ、アメリカ、イタリアの例が挙げられている。時間にゆとりがあるとき、統合失調症概念の発祥の地スイスにおける 2 つのプロジェクトについて紹介したい。ベルン大学精神科の統合心理療法(ITP)およびゾテリア住居共同体である。精神保健福祉士として 21 世紀の精神医療を担うみなさんにとって、刺激的な話題であろう。</p>														
13. オフィスアワー	授業中に通知する。 研究室 26 (1 号館 4 階)														
14. 授業展開及び授業内容															
講義日程	授業内容	学習課題													
第 1 回	リハビリテーションの概念と歴史：「リハビリテーション」の語義、リハビリテーションの歴史、国際障害分類 (ICIDH)、リハビリテーションの分類、ADL から QOL へ	事前学習	テーマが「精神疾患」から「精神障害」へと移ることになる。												
		事後学習	リハビリテーションという語の由来、その歴史について理解する。												
第 2 回	リハビリテーションの理念と原則：「全人的復権」ということ、「障害」と「障害者」の違い、多様な専門職の連携、「障害受容」(障害者となること)	事前学習	自分もつ「障害」および「障害者」イメージを点検してみよう												
		事後学習	「障害受容」のプロセスについては、さらに理解を深めてほしい。												
第 3 回	精神科リハビリテーションの概念：精神は脳の活動である、精神の障害とは何か、障害構造論(上田および蜂矢)、精神障害の側の問題、援助者について	事前学習	精神が脳の働きと不可分であることを改めて銘記しておこう。												
		事後学習	精神障害における「疾患と障害の併存」についての理解を深める。												
第 4 回	精神科リハビリテーションの理念：精神科リハビリテ	事前学習	精神障害は身体障害や知的障害と比べ、どのよ												

	シヨンの特徴、精神科リハビリテーションの意義・目標、M.フーコーの『狂気の歴史』		うな特徴をもつか。
		事後学習	フーコーが用いた「狂気」について、イメージを膨らましてみよう。
第 5 回	精神科リハビリテーションの基本原則：網羅的かつ統合されたアプローチ、当事者参加の原則、主体性回復の視点、個別性の重視、「リカバリー」への希望など	事前学習	バイステックのソーシャルワークの 7 原則について復習しておく。
		事後学習	精神保健福祉領域のキーワード「リカバリー」について学ぼう。
第 6 回	精神科リハビリテーションの諸相：地域での生活支援、医学モデルからリハビリテーションモデルへ、諸外国の現状（イギリス、フランス、カナダ、アメリカ、イタリア）	事前学習	精神保健福祉士の任務は精神障害者の「生活支援」である。
		事後学習	医療とリハビリテーションでは、アプローチの仕方に違いがある。
第 7 回	精神科リハビリテーションの対象：ICIDH-2 (2001) への改訂、わが国における精神障害者の定義、ストレス-脆弱性-対処技能モデル(Liberman)	事前学習	援助専門職にとっての基本ツール、ICF について予習しておこう。
		事後学習	対処技能とは何か、具体的に説明できるように学習しておこう。
第 8 回	精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割：精神保健福祉士法の目的、精神保健福祉士の概要と特徴、業務内容とその専門性	事前学習	精神保健福祉士の国家資格がスムーズだったのはなぜだろうか。
		事後学習	精神保健福祉士の任務は精神障害者の「生活支援」である。
第 9 回	精神科リハビリテーションにかかわる専門職との連携：各専門職の特徴、連携のあり方、チームアプローチの形態	事前学習	精神保健福祉士は医療と福祉の両方にまたがるユニークな資格だ。
		事後学習	多職種チームが高度に機能するには、何が一番大事だと思うか。
第 10 回	精神科リハビリテーションの施設（その 1）：日本における地域精神医療の展開、社会復帰施設・福祉事業の歩み、社会復帰施設などの概要	事前学習	日本の精神医療で「脱施設化」がなかなか進まないのはなぜか。
		事後学習	精神保健福祉法から自立支援法を経て総合支援法へと至る推移を概観しよう。
第 11 回	精神科リハビリテーションの施設（その 2）：社会復帰施設の現状と課題、精神障害者居宅生活支援事業、精神保健福祉センターおよび保健所、その他の協力機関・支援団体、応益負担と応能負担	事前学習	障害者総合支援法下の精神保健福祉システムについて整理しよう。
		事後学習	現下のシステムで、リカバリー・アプローチがどこまで可能か考えてみよう。
第 12 回	精神科リハビリテーションのプロセス(その 1)：回復期（陽性症状と陰性症状）、慢性期、生活維持期におけるリハビリテーション計画と介入、日常生活能力と労働能力の評価	事前学習	統合失調症の症状および経過について、よく復習しておくこと。
		事後学習	統合失調症のリハビリテーションに ICF を具体的に適用してみる。
第 13 回	精神科リハビリテーションのプロセス（その 2）：病院における、社会復帰施設における、地域社会におけるリハビリテーションの展開；自立支援法新体系への移行	事前学習	障害者自立支援法は改正され「障害者総合支援法」と名を変えた。
		事後学習	病院→施設→地域という流れに即して、具体的な局面を描いてみる。
第 14 回	精神科リハビリテーションのプロセス（その 3）：ライフサイクル、疾病の側面から、生活の側面から、各年代に即して（20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代）	事前学習	統合失調症の経過をライフサイクルという視点から眺めてみる。
		事後学習	各年代に応じた生活支援・援助実践のポイントをまとめておく。
第 15 回	作業療法およびレクリエーション療法：歴史、精神療法的な側面、生産活動的な側面、作業活動の分類例、各精神状態像への対応	事前学習	人間にとって働くことがいかに重要な意義をもつか考えてみる。
		事後学習	作業療法士（OT）と精神保健福祉士の連携場面を想定してみよう。
第 16 回	認知行動療法（生活技能訓練）：ストレス-脆弱性-対処技能モデル、問題解決技能訓練、基本訓練モデル（実技リハーサル）、課題別のモジュール訓練モデル	事前学習	生活技能訓練（SST）の狙いは「気持ちを変えてみる」ことである。
		事後学習	認知行動療法の基礎概念に関して、各自で学習を深めてほしい。
第 17 回	集団精神療法（グループワークを含む）：定義、歴史、分類、実際、効果、障害・専門性と集団療法との関係、日本人の集団特性	事前学習	精神保健福祉士にとってグループワークは必須の技法である。
		事後学習	力動的集団精神療法とグループワークとの違いについて認識する。
第 18 回	行動療法：定義、理論（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、認知学習理論）、技法（個々の技法のパッケージング）、適応となる疾患	事前学習	パブロフの犬を使った「条件反射」の実験のことを思い出そう。
		事後学習	バンデューラの「観察学習」の概念について調べてみてほしい。
第 19 回	家族療法プログラム：心理教育とは、時代的背景、感情表出(EE)の測定と尺度、家族を対象とする場合、患者を対象とする場合、実際の取り組み	事前学習	精神医学で習った EE の研究のことをよく復習しておくこと。
		事後学習	家族への心理教育は、再発予防に効果があることが実証された。
第 20 回	住居訓練：時代的背景、住宅確保、住居プログラム、「住居福祉」概念の導入、生活を継続するケア、居住訓練の領域	事前学習	人間にとって「住む」とはどういうことか、自分で考えてみよう。
		事後学習	いわゆる「7200 人問題」のその後について調べてみてほしい。
第 21 回	デイケアおよびナイトケア：歴史、デイケアのめざすも	事前学習	昨今、デイケア部門を併設するメンタル・クリ

	の、スタッフの基本姿勢、デイケアの実際、ナイトケア、 デイナイトケア		ニックが急増した。
		事後学習	最近の話題、うつ病者のリワーク・プログラムについても知ろう。
第 2 2 回	精神科訪問看護：日本における歴史、意義と目的、精神科訪問看護の特徴、実際の流れ、実施上の留意点	事前学習	精神科訪問看護には、すでに長い歴史があることを踏まえよう。
		事後学習	積極的地域ケア（ACT）へと発展させることは可能だろうか。
第 2 3 回	精神障害者ケアマネジメント：定義および類型（マジソンの市の PACT など）、理念および原則、実際のプロセス、いくつかの留意点	事前学習	高齢者福祉のケアマネジメントとは、実質がかなり異なっている。
		事後学習	実際のケア会議で、リーダーを務めるのは精神保健福祉士である。
第 2 4 回	地域生活支援とネットワーキング；地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方、地域活動支援センターとは	事前学習	精神障害者にとって地域生活のリアリティーは重要な意義をもつ。
		事後学習	自立支援法改め総合支援法下のサービス・システムを学習する。
第 2 5 回	家族会、当事者活動（セルフヘルプ・グループ）、ボランティアの育成と活用、コミュニティワーク（地域住民への働きかけ）	事前学習	専門職を目指す自分とボランティアとの違いについて考えよう。
		事後学習	精神保健福祉士にとってもコミュニティワークは重要である。
第 2 6 回	精神障害者に対する就労援助活動：就労の意義と援助活動、職業リハビリテーションサービスの実際、障害者総合支援法による支援システムとサービスメニュー	事前学習	自立支援法以降、精神障害者の就労支援には力が注がれている。
		事後学習	就労させるさい、病気を開示するかしないかは重要な問題である。
第 2 7 回	精神科救急医療、身体合併症医療などとの関連：精神科救急医療システムの現状、地域リハビリテーションにおける望ましいあり方	事前学習	地域生活の継続性を保つには、これの充実が不可欠の要件である。
		事後学習	都市における「スーパー救急」の運営について調べてみよう。
第 2 8 回	精神保健福祉施策：日本の歩み（医療偏重と福祉の遅れ）、精神保健福祉法成立まで、改正精神保健福祉法、障害者総合支援法、今後の課題	事前学習	もう一度、日本の精神保健福祉施策について振り返ってみる。
		事後学習	障害者総合支援法下、精神障害者の「生きづらさ」は緩和されるか。
第 2 9 回	授業の総括と補足（スイス・ベルン大学のゾテリアプロジェクトと統合心理療法 IPT の紹介、統合失調症の早期発見・早期介入）	事前学習	返却されたミニ・テストの結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	最近の話題、統合失調症の早期発見・早期介入について調べよう。
第 3 0 回	まとめ	事前学習	返却されたレポート課題の結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	教員との質疑で浮上した疑問点について、自分で解決しておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健学 (4 単位)	3. 科目番号	SCMP1158 PSMP2133
2. 授業担当教員	大楠 重光	5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	講義、グループ討論		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健の基本的視点や基礎知識を学び、現代における精神保健の意義や課題を考える。また、乳幼児から老年期までのそれぞれのライフステージにおける精神保健、及び精神保健における個別課題、例えば精神障害者対策・アルコール・薬物乱用問題・ターミナルケア等への取り組みについても検討していく。さらに、地域精神保健対策や精神保健法制・行政についても学習する。		
8. 学習目標	1、精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 2、現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際および精神保健福祉士の役割について理解する。 3、精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 4、国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポートが必要な間場合には授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 新版・精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『改訂・新版 精神保健福祉士養成セミナー 2 精神保健学－精神保健の課題と支援』、へるす出版。 【参考書】 精神保健医療福祉白書 2016年版 精神保健医療福祉白書編集委員会=編集 中央法規出版。		
11. 成績評価の方法	ライフサイクルにおける精神保健 (まとめ); 45% 精神保健学のまとめ: 45% 授業態度: 10% (遅刻・早退は減点する)		
12. 受講生への メッセージ	この科目は精神保健福祉士国家試験を受験する学生にとって必修科目であり、かつ出題科目です。国家試験の際には、この科目で0点を取ると合計点に係わらず不合格となりますので、しっかりと勉強してください。		
13. オフィシアワー	授業の中で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書の通読。
		事後学習	精神保健福祉学とは何かについて調べる。
第2回	精神保健学の概要	事前学習	教科書 pp.1~16 を読み、精神保健学の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.1~16 を読み、精神保健学の概要について復習する。
第3回	ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期)	事前学習	教科書 pp.17~28 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.17~28 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期) に関するキーワードについて理解を深める。
第4回	ライフサイクルにおける精神保健 (学童期)	事前学習	教科書 pp.28~41 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (学童期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.28~41 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (学童期) に関するキーワードについて理解を深める。
第5回	ライフサイクルにおける精神保健 (思春期)	事前学習	教科書 pp.41~53 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (思春期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.41~53 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (思春期) に関するキーワードについて理解を深める。
第6回	ライフサイクルにおける精神保健 (青年期)	事前学習	教科書 pp.53~61 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (青年期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.53~61 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (青年期) に関するキーワードについて理解を深める。
第7回	ライフサイクルにおける精神保健 (成人期)	事前学習	教科書 pp.61~70 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (成人期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.61~70 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (成人期) に関するキーワードについて理解を深める。
第8回	ライフサイクルにおける精神保健 (老年期)	事前学習	教科書 pp.70~78 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (老年期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.70~78 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (老年期) に関するキーワードについて理解を深める。
第9回	ライフサイクルにおける精神保健 (まとめ)	事前学習	乳幼児から老年期に至るライフサイクルにおける精神保健 の特徴をまとめること。
		事後学習	授業で行ったまとめを振り返りポイントを覚えること。
第10回	まとめの解説 精神保健における個別課題への取組み (精神障害対策)	事前学習	教科書 pp.80~96 を読み、精神障害対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.80~96 を読み、精神障害対策に関するキーワード について理解を深める。
第11回	精神保健における個別課題への取組み (認知症対策)	事前学習	教科書 pp.97~107 を読み、認知症対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.97~107 を読み、認知症対策に関するキーワード について理解を深める。
第12回	精神保健における個別課題への取組み (アルコール関連問題対策1)	事前学習	教科書 pp.107~123 を読み、アルコール関連問題対策につい て調べる。
		事後学習	教科書 pp.107~123 を読み、アルコール関連問題対策に関する キーワードについて理解を深める。
第13回	精神保健における個別課題への取組み	事前学習	教科書 pp.107~123 を読み、アルコール関連問題対策につい

	(アルコール関連問題対策 2)		て調べる。
		事後学習	教科書 pp.107～123 を読み、アルコール関連問題対策に関するキーワードについて理解を深める
第 14 回	精神保健における個別課題への取組み (薬物乱用防止対策 1)	事前学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 15 回	精神保健における個別課題への取組み (薬物乱用防止対策 2)	事前学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 16 回	精神保健における個別課題への取組み (思春期精神保健対策)	事前学習	教科書 pp.142～154 を読み、思春期精神保健対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.142～156 を読み、思春期精神保健対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 17 回	精神保健における個別課題への取組み (「こころの健康づくり」の動向)	事前学習	教科書 pp.154～166 を読み、「こころの健康づくり」の動向について調べる。
		事後学習	教科書 pp.154～166 を読み、「こころの健康づくり」に関するキーワードについて理解を深める。
第 18 回	精神保健における個別課題への取組み (司法精神保健福祉対策)	事前学習	教科書 pp.166～178 を読み、司法精神保健福祉対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.166～178 を読み、司法精神保健福祉対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 19 回	精神保健における個別課題への取組み (緩和ケアと精神保健)	事前学習	教科書 pp.179～190 を読み、緩和ケアと精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.179～190 を読み、緩和ケアと精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 20 回	精神保健活動の実際 (家庭における精神保健)	事前学習	教科書 pp.191～201 を読み、家庭における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.191～201 を読み、家庭における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 21 回	精神保健活動の実際 (学校における精神保健)	事前学習	教科書 pp.201～211 を読み、学校における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.201～211 を読み、学校における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 22 回	精神保健活動の実際 (職場における精神保健)	事前学習	教科書 pp.211～219 を読み、職場における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.211～219 を読み、職場における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 23 回	精神保健活動の実際 (地域における精神保健)	事前学習	教科書 pp.219～228 を読み、地域における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.219～228 を読み、地域における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 24 回	地域精神保健の現状と課題 (概要・関係法規・関係施策)	事前学習	教科書 pp.228～257 を読み、地域精神保健の現状と課題(概要・関係法規・関係施策)について調べる。
		事後学習	教科書 pp.228～257 を読み、地域精神保健の現状と課題(概要・関係法規・関係施策)に関するキーワードについて理解を深める。
第 25 回	自殺対策の現状と課題	事前学習	教科書の自殺に関する各項目を読み、現状と課題について調べる。
		事後学習	教科書やノートを読み、理解不足な点がないか確認する。
第 26 回	地域精神保健の現状と課題 (調査研究 1)	事前学習	教科書 pp.257～272 を読み、調査研究の現状と課題について調べる。
		事後学習	教科書 pp.257～272 を読み、地域精神保健の現状と課題(調査研究)に関するキーワードについて理解を深める。
第 27 回	地域精神保健の現状と課題 (調査研究 2)	事前学習	教科書やノート等を見直し、第 25 回の内容について理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	量的研究・質的研究、研究の倫理等について理解不足な点がないか確認する。
第 28 回	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	事前学習	教科書 pp.273～281 を読み、メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割について調べる。
		事後学習	教科書 pp.273～281 を読み、メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割に関するキーワードについて理解を深める。
第 29 回	精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健	事前学習	教科書 pp.281～322 を読み、精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.281～322 を読み、精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 30 回	授業評価・精神保健学のみとめ	事前学習	これまでの学習内容について教科書、配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる
		事後学習	これまでの学習内容について教科書、配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習 I (2 単位)		3. 科目番号	SCMP3168 PSMP3468
2. 授業担当教員	大山 勉、鹿内 佐和子、谷口 恵子、茅野 由紀		5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	講義、演習			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習 I、II、精神保健福祉援助演習 I、II、IIIは、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習 I では、自己覚知やコミュニケーションなど精神保健福祉士として必要な基本的技術を学習し、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己覚知 2) 基本的なコミュニケーション技術の習得 3) 基本的な面接技術の習得 4) グループダイナミクス活用技術の習得 5) 情報の収集・整理・伝達の技術の習得 6) 課題の発見・分析・解決の技術の習得 7) 記録の技術の習得 8) 地域福祉の基盤整備にかかる事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行う <ol style="list-style-type: none"> ①地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 ②地域アセスメント ③地域福祉の計画 ④ネットワークング ⑤社会資源の活用・整備・開発 ⑥サービス評価 			
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助にかかる基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①相談援助にかかる基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己覚知について 2 面接技術について <p>その他、授業中に振り返りのレポートを課す</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新(改定)版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第 7 巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる! 精神障害者支援実践ガイド」日経研出版、2006</p>			
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習 I のねらいの解説 <ul style="list-style-type: none"> － 専門職養成における演習の位置づけと目的を理解する 	事前学習	<p>ソーシャルワーク演習 I、II で学んだ内容を振り返る</p> <p>テキスト〔基礎編〕序章～第 1 章 (p 3～15) を熟読する</p>	
		事後学習	演習において身に付けたいことを書きだす	
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める (1) <ul style="list-style-type: none"> － 自己覚知について理解する － 対人援助職における自己覚知の意義を考える 	事前学習	テキスト〔基礎編〕付章 I (p 71) を熟読する	
		事後学習	自己覚知はなぜ必要かまとめる	
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める (2) <ul style="list-style-type: none"> － ジェノグラム、エコマップなどマッピング技法を用いて自己理解につなげる <ul style="list-style-type: none"> － 自分の価値観をみつめ、自分の価値観に基づく他者との関係性のあり方を考える － 自己理解を深めたうえで、他者理解について考える 	事前学習	テキスト〔基礎編〕付章 II (p 72～78) を熟読する	
		事後学習	授業での実践を通して自分について考えたことをまとめる 課題 1 を作成する	
第 4 回	・コミュニケーションの理解	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章 (p 28～30) を熟	

	<ul style="list-style-type: none"> ーコミュニケーションの過程を理解する ー言語・非言語コミュニケーションについて理解し、その活用方法を学ぶ ーロールプレイを用いてコミュニケーション技術を学ぶ 	事後学習	読する ロールプレイの考察をまとめる
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・クライアントに対する姿勢 ー人と人が話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する ーバイステックの 7 原則について実際の援助場面を想定して理解を深める 	事前学習	バイステックの 7 原則について復習する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・面接における技術：基本的応答技法 ー単純な反射、言い換え、要約、明確化についてロールプレイを用いて技術を習得する ー感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、状況に即した質問についてロールプレイを用いて技術を習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章 II (p 31～34) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・面接における技術：応用 ー基本的応答技法を用いて、事例に基づくアセスメント面接を実践する 	事前学習	あらかじめ配布された事例に目を通し、わからない用語を調べる
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集・整理・伝達の意義と方法を学ぶ ー情報収集・整理・伝達の目的、原則、方法を理解する ーロールプレイを用いて情報の収集・整理・伝達の技術を習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章 IV (p 38～43) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の発見・分析・解決の技術の習得 ー課題の発見・分析・解決方法を学ぶ ーロールプレイを用いて課題の発見・分析・解決の技術を習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章 V (p 44～47) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・グループダイナミクス活用技術を習得する ーグループダイナミクス理論を学ぶ ーロールプレイを用いてグループダイナミクス活用技術を習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章 III (p 35～37) を熟読する ソーシャルワーク演習 II で学んだことを振り返る
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークにおける記録について理解し、技術を習得する ー記録の目的を理解する ー記録の方法を理解する ー事例を用いて記録法を実践する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章 VI (p 48～52) を熟読する
		事後学習	事例を用いて記録する練習を行う
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する (1) ーアウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメントを理解する ー事例を活用して上記項目を実践的に理解する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章 I～II (p 149～159) を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する (2) ー地域福祉計画づくりを理解する ー事例を活用して地域福祉計画づくりを実践する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章 V-2 (p 173～178) を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する (3) ーネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価について理解する ー事例を活用して上記項目に関する技術を習得する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章 III～V-1 (p 160～172) を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ー精神保健福祉援助演習 I で学んだこと、演習を通しての自己の変化について振り返る 	事前学習	学習ノートを見返す
		事後学習	授業で学んだこと自己の変化をまとめる

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SCMP3169 PSMP3469
2. 授業担当教員	大山 勉、鹿内 佐和子、星野 弘美		5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	講義、演習			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、2 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅱでは、実技指導を通してソーシャルワーカーとして必要なケースワークの基本的技術を学習する。また、事例を用いて具体的な課題別の援助方法を理解し課題により異なる援助技術を学習する。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) インテークからアセスメント、プランニング、介入、モニタリング、評価、終結とアフターケアのケースワークの一連の流れを理解し、それぞれの過程における必要な技術を実践することができる。 2) 他専門職の専門性を尊重したチームアプローチの意義を理解し、ネットワーキングの技術を身につける 3) 社会資源について理解し、その活用、調整、開発の技術を学ぶ 4) ケアマネジメントについて理解し、実践することができる 5) 事例検討の意義を理解し、その方法を実践する 6) 次の課題について必要な援助技術を習得する：社会的排除/退院支援・地域移行、地域生活継続/ピアサポート/地域における精神保健/教育、就労/貧困、低所得、ホームレス/精神科リハビリテーション/危機状態にある精神保健福祉 			
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野にいれつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>そのために、下記のような授業形態により行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形態により行う。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中に行ったロールプレイの考察 2 授業で取り上げた課題の一つを選び、その課題について調べる 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第 7 巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド」日総研出版、2006</p>			
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだことの振り返りと演習Ⅱのねらいの解説	事前学習	精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだ内容を振り返る テキスト〔基礎編〕序章～第 1 章 (pp.3～15) を熟読する	
		事後学習	演習において身に付けたいことを書き出す	
第 2 回	・社会資源とその活用 － 社会資源とは何か理解する － クライエントと社会資源を結びつける際に必要な技術を身につける － 社会資源の開発の技術を学ぶ	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章Ⅲ (pp.62～64) を熟読する	
		事後学習	精神保健福祉士としてかわるクライアントが必要な社会資源は何があるか書き出す	
第 3 回	・チームアプローチ：他専門職の理解と実践 － 精神保健福祉士の専門性と比較しながら精神保健福祉士が関わる他専門職の専門性を理解する － チームアプローチにおいて必要な技術を理解する － 事例を用い、ロールプレイでチームアプローチを実践する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章Ⅳ (p.65) を熟読する	
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる	

第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークング －ネットワークングを理解し、必要な技術を学ぶ －事例を用いて支援に必要なネットワークングを考える 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章 V～VI (pp.66～70) を熟読する
		事後学習	ネットワークングをつくる際に配慮すべきことをまとめる
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実践 (1) : ケースワークの流れの理解とインテーク～契約まで －インテークからアフターケアまでの流れとそれぞれの過程において大切な要素を学ぶ －事例を用いてインテーク場面をロールプレイで実践する －自己のロールプレイを振り返りクライアントとかわる際の特徴を知る 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 I (p.89) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実際 (2) : アセスメント －事例を用いてアセスメント面接をロールプレイで実践する －情報をアセスメントシートにまとめる技術を身につける －収集した情報からクライアントのニーズを見出す技術を身につける 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 II (pp.91～93) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる 授業を受けてアセスメントシートに再度情報をまとめる
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実際 (3) : プランニング～介入 (支援の実際) ～モニタリング －ニーズを基に支援計画を立案する技術を身につける －モニタリングの意義とその方法を身につける 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 III (pp.94～98) を熟読する
		事後学習	自分の立てた支援計画を記録にまとめる モニタリングの際に配慮すべき点をまとめる
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実際 (4) : 評価～終結 －支援評価の意義とその方法を身につける －終結の大切さを理解し、終結の場面をロールプレイで実践する －アフターケアの意義を理解し、必要なアフターケアを計画する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 IV (pp.99～101) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる アフターケアについて学んだ点をまとめる
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実際 (5) : まとめ －ケースワークの過程を振り返り、ワーカーとしての自己の課題を見出す 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章 I (pp.53～56) を熟読する
		事後学習	数回にわたり実施したロールプレイを振り返り、ワーカーとしての自分の課題を書き出す。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント －ケアマネジメントの方法を学び、精神障害者に対するケアマネジメントの意義を理解する －事例を用いてケアマネジメントを実践する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章 II (pp.～159) を熟読する
		事後学習	ケアマネジメントとは何か自分の言葉でまとめる
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討の意義と方法 －事例検討とは何か理解し、事例検討の方法を学ぶ ・事例検討 (1) : 社会的排除 －精神障害者が抱える社会的排除の問題を理解する －事例を用いて社会的排除における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕序章 (pp.79～86) を熟読する テキスト〔実践編〕第 2 章 (pp.103～105) を読み、わからない用語等意味を調べる
		事後学習	社会的排除とは何か自己の考えをまとめる 事例を通して学んだことを書き出す
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討 (2) : 退院支援、地域移行、地域生活継続、ピアサポート －上記に掲げたそれぞれの課題を理解する －事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 2 章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる (それぞれの課題に対する理解も含めること)
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討 (3) : 地域における精神保健 (自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存) －地域における精神保健の課題を理解する －事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 2 章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる (それぞれの課題に対する理解も含めること)
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討 (4) : 教育・就労、貧困・低所得・ホームレス、精神科リハビリテーション、危機状態にある精神保健福祉 －上記に掲げたそれぞれの課題を理解する －事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 2 章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる (それぞれの課題に対する理解も含めること)
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ －精神保健福祉援助演習 II で学んだこと、演習を通しての自己の変化について振り返る 	事前学習	学習ノートを見返す
		事後学習	授業で学んだこと自己の変化をまとめる

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士援助演習Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SCMP4170 PSMP4470
2. 授業担当教員	大山 勉、藤島 薫、星野 弘美	5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	講義、演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅲでは、実習体験をソーシャルワーク概念に結びつけながら振り返るとともに、実践モデル。アプローチを実践的に学び、終了した時点で、実習での体験を踏まえ精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目的とする</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野にいれつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>そのために、下記のような授業形態により行われる。</p> <p>①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。</p> <p>②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形態により行う。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	実習での振り返りを理論的に行っていくため、その都度実習の振り返りを事前にしてくることを課題とする。課題は後日提出し、評価の対象となる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新(改定)版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第7巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド」日総研出版、2006</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>		
12. 受講生への メッセージ	精神保健福祉士を目指して学んできた講義科目、演習科目、実習での体験の総まとめとなる授業です。学んできたことを結びつけて理解を深められるよう、また就職して働くに際して即戦力となれるよう、積極的な態度で授業に参加することが期待されます。		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだことの振り返りと演習Ⅲのねらいの解説	事前学習	精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだことを振り返る。
		事後学習	演習Ⅲで学びたいことを書きだす
第2回	・自己覚知、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティ －当事者との関わり等を通して気付いた自分自身と実習を通して身に着けたソーシャルワーカーとしてのアイデンティティを振り返る。	事前学習	実習体験を通して気づいた自分自身についてまとめる。 テキスト〔基礎編〕第2章Ⅰ (pp.17～19)を熟読する。
		事後学習	授業でのディスカッション等を通しての考察をまとめる。
第3回	・クライアントに対する姿勢：バイステックの7原則 －実際の援助場面で学んだバイステックの7原則について振り返る	事前学習	テキスト〔基礎編〕第2章Ⅱ～Ⅳ (pp.20～26)を熟読する。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第4回	・社会資源とその活用・調整・開発 －当事者を支援するうえで、活用した社会資源とその活用方法についてまとめ、発表する。関わった当事者の方たちに必要な資源について考えるとともに、資源の調整・開発の方法を考察する	事前学習	実習中活用した社会資源とその活用方法についてまとめ、発表の準備をする。
		事後学習	発表を通して学んだことをまとめる。
第5回	・チームアプローチ(ネットワークング、アウトリーチ) －チームアプローチを用いて支援した事例を振り返る －チームアプローチを行う上で、精神保健福祉士がどのような役割を担っていたかまとめる －自分自身が担った役割を振り返り、自己の課題を認識する	事前学習	実習中のチームアプローチの事例を記入する。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第6回	ケースワーク(1)：ケースの振り返り	事前学習	実習中記入したソーシャルワークケース記

	<ul style="list-style-type: none"> － 自分がかかわったケースを振り返る 出会いの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る。 		録を見返す。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第 7 回	ケースワーク (2) : ケースの振り返り、発表、考察 <ul style="list-style-type: none"> － 自分がかかわったケースを振り返る 出会いの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る。 	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	自身の関わりについてよかった点、課題点をまとめる。
第 8 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合 (1) <ul style="list-style-type: none"> －モデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (エコロジカル、システムなど) 	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第 9 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合 (2) <ul style="list-style-type: none"> －モデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (ストレングス/エンパワメント/ナラティブなど) 	事前学習	どのようにして情報を収集したか記入する。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第 10 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合 (3) <ul style="list-style-type: none"> －モデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (危機介入/行動変容/問題解決など) 	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第 11 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合 (4) <ul style="list-style-type: none"> －モデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (リカバリーなど) 	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第 12 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合 (5) <ul style="list-style-type: none"> －モデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (SST/心理教育/セルフヘルプグループなど) 	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第 13 回	課題別、対象者別の支援を学ぶ (1) <ul style="list-style-type: none"> －演習の中で学んだモデル・アプローチを用い、設定された課題 (認知症、発達障害、高次脳機能障害等) についての知識を深めながら、支援について考える。 	事前学習	設定された課題について調べる。
		事後学習	授業で学んだことをまとめる。
第 14 回	課題別、対象者別の支援を学ぶ (2) <ul style="list-style-type: none"> －演習の中で学んだモデル・アプローチを用い、設定された課題 (自殺予防、権利擁護等) についての知識を深めながら、支援について考える 	事前学習	設定された課題について調べる。
		事後学習	授業で学んだことをまとめる。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ －精神保健福祉援助演習Ⅲで学んだことをふりかえる 	事前学習	授業で学んだことを振り返る。
		事後学習	精神保健福祉援助演習Ⅲで身に付けたことをまとめる。 ワーカーとしての自身のストレングス・課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助技術論 (4 単位)	3. 科目番号	SCMP3111 PSMP3411
2. 授業担当教員	谷口 恵子、小金澤 嘉		
4. 授業形態	講義、グループ討論	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神科ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱを受けて、精神障害者に対する援助方法や実践の基本を学ぶ。また、精神医学や精神科リハビリテーションの概念を踏まえて、精神障害者への相談援助に対する基本的な考え方や相談援助技術の展開を学ぶ。さらに、社会資源の活用方法、ケアマネジメント、コミュニティワークの実際と、保健・医療・福祉等にわたる包括的な支援の意義と展開を学ぶ。</p> <p>本授業の終了後には以下を理解していることが期待される。</p> <p>①精神医療の特性と精神障害者に対する支援の基本的考え方について ②精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について ③精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術及び活用の方法について ④精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について ⑤精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について ⑥地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワークの実際について ⑦地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援の意義と展開について</p>		
8. 学習目標	<p>以下の点を学習の目標とする。</p> <p>①精神保健医療福祉の歴史と動向について説明できる ②精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識を身に付ける ③精神科リハビリテーションの概念と構成、精神科リハビリテーションのプロセスについて説明できる ④医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割を学ぶ ⑤相談援助の過程及び対象者との援助関係、面接技術を理解し、援助活動の展開を身に付ける ⑥家族調整・支援の実際を学ぶ ⑦スーパービジョンとコンサルテーションについて理解する ⑧地域移行について理解する ⑨地域を基盤にした相談援助、リハビリテーションの基本的考え方、ネットワーキングについて理解する ⑩精神障害者のケアマネジメントを学ぶ</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業内で課題を課すことがある。 * 予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新版・精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版・精神保健福祉士養成セミナー 第4巻「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」』へるす出版。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>試験及びレポート 90% 授業態度 10% (遅刻・早退は減点する)</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>精神科ソーシャルワーク論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識と技術の概要をさらに深く学び、実践に結びつけることができる内容とします。グループワークや、ロールプレイなど積極的な授業への参加を求めます。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途連絡する</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業概要について、 第1章 障害者福祉の理念と精神障害者の人権：障害者福祉の理念と精神障害（ノーマライゼーション）	事前学習	障害者とはどのような人を用いるのか、障害者福祉とはどのようなことを用いるのかについて、自分の考えをまとめる。
		事後学習	ディスカッションの振り返り、障害者と障害者福祉、ノーマライゼーション、の関係を整理すること。
第2回	障害者福祉の理念と精神障害者の人権：障害者福祉の理念と精神障害（リハビリテーション）	事前学習	障害者と障害者福祉、リハビリテーションの関係を整理すること。
		事後学習	ディスカッションを振り返り、障害者と障害者福祉、リハビリテーションの関係を整理すること。
第3回	障害者福祉の理念と精神障害者の人権：：障害者福祉理念と精神障害（生活の質、自立支援）	事前学習	障害者にとっての自立とは何かを考え、生活の質、地域社会とのつながりを踏まえて自己の意見をまとめること。
		事後学習	精神障害者の生活の質とは何か、自立とは何か、社会で生活することの困難さと社会的サポートの必要性についてまとめること。
第4回	障害者福祉の理念と精神障害者の人権：：障害者福祉と精神障害（ソーシャルインクルージョン）	事前学習	ソーシャルインクルージョンとは何かを理解しておくこと。
		事後学習	社会で生活することの困難さとソーシャルインクルージョンについてまとめること。

第 5 回	精神障害者の人権：精神障害者の人権とは何か 障害者権利条約の理念	事前学習	我が国の精神障害者の人権について文献等を使い調べる。
		事後学習	我が国の精神障害者の人権が障害者の権利条約によってどのように守られているのかをまとめること。
第 6 回	精神障害者の人権：精神障害者の人権とは何か 精神障害及び精神障害者	事前学習	精神障害と精神障害者の関係をよく調べて理解すること。
		事後学習	授業で学んだ精神障害者の人権侵害について、事例を含めて考察すること。
第 7 回	第 2 章 精神保健福祉の歴史と理念：精神保健福祉と精神障害者	事前学習	精神医学、精神科リハビリテーション学、精神科ソーシャルワーク論 I で学んだ歴史を整理しておくこと。
		事後学習	今日の我が国の精神保健福祉施策への影響を考察するとともに、今日求められている精神障害者の地域支援の意義についてまとめること。
第 8 回	精神保健福祉の歴史と理念：精神保健福祉の歴史と理念、精神保健福祉の現状と展望	事前学習	我が国の入院者数、入院日数、精神科病床数等精神障害者のおかれている現状を調べること。
		事後学習	授業を振り返り、我が国の精神障害者施策に対する諸外国の批判をまとめること。
第 9 回	第 3 章 精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向：導入期、	事前学習	精神科ソーシャルワーク論で学んだ、宇都宮事件と Y 問題について教科書を振り返り、まとめること。
		事後学習	我が国における精神科ソーシャルワーカー導入のきっかけとなった諸問題をまとめること。
第 10 回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向：混乱期	事前学習	混乱期とはどのような状態であったのかを教科書からまとめること。
		事後学習	混乱がどのようにして生じ、問題点は何だったかをまとめること。
第 11 回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向：展開期	事前学習	精神保健福祉士が国家資格となった経過と当時の精神保健福祉の動向を、精神科ソーシャルワーク論で学んだ知識をもとにまとめること。
		事後学習	我が国における精神保健福祉士の黎明期から現在に至るまでをまとめるとともに、実習や見学等を通して、実際の業務を考察すること。
第 12 回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向：拡大期	事前学習	精神保健福祉の新たな動向を理解すること。
		事後学習	拡大期にどのような領域に拡大されたのかをまとめること。
第 13 回	第 4 章 精神保健福祉士の理念と意義：国家としての精神保健福祉士の意義（1）	事前学習	教科書 pp.99～108 を読み、精神保健福祉士が持つべき理念や存在する意義についてまとめること。
		事後学習	精神保健福祉士の持つべき理念と存在意義について自己の考えをまとめ、合わせて精神保健福祉士の専門性について考察すること。
第 14 回	精神保健福祉士の理念と意義：国家としての精神保健福祉士の意義（2）	事前学習	前回の授業を振り返り、精神保健福祉士の意義をまとめること。
		事後学習	前回の授業に加えて、精神保健福祉士の果たしてきた意義や今後果たすべき役割について考えること。
第 15 回	精神保健福祉士の理念と意義：国家としての精神保健福祉士の専門性と倫理	事前学習	教科書 pp.108～126 を読み、精神保健福祉士倫理綱領作成のきっかけとなった Y 問題について整理すること。
		事後学習	精神保健福祉士倫理綱領のポイントをつかみ、繰り返し読み、全文を暗記すること。
第 16 回	精神保健福祉士の理念と意義：国家としての精神保健福祉士の専門性と倫理（倫理綱領）	事前学習	倫理綱領を読んでくること。
		事後学習	倫理綱領に意味する内容を考え、理解すること。
第 17 回	中間のまとめ	事前学習	今までの授業のポイントを整理すること。
		事後学習	まとめて出された問題について教科書等で調べて、理解すること。
第 18 回	第 5 章 精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程： ソーシャルワークの展開過程（受理面接と契約）	事前学習	精神科ソーシャルワーク論 I・II で学んだソーシャルワークの展開過程を、もう一度見直し整理すること。
		事後学習	インテーク（受理面接）の仕方をイメージし、教科書等の事例をもとに、くり返しトレーニングをすること。
第 19 回	中間のまとめの解答と解説。精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程： ソーシャルワークの展開過程（受理面接と契約）	事前学習	ソーシャルワークの展開過程のうちアセスメントの内容と方法について、精神科ソーシャルワーク論の教科書を読み、理解しておくこと。
		事後学習	教科書にあるインテークに係る事例を読み、事例のインテークを試みること。
第 20 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程： ソーシャルワークの展開過程（アセスメント）	事前学習	受理面接とアセスメントの関係を教科書で調べておくこと。
		事後学習	アセスメントとはどのようなことをまとめること。
第 21 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程：ソーシャルワークの展開過程（支援計画、支援の実際）	事前学習	支援に係る様々なアプローチについて、精神科リハビリテーション学の教科書を読みし、理解するとともに、他の授業で学んだ社会資源についてまとめること。
		事後学習	支援計画のポイント、使用されているアプローチ方法を理解すること。また、事例に即した社会資源の利用方法、支援技術、支援の評価方法、最終の仕方を検討すること。

第 2 2 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：ソーシャルワークの展開過程（支 援計画、支援の支援の評価、終結）	事前学習	支援計画、支援の評価がどのような段階で行われるか 教科書を使い調べておくこと。
		事後学習	受理面接から終結までの過程をまとめること。
第 2 3 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：個別支援、グループを活用した支 援	事前学習	個別支援技術、集団支援技術についてまとめること。
		事後学習	授業で学んだ個別支援技術と理論、集団支援技術の対 象と基礎理論及び技術に関する事例についてまとめる こと。
第 2 4 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：地域を対象とした支援	事前学習	地域を対象とする支援とは何かを教科書を使い理解す ること。
		事後学習	直接援助と間接援助の違いを理解し、具体的な例を考 えてみること。
第 2 5 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：災害時における精神保健福祉士の 役割、スーパービジョンとコンサルテーショ ン、	事前学習	災害時における援助のポイントをまとめること。また、 教科書 pp.193～203 を読み、スーパービジョンとコン サルテーションの概念を理解し、実習で受けたスーパ ービジョンを思い出し、スーパービジョンが自己に与 えた影響を考察すること。
		事後学習	スーパービジョンとコンサルテーションの違いを明確 にすること。ケアマネジメントに関する配布資料を見 直し、手順を確認すること。
第 2 6 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：ケアマネジメント	事前学習	教科書を使い、ケアマネジメントの歴史を調べておく こと。
		事後学習	授業を振り返り、ケアマネジメントの流れ、有効性を 理解すること
第 2 7 回	第 6 章 精神障害者のソーシャルワークと関 連専門種との連携：チーム医療における精神 保健福祉士の役割	事前学習	教科書 pp.235～244 を読み、チーム医療の概念を整理 すること。
		事後学習	チーム医療を実施する際のポイントをまとめること
第 2 8 回	精神障害者のソーシャルワークと関連専門種 との連携：専門職の役割と機能	事前学習	精神保健福祉士がどのような職種とチームを組む必要 性があるか想定すること。
		事後学習	実習先で実施されていたチーム医療（チームアプロ ーチ）に関わっている職員の職種と役割、連携について 整理すること。
第 2 9 回	精神障害者のソーシャルワークと関連専門種 との連携：チームアプローチ及び生活支援の理 念と精神保健福祉士の役割	事前学習	地域における支援チームの要素とチームの中で精神保 健福祉士が果たす役割について自己の意見をまとめる こと。
		事後学習	地域支援チームと医療機関でのチームの違いについて 整理すること。また、地域での生活支援にかかわる職 種、機関を上げ、それぞれの役割と連携のポイントを 整理すること。
第 3 0 回	授業評価・精神保健福祉援助技術論のまとめ （事例を総合的に検討する）	事前学習	ソーシャルワークの展開過程をもう一度調べておくこ と（参考：精神科ソーシャルワーク論教科書 P 1 0 5）。
		事後学習	授業で検討された内容を吟味すること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導 I (編) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP2183 PSMP2483
2. 授業担当教員	藤島 薫、鹿内 佐和子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、討論		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導 I、II、III は 2 年時～3 年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習の意義について理解する。 2) 個人の資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 2) 実習施設・機関の概要及びその地域について理解し、明瞭な説明ができる。 4) 日本における精神保健福祉の現状を理解し、実習先でかかわる精神障害者への理解を深めるため、他の講義で学んだ基礎知識を総括的に確認する。 5) 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的義務について理解し、実習においてそれらに基づく実践ができる基礎を身につける。 6) 事前訪問に向けて準備を整え、事前訪問を実施する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導および集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健福祉に関わる知識の確認 (実習コンピテンス確認テストに向けて基礎知識の確認) 2 自己の実習に対する動機、目標 <p>* 予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新 (改定) 版 精神保健福祉士養成セミナー 第 8 巻 『精神保健福祉援助実習指導・現場実習』 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 へるす出版 (この教科書は「精神保健福祉援助実習指導 I、II、III」共通)、2014。 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2016 年版』中央法規。 		
11. 成績評価の方法	<p>授業中に課されるレポート、事前学習の内容、授業参加態度を総合的に判断する。</p> <p>尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業は実習に直結しています。この授業期間中に、実習先の配属が決定し、具体的に実習に向けての学習がスタートします。積極的な授業参加を期待します。</p>		
13. オフィスアワー	<p>後日通知します</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導 I のねらい、授業の進め方についての説明 ・実習の流れの理解と実習に関する基本的ルールの確認 (「実習の手引き使用」) 	事前学習	精神保健福祉援助実習指導 I の学習用ノートを準備し講義に臨むこと。
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導 I のねらいについて学習用ノートにまとめる。 実習の手引きの実習の流れを再確認する。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職養成における実習の意義を理解する ：精神保健福祉士を目指すうえで、実習がなぜ大切なのか、また実習で何を学ぶべきなのか理解を深める。 	事前学習	テキスト第 1 章・第 2 章 (pp. 3～26) を熟読する。
		事後学習	授業で学んだことを受け、自己にとっての実習に行く意義について学習ノートにまとめる。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士を目指している自己の動機に対する理解を深める ：実習の意義と同時に、個人が持っている資格取得に対する動機を自己の中で明確にするとともに、他人に対して説明できるようにする 	事前学習	自分の資格取得動機を説明できるように準備する。
		事後学習	授業を受け再度自己の資格取得動機について考える。自己の実習の動機を学習ノートにまとめる。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の意義について理解する ：事前学習で学ぶべきことを把握するとともに、その意義を理解する 精神保健福祉に関する基礎知識の確認① ・精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する ：日本の精神保健福祉の歴史、精神保健福祉の現状、精神障害者が抱える困難性について考える 	事前学習	テキスト第 3 章 III (pp. 46～65) を熟読する 精神保健福祉の歴史、精神科医療の現状についてレポートにまとめる。
		事後学習	精神障害者のおかれている現状について考えたことをまとめる。

第 5 回	精神保健福祉に関する基礎知識の確認② ・精神疾患の理解 ：主な精神疾患についての基礎知識を確認する	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる。
	精神保健福祉に関する基礎知識の確認③ ・精神保健福祉に関する制度の理解 ：精神保健福祉士として必要となる制度についての知識を確認する	事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる。
第 6 回	精神保健福祉に関する基礎知識の確認④ ・精神保健福祉に関する技術の理解 ：面接の基本姿勢、面接技術などソーシャルワーカーとして必要になる基礎的技術について確認	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる。
		事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる。
第 7 回	精神保健福祉に関する基礎知識の確認⑤ ・精神保健福祉に関する職業倫理と法的責務の確認 ：精神保健福祉士法、倫理綱領について、実習に結びつけて理解 ・実習先を理解する ：実習が可能な施設・機関の紹介と説明（「実習の手引き」使用） ：事前学習として実習先を理解する意義と、どのような点について理解することが必要か説明	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる テキスト第 7 章（p 127～137）を熟読する。
		事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる。 実習可能な施設について確認する。
第 8 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 医療機関① （精神科病院／総合病院精神科／精神科診療所／精神科デイケア施設／アルコール専門病棟／認知症病棟）	事前学習	グループで発表の準備をする。 テキスト第 8 章 I、II（pp. 139～150）を熟読する。 テキスト第 8 章 IV（pp. 162～164）を熟読する。
		事後学習	発表の内容をまとめる。
第 9 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 医療機関② （精神科病院／総合病院精神科／精神科診療所／精神科デイケア施設／アルコール専門病棟／認知症病棟）	事前学習	グループで発表の準備をする。 テキスト第 8 章 I、II（pp. 139～150）を熟読する。 テキスト第 8 章 IV（pp. 162～164）を熟読する。
		事後学習	発表の内容をまとめる。
第 10 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：障害者総合支援法について ：グループによる発表 障害者総合支援法に規定されている施設① （共同生活援助／共同生活介護／相談支援事業・地域活動支援センター／就労継続支援 A 型／就労継続支援 B 型／就労移行支援事業所）	事前学習	障害者総合支援法についてまとめる。
		事後学習	授業を受けて、自分でまとめたものの中で足りない部分を補足する。
第 11 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 障害者総合支援法に規定されている施設② （共同生活援助／共同生活介護／相談支援事業・地域活動支援センター／就労継続支援 A 型／就労継続支援 B 型／就労移行支援事業所）	事前学習	グループで発表の準備をする。 テキスト第 8 章 VI（pp. 168～169）を熟読する。 テキスト第 4 章 VII（pp. 87～95）を熟読する。
		事後学習	発表の内容をまとめる。
第 12 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 障害者総合支援法に規定されている施設③ （共同生活援助／共同生活介護／相談支援事業・地域活動支援センター／就労継続支援 A 型／就労継続支援 B 型／就労移行支援事業所）	事前学習	グループで発表の準備をする。 テキスト第 8 章 VI（pp. 168～169）を熟読する。 テキスト第 4 章 VII（pp. 87～95）を熟読する。
		事後学習	発表の内容をまとめる。
第 13 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 行政① （精神保健福祉センター／保健所／市町村保健センター）	事前学習	グループで発表の準備をする。 テキスト第 8 章 VI（pp. 168～169）を熟読する。 テキスト第 4 章 VII（pp. 87～95）を熟読する。
		事後学習	発表の内容をまとめる。
第 14 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 行政② （精神保健福祉センター／保健所／市町村保健センター） ：実習施設・機関の理解に対するまとめ	事前学習	グループで発表の準備をする。 テキスト第 8 章 VI（pp. 168～169）を熟読する。 テキスト第 4 章 VII（pp. 87～95）を熟読する。
		事後学習	発表の内容をまとめる。
第 15 回	・学習のまとめ ・実習に向けて自己覚知を深める ：セルフアセスメントシートの実施 ・精神保健福祉援助実習指導 II に向けた課題	事前学習	精神保健福祉援助実習指導 I で学んだことをまとめる。
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導 II における課題を書きだす。

平成 28 年度
実習及び実習コンピテンスに関する流れ

授業後半	セルフアセスメントの実施
授業中盤～後半	実習コンピテンス（１）（２）問題配布

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (心理学部) (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3484
2. 授業担当教員	谷口 恵子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、討論		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、医療機関実習に向けての具体的な準備、事後学習を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク基礎実習に向けての具体的な準備、事後学習、精神保健福祉援助実習第一段階の準備を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <p>1) 実習コンピテンス確認テストを実施し、実習に必要な基礎的知識の定着を図る。 2) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 3) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者 (スーパーバイザー) との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 4) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 5) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 6) スーパービジョンについて理解し、適切なスーパービジョンを受ける準備をする。 7) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 8) 実習目標と実践を照らし自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 9) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。</p>		
8. 学習目標	<p>① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について具体的な提出物等の指示を出す。</p> <p>1. 実習コンピテンス確認テスト (1) (2) の実施 (合格点に達するまで実施) 2. 実習施設の概要、実習計画書の作成 3. 医療機関実習振り返り、実習総括レポート (実習報告書) の作成</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新 (改定) 版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集『新版精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2014。 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】 精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2016年版』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業中に課されるレポート、実習の振り返りの内容、授業参加態度を総合的に判断する。 尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業は実習に直結している。この授業期間中に、初めて実習に行き、次の段階の実習に備えます。実習及び資格取得に対する動機を高め、より充実した実習体験を持てるよう、積極的な授業参加態度を期待する。</p>		
13. オフィスアワー	<p>後日通知します</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉援助実習指導Ⅰの振り返りと確認 精神保健福祉援助実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 <p>: 実習までの流れの確認</p>	事前学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことを振り返る 実習コンピテンス確認テストに向けて自己学習を行う
		事後学習	実習に向けての自己の課題を書き出す
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 実習コンピテンス確認テストⅠの実施 配属先医療機関に対する理解を深める 配属先医療機関に関する情報収集 実習施設の概要をまとめる 	事前学習	配属先についてホームページ等を用いて情報収集する
		事後学習	実習施設の概要を作成する
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関における精神保健福祉士の役割 医療機関実習プログラム (案) の作成 <p>: 医療機関実習の目的と実習の全体像について内容を確認 (「実習の手引き」使用) : 実習計画の意義と目的について説明</p>	事前学習	「実習の手引き」医療機関実習についての項目に目を通す テキスト第3章、3 (pp. 63～65) を熟読する
		事後学習	医療機関実習プログラム (案) を作成する
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関実習、実習計画の作成 自己の実習の意義、目的を再確認する 実習 (プログラム案) の記入と添削・確認 実習コンピテンス確認テストⅡの実施 	事前学習	医療機関実習計画を作成する
		事後学習	実習プログラム (案) について、添削された箇所を再度修正する

第 5 回 *巡回担 当教員発 表	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンと巡回指導の理解 ：スーパービジョンについて理解する ：巡回指導の目的と内容を理解する ・医療機関実習 実習計画の完成 ：スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 	事前学習	テキスト第 4 章 VI (pp. 85～86)、VIII (pp. 89～95) を熟読する
		事後学習	実習巡回教員への挨拶用紙の記入する 見学実習の日程調整を各自行う
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問に向けた準備 ：事前訪問の目的と意義の確認 ：実習プログラム(案)においてスーパーバイザーと協議したい点の確認 ・実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 ：個人情報保護の理解 ：実習中の記録等の取り扱いに関する具体的注意事項 	事前学習	テキスト第 3 章 V (pp. 61～65) を熟読する
		事後学習	見学実習の目的と意義をまとめる
第 7 回 *事前訪 問実施	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問に向けた準備 ：基本的態度と訪問時の注意事項の確認 ・実習記録の理解 ：実習記録の意義・書き方を理解する 	事前学習	テキスト第 4 章 VII (pp. 87～95) を熟読する
		事後学習	見学実習においてスーパーバイザーと協議したい点を書きだす 実習施設の概要及び実習プログラム(案)を実習施設に持参し、指導者と協議する
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問の総括 ：事前訪問を終えて、再度実習プログラムを見直す ：実習までの課題を確認する ・実習記録の理解 ：実習記録の書き方演習 ：実習記録の取り扱い等に関する説明 	事前学習	見学実習報告書の作成 実習プログラムの見直し
		事後学習	実習までの課題を書きだす 実習記録の書き方における留意点をまとめる
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の書き方演習 ・精神疾患に関する理解 ：精神疾患に関する理解を深め、疾患によって異なる関わり方を考える 	事前学習	日々の出来事を選択し、実習記録に記入する 精神医学のテキストを復習する
		事後学習	精神疾患によって異なる関わり方について学んだポイントをまとめる
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の書き方演習 ・精神科医療機関のワーカーとして必要となる諸制度の知識を確認する ：入院制度、保険制度 	事前学習	日々の出来事を選択し、実習記録に記入する 精神保健福祉法に目を通す
		事後学習	入院形態、保険制度、診療報酬等学んだことをまとめる
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関実習に向けての最終確認 ：事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務、権利について確認 ・自己評価表の理解 ：自己評価を行う意義と活用方法を理解する ：自己評価表の記入方法を理解する ・実習後の実習成果発表会、実習総括レポート(実習報告書)について説明 	事前学習	医療機関実習までに確認したいことを書きだす
		事後学習	テキスト、実習の手引き、学習ノートを振り返り、実習に備える 実習記録への記名等実習に向けての最終的な準備を行う
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関実習の振り返り ：事後学習の意義を理解する ：グループにおけるディスカッション(実習中に感じたこと、困難だったこと、自己の課題等共有する) ：実習後の必要事項の確認(記録の提出、お礼状の郵送等) ：医療機関実習に関する実習総括レポート(実習報告書)を作成 	事前学習	医療機関実習のまとめを記入 実習先にお礼状を出す テキスト第 5 章 (pp. 97～109) を熟読する
		事後学習	実習中に学んだこと、課題を書きだす
第 13 回	実習の評価・総括(実習成果発表会)①	事前学習	実習総括レポートを作成し、実習成果発表会への準備をする
		事後学習	発表を聞いての感想、考察を学習まとめる
第 14 回	実習の評価・総括(実習成果発表会)②	事前学習	実習総括レポートを作成し、実習成果発表会への準備をする
		事後学習	発表を聞いての感想、考察をまとめる
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ ：医療機関実習における自己の課題を施設実習につなげる ・自己の成長を振り返る 	事前学習	施設実習までの課題を書きだす
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅱで学んだことと今後の課題をまとめる

備考：実習に関する主な事項と授業回数との関連

実習関連事項	時期	授業回数との関連 *おおよその目安、変動あり
巡回担当教員発表、挨拶	5月中旬ごろ	第4回～第5回あたりに発表。学生個別に挨拶実施。
見学実習（事前訪問）	6月学外実習期間中	第6回～第7回あたり後に学生が個別に実施
医療機関実習	夏期休講期間中	第10回～第11回あたり終了後より開始
実習コンピテンス確認テスト I II の実施 セルフアセスメントの実施	確認テスト：医療機関実習開始前 セルフアセスメント：実習後	確認テスト I：第2回目の授業時に実施 確認テスト II：5月初期の授業時（第4回目予定）に実施 セルフアセスメント：医療機関実習後に実施

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (編) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3184 PSMP3484
2. 授業担当教員	藤島 薫、谷口 恵子		
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク基礎実習に向けての具体的な準備、事後学習、精神保健福祉援助実習第一段階の準備を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習コンピテンス確認テストを実施し、実習に必要な基礎的知識の定着を図る。 2) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 3) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者(スーパーバイザー)との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 4) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 5) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 6) スーパービジョンについて理解し、適切なスーパービジョンを受ける準備をする。 7) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 8) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 9) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 2. 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 3. 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 5. 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習コンピテンス確認テストⅠ・Ⅱ(合格点に達するまで再テストを行う) 2. 配属された実習施設・機関の概要を調べレポートにまとめる(2000～4000字) 3. 実習施設の概要、実習プログラム(案)の作成 <p>*予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新(改定)版 精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 『精神保健福祉援助実習指導・現場実習』 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 へるす出版(この教科書は「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」共通)2014。 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2016年版』中央法規。 		
11. 成績評価の方法	授業中に課されるレポート、事前学習の内容、授業参加態度を総合的に判断する。尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結しています。この授業期間中に、実習先の配属が決定し、具体的に実習に向けての学習がスタートします。積極的な授業参加を期待します。		
13. オフィスアワー	後日通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 ：実習までの流れの確認 	事前学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことを振り返る。実習コンピテンス確認テストの実施に向けて自己学習を行う。
		事後学習	実習に向けての課題を書きだし、実習までに解消する方法を考える。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の意義・書き方を理解する ：実習記録の取り扱い等に関する説明 	事前学習	テキスト第4章Ⅶ(pp.87～95)を熟読する。
		事後学習	日々の出来事を選択し、実習記録に記入する。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践 ：実習場面において必要となる精神保健福祉士としての技術を学ぶ ・実習記録の理解② ：実習記録の書き方演習 	事前学習	精神保健福祉士として必要な技術について復習する。
		事後学習	授業で学んだことをまとめる。実習までにやるべき自分の課題を書き出す。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：個別援助実践の意義を理解する ：ケース記録の意義を理解する ：ケース記録の全体を把握する 	事前学習	『学習の手引き』のケースワーク記録見本に目を通す。
		事後学習	実習において個別援助を実践する意味についてまとめる。
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 	事前学習	アセスメントとは何か調べる。

	<ul style="list-style-type: none"> : アセスメントについて : ジェノグラムとエコマップについて : 事例を用いてケース記録書き方演習 	事後学習	自分に対するジェノグラムとエコマップを作成する。 授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ・プランニング・インターベンションと評価について ・事例を用いてケース記録書き方演習 	事前学習	プランニングとは何か調べる。
		事後学習	授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ・事例を用いたケースワーク演習① 	事前学習	あらかじめ配布された事例を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ・事例を用いたケースワーク演習② 	事前学習	あらかじめ配布された事例を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習プログラミングシートの理解 ・個人情報の保護 ・個人情報保護法、精神保健福祉士法、倫理綱領など専門職における秘密保持義務を理解する 	事前学習	実習の手引きにある実習プログラミングシートに目を通す。
		事後学習	実習において秘密を保持する必要性やそれが困難となる場面などを想定しどのように対応すべきか、考察を深める。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの実習における課題を理解する ・実習の手引きに書かれた内容を理解するとともに、自己の実習課題を再確認する 	事前学習	『実習の手引き』のそれぞれの実習の目的に目を通す。
		事後学習	実習で何を学びたいか学習ノートに書き出す。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習配属先について理解を深める ・配属先実習施設に関する情報収集 ・施設の概要、実習計画の作成について理解する 	事前学習	『学習の手引き』の実習施設の概要、実習プログラム（案）見本に目を通す。
		事後学習	配属先実習施設についてホームページ等を利用して情報を収集する。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の概要、実習プログラム（案）の作成 ・自己の実習の意義、目的を再確認する ・実習施設の概要、実習プログラム（案）の記入と添削・確認 	事前学習	実習施設の概要、実習プログラム（案）を作成する。
		事後学習	施設の概要、実習計画について、添削された箇所を再度修正する。
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンと巡回指導の理解 ・スーパービジョンについて理解する ・巡回指導の目的と内容を理解する ・実習計画の完成 ・スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 	事前学習	テキスト第 4 章VI (pp.85～86)、VIII (pp. 89～95) を熟読する。
		事後学習	実習巡回教員への挨拶用紙の記入をし、各自実習巡回教員に挨拶に行く。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問に向けた準備 ・事前訪問の目的と意義の確認 ・実習計画においてスーパーバイザーと協議したい点の確認 	事前学習	テキスト第 3 章V (pp. 61～65) を熟読する。
		事後学習	見学実習の目的と意義をまとめる。 見学実習の日程調整を各自行う。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ ・実習における契約構造の説明と実習生の義務、権利について確認 ・SW 基礎実習／精神保健福祉援助実習第一段階に向けて最終確認 	事前学習	施設実習までの課題を書きだす。
		事後学習	実習記録への記名等実習に向けての最終的な準備を行う。

実習及び実習コンピテンス関係の流れ ※編入生の状況により異なる

実習コンピテンス確認テスト I・II の実施	授業初期～中盤
ソーシャルワーク基礎実習	配属先決定 10～11 月頃
実習施設・機関の概要レポート作成	配属先決定後
セルフアセスメントシートの実施	授業初期～中盤
ソーシャルワーク基礎実習事前訪問	授業終盤
ソーシャルワーク基礎実習	春休み期間

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ (心理学部) (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3485
2. 授業担当教員	谷口 恵子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、討論		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前、事後指導を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅲは、医療機関実習の振り返りを深め、施設実習に向けての事前、事後学習を行い、終了した時点で次のことを達成していることが期待される。</p> <p>1) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。</p> <p>2) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者 (スーパーバイザー) との協議を踏まえた実習計画を完成させる。</p> <p>3) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。</p> <p>4) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。</p> <p>5) 実習中に行う事例について検討し、支援計画の立案を実践的に理解する</p> <p>6) 実習中の利用者との関わりを振り返り、自己覚知を深める</p> <p>7) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。</p> <p>8) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。</p>		
8. 学習目標	<p>① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。</p> <p>② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。</p> <p>③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。</p> <p>④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <p>1. 実習において関わった利用者についての事例</p> <p>2. アセスメントと支援計画</p> <p>3. 施設実習の実習総括レポート</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>新 (改定) 版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集『新版精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2014。</p> <p>東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布</p> <p>東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】</p> <p>長崎和則・辻井誠人・金子勉著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日総研出版、2006。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 60% (提出期限厳守)</p> <p>授業への参加態度 40% (授業の参加態度重視、遅刻・無断欠席は減点の対象)</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業では、実習と連動して精神保健福祉士としての実践力の向上に焦点を置いて授業を進める。学生の積極的な授業参加を期待する。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途、連絡する。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉援助実習指導Ⅱの振り返りと確認 本講義内容、進め方の説明 	事前学習	実習テキスト第5章 (pp. 97～110) を熟読する
		事後学習	医療機関実習の評価、実習記録のコメント欄を見返し、考察をまとめる
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関実習の振り返り 担当した事例についての報告と意見交換 実習評価に対する考察を行う 	事前学習	実習テキスト第6章 (pp. 111～126) を熟読する
		事後学習	授業を通して考察した自己の実習の振り返りをまとめる
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関実習の振り返り (社会福祉専門職についての理解) 実習先医療機関で行われる各種手続きについてまとめる 実習先医療機関で行われる相談援助業務についてまとめる 	事前学習	実習中体験した各種手続き、相談援助業務についてまとめる
		事後学習	授業を通して自分のまとめで不足していた点を追記する
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関実習の振り返り (連携についての理解) 実習先医療機関における各部門職種とその機能・関係についてまとめる 実習先医療機関と社会資源、関係機関との連携についてまとめる 	事前学習	実習中体験した多職種連携について学んだ点を書きだす
		事後学習	授業を通して自分のまとめで不足していた点を追記する

第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関実習の振り返り（ソーシャルワーカーの倫理綱領と自己覚知） ：倫理綱領をもとに実習先での専門職の実践についてまとめる ：自分の価値観が実習中のクライアントとのかかわりに及ぼした影響についてまとめる 	事前学習	倫理綱領に目を通す
		事後学習	実習中体験した倫理的葛藤をまとめる
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：個別援助実践の意義を理解する ：ケース記録の意義を理解する ：ケース記録の全体を把握する 	事前学習	実習記録にあるケースワークシートに目を通す
		事後学習	『学習の手引き』ケースワークシート書き方に目を通す
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：アセスメントについて ：ジェノグラムとエコマップについて ：事例を用いてケース記録書き方演習 	事前学習	与えられた事例を読み、わからない語句について調べる
		事後学習	自分についてジェノグラムとエコマップを作成する
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：プランニング・インターベンションと評価について ：事例を用いてケース記録書き方演習 ・事例検討について ：事例検討の意義と方法を理解する 	事前学習	体験した事例について報告の準備をする
		事後学習	事例を用いてケースワークシートに書き込む
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・担当した事例についての報告と意見交換 ・施設実習に向けての準備 ：個人調書の作成 ：配属先に関する情報収集 	事前学習	報告準備
		事後学習	事例の報告、意見交換を通して気づいたことをまとめる 個人調書の作成
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・施設実習に向けての準備 ：実習施設概要の作成 ：実習プログラム（案）の作成 	事前学習	配属先に関する情報収集、実習の手引き「施設実習」について目を通す
		事後学習	実習施設概要、実習プログラム（案）を完成させる
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・施設実習に向けての準備 ：実習施設概要、実習プログラム（案）を完成させ教員より確認印をもらう ・事前訪問に向けた準備 ：事前訪問の目的と意義の再確認 ：基本的態度と訪問時の注意事項の再確認 ：スーパーバイザーと協議したい点を明確にする 	事前学習	実習施設概要、実習プログラム（案）を完成させる
		事後学習	事前訪問時にスーパーバイザーと協議したい事柄、質問事項等をまとめ、事前訪問に備える 実習施設概要、実習プログラム（案）を実習先へ持参し、実習指導者と協議する
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問の総括 ：実習計画に関するスーパーバイザーとの協議事項の確認とそれを踏まえての計画書の完成 ・施設実習における最終確認 	事前学習	事前訪問報告書を作成する
		事後学習	テキスト、実習の手引き、学習ノートを振り返り、実習に備える 実習記録への記名等、実習に向けての最終的な準備を行う
第 13～15 回	<ul style="list-style-type: none"> ※ 施設実習の事後学習として、実習終了後実施します。日程については後日通知します。 ・実習事後学習 ：施設実習の振り返り ：実習総括レポートの作成 ：実習報告 	事前学習	自己の実習を振り返る 実習総括レポートの作成、発表の準備をしておく。
		事後学習	事後学習を通して、再度自己の実習を振り返り実習での学びをまとめる

備考：実習に関する主な事項と授業回数との関連

実習関連事項	時期	授業回数との関連 *おおよその目安、変動あり
施設実習配属先決定・発表	11 月	第 6 回～第 7 回あたりに発表
巡回担当教員発表・挨拶	12 月	第 8 回～第 9 回あたりに発表、学生各自挨拶に行く。
実習先事前訪問	2 月初め	2 月初めの補講期間を利用して各自実施
施設実習	春季休講期間中	第 12 回終了後
施設実習事後指導	3 月下旬	第 13 回～第 15 回

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士養成演習 I (2 単位)	3. 科目番号	GECD3225
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健福祉士の資格を得て、熱意をもって国民の精神保健福祉の向上及び精神障害者の福祉の増進に寄与し精神障害者の社会的復権のために活躍するためには、まずは精神保健福祉士の国家試験に合格することが欠かせません。この講義では、過去問題の演習を繰り返して行います。その中で、試験に合格するための知識を記憶に定着させて下さい。		
8. 学習目標	精神保健福祉士の国家試験に合格するためには、次の二つの基準を満たすことが必要になります。 (I)問題の総得点の6割程度以上の点数の得点があること。 (II)受験で課されるすべての科目において得点があること (一科目でも0点を取ると不合格となる) これらの基準を満たすために、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストはあなた方の学習の形成的評価となるものですから、確実に得点ができるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを2度と繰り返さないようにしましょう。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	・各授業の最後に行う確認テストは、満点が取れるまで演習を繰り返して下さい。 ・定期試験 (共通科目・専門科目) では、実際の本番の試験の合格基準に従って、 ①全体の60%以上の得点がある ②全ての科目で得点が見られる (0点科目がない) ことを課題とします。 (不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務づけます)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】授業内配布テキスト、『精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規。 【参考文献】『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』中央法規。		
11. 成績評価の方法	各授業の最後に行う確認テスト 50% 定期試験 (共通科目・専門科目) 50% 30 コマ中、8 回以上欠席した場合は、単位修得できません。 10 分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。		
12. 受講生へのメッセージ	国家試験に合格するためには、「過去問題」をどれだけ自分のものとして理解し暗記できているかによって決まります。本講義を受講する学生は、本番の試験と同様に1問1問真剣に取り組んで下さい。 (授業進行は変更することがあります)		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (試験の概要・傾向等) (合格基準の確認、授業の進め方とその学習方法について理解する)	事前学習	シラバスを事前によく読んでくる 教科書を必ず購入して、事前に目次に目を通しておく
		事後学習	学習方法の確認
第2回	【人体の構造と機能及び疾病】 (「人の成長・発達」「心身機能と身体構造の概要」「健康の捉え方」「疾病と障害の概要」「リハビリテーションの概要」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第3回	【心理学理論と心理的支援】 (「人の心理学的理解」「人の成長・発達と心理」「心理的支援と方法と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第4回	【社会理論と社会システム】 (「現代社会の理解」「生活の理解」「人と社会の関係」「社会問題の理解」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第5回	【現代社会と福祉①】 (「福祉の原理をめぐる理論と哲学」「福祉制度の発達過程」「福祉政策におけるニーズと資源」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第6回	【現代社会と福祉②】 (「福祉政策の課題」「福祉政策の構成要素」「福祉政策と関連政策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第7回	【地域福祉の理論と方法①】 (「地域福祉の基本的考え方」「地域福祉の主体と対象」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第8回	【地域福祉の理論と方法②】 (「地域福祉に係る組織、団体、及び専門職や地域住民」「地域福祉の推進方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第9回	【福祉行政と福祉計画】 (「福祉行政の実施体制」「福祉計画の意義と目的」「福祉計画の主体と方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第10回	【社会保障】 (「現代社会における社会保障制度の課題」「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「社会保障制度の体系」「年金保険制度の具体的内容」「医療保険制度の具体的内容」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第11回	【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習

	（「障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要」「障害者の日常生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」「障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際」「障害者総合支援法における専門職の役割と実際」「相談支援事業所の役割と実際」「児童福祉法（障害児支援関係）」「障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）」について）	事後学習	確認テストの復習
第 1 2 回	【低所得者に対する支援と生活保護制度】 （「低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「生活保護制度」「福祉事務所の役割と実際」「自立支援プログラムの意義と実際」「低所得者対策」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 3 回	【保健医療サービス】 （「医療保険制度」「診療報酬」「保健医療サービスの概要」「保健医療サービスにおける専門職の役割と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 4 回	【権利擁護と成年後見制度】 （「相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり」「成年後見制度」「成年後見制度利用支援事業」「権利擁護活動の実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 5 回	共通科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 春期（共通科目）			
第 1 6 回	【精神疾患とその治療①】 （「精神疾患総論」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 7 回	【精神疾患とその治療②】 （「精神疾患の治療」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 8 回	【精神保健の課題と支援①】 （「精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ」「精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ」「精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 9 回	【精神保健の課題と支援②】 （「精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割」「精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題」「精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 0 回	【精神保健福祉相談援助の基盤①】 （「精神保健福祉士の役割と意義」「社会福祉士の役割と意義」「相談援助の概念と範囲」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 1 回	【精神保健福祉相談援助の基盤②】 （「相談援助の理念」「精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方」「精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方」「相談援助に係わる専門職の概念と範囲」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 2 回	【精神保健福祉相談援助の基盤③】 （精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲）「精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 3 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開①】 （「精神保健医療福祉の歴史と動向」「精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 4 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開②】 （「医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割」「相談援助の過程及び対象者との援助関係」「相談援助のための面接技術」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 5 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開③】 （「相談援助活動の展開」「家族調整・支援の実際と事例分析」「地域移行・地域定着支援の対象及び支援体制」「地域を基盤にした相談援助の主体と対象」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 6 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開④】 （「地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方」「精神障害者のケアマネジメント」「地域を基盤にした支援とネットワーク」「地域生活を支援する包括的な支援の意義と展開」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 7 回	【精神保健福祉に関する制度とサービス①】 （「精神保健福祉法の意義と内容」「精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス」「精神障害者に関連する社会保障制度の概要」「相談援助に係わる組織、団体、関係	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習

	機関及び専門職や地域住民との協議)について)		
第 28 回	【精神保健福祉に関する制度とサービス②】 (「更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係」「更生保護制度における関係機関や団体との連携」「医療観察法の概要」「医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割」「社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用)について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 29 回	【精神障害者の生活支援システム】 (「精神障害者の生活の実際」「精神障害者の生活と人権」「精神障害者の居住支援」「精神障害者の就労支援」「市町村における相談援助)について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 30 回	専門科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 秋期 (専門科目)			

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士養成演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GECD4225
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉士の資格を得て、熱意をもって国民の精神保健福祉の向上及び精神障害者の福祉の増進に寄与し、精神障害者の社会的復権のために活躍するためには、まずは精神保健福祉士の国家試験に合格することが欠かせません。すでに履修している精神保健福祉士養成演習Ⅰにおける学習を基盤として、この講義ではより実践的な演習を行っていきます。今まで学んできた学習内容を、出題が多く見られる分野を中心に徹底した問題演習を行っていきます。試験に合格するために必要となる知識を確実に記憶に定着させるとともに、近年の出題傾向を把握した上で、新しい問題にも対応できる実力を身につけられる講義を行います。</p> <p>また、全国統一模擬試験を受験することで試験の雰囲気になれるとともに、解答した問題については、その後の授業の中でも振り返りをしていきます。</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉士の国家試験に合格するためには、次の二つの基準を満たすことが必要になります。</p> <p>(Ⅰ)問題の総得点の6割程度以上の得点があること。</p> <p>(Ⅱ)受験で課されるすべての科目において得点があること (一科目でも0点を取ると不合格となる)。</p> <p>これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を満遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。特にこの養成演習Ⅱの授業では、実際の出題実績の多い最頻出分野の問題から繰り返し解いていく作業を中心とします。各授業の最後に行う確認テストは、皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に全問が正解できることを目標とするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直すことで、同じ間違いを二度と繰り返さないことが重要です。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・各授業の最後には、予め配付する「一問一答」の中から関連する項目の確認テストを行います。満点が取れるまで予習復習を繰り返して下さい。</p> <p>・期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ(共通科目編)・Ⅱ(専門科目編)」では、本番の試験の合格基準に従い、</p> <p>① 全体の60%以上の得点が見られる。</p> <p>② 全ての科目で得点が見られる(0点科目がない)ことを課題とします。</p> <p>(不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務づけます)</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】(3年の養成演習Ⅰの時に購入した問題集を使用します。3年次に養成演習Ⅰを履修していなかった者は、事前に購入して授業に臨むこと。『2016 精神保健福祉士国家試験過去問題集』(中央法規))</p> <p>「大学作成の授業内配付テキスト」</p> <p>『見て覚える! 社会福祉士国試ナビ 2017』(中央法規)</p> <p>【参考書】『精神保健福祉士受験ワークブック 専門科目編 2017』(中央法規)</p> <p>『2017 精神保健福祉士国家試験過去問題集』(中央法規)</p> <p>『精神保健福祉士国家試験模擬問題集<専門科目>2017』(中央法規)</p>		
11. 成績評価の方法	<p>月に1回行う確認テスト 50%</p> <p>期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ(共通科目編)・Ⅱ(専門科目編)」と12月に実施する校内模試 50%</p> <p>60 コマ中、16 コマ以上欠席した場合は、単位修得できません。</p> <p>10 分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。</p> <p>※期末試験は、試験期間において実施する(春学期のみ)。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>国家試験へ合格するためには、徹底した「過去問題」の理解・暗記が欠かせません。試験本番まで1年を切った本年度は、より実践的な演習を行っていきます。本講義を受講する学生は、試験に絶対受かるという強い決意をもって、一問一問真剣に取り組むようにして下さい。</p> <p>授業内容や進行順は変更することがあります。</p>		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス(春期)(試験の概要・傾向等) 【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】	事前学習	各自で過去問演習を行っておく。
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第2回	【地域福祉の理論と方法】【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第3回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第4回	【福祉行財政と福祉計画】【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第5回	実力確認テストⅠ(共通科目)(今までの授業で取り上げた問題を中心に、過去問題全般を出題範囲とする)	事前学習	今までの授業で取り上げた問題及び関連した問題の見直し
		事後学習	不正解であった問題及びその関連問題の演習
第6回	【精神疾患とその治療】【精神保健の課題と支援】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習

		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 7 回	【精神保健福祉相談援助の基盤】【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 8 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】【精神保健福祉に関する制度とサービス】【精神障害者の生活支援システム】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 9 回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【保健医療サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 10 回	【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 11 回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【福祉行政と福祉計画】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 12 回	【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】【地域福祉の理論と方法】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 13 回	【精神疾患とその治療】【精神保健の課題と支援】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 14 回	【精神保健福祉相談援助の基盤】【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 15 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】【精神保健福祉に関する制度とサービス】【精神障害者の生活支援システム】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
期末試験（実力確認テストⅡ）（専門科目）			
第 16 回	ガイダンス（秋期） 事例問題の演習①（相談援助関連）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 17 回	共通科目基礎徹底理解（共通科目ランダム問題）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 18 回	専門科目基礎徹底理解（専門科目ランダム問題）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 19 回	利用者を理解する科目の徹底理解①（共通科目） （人体・心理学）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 20 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解①（共通科目） （社会理論・現代社会）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 21 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解②（共通科目） （地域福祉）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 22 回	社会保障を理解する科目の徹底理解①（共通科目） （社会保障・低所得者）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 23 回	社会保障を理解する科目の徹底理解②（共通科目） （障害者・権利擁護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 24 回	社会保障を理解する科目の徹底理解③（共通科目） （行政・保健医療）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 25 回	利用者を理解する科目の徹底理解②（専門科目） （精神疾患・精神保健）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 26 回	精神保健福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解 （専門科目）（基盤・理論と展開）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 27 回	社会保障を理解する科目の徹底理解④（専門科目） （制度とサービス・生活支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 28 回	事例問題の演習②（基盤・制度とサービス・生活支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 29 回	精神保健医療福祉の最近の動向の理解（時事問題）	事前学習	配付資料を事前によく読んでくる
		事後学習	福祉に関する時事問題をしっかりと把握する
第 30 回	自己採点・出題科目の総括的振り返り	事前学習	（国家試験の問題冊子を持参する）
		事後学習	（最後まで、合格を信じること！）

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉論 I (2 単位)		3. 科目番号	SCMP2128 PSMP2428
2. 授業担当教員	大山 勉、谷口 恵子			
4. 授業形態	講義、課題の発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	障害者福祉の歴史、理念と意義、障害の概念、障害福祉施策についての学習を基礎とし、精神障害者に対する処遇の歴史を踏まえ、精神保健福祉の理念と意義、精神障害者の人権、精神保健福祉法制、精神保健福祉施策の現状と課題について学習する。また、精神保健福祉業務を担う精神保健福祉士の理念と意義、対象、専門性、および精神障害者に対する相談援助について学習する。			
8. 学習目標	以下について理解し、説明できるようになることを学習目標とする。 1.障害者福祉の理念と意義、障害の概念、障害者福祉施策について理解する。 2.精神障害者の人権について理解する。 3.精神保健福祉士の理念と意義、対象について理解する。 4.精神障害者に対する相談援助活動について理解する。 5.精神保健福祉法等、精神障害者に関する法律の意義と内容について理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	割り当てられた範囲について調査及びディスカッションを行い、レポート等を作成・提出及び発表をする。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『新版 精神保健福祉士養成セミナー 第 6 巻 精神障害者の生活支援—制度・システムとサービス』へるす出版。 【参考書】 必要に応じて授業の中で通知する。			
11. 成績評価の方法	授業への参加度 (授業態度など) ...30% 課題提出・発表...30% テスト...40% (事前に範囲・形式を予告する。)			
12. 受講生への メッセージ	初回授業で受講ルールの詳細を説明する。したがって受講希望者は必ず第 1 回の授業に出席すること。 精神保健福祉士の倫理・技術等を含むその存在意義は、精神障害のある人たちのためにある。したがって、倫理・技術が単独で存在することはない。つまり、精神障害のある人たちの生活実態や状況を知り、その支援を如何に良いものとしていくかという志向が必要となる。本講義は精神障害のある人たちのおかれた、おかれている状況を理解することから始める。そして受講生諸君が「精神障害がある人たちへの支援が如何にあるべきか」を考える起点としていただきたい。			
13. オフィスアワー	授業の中で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書の通読	
		事後学習	精神保健福祉とは何かについて調べてくる	
第 2 回	精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷	事前学習	教科書 pp.1～6 を読み、精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.1～6 を読み、精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 3 回	精神保健福祉法の主な内容	事前学習	教科書 pp.6～22 を読み、精神保健福祉法の主な内容について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.6～22 を読み、精神保健福祉法に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 4 回	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割／障害者自立支援法までの経緯／障害者基本法と精神障害者福祉施策	事前学習	教科書 pp.23～32 を読み、精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割／障害者自立支援法までの経緯／障害者基本法と精神障害者福祉施策について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.23～32 を読み、精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割／障害者自立支援法までの経緯／障害者基本法と精神障害者福祉施策に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 5 回	障害者自立支援法とその動向	事前学習	教科書 pp.33～44 を読み、障害者自立支援法とその動向について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.33～44 を読み、障害者自立支援法に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 6 回	新たな障害保健福祉施策の検討 障害者総合福祉法への道	事前学習	教科書 pp.44～56 を読み、新たな障害保健福祉施策の検討について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.44～56 を読み、新たな障害保健福祉施策の検討に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 7 回	今後の精神保健福祉医療の課題と検討	事前学習	教科書 pp.57～60 を読み、今後の精神保健福祉医療の課題と検討について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.57～60 を読み、今後の精神保健福祉医療の課題と検討に関する国試過去問を解いて理解を深める。	

第 8 回	精神保健福祉に関する行政組織	事前学習	教科書 pp.60～75 を読み、精神保健福祉に関する行政組織について調べる。
		事後学習	教科書 pp.60～75 を読み、精神保健福祉に関する行政組織に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 9 回	医療観察法の意義と内容／医療観察制度創設の経緯と背景	事前学習	教科書 pp.77～79 を読み、医療観察法について調べる。
		事後学習	教科書 pp.77～79 を読み、医療観察法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 10 回	医療観察法の概要および目的	事前学習	教科書 pp.79～85 を読み、医療観察法の概要および目的について調べる。
		事後学習	教科書 pp.79～85 を読み、医療観察法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 11 回	精神保健福祉士と医療観察制度	事前学習	教科書 pp.85～87 を読み、精神保健福祉士と医療観察制度について調べる。
		事後学習	教科書 pp.85～87 を読み、精神保健福祉士と医療観察制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 12 回	医療観察法の今後の課題と期待	事前学習	教科書 pp.87～88 を読み、医療観察法の今後の課題と期待について調べる。
		事後学習	教科書 pp.87～88 を読み、医療観察法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 13 回	更生保護制度の概要	事前学習	教科書 pp.88～94 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.88～94 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 14 回	司法・医療・福祉の連携	事前学習	教科書 pp.94～96 を読み、司法・医療・福祉の連携について調べる。
		事後学習	教科書 pp.94～96 を読み、司法・医療・福祉の連携に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉論Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	SCMP3129 PSMP3429
2. 授業担当教員	大山 勉、小金澤 嘉		
4. 授業形態	講義、課題の発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	障害者福祉の歴史、理念と意義、障害の概念、障害福祉施策についての学習を基礎とし、精神障害者に対する処遇の歴史を踏まえ、精神保健福祉の理念と意義、精神障害者の人権、精神保健福祉法制、精神保健福祉施策の現状と課題について学習する。また、精神保健福祉業務を担う精神保健福祉士の理念と意義、対象、専門性、および精神障害者に対する相談援助について学習する。		
8. 学習目標	以下について理解し、説明できるようになることを学習目標とする。 1. 障害者福祉の理念と意義、障害の概念、障害者福祉施策について理解する。 2. 精神障害者の人権について理解する。 3. 精神保健福祉士の理念と意義、対象について理解する。 4. 精神障害者に対する相談援助活動について理解する。 5. 精神保健福祉法等、精神障害者に関する法律の意義と内容について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	割り当てられた範囲について調査及びディスカッションを行い、レポート等を作成・提出及び発表をする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『新版 精神保健福祉士養成セミナー 第6巻 精神障害者の生活支援—制度・システムとサービス』へるす出版 【参考書】 必要に応じて授業の中で通知する。		
11. 成績評価の方法	授業への参加度 (授業態度など) ...30% 課題提出・発表...30% テスト...40% (事前に範囲・形式を予告する。)		
12. 受講生への メッセージ	初回授業で受講ルールの詳細を説明する。したがって受講希望者は必ず第1回の授業に出席すること。 精神保健福祉論Ⅰに続く講義であり、受講生諸君が「精神障害がある人たちへの支援が如何にあるべきか」という課題について考察を深めることを期待する。		
13. オフィスアワー	授業の中で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1・2回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書の通読。
		事後学習	精神保健福祉士の倫理について求める。
第3・4回	障害者自立支援法とその動向	事前学習	教科書 pp.33～44 を読み、障害者自立支援法とその動向について調べる。
		事後学習	教科書 pp.33～44 を読み、障害者自立支援法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第5・6回	新たな障害保健福祉施策の検討 障害者総合福祉法への道	事前学習	教科書 pp.44～56 を読み、新たな障害保健福祉施策の検討について調べる。
		事後学習	教科書 pp.44～56 を読み、新たな障害保健福祉施策の検討に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第7・8回	今後の精神保健福祉医療の課題と検討	事前学習	教科書 pp.57～60 を読み、今後の精神保健福祉医療の課題と検討について調べる。
		事後学習	教科書 pp.57～60 を読み、今後の精神保健福祉医療の課題と検討に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第9・10回	精神保健福祉に関する行政組織	事前学習	教科書 pp.60～75 を読み、精神保健福祉に関する行政組織について調べる。
		事後学習	教科書 pp.60～75 を読み、精神保健福祉に関する行政組織に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第11・12回	医療観察法の意義と内容／医療観察制度創設の経緯と背景 医療観察法の概要および目的 精神保健福祉士と医療観察制度 医療観察法の今後の課題と期待	事前学習	教科書 pp.77～88 を読み、医療観察法の意義と内容／医療観察制度創設の経緯と背景について調べる。
		事後学習	教科書 pp.77～88 を読み、医療観察法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第13・14回	更生保護制度の概要 司法・医療・福祉の連携 司法・医療・福祉の連携	事前学習	教科書 pp.88～96 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.88～96 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第15・16回	医療保険制度・健康保険の概要と医療保険給付の状	事前学習	教科書 pp.97～112 を読み、更生保護制度の概

	況 介護保険制度・給付の概要		要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.97～112 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 17・18 回	労働者災害補償制度・障害年金制度・公的扶助について 経済負担の軽減と精神障害者、経済負担の軽減措置	事前学習	教科書 pp.113～133 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.97～133 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 19・20 回	精神障害者の生活実態 ・障害の捉え方—医学モデルから社会モデルへ ・障害者の実態把握の難しさ ・自治体のアンケート調査から	事前学習	教科書 pp.113～142 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 113～142 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 21・22 回	精神障害者の生活実態 ・家族の調査から見えてくること ・精神障害者自身の経験から ・実態から政策提言へ	事前学習	教科書 pp.142～148 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.142～148 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 23・24 回	精神障害者の居住支援	事前学習	教科書 pp.148～153 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 148～153 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 25・26 回	精神障害者と雇用・就労	事前学習	教科書 pp.153～166 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 153～166 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 27・28 回	精神障害者の生活支援システム	事前学習	教科書 pp.166～175 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 166～175 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 29・30 回	まとめ	事前学習	テキスト・配布資料等を見直し、理解不足な点を明らかにしておく。
		事後学習	これまでの学習内容における不明点が克服されたか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	生物学 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1322 GELA1343
2. 授業担当教員	多比良 和誠		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本授業では、①地球上に初めて誕生した生物はどのような生命体であったのか、②生物はどのように進化してきたのか、③現存する生物は環境に対してどのように適応しているのか、④生物の構成単位である細胞の核には、どのようなものがあるのか、⑤染色体や遺伝子の働きは何か、⑥ホメオスタシス (恒常性) を維持するために、神経やホルモンはどのように働いているのか、⑦発生はどのように進んでいくのか、⑧炭酸同化作用の意義はどのようなところにあるのか、⑨細胞の老化は何故起こるのか、⑩老化を抑制して健康的に長生きするためにはどうすればよいのかなどについて、資料やワークシートを用い、ディスカッションや発表などを取り入れながら、双方向対話型の授業を行っていく。</p>		
8. 学習目標	<p>本講義では、①生物の体内の仕組みや働きに興味や関心を持つこと、②生物学的な知識を幅広く持つようになること、③命の大切さを十分に理解できるようになること、を学習目標としている。また、これらの学習目標の達成が、保育、教育、福祉、心理などの専門科目への橋渡しにすることを達成目標とし、本講義で学んだことを社会へ出てからも様々な分野で応用できるようになることを究極の目標とする。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題：本授業に参加して興味を持ったことについて、自分でテーマを決めて、1,000字程度で論述してもらう。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 木下勉・小林秀明・浅賀宏昭・著『ZERO からの生命科学 (改訂 4 版)』南山堂</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房 東京大学生命科学教科書編集委員会編『文系のための・生命科学』羊土社</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、毎週の口頭試問テスト、レポート等を総合して評価する。</p> <p>1 授業への積極的参加度 総合点の 20%</p> <p>2 受講態度 総合点の 15%</p> <p>3 毎週の確認テスト 総合点の 25%</p> <p>4 課題レポート 総合点の 40%</p> <p>期末試験は実施しないので、各授業での「確認テスト」が重要になる。欠席すると、「確認テスト」が受けられないだけでなく「授業への積極的参加」の評価が低くなる。 なお、4分の3以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業を通じて、生物に関心を持っていただきたい。また、地球上に誕生した緑色植物の存在意義が大きいことや、我々が引き起こした人工的な環境破壊によって、地球の環境が多くの生物にとって危機的状況になっていることを理解してほしい。さらには、細胞の老化に関する知識を超高齢社会で応用できるようになっていただければ幸いである。</p>		
13. オフィスアワー	<p>時間：授業がある日の昼休みと放課後 場所：王子キャンパス 管理・研究棟 3 階の 2 号室</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業の進め方など) 生命とは (生命の誕生と生命の最小機能単位)	事前学習	学んだことをまとめるノートと教科書を準備して、講義へ臨むこと。教科書 (pp. 1~14) の予習。
		事後学習	教科書 (pp. 1~14) の要点と生命がどのように誕生したのかについてまとめる。
第 2 回	生命の基本構造 (細胞の構造と機能)	事前学習	教科書 2 章 (pp. 15~25) の予習。
		事後学習	教科書 2 章 (pp. 15~25) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 3 回	多細胞動物の体 (組織・器官から器官形成の機能まで)	事前学習	教科書 3 章 (pp. 27~49) の予習。
		事後学習	教科書 3 章 (pp. 27~49) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 4 回	生命を構成している物質 (アミノ酸・タンパク質、糖質、脂質、核酸・遺伝子)	事前学習	教科書 4 章 (pp. 51~77) の予習。
		事後学習	教科書 4 章 (pp. 51~77) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 5 回	遺伝子に関する DVD 鑑賞 (女と男の X, Y 遺伝子)	事前学習	これまでの『遺伝子』に関する復習。
		事後学習	DVD の内容をまとめる。
第 6 回	体内における物質代謝 (酵素反応による代謝)	事前学習	教科書 5 章 (pp. 79~100) の予習。
		事後学習	教科書 5 章 (pp. 79~100) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 7 回	生命の設計図 (ヒトの遺伝子解明、ABO 式血液型など)	事前学習	教科書 6 章 (pp. 101~122) の予習。
		事後学習	教科書 6 章 (pp. 101~122) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 8 回	遺伝子の複製と発現 (遺伝暗号を用いたタンパク質合成)	事前学習	教科書 6 章 (pp. 123~146) の予習。
		事後学習	教科書 6 章 (pp. 123~146) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 9 回	ホメオスタシス (恒常性を維持するための神経やホルモ	事前学習	教科書 7 章 (pp. 147~161) の予習。

平成 28 年度

	ンの働き)	事後学習	教科書 7 章 (pp.147～161) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 1 0 回	生体の防御・免疫系と疾患 (免疫応答のしくみ)	事前学習	教科書 8 章 (pp.163～172) の予習。
		事後学習	教科書 8 章 (pp.163～172) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 1 1 回	教科書の復習 (全体の要点をまとめる)	事前学習	教科書全体の復習。
		事後学習	教科書全体の要点を学習用ノートにまとめる。
第 1 2 回	生命に関する DVD 鑑賞	事前学習	教科書全体の復習。
		事後学習	DVD の内容をまとめる。
第 1 3 回	遺伝子・環境問題に関するパワーポイント講義 (最新情報)	事前学習	これまでの教科書や配布資料の復習。
		事後学習	期末レポートのアウトラインの作成。
第 1 4 回	期末レポートのアウトラインの作成・下書き	事前学習	期末レポートのアウトラインの作成。
		事後学習	期末レポートのアウトラインの下書き。
第 1 5 回	期末レポートの清書・提出 授業評価	事前学習	期末レポートの最終チェック。
		事後学習	清書した期末レポートの提出。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	生理学 (4 単位)		3. 科目番号	GELA2322								
2. 授業担当教員	根岸 祥子		5. 開講学期	秋期								
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表。生理学に関する簡単な実験。											
6. 履修条件・他科目との関係												
7. 講義概要	医療分野の多極化がすすみ、数多くの co-medical の新しい職種が誕生している。人体に関係のある仕事に携わる人々にとって人体生理学は大変大切である。職場の労働者の健康管理や快適な職場環境づくりを行うための衛生管理者にとって、この生理学は欠かすことのできない科目であるが、難解な科目でもある。しかし、まず、人体の全般にわたって理解を深め、その上で、専門的な知識を習得していくことが大切である。本科目では、人体各部の組織、器官・器官系それぞれの生理機能を理解し、それらが統合された個体としての人体活動について、疾病とも関連させて学ぶ。											
8. 学習目標	<p>学生には下記について学び、説明できるようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体各部の組織・器官・器官系の名称とその位置を確認する。 2. 生体内の諸組織・器官の機能について学ぶ。 3. 生体内の諸組織・器官の神経系による調節について学ぶ。 4. 生体内の諸組織・器官の内分泌系による調節について学ぶ。 5. 神経系・免疫系・自律神経系を介する生体防御について学ぶ。 6. 生体機能を健康的に維持する方法について学ぶ。 											
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で学んだ内容をミニレポートにまとめ、終了時に提出する。 2. レポート課題：指定する設題に対し、生理機能をわかりやすく具体的にまとめる 											
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 照井直人著『これならわかる！生理学』第5刷以降、ナツメ社。 【参考書】 田中越郎著『好きになる生理学』講談社。 松村譲児ほか『人間 いのちの歴史』小学館。 岡田隆夫『基礎からわかる生理学』ナツメ社。 随時プリントを配布</p>											
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加度・ミニレポートの提出</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>確認テスト・期末試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>課題レポートの提出等</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>100%</td> </tr> </table>				授業への積極的参加度・ミニレポートの提出	50%	確認テスト・期末試験	30%	課題レポートの提出等	20%	総計	100%
授業への積極的参加度・ミニレポートの提出	50%											
確認テスト・期末試験	30%											
課題レポートの提出等	20%											
総計	100%											
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業を通じ、自らの健康行動を実践するようにしてください。 2. ミニレポートは、授業の内容・要点について掘り下げたものを求めます。 3. 事前学習、事後学習を充分に行ってください。 4. 講義だけでなく、視聴覚、グループワークを行います。真剣に臨んでください。 5. 関連図書をたくさん読んでください。 6. マスメディアの医学情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 7. 欠席遅刻はしないこと。成績評価に大いに反映させます 8. 居眠り、私語、明らかな不適切授業態度には厳格に対処します 											
13. オフィスアワー	最初の講義時に連絡。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容		学習課題									
第1回	オリエンテーション 生理学とは		事前学習	生理学とは何かについて概要をまとめる								
			事後学習	人のからだの仕組みについて概要をまとめる								
第2回	細胞 (構造、機能)		事前学習	教科書 pp. 84~87 を理解しておく								
			事後学習	細胞の構造と機能をミニレポート・提出								
第3回	体液		事前学習	教科書 pp. 88~90 理解しておく								
			事後学習	体液についてのミニレポートの作成								
第4回	血液		事前学習	教科書 pp. 90~102 を理解しておく								
			事後学習	血液の役割、組成、血液凝固をまとめる								
第5回	循環 ①	心臓の構造と機能	事前学習	教科書 pp. 104~115 をまとめる								
			事後学習	心臓の働きについてミニレポートにまとめる								
第6回	循環 ②	循環器系の調節	事前学習	教科書 pp. 115~130 を理解しておく								
			事後学習	循環器系の調節についてミニレポートにまとめる								
第7回	呼吸 ①	呼吸器の構造と機能調節	事前学習	教科書 pp. 62~72 を理解しておく								
			事後学習	呼吸器の構造についてミニレポートの作成								
第8回	呼吸 ②	ガス交換の仕組み、呼吸器系の異常	事前学習	教科書 p. 73~82 を理解しておく								
			事後学習	ガス交換の仕組みについてミニレポートの作成								
第9回	消化 ①	消化器系の構造と機能調節	事前学習	教科書 pp. 34~45 を理解しておく								
			事後学習	消化器系に関するミニレポートの作成								
第10回	消化 ②	消化、吸収、消化器ホルモン	事前学習	教科書 pp. 46~60 を理解しておく								
			事後学習	消化とホルモンに関するミニレポートの作成								

第 1 1 回	栄養と代謝	事前学習	教科書 pp. 16～32 を理解しておく
		事後学習	栄養と代謝のミニレポートの作成
第 1 2 回	ここまでのまとめとディスカッション	事前学習	ここまでの教科書とプリントの確認と整理
		事後学習	確認テストの実施と復習
第 1 3 回	体温の生理的変動、熱産生、熱放射	事前学習	体温の生理的変動について調べる
		事後学習	配布プリントの確認、まとめ
第 1 4 回	排尿 ① 腎臓の機能	事前学習	教科書 pp. 132～144 を理解しておく
		事後学習	腎臓の機能についてミニレポートを作成
第 1 5 回	排尿 ② 体内の水分、酸塩基平衡	事前学習	教科書 pp. 148～156 を理解しておく
		事後学習	体内の水分、酸塩基平衡についてミニレポート作成
第 1 6 回	内分泌系 ① ホルモンとその分泌機構	事前学習	教科書 pp. 264～269 を理解しておく
		事後学習	ホルモンとその分泌調節機序についてミニレポート作成
第 1 7 回	内分泌系 ② 成長ホルモン、甲状腺ホルモン、下垂体後葉ホルモン	事前学習	教科書 pp. 270～274 を理解しておく
		事後学習	各ホルモンについてミニレポート作成
第 1 8 回	骨とカルシウム代謝	事前学習	教科書 pp. 275～282 を理解しておく
		事後学習	骨代謝についてミニレポートの作成
第 1 9 回	睡眠	事前学習	教科書 pp. 234～246 を理解しておく
		事後学習	睡眠の種類についてミニレポート作成
第 2 0 回	ここまでのまとめ	事前学習	ここまでの教科書・プリントの確認と整理
		事後学習	確認テストの実施と復習
第 2 1 回	生体防御 ① 自然免疫と特異免疫	事前学習	自然免疫と特異免疫について調べる
		事後学習	自然免疫と特異免疫についてミニレポート作成
第 2 2 回	生体防御 ② 免疫に関する疾患、アレルギー	事前学習	アレルギーについて調べる
		事後学習	免疫疾患、免疫不全についてもミニレポートの作成
第 2 3 回	生殖	事前学習	教科書 pp. 248～262 を理解しておく
		事後学習	生殖に関するミニレポートの作成
第 2 4 回	神経 ① 神経細胞の形態、活動電位、興奮の伝達	事前学習	教科書 pp. 176～181 を理解しておく
		事後学習	神経の興奮伝導の基礎についてミニレポートの作成
第 2 5 回	神経 ② 自律神経系と中枢神経系	事前学習	教科書 pp. 182～204 を理解しておく
		事後学習	自律神経、中枢神経の役割についてミニレポートを作成
第 2 6 回	筋肉 ① 筋肉の種類	事前学習	教科書 p. 158～165 を理解しておく
		事後学習	骨格筋、平滑筋、心筋の相違についてミニレポートを作成
第 2 7 回	筋肉 ② 筋収縮の機序、運動の神経支配	事前学習	教科書 pp. 166～174 を理解しておく
		事後学習	筋収縮、運動の神経支配に関するミニレポートを作成
第 2 8 回	感覚 ① 体性感覚、視覚、味覚	事前学習	教科書 pp. 206～219 について理解しておく
		事後学習	体性感覚、視覚、味覚についてミニレポート
第 2 9 回	感覚 ② 嗅覚、聴覚、平衡感覚	事前学習	教科書 pp. 220～230 について理解しておく
		事後学習	嗅覚、聴覚、平衡感覚のミニレポート作成
第 3 0 回	課題の発表	事前学習	各自の課題をパワーポイントの作成
		事後学習	これまでの勉強を通してヒトの身体の仕組みを理解する
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	生理心理学 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3336
2. 授業担当教員	末永 叔子		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、ディスカッション			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	生理心理学とは、生体の生理的反応と心的過程との対応関係について研究する分野である。心的反応によって生じる生理的变化は、脳内活動によって制御されている。本講義では脳の構造と働きについて体系的な知識を身につけるとともに、知覚、記憶、感情といった心的過程と脳の生理的反応の関係について学ぶ。さらに、精神疾患との関連についても学び、「心」の問題と脳の活動について理解を深める。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と働きについて基本的な知識を身につける。 ・心的過程や精神疾患に脳がどのように関わっているのか学ぶ。 ・上記の応用として、臨床事例と脳の活動について説明出来るようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	理解度確認のため、小テストを課します。 事後学習を忘れずに行ってください。 まとめとして、授業で学んだテーマのうち、一つを選んでレポートを作成します。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特に指定しない。 【参考書】 ピネル『バイオサイコロジー』西村書店。			
11. 成績評価の方法	授業態度、授業への貢献 10% 小テスト 70% レポート 20%			
12. 受講生へのメッセージ	本授業では、こころの働きを脳の神経活動の側面から理解することを目的としています。少し視点を変えて心理現象を見ることで自己理解、他者理解を深めることを期待します。なじみの無い専門用語がたくさん紹介されますが、ひとつひとつを確実に理解するよう努力しましょう。 学生の理解度、興味によってシラバスを変更することがあります。疑問点やわからないことがあれば、積極的に質問してください。			
13. オフィスアワー	授業内で周知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業ガイダンス：心理学の成立と生理心理学との関係	事前学習	シラバスをよく読み、これから学習する内容を把握する。	
		事後学習	配布資料を再読し、心理学の成立の過程を再確認する。	
第 2 回	脳、神経系のなりたち	事前学習	配布資料を読み、講義に備える。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、脳の全体的な構造を理解する。	
第 3 回	神経細胞の情報伝達 (1)：神経細胞の構造	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、神経細胞の各場所の名前と働きを理解する。	
第 4 回	神経細胞の情報伝達 (2)：情報伝達のメカニズム	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、脳内の情報の流れを理解する。	
第 5 回	ここまでのまとめ：小テスト 1	事前学習	これまでの授業を振り返り、脳の構造と脳内の情報伝達の仕組みをまとめ、小テストに備える。	
		事後学習	理解不足な点を再度復習する。	
第 6 回	生理心理学研究法	事前学習	事前に配布した資料に目を通し、講義に備える。	
		事後学習	配布資料を復習し、さまざまな脳の研究法の特徴と、それぞれの方法の違いを理解する。	
第 7 回	神経障害と生理心理学：統合失調症・感情障害・不安障害	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、精神障害の症状と脳内での生理的現象との関連を理解する。	
第 8 回	ここまでのまとめ：小テスト 2	事前学習	これまでの授業を振り返り、内容をまとめる。	
		事後学習	理解不足な点を再度復習する。	
第 9 回	認知・意識・注意の機構 (1)：脳が世界をつくる	事前学習	事前に配布した資料に目を通し、講義に備える。	
		事後学習	配布資料を復習し、私たちの感覚器官 (目や耳など) が知覚した世界を脳がどのように処理しているのかを理解する。	
第 10 回	認知・意識・注意の機構 (2)：妻を帽子と間違えた男	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、なぜ妻を帽子と間違えたのかを理解することを通して、私たちの世界の認識の仕方を学ぶ。	
第 11 回	学習・記憶・健忘 (1)：様々な原因で生じる健忘	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、健忘が生じる原因を理解する。	
第 12 回	学習・記憶・健忘 (2)：脳はどのようにして情報を蓄積するのか	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、学習や記憶の脳内メカニズムを理解する。	
第 13 回	感情・ストレスの生理心理学：感情の暗部である恐怖	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、なぜ私たちが恐怖を抱くのかを考察することを通じ、感情やストレスについての理解を深める。	

第 1 4 回	総括：小テスト 3	事前学習	これまでの授業を振り返り、神経活動の仕組みと、心理現象との関連をまとめる。
		事後学習	理解不足な点を再度復習する。
第 1 5 回	まとめ：脳の可能性	事前学習	これまでの授業で学んだことをふまえ、第 7 回から第 13 回の授業で学んだ心理現象のうち、自分が最も興味をもったテーマについて本や論文を探して、その内容をレポートにまとめる。
		事後学習	授業を振り返り、脳と心理現象の関わりについて考察を深める。

1. 科目名 (単位数)	世界史 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1328 GELA1348
2. 授業担当教員	鈴木 康明		
4. 授業形態	講義・ディスカッション・グループワーク	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>歴史を学ぶということは過去を記憶することのみにとどまるものではない。それを踏まえ、現在をどのように生き、さらに未来をどう構築していくのかについて主体的に考えることである。つまり、現存の社会、経済、政治制度、文化、思想、技術などがどのように形成されてきたのか、それを今後どのようにしていくのかについて、総体的に捉えることが目的である。各地域の歴史、文化、民族などは共通する部分もあるが、基本的にはそれぞれが異質な存在であるにとらえた方がそれらに対し真摯である。そしてだからこそ、互いに異質性を認め共生を目指す、それが人類である。</p> <p>また、今日の社会福祉混迷の打開を思想に求め、欧米社会福祉思想史の方法、古代の慈善救済の福祉思想、中世の慈善救済事業思想、市民革命と自由・平等の人権思想、博愛事業思想と市民主導型ボランティア、社会事業思想とソーシャルワークの創出、現代社会福祉思想の登場と変貌、戦後福祉改革と福祉国家思想・運動を取り上げることもあるが、受講生の興味・関心のある課題を取り入れながら授業を進めていく。</p>		
8. 学習目標	<p>大きな目標は 8 点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平和を維持するため、戦争を起こさないための強い気持と行動力を形成し、実践に活かすことができる。 2 現代にいたる歴史の概要を理解し、説明することができる。 3 特に近現代史を理解し、説明することができる。 4 それぞれの地域、文化、民族の特質を理解し、説明することができる。 5 多文化が共生するためには相互理解が必要であることを理解し、説明することができる。 6 世界史における社会福祉思想史の研究方法を習得する。 7 古代から現在にいたる時間軸の中で生まれた福祉思想とそれらの特徴を知る。 8 過去の福祉思想の今日への影響及び関わりについて考察する能力を養う。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>宿題：新聞記事を中心に世界で起きている出来事について、正確な情報を収集する。</p> <p>課題：そのことについての自分の考えを整理する。</p> <p>→単元終了後にレスポンスシートを作成する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 教場で配布するワークブックを使用するので、特に指定しない。</p> <p>【参考書】 教場で資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート 60%、レスポンスシート 20%、調べ学習など講義への参加度 20%。</p> <p>なお本学の規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合、単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>ステレオタイプ、偏見が争いの源であることは社会心理学的知見から明らかである。それを避けるためには他者について正しい知識を持つことが必要であり、それは異質性に対する純粋な関心、好奇心からなる。本講義は知識の獲得とあわせ、そのような人材の育成も目指したい。そこで受講者に次の事柄の遵守を希望する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。 2 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に勤む。 3 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。 4 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などに対するセルフモニタリング機能を強化する。 <p>これらは学ぶ者の基本的な学習姿勢であると同時に、多文化共生時代を生きる際にも必要な事項である。なお明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であっても F 評価になることを理解しておく。</p> <p>また教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。 3 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 5 受講者が上記のメッセージ 1～4 が守られない場合、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・古代四大文明がおこったところ ・縄文文化と弥生文化 ・卑弥呼の国 ・聖徳太子の政治 <p>この時期の世界は？</p>	事前学習	中高の歴史教科書を読んでおこう
		事後学習	ワークブック 1
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代の農民の暮らし ・奈良の大仏 ・摂関政治 ・国風文化 ・平氏の政権 ・鎌倉幕府の政治 ・鎌倉文化 ・元寇 ・足利義満 ・室町文化 <p>この時期の世界は？</p>	事前学習	奈良と鎌倉の大仏を見学しよう。
		事後学習	ワークブック 2 ワークブック 3
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・コロンブスの航海 ・キリスト教伝来 ・織田信長 ・豊臣秀吉 ・桃山文化 ・江戸幕府と大名 ・鎖国の理由 ・江戸の都市 ・元禄文化 <p>この時期の世界は？</p>	事前学習	姫路城を見学しよう。
		事後学習	ワークブック 4 ワークブック 5
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・徳川吉宗 ・松平定信 ・水野忠邦 	事前学習	歌舞伎を見よう。

	・化政文化 ◎ヨーロッパ史基礎	事後学習	ワークブック 6
第 5 回	・産業革命 ・ペリーの来航 ・大政奉還 ・明治維新 ・自由民権運動 ◎ヨーロッパ史基礎	事前学習	映画【レ・ミゼラブル】を見よう。
		事後学習	ワークブック 7
第 6 回	・日清戦争 ・日露戦争	事前学習	教科書の日清・日露戦争の項を読んでおこ う。
		事後学習	ワークブック 8
第 7 回	・第一次世界大戦 ・大戦後の世界 ・大正デモクラシー	事前学習	教科書の第一次世界大戦の項を読んでおこ う。
		事後学習	ワークブック 9
第 8 回	・世界恐慌 ・日中戦争	事前学習	映画【サウンド・オブ・ミュージック】を見 よう。
		事後学習	西大門刑務所歴史館に行こう。
第 9 回	・第二次世界大戦	事前学習	映画【黄色い星の子供たち】を見よう。
		事後学習	ワークブック 10
第 10 回	・日本の民主化 ・冷たい戦争 ・日本の「独立」 ・石油危機	事前学習	第二次世界大戦の項をまとめておこ う。
		事後学習	復習テスト
第 11 回	映像の世紀から	事前学習	※教場で指示。
		事後学習	感想をまとめてみよう。
第 12 回	映像の世紀から	事前学習	※教場で指示。
		事後学習	感想をまとめてみよう。
第 13 回	アウシュヴィッツとこどもの「いのち」	事前学習	【ホロコースト】(中公新書)を読んでおこ う。
		事後学習	アウシュヴィッツ博物館に行こう。 アンネ・フランク・ハウスに行こう。
第 14 回	東京大空襲とこどもの「いのち」 沖縄戦とこどもの「いのち」	事前学習	【東京大空襲】(岩波新書)を読んでおこ う。
		事後学習	東京大空襲・戦災資料センターに行こう。 ひめゆり平和祈念資料館に行こう。
第 15 回	広島・長崎とこどもの「いのち」	事前学習	【広島・長崎でなにが起こったのか】(岩波 ブックレット)を読んでおこ う。
		事後学習	広島平和記念資料館に行こう。 長崎原爆資料館に行こう。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク I (4 単位)	3. 科目番号	PSMP2455
2. 授業担当教員	西村 明子		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	社会福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、歴史、理念、権利擁護の実際、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び倫理、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義について学ぶとともに、実践現場で活用するためのソーシャルワークの方法・技術を身に付ける。		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士の役割 (総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む) と意義について理解し説明できる。 ・相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助の理念について理解し、説明できる。 ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。 ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義及びグループディスカッションや作業を通じて学習の理解度をみるテストを行う。 ・レポート課題「総合的かつ包括的な相談援助について、概要をまとめ、事例を用いてあなたの考えを述べなさい」(A4/2枚) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題・確認テスト 70% (総合的に評価)</p> <p>授業への積極的参加度 30%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合には単位の修得を認めない。 また、公欠以外の欠席や遅刻は減点の対象となる。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>ソーシャルワーク I はこれから社会福祉士・社会福祉の専門職になるための基礎的な科目のひとつであると考えている。</p> <p>そのため、授業への出席、熱意ある参加、ディスカッション・作業、レポート作成などへの積極的な取り組みを望む。授業の進捗状況・理解度にあわせ、順番等を変更する場合もある。</p>		
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			

講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業内容と進め方について	事前学習	教科書の「はじめに」を読み、ソーシャルワークに関して自分なりのイメージをつかむ。
		事後学習	授業中に行った作業をまとめる
第 2 回	社会福祉士の役割と意義 (社会福祉士及び介護福祉士法、社会福祉士の専門性)	事前学習	教科書の第 1 章を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	社会福祉士法・専門性に関する用語・項目についてまとめる。
第 3 回	相談援助の定義と構成要素① (ソーシャルワークに係る各種の国際定義)	事前学習	教科書の第 2 章第 1 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	国際定義に関する用語・項目をまとめる。
第 4 回	相談援助の定義と構成要素② (ソーシャルワークの構成要素)	事前学習	教科書の第 2 章第 2 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	ソーシャルワークの構成要素に関する用語・項目をまとめる。
第 5 回	相談援助の形成過程 I ① (はじまりから 1920 年代)	事前学習	教科書の第 3 章第 1 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	ソーシャルワークの源流について内容をまとめる。
第 6 回	相談援助の形成過程 I ② (ソーシャルワークの基礎確立期)	事前学習	教科書の第 3 章第 2 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	ソーシャルワークの基礎確立期についてまとめる。
第 7 回	相談援助の形成過程 II ① (ソーシャルワークの発展期)	事前学習	教科書の第 4 章第 1 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	ソーシャルワークの発展期についてまとめる。
第 8 回	相談援助の形成過程 II ② (ソーシャルワークの展開期)	事前学習	教科書の第 4 章第 2 節を読み、わからない言葉を調べる。
		事後学習	ソーシャルワークの展開期についてまとめる。
第 9 回	相談援助の形成過程 II ③ (ジェネラリスト・ソーシャルワーク)	事前学習	教科書の第 4 章第 3 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	ジェネラリスト・ソーシャルワークに関してまとめる。
第 10 回	相談援助の理念 I ① (ソーシャルワークと価値)	事前学習	教科書の第 5 章第 1 節～2 節を読み、使われている用語を調べる。
		事後学習	ソーシャルワークの価値についてその意味についてまとめる。
第 11 回	相談援助の理念 I ② (ソーシャルワークと権利擁護)	事前学習	教科書の第 5 章第 3 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	ソーシャルワークと権利擁護に関する内容をまとめる。
第 12 回	相談援助の理念 II ① (クライアントの尊厳と自己決定)	事前学習	教科書の第 6 章第 1 節を読み、要点をまとめる。
		事後学習	クライアントの尊厳と自己決定についてその意味を確認し、事前学習に加える。
第 13 回	相談援助の理念 II ② (ノーマライゼーションと社会的包摂)	事前学習	教科書の第 6 章第 2 節を読み、要点をまとめる。
		事後学習	ノーマライゼーションと社会的包摂に関する用語と項目について確認し、事前学習に加える。

第 1 4 回	相談援助における権利擁護の意義（相談援助における権利擁護の概念と範囲）	事前学習	教科書の第 7 章第 1 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	権利擁護の意義について、その意味と内容を確認し、まとめる。
第 1 5 回	専門職倫理と倫理的ジレンマ①（専門職倫理の概念、倫理綱領）	事前学習	教科書の第 7 章第 2 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	専門職倫理と綱領の項目について確認し、まとめる。
第 1 6 回	専門職倫理と倫理的ジレンマ②（専門職倫理と倫理的ジレンマ） 確認テスト	事前学習	教科書の第 7 章第 3 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	倫理的ジレンマについてその意味と内容を確認し、まとめる。
第 1 7 回	総合的かつ包括的な相談援助①（動向と背景）	事前学習	教科書の第 8 章第 1 節を読み、要点をまとめる。
		事後学習	包括的な援助に関する用語と項目について確認し、事前学習の内容に加える。
第 1 8 回	総合的かつ包括的な相談援助②（地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座）	事前学習	教科書の第 8 章第 2 節を読み、要点をまとめる。
		事後学習	ソーシャルワークの基本的視座について、その内容と項目について確認し、事前学習の内容に加える。
第 1 9 回	総合的かつ包括的な相談援助③（地域を基盤としたソーシャルワークの 8 つの機能）	事前学習	教科書の第 8 章第 3 節を読み、要点をまとめる。
		事後学習	ソーシャルワークの機能について、その意味と内容を確認し、事前学習の内容に加える。
第 2 0 回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論①（ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義）	事前学習	教科書の第 9 章第 1 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	ジェネラリスト・ソーシャルワークの用語と項目について確認し、まとめる。
第 2 1 回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論②（ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質）	事前学習	教科書の第 9 章第 2 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質の意味と内容について確認し、まとめる。
第 2 2 回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲①（専門職の概念）	事前学習	教科書の第 1 0 章第 1 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	専門職の概念について、その意味と内容を確認し、まとめる。
第 2 3 回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲②（専門職の範囲）	事前学習	教科書の第 1 0 章第 2 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	専門職の範囲について、その意味と内容を確認し、まとめる。
第 2 4 回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲③（諸外国の動向）	事前学習	教科書の第 1 0 章第 3 節を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	諸外国の動向について、項目と内容を確認し、まとめる。
第 2 5 回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能①（個と地域の一体的支援）	事前学習	教科書の第 1 1 章第 1 節を読み、要点をまとめる。
		事後学習	個と地域の一体的支援について、その意味と内容を確認し、事前学習の内容に加える。
第 2 6 回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能②（新しいニーズへの対応）	事前学習	教科書の第 1 1 章第 3 節を読み、要点をまとめる。
		事後学習	新しいニーズへの対応について、項目と内容を確認し、事前学習の内容に加える。
第 2 7 回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能③（総合的支援機能）	事前学習	教科書の第 1 1 章第 3 節を読み、要点をまとめる。
		事後学習	総合的支援機能について、その意味と内容を確認し、事前学習の内容に加える。
第 2 8 回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能④（権利擁護機能）	事前学習	教科書の第 1 1 章第 6 節を読み、要点をまとめる。
		事後学習	権利擁護機能について、その意味と内容を確認し、事前学習の内容に加える。
第 2 9 回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能⑤（社会資源）	事前学習	教科書の第 1 1 章第 7 節を読み、要点をまとめる。
		事後学習	社会資源について、項目と内容を確認し、事前学習の内容に加える。
第 3 0 回	まとめ・確認テスト・振り返り	事前学習	ここまでの内容について整理する
		事後学習	社会福祉士としての多様な役割を理解し、対人援助の専門性を高めるよう意識する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅡ (4 単位)		3. 科目番号	SCMP2356 SSMP2156 SBMP2156 PSMP2456
2. 授業担当教員	水島 正浩		5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ		6. 履修条件・他科目との関係	
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅡは、ソーシャルワークⅠで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理などを前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、分野を問わずソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）についての理解促進を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術、アウトリーチや交渉といった専門知識と技術について学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>			
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「相談援助」について理解を深めるとともに、その構造と機能について理解する。 2. 人と環境の相互作用について理解する。 3. 相談援助における援助関係について理解する。 4. 相談援助の展開過程において、各過程の目的、方法（技術）について理解する。 5. アウトリーチの目的、方法について理解する。 6. 相談援助における面接技術について理解する。 7. 相談援助における記録技術について理解する。 8. 相談援助における交渉技術について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・学習の理解度をみる課題を授業内で複数回行う。 *その他授業の進行状況に応じて指示します。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅰ（新・社会福祉士養成講座Ⅶ）』第3版、中央法規出版、2015年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題（まとめ） 60% 授業への積極的参加態度 40%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>ソーシャルワークⅡはこれから社会福祉士・社会福祉の専門職になるために必要な理論や実践技術修得の基礎となる科目です。そのため、授業への出席、熱意ある参加、ディスカッション・作業、レポート作成などへの積極的な取り組みを望みます。授業の進捗状況・理解度にあわせ、順番等を変更する場合があります。</p>			
13. オフィスアワー	授業内（初回授業）に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業内容と進め方について	事前学習	教科書の「はじめに」を読み、学習内容の全体的なイメージをつかんでおく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第2回	第1章 相談援助とは	事前学習	教科書の第1章 (pp. 1～25) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第3回	第2章 相談援助の構造と機能①	事前学習	教科書の第2章 (pp. 27～51) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第4回	第2章 相談援助の構造と機能②	事前学習	教科書の第2章 (pp. 27～51) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第5回	第3章 人と環境の相互作用①	事前学習	教科書の第3章 (pp. 53～66) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第6回	第3章 人と環境の相互作用②	事前学習	教科書の第3章 (pp. 53～66) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第7回	第4章 相談援助における援助関係①	事前学習	教科書の第4章 (pp. 67～90) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第8回	第4章 相談援助における援助関係②	事前学習	教科書の第4章 (pp. 67～90) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第9回	第4章 相談援助における援助関係③	事前学習	教科書の第4章 (pp. 67～90) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第10回	中間まとめ1 (課題①作成)	事前学習	教科書の第1章～第4章 (pp. 2～90) を読み、重要な点の再確認をしておく。	
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。	

第 1 1 回	第 5 章 相談援助の展開過程 I ①	事前学習	教科書の第 5 章 (pp. 91~130) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 2 回	第 5 章 相談援助の展開過程 I ②	事前学習	教科書の第 5 章 (pp. 91~130) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 3 回	第 6 章 相談援助の展開過程 II ①	事前学習	教科書の第 6 章 (pp. 131~147) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 4 回	第 6 章 相談援助の展開過程 II ②	事前学習	教科書の第 6 章 (pp. 131~147) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 5 回	第 7 章 相談援助のためのリサーチ技術①	事前学習	教科書の第 7 章 (pp. 149~159) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 6 回	第 7 章 相談援助のためのリサーチ技術②	事前学習	教科書の第 7 章 (pp. 149~159) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 7 回	第 8 章 相談援助のための契約の技術①	事前学習	教科書の第 8 章 (pp. 161~173) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 8 回	第 8 章 相談援助のための契約の技術②	事前学習	教科書の第 8 章 (pp. 161~173) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 9 回	第 9 章 相談援助のためのアセスメント技術①	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 175~198) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 0 回	第 9 章 相談援助のためのアセスメント技術②	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 175~198) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 1 回	第 9 章 相談援助のためのアセスメント技術③	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 175~198) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 2 回	中間まとめ 2 (課題②作成)	事前学習	教科書の第 5 章~第 9 章 (pp. 91~215) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。
第 2 3 回	第 1 0 章 相談援助のための介入の技術①	事前学習	教科書の第 10 章 (pp. 199~215) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 4 回	第 1 0 章 相談援助のための介入の技術②	事前学習	教科書の第 10 章 (pp. 199~215) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 5 回	第 1 1 章 相談援助のための経過観察・再アセスメント・効果測定・評価①	事前学習	教科書の第 11 章 (pp. 217~242) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 6 回	第 1 1 章 相談援助のための経過観察・再アセスメント・効果測定・評価②	事前学習	教科書の第 11 章 (pp. 217~242) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 7 回	第 1 2 章~1 4 章 相談援助のための面接・記録・交渉の技術①	事前学習	教科書の第 12 章~14 章 (pp. 243~310) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 8 回	第 1 2 章~1 4 章 相談援助のための面接・記録・交渉の技術②	事前学習	教科書の第 12 章~14 章 (pp. 243~310) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 9 回	第 1 2 章~1 4 章 相談援助のための面接・記録・交渉の技術③	事前学習	教科書の第 12 章~14 章 (pp. 243~310) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 3 0 回	総まとめ (課題③作成)	事前学習	教科書の第 10 章~14 章 (pp. 199~310) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅢ (4 単位)		3. 科目番号	PSMP3457								
2. 授業担当教員	水島 正浩											
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ		5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・ 他科目との関係												
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅢは、ソーシャルワークⅠ・ソーシャルワークⅡで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理、ソーシャルワークプロセスと付随する専門技術等を前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、多様な課題と支援の必要性を持つ現代社会のクライアントに、より専門的に対応、その課題等の解消と軽減に向け働きかけることのできる知識・技術としての実践理論・アプローチについて学習する。加えて、グループを用いた支援、あらゆる場面で必要とされるコーディネーションとネットワーキング、関連する社会資源の調整と開発など、クライアントへの直接的・間接的相談援助技術について総合的・包括的に学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>											
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの定義と「相談援助」の対象について再確認する。 2. ケースマネジメント (ケアマネジメント) についてその概要を理解する 3. グループを活用した支援について理解する。 4. コーディネーションとネットワーキング、社会資源の調整・開発について理解する。 5. ソーシャルワーク実践モデルとアプローチの概要と実践方法について理解する。 6. スーパービジョンについて理解する。 7. ケースカンファレンスについて理解する。 8. 実践事例を通じて、相談援助に必要な専門知識・技術について横断的に活用ができる。 											
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>学習テーマに合わせて個人課題やグループ課題を課す。詳細については授業の中で指示する。</p> <p>* 事前学習や事後学習にも積極的に取り組み、主体的な学習によって理解を確かにと共に問題解決力を培うように努めること。</p>											
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅱ (新・社会福祉士養成講座 8)』第 3 版、中央法規、2015 年。</p>											
11. 成績評価の方法	<p>課題や受講態度 (積極的参加度等) を総合して、次の基準で評価を行う。</p> <table border="0"> <tr> <td>課題①の評価</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>課題②の評価</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>課題③の評価</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>受講態度 (グループ作業含む)</td> <td>25%</td> </tr> </table> <p>(積極的な取り組みをプラス評価、逆をマイナス評価の対象とする)</p>				課題①の評価	25%	課題②の評価	25%	課題③の評価	25%	受講態度 (グループ作業含む)	25%
課題①の評価	25%											
課題②の評価	25%											
課題③の評価	25%											
受講態度 (グループ作業含む)	25%											
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻、欠席の無いようにすること。やむを得ず欠席する (した) 場合は書面で教員に届け出ること。 2. 個人課題の締切り等を遵守すること。グループ課題の提出、発表等においては積極的に参加すること。 3. 私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、携帯電話の使用、その他授業を妨げる行為を禁止する。 <p>* 上記について違反者は受講態度で減点の対象となり、著しい場合は F 評価の対象ともなる。</p>											
13. オフィスアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	オリエンテーション (学習を進めるにあたっての諸説明等) 第 1 章 相談援助における対象の理解①	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P1~P19 までを読み、内容を把握しておくこと									
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題①に向けて準備をしていくこと									
第 2 回	第 1 章 相談援助における対象の理解②	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P1~P19 までを読み、内容を把握しておくこと									
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題①に向けて準備をしていくこと									
第 3 回	第 2 章 ケースマネジメント (ケアマネジメント) ①	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P21~P52 までを読み、内容を把握しておくこと									
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題①に向けて準備をしていくこと									
第 4 回	第 2 章 ケースマネジメント (ケアマネジメント)	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P21~P52									

	②		までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題①に向けて準備をしていくこと
第 5 回	第 3 章 グループを活用した相談援助①	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P53～P73 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題①に向けて準備をしていくこと
第 6 回	第 3 章 グループを活用した相談援助②	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P53～P73 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題①に向けて準備をしていくこと
第 7 回	第 4 章 コーディネーションとネットワーキング 第 5 章 社会資源の活用・調整・開発①	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P74～P120 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題①に向けて準備をしていくこと
第 8 回	第 4 章 コーディネーションとネットワーキング 第 5 章 社会資源の活用・調整・開発②	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P74～P120 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題①に向けて準備をしていくこと
第 9 回	第 4 章 コーディネーションとネットワーキング 第 5 章 社会資源の活用・調整・開発③	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P74～P120 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題①に向けて準備をしていくこと
第 10 回	まとめ：第 1 章～第 5 章 課題①	事前学習	授業や教科書の内容を振り返り、個人課題①の文章が作成できるようにしておくこと
		事後学習	ここまでの内容を振り返り、理論の理解を深め、実践技術として活用できるよう努めること
第 11 回	第 6 章 ささまざまな実践モデルとアプローチ I ①	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P122～P141 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題②に向けて準備をしていくこと
第 12 回	第 6 章 ささまざまな実践モデルとアプローチ I ②	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P122～P141 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題②に向けて準備をしていくこと
第 13 回	第 6 章 ささまざまな実践モデルとアプローチ I ③	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P122～P141 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題②に向けて準備をしていくこと
第 14 回	第 6 章 ささまざまな実践モデルとアプローチ I ④	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P122～P141 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題②に向けて準備をしていくこと
第 15 回	第 7 章 ささまざまな実践モデルとアプローチ II ①	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P143～P161 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題②に向けて準備をしていくこと
第 16 回	第 7 章 ささまざまな実践モデルとアプローチ II ②	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P143～P161 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題②に向けて準備をしていくこと
第 17 回	第 7 章 ささまざまな実践モデルとアプローチ II ③	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P143～P161 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題②に向けて準備をしていくこと
第 18 回	第 7 章 ささまざまな実践モデルとアプローチ II ④	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P143～P161 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題②に向けて準備をしていくこと
第 19 回	第 8 章 ささまざまな実践モデルとアプローチ III ①	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P163～P181 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題②に向けて準備をしていくこと
第 20 回	第 8 章 ささまざまな実践モデルとアプローチ III ②	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P163～P181 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題②に向けて準備をしていくこと

第 2 1 回	第 8 章 さまざまな実践モデルとアプローチⅢ③	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P163～P181 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題②に向けて準備をしていくこと
第 2 2 回	まとめ：第 6 章～第 8 章 課題②	事前学習	教科書や授業の内容を振り返り、個人課題②の文章が作成できるようにしておくこと
		事後学習	ここまでの内容を振り返り、理論の理解を深め、実践技術として活用できるように努めること
第 2 3 回	第 9 章 スーパービジョンとコンサルテーションの技術第 10 章 ケースカンファレンスの技術①	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P183～P229 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題③に向けて準備をしていくこと
第 2 4 回	第 9 章 スーパービジョンとコンサルテーションの技術第 10 章 ケースカンファレンスの技術①	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P183～P229 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題③に向けて準備をしていくこと
第 2 5 回	第 11 章 個人情報の保護 第 12 章 情報通信技術 (ICT) の活用①	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P231～P255 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題③に向けて準備をしていくこと
第 2 6 回	第 11 章 個人情報の保護 第 12 章 情報通信技術 (ICT) の活用②	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P231～P255 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	本日取り組む内容について、教科書 P231～P255 までを読み、内容を把握しておくこと
第 2 7 回	第 13 章 事例研究・事例分析 第 14 章 相談援助の実際①	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P257～P298 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題③に向けて準備をしていくこと
第 2 8 回	第 13 章 事例研究・事例分析 第 14 章 相談援助の実際②	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P257～P298 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題③に向けて準備をしていくこと
第 2 9 回	第 13 章 事例研究・事例分析 第 14 章 相談援助の実際③	事前学習	本日取り組む内容について、教科書 P257～P298 までを読み、内容を把握しておくこと
		事後学習	授業や教科書の内容を振り返るとともに、個人課題③に向けて準備をしていくこと
第 3 0 回	まとめ：第 11 章～14 章 課題③	事前学習	発表の内容を踏まえ、個人課題③に向けて自らの考えをまとめておくこと
		事後学習	授業内容全体を振り返り、理論の理解を深め、実践技術として活用できるように努めること

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習 I (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1102 GELA2302
2. 授業担当教員	藤島 薫、白井 絵里子、高柳 瑞穂、田中 良幸、西村 明子、 上木 文夫、茅野 由紀、小金澤 嘉、坂間 治子、高橋 登志子			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期/秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習 I、II、III、IV、V と 1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習 I では、これからの演習への導入として、社会福祉とは何か、社会福祉援助活動とは何か、どのように援助活動が展開されるのかという基本的学習を中心に、コミュニティ (地域) の社会学的定義、コミュニティの役割・機能、住民のニーズ (必要性) の発見と理解などに必要とする情報収集方法と社会調査方法を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習 I が終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉とは何か理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) 社会福祉実践とは何か理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) コミュニティの社会学的な定義が明瞭にできる。 4) コミュニティの役割・機能と住民に対する福祉サービスがどのような形態で、どのような過程を通じて提供されるのか理解し、明瞭な説明が口頭及び文書でできる。 5) 初歩的なコミュニティ・ニーズの調査方法と情報収集方法の理解がされ、応用することができる。 6) コミュニティにおける福祉従事者の役割・機能の理解がされ、明瞭に説明できる。 7) コミュニティにおける福祉従事者の実践活動に必要とする知識について理解する。 8) 以上のことを報告書にまとめ、発表することができる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: マズローのニーズ体系に関するレポート (A4/2 枚) 課題 2: グループ毎に選別したコミュニティのレポート作成 課題 3: グループを構成し、各グループが選んだコミュニティについてどのような情報をどの組織、個人、団体から、どのような方法で収集するか計画の立案をする。 課題 4: コミュニティより収集した情報・データを報告書にまとめ、発表する。 まとめレポート: 課題 4 にて作成した報告書について各自でのまとめレポートの作成を課す。 詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『はじめての社会福祉』ミネルヴァ書房、2011 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループレポート (課題 2・3・4) 30% 個人レポート (課題 1) 30% まとめレポート 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習 I のねらいと単元の解説、他己紹介、グループ編成	事前学習	ソーシャルワーク演習 I の学習用ノートを準備し講義へ臨むこと。また、これからの学習に際し、テキスト「はじめに」を熟読する。	
		事後学習	ソーシャルワーク演習 I のねらいについて学習用ノートにまとめる。	
第 2 回	社会福祉とは? 社会福祉援助活動とは? 社会福祉の定義と目的、分類、活動の展開過程を知る	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.2~25) を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。	
		事後学習	「社会福祉とは何か」「社会福祉援助活動」について学習用ノートにまとめ提出する (学習用ノートの確認)。	
第 3 回	社会福祉の働き	事前学習	テキスト第 2 章 (pp.28~51) のうち、「福祉ニ	

	“ニーズ”とは何か？ 個人の“ニーズ”と福祉“ニーズ”の違い（もしくは同じ点）を知る 課題 1：マズローのニーズ体系に関するレポート（A4/2枚）	事後学習	「ニーズ」について要点を学習用ノートにまとめる。 課題 1 の作成。
第 4 回	地域（コミュニティ）について知る コミュニティとは何か？ コミュニティを知るための手段とは？ グループ分けと調べるコミュニティの選別 グループ毎に選別したコミュニティを調べるのに必要な資料やデータ収集	事前学習	テキスト第 3 章（pp.54～65）を熟読し、「コミュニティとは何か」「コミュニティの診断方法」についてその内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループメンバーで相談し、選別したコミュニティに関する資料とデータを収集する。
第 5 回	集めた資料やデータを整理、分析しグループレポートにまとめる 課題 2：グループ毎に選別したコミュニティのレポート作成	事前学習	集められたデータをもとに、グループメンバー各自が予備的なレポートを作成する（これを用いてグループレポートを作成）。
		事後学習	グループ毎に作成したレポートをもとに、各自の考察を含めて学習ノートにまとめる。
第 6 回	グループレポートの発表 1	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	発表したレポートの課題について学習用ノートにまとめる。
第 7 回	グループレポートの発表 2	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	発表したレポートの課題について学習用ノートにまとめる。
第 8 回	地域社会にどのような福祉のニーズがあるのか考える 希望する対象領域を考える 領域ごとのグループ編成 課題 3：グループを構成し、各グループが選んだコミュニティについてどのような情報をどの組織、個人、団体から、どのような方法で収集するか計画の立案をする。	事前学習	テキスト第 4 章（pp.68～76）を熟読し、その内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループ毎に選別した領域に関する予備的情報（制度や関連データ）を各自収集し、学習用ノートにまとめる。
第 9 回	集めた資料、データの報告	事前学習	各自がまとめたものをベースに、報告用資料をグループで作成する。
		事後学習	報告した資料の課題点、不足点についてまとめ、不足点を補足する。
第 10 回	聞き取り調査の計画（1） 聞き取り対象者の選定 質問項目の作成	事前学習	テキスト第 4 章（pp.76～86）を熟読し、「現地調査の方法」について学習用ノートにまとめ提出する（学習用ノートの確認）。
		事後学習	「キー・インフォーマント・アプローチ」及び「フォーカス・グループ・アプローチ」について学習ノートにまとめる。
第 11 回	聞き取り調査の計画（2） 聞き取り調査の依頼（協力依頼書の作成方法、電話での依頼方法について） 聞き取り調査のロールプレイ（実際の聞き取り調査を想定して、演習内で互いに調査を行ってみる）	事前学習	グループ毎に聞き取り調査における調査項目について素案を作成する。
		事後学習	ロールプレイの実施を受け、課題とその修正点について各自学習ノートにまとめる。 聞き取り調査の実施計画についてグループで最終確認の後実施する。
第 12 回	聞き取り調査の実施 課題 4：コミュニティより収集した情報・データを報告書にまとめ、発表する。	事前学習	聞き取り調査にて収集したデータ（回答）を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループでまとめたレポートを受け、各自の考察を学習用ノートにまとめる。
第 13 回	聞き取り調査の成果発表（1）	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	グループで発表したレポートについて個人の考察を学習用ノートにまとめ提出する。
第 14 回	聞き取り調査の成果発表（2）	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	グループで発表したレポートについて個人の考察を学習用ノートにまとめ提出する。
第 15 回	振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅱに向けての課題	事前学習	学習用ノートを振り返り、これまでの学びと考察を 1 ページにまとめる（まとめレポート）。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱに向けた自己課題を学習用ノートにまとめ提出する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GEBS2103 GELA2303
2. 授業担当教員	水島 正浩、高柳 瑞穂、上木 文夫、大嶋 泰子、茅野 由紀、 小金澤 嘉、坂間 治子、高橋 登志子、星野 弘美		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅱは、グループ(小集団)理論、グループ・ダイナミクス理論を基礎にして、グループワーク(集団援助技術)の学習をする。特に、実践グループワークの方法を中心に、目標の設定方法、グループの構成方法、グループ・プロセス、リーダーシップ、凝集性、メンバーの役割、相互作用、グループの発達段階などを演習グループの体験を通じて学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待される。 「学生自身がグループワークを使用できる最小限度の知識と技術の習得を目的とする」 より詳細には、下記の学習目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループ(小集団)とは何か、その基本的知識、特性の理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) グループ・ダイナミクス理論とその主要概念の理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) グループワークの歴史的発展、目的、特質、援助技術としての位置づけについて理解ができ、明瞭な説明ができる。 4) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)について各々の特質の理解ができ、説明ができる。 5) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)についてのワーカーの知識、技術、役割、機能の理解ができ、説明ができる。 6) グループ・プロセス(過程)の理解ができ、説明ができる。 7) グループワークを行ううえでの最低の技術(リーダーシップ、個々のメンバーとグループ全体にどのように関わるか、プロセスの促進、凝集性の発達、葛藤の解決、コミュニケーション能力の発達など)に関する基本的理解ができ、説明ができる。 8) 図工、音楽、ゲーム、行事などのプログラムを媒介役として、相互作用、凝集性の促進、役割・責務の遂行などについて理解ができ、実行することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：自分がこれまで関わったグループ(小集団)(例：仲良しグループ、学級、高校の同窓会、勉強会、趣味のグループ等)を題材に、次にあげるグループの特性について例をあげて説明せよ(A4/3枚)。 ①どのような目的のグループか ②どのようにしてグループが作られたのか ③メンバーは何人か ④どのくらいの期間、継続しているのか ⑤どのくらいの頻度で会合を開いているのか ⑥グループの特性は何か ⑦あなたがグループに属する理由は何か ⑧今までにグループを止めた人はいるか、それはどのような理由からか ⑨グループの中心になっている人がいるか、それはどのような人格の人か ⑩グループの中で意見の相違、お互いの葛藤が生じた場合、どのように相違や葛藤を解決したか</p> <p>課題2：グループワークに関する文献を調べ、下記の「概念」の意味について自分の言葉で説明せよ(A4/3枚)。 ①グループ・ダイナミクス ②規範 ③役割 ④相互作用 ⑤凝集性 ⑥グループの発達段階 ⑦グループワーカーの役割と機能 ⑧メンバーの役割と機能</p> <p>課題3：リーダーシップ理論についてその概念についてまとめよ。(A4/2枚)。 まとめレポート：グループワークに関するまとめレポートの作成を課す。 詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】保田井進・硯川真旬・黒木保博『福祉グループワークの理論と実際』、2010年。 【参考書】平山尚・武田丈『人間行動と社会環境』、2004年。 野村豊子 監訳『グループワーク入門』中央法規、2013年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題1~3) 60% まとめレポート 40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 7. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 8. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 9. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 10. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 6. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 7. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 8. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 9. 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			

講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション グループとは何か 自分が体験したグループの目的、特徴、何が自分のためになったか。グループの良い点と悪い点はなにか。 演習Ⅱの学習目標は何か、何を、どのように学習するか。 (グループの目的と、個々のメンバーの目的は何か)	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.2~9) の内容をまとめる
		事後学習	課題 1 の作成と提出
第 2 回	グループワーク基本的概念を理解する 相互作用、過程、規範、力動、凝集性、自己開示とはなにかに体験してみる。 グループワークの歴史発達を理解する。 グループワークと他の実践技術との関係を理解する。	事前学習	参考書『グループワーク入門』第 2 章 (pp.71~98) の内容をまとめる
		事後学習	課題 2 の作成と提出
第 3 回	グループワークの理解の枠組み：グループの発達段階 (準備期、開始期、作業期、終結期) グループワークのプロセスを学習する。 グループワークの記録の方式を学ぶ。	事前学習	テキスト第 6 章のうち pp.52~61 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	グループワークの記録について学習したことを A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 4 回	新しいグループを構成する 準備期：グループの計画 施設・機関のニーズを知る。どのようなグループを構成するか、参加者の募集 (高齢者の孤立を解消する、児童養護施設での行動問題がある子どもの矯正グループ、統合失調症患者の家族のためのグループなど)。 グループワークの計画書を作成する。	事前学習	テキスト第 6 章のうち pp.52~53 を熟読し、グループ計画書を作成する。
		事後学習	構成されたグループメンバーにてグループワークの計画書を完成させる。
第 5 回	準備期 「契約書」を作成し、ワーカーとメンバー間で交換する。 グループワークの評価方法をきめる。	事前学習	テキスト p.77「評価の方法」を読み、その内容をまとめる。
		事後学習	講義内で用いた契約書をもとに、再度契約書を作成し提出する。
第 6 回	開始期 グループをどのように始めるか。「アイスブレイカー」を用意する。 ワーカーはグループ全体と個々のメンバーとの関係をつくる技術 (メンバーの経験を普遍化する技術、メンバーのグループ・過程に参加を促進する技術) の習得。 グループのルール (規範) について話し合う。	事前学習	アイスブレイクに必要なアイデアを考えまとめる。
		事後学習	テキスト pp.53~56 の内容を A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 7 回	開始期 「コミュニケーション技術の基本」を学習する。 メンバーの自己開示を促進する技術の習得。 メンバー間の思考、感情、行動を連携させる技術の習得。 リーダーシップについて。	事前学習	第 6 回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	課題 3 の作成と提出
第 8 回	作業期 グループ過程を明確化する技術。プロセスの促進する技術、凝集性を発達する技術の習得。メンバーの役割を理解する技術、「葛藤解決技術」習得の習得。	事前学習	テキスト pp.56~59 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	講義で取り上げた技術について 1 つを選択し、その内容についてまとめる。
第 9 回	作業期 「問題解決技術」と「認知再構成技術」の習得。	事前学習	第 8 回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	問題解決技術もしくは認知再構成技術について 1 つを選びその内容を A4 用紙 1 枚にまとめる。
第 10 回	作業期 メンバーの役割を理解する技術の習得。 活動 (ゲーム、遊戯、図工など) を有効に使う技術の習得。	事前学習	テキスト第 7 章 pp.62~68 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	教員から提示されたプログラム活動についてその内容をまとめる。
第 11 回	作業期 活動 (ゲーム、遊戯、図工など) を有効に使う技術の習得。 ソシオグラム (Sociogram) を作る。	事前学習	プログラム活動案を作成し、講義内でメンバーからフィードバックを受ける。
		事後学習	ソシオグラムについて学習したことを用いて家族のそれを作成する。
第 12 回	作業期 グループ内と外の社会資源を探し、有効に利用する技術 (例：精神障害者の家族のための心理・教育グループ)。	事前学習	テキスト第 7 章 pp.68~72 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	特定のグループを想定し、そのグループに提供可能な身近で具体的な社会資源についてあげ、その活用と意義についてまとめ提出する。
第 13 回	終結期 グループの終結の準備 (終結の予告をして、メンバーの終結に対する感情の話し合い)。	事前学習	テキスト pp.59~61 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	グループで実践してみる「終結作業」を通じて学び、感じたことを A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 14 回	グループワークの評価方法を応用	事前学習	テキスト第 8 章 pp.73~81 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	これまで行ってきたグループ活動を通じてグループワークにおけるソーシャルワーカーの機能と役割について A4 用紙 3 枚にまとめて提出する (まとめレポート)。
第 15 回	まとめ 評価：教員と学生が演習Ⅱで学んだことは何であって、どの程度学習目標の達成ができたか。	事前学習	テキスト第 9 章 pp.82~88 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びを振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅲ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3160 SCMP3460 SBMP3460 PSMP3460
2. 授業担当教員	上木 文夫、上野 義光、大嶋 泰子、白井 絵里子、鄭 春姫、 中里 哲也、久次 奈美、星野 弘美			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅲでは、ケースワークの基本技術として、他者理解と自己理解について考えることから、人間関係形成に必要な技術、また基本的な面接技術とコミュニケーションに焦点をあてて、必要な専門知識と技術を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅲが終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間行動に関する心理学理論について理解を深め、その概要を説明することができる。 2) クライエントに対する姿勢について理解を深め、実践することができる。 3) 基本的コミュニケーション技法について理解し、実践することができる。 4) 基本的応答技法について理解し、実践することができる。 5) 面接技法について理解し、それを用いてクライエントの問題や課題をアセスメントすることができる。 6) 以上のことを総合的に理解し、ソーシャルワークにおける面接を展開することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：個人(人)を理解する上で必要となる精神分析理論について、その主要概念について説明しなさい。 課題2：面接における基本的応答技法について、技法がもたらす効果について簡潔に説明しなさい(第9・10回の学習をまとめる) 課題3：事例を用いて面接を実施し、自らの面接技術に関し他者からの評価を受け、また自己評価を行う まとめレポート：ソーシャルワークⅢにて学習したことに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規、2015年。 【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005年。 平山尚、武田丈『人間行動と社会環境』ミネルヴァ書房、2004年。 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『相談援助の理論と方法Ⅰ(新・社会福祉士養成講座 第7巻)』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループレポート 30% 個人レポート 40% まとめレポート 30%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 12. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 13. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 14. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 15. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 11. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 12. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 13. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習Ⅱの振り返り ソーシャルワーク演習Ⅲのねらいと単元の解説	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びをレポートにまとめる。	
		事後学習	参考書『人間行動と社会環境』第2章(pp.10~33)を熟読し、その内容をまとめる。	
第2回	人を理解する(1) 精神分析理論について学習する：精神分析理論の主要概念について理解を深める 行動理論と学習理論について学習する：行動理論と学習理論の主要概念について理解を深める	事前学習	参考書『人間行動と社会環境』第3章1(pp.35~38)を熟読し、その内容をまとめる。	
		事後学習	課題1の作成(授業内で示された提出期限厳守)	

	学んだ人間行動に関する心理学理論が、どのように人間行動の理解に用いられるのかを事例をもとに検証する		
第 3 回	人を理解する (2) 心理社会理論について学習する：心理社会理論の主要概念について理解を深める 人間の発達過程について理解を深める 事例を用いて人間行動に関して心理社会理論を使用して分析・検証する	事前学習	参考書『人間行動と社環境』第 4 章 (pp.64～88) を熟読し、その要点をノートにまとめる。
		事後学習	心理社会理論について口頭で説明ができるよう、その内容を確認する。
第 4 回	ソーシャルワークにおける面接の目的・特性理解 「会話」と「面接」の相違点について理解し、面接の形態 (構造化面接と生活場面面接)、面接実施の基盤となる考え方について理解を深める	事前学習	テキスト pp.100～111 を読みその内容をまとめる。
		事後学習	「会話」と「面接」の相違点について口頭で説明できるよう、学習内容をノートにまとめる。
第 5 回	クライアントに対する姿勢：距離について考える 人と人が話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する	事前学習	自分自身の日常生活を振り返り、人と接する際の距離について考え、どのような距離感をもっているかをノートにまとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり適切な距離とは何か演習を通じて学んだことをレポートにまとめ提出する。
第 6 回	クライアントに対する姿勢：バイスティックの 7 原則の実践 専門的対人援助関係形成のための原則について再確認する	事前学習	バイスティックの 7 つの原則について、その内容を調べ、まとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり、その人間関係形成とバイスティックの 7 原則との関係性をノートにまとめる。
第 7 回	面接における技術：面接におけるコミュニケーションについて理解する 基本的コミュニケーション技法について、その原則について理解を深め、ロールプレイを用いて習得する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、コミュニケーションの特質 (癖や傾向) について気づいたことをノートにまとめる。
		事後学習	基本的コミュニケーション技法について、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてレポートにまとめ提出する。
第 8 回	面接における技術：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 言語・非言語的コミュニケーションの意義を理解し、その活用方法についてロールプレイを用いて実践する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、非言語的コミュニケーションについて気づいた事をノートにまとめる。
		事後学習	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてノートにまとめる。
第 9 回	面接における技術：基本的応答技法について理解する (1) 「反射」について理解し、技術を習得する 単純な反射、言い換え、要約、明確化についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112～116 を熟読したうえで、p.112 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「反射」に関する自己評価 (できた点と課題点) をノートにまとめる。
第 10 回	面接における技術：基本的応答技法について理解する (2) 「感情の反射」「適切な質問」について理解し、技術を習得する 感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、状況に即した質問についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112～116 を熟読したうえで、p.92 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「感情の反射」「開かれた質問と閉ざされた質問」に関する自己評価 (できた点と課題点) をノートにまとめる。
第 11 回	事例に基づくアセスメント面接の実施 (1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第 10 回までに学んだことを振り返り、コミュニケーションと応答技法についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第 12 回	事例に基づくアセスメント面接の実施 (2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第 9 回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第 13 回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施 (1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	面接のロールプレイを実施し、明らかとなった自己の課題について明確にし、ノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第 14 回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施 (2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	第 13 回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第 15 回	まとめ 評価：教員と学生がソーシャルワーク演習Ⅲで学んだこと、学習目標の達成度を評価する	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅲを通じて学んだこと、課題となったことをノートにまとめる。
		事後学習	コミュニケーションと面接技法に関し、実習及び実践を行う上で自身の評価できる点と改善点をレポートにまとめ提出する (まとめレポート)。
1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅳ (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3161 SCMP4461

2. 授業担当教員	藤島 薫、大門 俊樹、石井 三智子、上木 文夫、上野 義光、 中里 哲也、星野 弘美		PSMP3461
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関する相談援助演習を中心に、今までに学習した内容を総合的に把握します。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論についても学習を深めます。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1：ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。</p> <p>目標2：事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。</p> <p>目標3：グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。</p> <p>目標4：社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論に関する知識や理論を深める。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：認知理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>課題2：課題中心理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>課題3：システム(家族療法)理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>まとめレポート：ソーシャルワーク実践アプローチに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 川村隆彦著『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規出版、2011年。</p> <p>【参考書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』中央法規出版、2015年。 社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版、2014年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題1～3) 60%</p> <p>まとめレポート 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。目的達成のため、受講生は以下の条件を守って下さい。</p> <p>16. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講しましょう。受講生には積極的な態度を望みます。</p> <p>17. 自ら進んで教員に質問しましょう。理解できないことをそのまま放っておかないようにしましょう。</p> <p>18. 授業は欠席、遅刻、早退をしないで下さい。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告して下さい。</p> <p>19. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意して下さい。</p> <p>20. 授業中、私語、居眠り、携帯電話などの操作は緊急時以外、絶対にしないで下さい。</p> <p>また教員は、以下のことを実行します。</p> <p>14. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行います。</p> <p>15. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明します。</p> <p>16. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作ります。</p> <p>17. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p>		
13. オフィスアワー	授業中に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(ソーシャルワーク演習Ⅳのねらいと単元の解説、授業の進め方について解説します) 認知理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.76～83 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第2回	認知理論・アプローチ② (事例を通してクライアントの考え方の傾向に気づかせることを学びます)	事前学習	テキスト pp.83～86 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	支援プロセスについてノートにまとめる。
第3回	認知理論・アプローチ③ (事例を通して、クライアントに考え方と感情の関係について教えることを学びます)	事前学習	テキスト pp.86～87 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	ABC理論についてノートにまとめる。

第 4 回	認知理論・アプローチ④ (事例を通して、クライアントの非合理的な考え方を論駁することについて学びます)	事前学習	テキスト pp.87～89 を熟読し、不明な点は明らかにし、箇条書きにしてノートにまとめ、授業へ臨む。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 5 回	認知理論・アプローチ⑤ (事例を通して合理的な考え方を学び、それを訓練することについて学びます) 小まとめ *課題 1	事前学習	テキスト pp.92～94 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。
第 6 回	課題中心理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.132～138 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第 7 回	課題中心理論・アプローチ② (事例を通して、ターゲット問題を選択することを学びます)	事前学習	テキスト pp.138～141 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	ターゲット問題についてノートにまとめる。
第 8 回	課題中心理論・アプローチ③ (事例を通して、目標と課題を設定する(契約)ことを学びます)	事前学習	テキスト pp.141～143 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題中心アプローチにおける契約についてノートにまとめる。
第 9 回	課題中心理論・アプローチ④ (事例を通して、課題を遂行し、アセスメントを行うことを学びます)	事前学習	テキスト pp.143～145 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 10 回	課題中心理論・アプローチ⑤ (事例を通して、終結について学びます) 小まとめ *課題 2	事前学習	テキスト pp.145～147 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。
第 11 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.165～173 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第 12 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ② (事例を通して、ジョイニングにより関係を形成し、主訴を確認することを学びます)	事前学習	テキスト pp.173～178 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	演習のポイントをノートにまとめる。
第 13 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ③ (事例を通して、情報収集と仮説設定をすることを学びます)	事前学習	テキスト pp.178～180 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	演習のポイントをノートにまとめる。
第 14 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ④ (事例を通して、働きかけることを学びます)	事前学習	テキスト pp.180～182 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 15 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ⑤ (事例を通して、再情報収集・仮説設定・働きかけの循環を行うことを学びます) まとめ *課題 3	事前学習	テキスト pp.183～186 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 3 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習V (2単位)	3. 科目番号	SSMP4162 SCMP4462 PSMP4462
2. 授業担当教員	青木 正、上野 義光、大嶋 泰子、久次 奈美、星野 弘美	5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと、1年次から4年次まで断続的に学習するように構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多彩な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅴでは、さまざまな事例を用いて、そこにみられる「人間と環境」または「環境の中の人間」への介入の視点から、エコ・システム論に準拠し、事例における(1)問題認知(問題そのものの理解)、(2)関連するデータの分析(問題背景の理解)、(3)仮説の設定(「～ならば～である」とするワーカーの仮説)、(4)実践理論及び実践モデルの検討(問題に最適だと考えられる理論及びモデルの検討)、(5)目標、目標計画及び介入計画(具体的目標や目標達成に向けた計画の策定)(6)介入(相談援助の実践)(7)評価(実践評価)(8)終結(援助終了)の援助過程から学習します。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した段階で、次の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1: 授業内容にある事例の相談援助を、エコ・システム論に準拠して理解することができるようになる。</p> <p>目標2: 授業内容にある事例の中に含まれる、環境の調整(マネジメント)、多職種連携による介入(チームアプローチ)、利用者のもつ力(ストレングス)の視点、社会生活モデル等を、具体的に説明できるようになる。</p> <p>目標3: 自らの相談援助の場面を想定して、目標1、目標2を統合した援助方法がイメージできるようになる。</p>		
9. アサignment (宿題)及びレポ ート課題	<p>課題1: 前半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4用紙 40文字×25行×3枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名等を明記すること)</p> <p>課題2: 後半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4用紙 40文字×25行×3枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名等を明記すること)</p> <p>まとめレポート: 事例に対する相談援助実践に関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規、2015年。</p> <p>【参考書】 平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005年。 障害者相談支援従事者初任研修テキスト編集委員会編 『改訂 障害者相談支援従事者初任研修テキスト』中央法規。 恩賜財団母子愛育会子ども家庭総合研究所編『子ども虐待対応の手引き』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題1~2) 50%</p> <p>まとめレポート 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。そのため受講生は次の条件を守ってください。</p> <p>21. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って積極的な態度で受講する。</p> <p>22. 自ら進んで教員に質問する。理解できないことはそのまま放っておかない。</p> <p>23. 欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告する。</p> <p>24. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対に行わない。</p> <p>教員は以下の方針で授業を行います。</p> <p>18. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</p> <p>19. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。</p> <p>20. 双方向対話型の学習によりディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう環境を作る。</p> <p>21. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>		
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<p>オリエンテーション(授業の進め方等) 障害者の就労支援に関する相談援助①</p> <p>※ 障害者の就労支援に関する相談援助事例をもとに、障害者の就労支援では、職場(環境や集団)や地域環境に対する調整と本人に向けられた支援とが並行してなされる必要があることを学習する。</p> <p>※ 教科書の第5章、事例問題25の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。</p>	事前学習	テキスト pp.268~271 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第2回	<p>障害者の就労支援に関する相談援助②</p> <p>※ 前回宿題の発表とディスカッション</p>	事前学習	第1回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第3回	病院からの退院に関する相談援助①	事前学習	テキスト pp.276~279 を熟読し、事例理

	<ul style="list-style-type: none"> ※ 病院からの退院に関する相談援助事例をもとに、退院計画では患者の社会環境（介護サービス、医療・保健サービス、経済状態等）の調整と、本人の身体面・心理面等への支援とが並行して、専門職がチームを組んで支援する必要があることを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 27 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。 	事後学習	<p>解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。</p> <p>授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。</p>
第 4 回	<p>病院からの退院に関する相談援助 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 前回宿題の発表とディスカッション 	事前学習	第 3 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 5 回	<p>家庭内暴力 (DV) に関する相談援助 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ DV (ドメスティック・バイオレンス) に関する相談援助事例をもとに、DV とはどのようなものか、その特質を理解し、「DV 防止法」をもとに DV が被害者に及ぼす影響と、被害者が直面する生活問題について学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 28 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。 	事前学習	テキスト pp.280～283 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 6 回	<p>家庭内暴力 (DV) に関する相談援助 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 前回宿題の発表とディスカッション 	事前学習	第 5 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 7 回	<p>虐待児童への相談援助 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 発達障害児童への虐待に関する相談援助事例をもとに、発達障害とネグレクト (育児放棄) が結びついた児童に対し、児童養護施設等の受け皿 (環境) と児童のもつ力 (ストレス) を調整しながら支援することを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 30 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。 	事前学習	テキスト pp.288～291 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 8 回	<p>虐待虐待への相談援助 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 前回宿題の発表とディスカッション 	事前学習	第 7 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 9 回	<p>低所得者への相談援助 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 低所得者への相談援助事例をもとに、低所得・貧困問題を抱えた利用者に対して、利用者自身のもつ能力を引き出すとともに、各種の社会制度・施策、社会サービスなどの社会資源 (環境) を活用しながら自立に向けた支援展開を学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 34 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。 	事前学習	テキスト pp.312～315 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 10 回	<p>低所得者への相談援助 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 前回宿題の発表とディスカッション 	事前学習	第 9 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 11 回	<p>要介護高齢者とその家族への相談援助 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 要介護高齢者とその家族への相談援助事例をもとに、要介護高齢者の介護問題だけでなく、高齢者を抱える家族支援のあり方について学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 37 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。 	事前学習	テキスト pp.326～329 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 12 回	<p>要介護高齢者とその家族への相談援助 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 前回宿題の発表とディスカッション 	事前学習	第 11 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 13 回	<p>身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助事例をもとに、障害者の自立とは何を意味するのかを把握した上で、自立生活に欠かせない社会資源調整や人々の意識変革に向けての働きかけの内容を、国際生活機能分類の「社会生活モデル」に基づいて学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 38 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。 	事前学習	テキスト pp.330～335 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 14 回	<p>身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 前回宿題の発表とディスカッション 	事前学習	第 13 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 15 回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 第 1 回～第 14 回授業を振り返り、援助の重要ポイントを押さえる。 	事前学習	授業で配布されたレジュメ、事前・事後学習ノートの内容を整理し、ソーシャルワーク演習 V での学びをまとめる。
		事後学習	援助の重要ポイントについてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導 I (S/P/B) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2180 PSMP2480
2. 授業担当教員	鹿内 佐和子、大門 俊樹、高柳 瑞穂、谷口 恵子、西村 明子、大嶋 泰子、小金澤 嘉、鹿内 佐和子			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	春期/秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導 I、II、III とソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導 I では、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、次年度に行う実習に必要な知識を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の意義について理解する。 2) 実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。 3) 資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 4) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 実習を希望する実習種別に関して、その希望動機と関連法令、規定されたサービス内容について、まとめなさい。</p> <p>課題 2: 実習配属施設・機関に関して、その関連法令、規定されたサービス内容等施設・機関の概要についてまとめなさい。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』 ※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※講義にて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 30% 課題 2 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。 また、本学規定により、本講義未収得者への実習配属は行わない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 26. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 27. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 28. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 29. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。教員は以下のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 22. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 23. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 24. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	・ソーシャルワーク実習指導 I のねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明	事前学習	ソーシャルワーク実習指導用のノート (もしくはファイル) を準備し、併せてテキスト「はじめに」を熟読する。	
		事後学習	テキスト「はじめに」を熟読し、相談援助実習の仕組みと内容についてノートにまとめる。	
		配布物	『ソーシャルワーク実習の手引き』、『学習の手引き』、学生調査票	
第 2 回	・実習前中後の流れ (全体像) と指導体制についての理解 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) ・実習に関する基本的ルールの確認 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用)	事前学習	実習で学びたいことをノートにまとめる。	
		事後学習	「ソーシャルワーク実習の手引き」を参照に東京福祉大学の実習の仕組み (全体像) についてまとめる。	
第 3 回	・相談援助実習の位置付けについて理解する (テキスト pp.2~18) : 専門職養成において実習を実施することの意味・意義について理解を深める	事前学習	テキスト pp.2~18 を熟読する	
		事後学習	「なぜ実習が必要なのか」についてノートにまとめ提出する。	
第 4 回	・「相談援助実習ガイドライン」及び東京福祉大学における実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の理解 (テキスト pp.19~34 及びソーシャルワーク実習の手引き使用) : 相談援助実習において求められる実習内容と本学の実習目標を相互に理解し、実習目標への理解を深める	事前学習	テキスト pp.19~34 を参照のうえ、相談援助実習に求められる内容についてノートにまとめる。	
		事後学習	テキスト pp.19~34 を参照のうえ、東京福祉大学の実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の目標についてノートにまとめる。	
第 5 回	・「相談援助実習」(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) が可能な施設・機関の紹介と説明 (テキスト pp.55~64 及び東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) : 法定施設・機関の紹介と希望種別の選択 ・実習形態に関する理解 (テキスト pp.65~68)	事前学習	テキスト pp.62~69 を熟読し、実習先施設・機関の範囲について理解を深める。	
		事後学習	実習希望種別を選別するとともにその動機についてノートにまとめる。	
第 6 回	・事前学習として実習先を理解する意義 (テキスト	事前学習	実習希望種別に関する情報を収集する。	

	p103~106) : 希望種別に関する事前学習レポートをまとめる (課題 1) ・社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化	事後学習	課題 1 の作成 (講義内で示される提出期限厳守)。
第 7 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 8 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 9 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 10 回	・実習先の配属 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集 ・誓約書・個人調書等書類の作成 (実習への抱負の明文化)	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		配布物	実習配属通知、個人調査書 (実習先提出用) 実習記録必要書式のコピー (施設概要及び実習プログラム案下書き用紙)
第 11 回	・配属先実習施設・機関の利用者理解と援助方法 (テキスト p.123~139) ・個人調書等書類の作成 (社会福祉士資格取得の動機の明文化)	事前学習	「社会福祉士を目指す動機」「思い描く社会福祉士像」について言語化できるようまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第 12 回	・相談援助実習の仕組み (テキスト pp.142~146) : 望まれる相談援助実習の在り方 (3 段階実習プログラム) を踏まえてソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 見学実習 (事前訪問) の目的と意義の確認	事前学習	テキスト pp.142~146 を熟読し、「3 段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	事前訪問の目的と留意点についてノートにまとめる。
		配布物	「事前訪問について」
第 13 回	・実習計画の作成 (テキスト pp.147~154) : 実習計画 (本学では「実習プログラム (案)」とする) の意義と作成についての理解を深める ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	テキスト pp.147~154 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	課題 2 の作成 (講義内で示された提出期限厳守)。
第 14 回	・「契約としての実習」についての理解 (テキスト pp70~73) : 実習における契約の意義について理解を深める ・実習におけるリスクマネジメント (テキスト pp74~87) : 個人情報保護法の理解を含め、実習におけるリスクマネジメントの必要性和重要性において理解を深める	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp.55~ を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	事前訪問に向けた準備を行う。
第 15 回	・見学実習 (事前訪問) の最終確認 ・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導 II に向けた課題	事前学習	事前訪問日時について実習指導者へ電話連絡のうえ、訪問日時を明確にする。
		事後学習	ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習指導 II に向けた自己課題についてまとめる。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第 12 回	・相談援助実習の仕組み (テキスト pp.142~146) : 望まれる相談援助実習の在り方 (3 段階実習プログラム) を踏まえてソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 見学実習 (事前訪問) の目的と意義の確認	事前学習	
		事後学習	セルフアセスメントシートの作成 (1 回目)
		配布物	セルフアセスメントシート
第 13 回	・実習計画の作成 (テキスト pp.147~154) : 実習計画の意義と作成についての理解を深める ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	
		事後学習	課題 2 の作成 (講義内で示された提出期限厳守)。
第 14 回	・「契約としての実習」についての理解 (テキスト pp70~73) : 実習における契約の意義について理解を深める ・実習におけるリスクマネジメント (テキスト pp74~87) : 個人情報保護法の理解を含め、実習におけるリスクマネジメントの必要性和重要性において理解を深める	事前学習	
		事後学習	
		配布物	実習コンピテンス確認テスト I 問題

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (S/P/B) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3181 PSMP3481
2. 授業担当教員	水島 正浩、青木 正、高柳 瑞穂、谷口 恵子、西村 明子、大嶋 泰子、高橋 登志子、久次 奈美、星野 弘美			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク基礎実習の実施を軸として、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習プログラム (案) の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 2) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 3) 記録について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 4) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 5) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 実習プログラム (案) の作成 課題 2: ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』(第 2 版)、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 30% 課題 2 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 30. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 31. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 32. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 33. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 34. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 26. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 27. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 28. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明: シラバスを用いて今後の講義の進め方、また実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) との関連について理解を深める ・実習に向けての不安・課題についての話し合い 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート (ファイル) の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。	
		事後学習	講義での話し合いを踏まえ、ソーシャルワーク基礎 (またソーシャルワーク実習) 実施上の課題についてノートにまとめる。	
		配布物	ソーシャルワーク基礎実習記録及び下書き用紙、健康診断・細菌検査について	
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp.160~181): 第 1 節~第 3 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム (案) の作成: ソーシャルワーク基礎実習の目的と実習の全体像について内容を確認 	事前学習	テキスト pp.160~181 を読み、実習活動について理解を深める。	
		事後学習	実習プログラム (案) を作成し、教員の添削を受ける。	
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp.182~202): 第 4 節~第 6 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム (案) の作成: 実習計画書の記入と添削 	事前学習	テキスト pp.182~202 を読み、実習活動について理解を深める。	
		事後学習	添削された実習プログラム (案) を修正し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認印を受ける。	

		配布物	実習開始に関する諸注意、細菌検査容器、福祉実習に伴う欠席届について、巡回教員への挨拶用紙
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> 相談援助技術の理解と実習における実践（テキスト pp.203～223）：第 7 節～第 9 節 ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成：施設概要作成に関する説明 ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム（案）の作成（課題 1）：スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 <p>※この週から第 7 回の週の期間中にソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削指導を受けた実習プログラム（案）を実習指導者へ提出、協議を行う。</p>	事前学習	テキスト pp.203～223 を読み、実習活動について理解を深める。
		事後学習	添削された実習プログラム（案）を修正し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認印を受ける。 確認を受けた実習プログラム（案）を実習先実習指導者へ訪問のうえ提出し、その内容を協議する。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> 実習記録の理解：実習記録の意義、記入方法、取扱い等に関する説明と書き方演習（テキスト pp.226～238） ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム（案）の作成：スーパーバイザーとの協議の結果、実習プログラム（案）をまとめる 	事前学習	テキスト pp.226～238 を読み、記録の意義、内容について理解を深める。
		事後学習	実習先指導者との協議のうえ、確定した実習プログラム（案）をまとめる。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> 実習スーパービジョン・巡回指導の理解（テキスト pp.239～252）：巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する <p>※ここまで巡回担当教員との面接を終えていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成：作成された施設概要の確認 	事前学習	テキスト pp.239～252 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	実習巡回指導教員への挨拶用紙を作成し、実習巡回教員への挨拶と打合せを行う。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク基礎実習に向けて最終確認：事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について 実習における契約構造の説明と実習生の義務・権利について確認 	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」pp.38～42・p.54 を熟読し、実習中の留意事項について理解する。
		事後学習	実習生の義務と権利について学習したことをノートにまとめる。
		配布物	細菌検査結果（該当者のみ）、ソーシャルワーク基礎実習終了後の諸注意、実習記録提出証明書、実習誓約書
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク基礎実習の振り返り：ソーシャルワーク基礎実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う ソーシャルワーク基礎実習の学習効果と課題の整理：ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成（課題 2） <p>※確認事項：実習記録の提出、お礼状の送付</p>	事前学習	実習記録の整理 自己評価の実施
		事後学習	課題 2 の作成（講義内で提示される提出期限厳守）。
第 9 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）①	事前学習	報告のための資料準備とレポート内容の確認を行う。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 10 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）②	事前学習	報告のための資料準備とレポート内容の確認を行う。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク実習の目的と内容の理解：ソーシャルワーク実習の全体像と目的、課題について理解する 	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」p.9 を熟読する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習においてすべきこと がらについてノートにまとめ、口頭で説明できるようにする。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク基礎実習の評価：返却されたソーシャルワーク基礎実習評価をもとに、自己評価を実施 ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：実習目標と目標を達成するための展開方法について ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成 	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」pp.20～の実習プログラミングの実習先該当箇所に目を通す。
		事後学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削を受ける。
		配布物	ソーシャルワーク基礎実習記録（実習評価）返却、ソーシャルワーク実習記録、ソーシャルワーク実習プログラム（案）下書き用紙
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：「実習記録」及び「ソーシャルワークケース記録」の記載内容及び記録方法について 	事前学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削を受ける。
		事後学習	事例をもとに「ソーシャルケースワーク記録」の記入を行い提出する。

	・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成		
第 14 回	・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事前学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認を受ける。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員と協議した実習計画（案）を、実習先指導者へ提出、協議を行う（ソーシャルワーク実習事前訪問の実施）。
		配布物	ソーシャルワーク実習開始にあたっての諸注意
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	ソーシャルワーク実施に向けた自己課題をノートに記載する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習に必要な資料を収集し、事前学習を進める。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第 2 回	・相談援助技術の理解と実習における実践（テキスト pp.160～181）：第 1 節～第 3 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム（案）の作成：ソーシャルワーク基礎実習の目的と実習の全体像について内容を確認	事前学習	
		事後学習	
		配布物	実習コンピテンส์問題パートⅠ及び解答用紙
第 10 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）②	事前学習	
		事後学習	
		配布物	実習コンピテンส์問題パートⅡ
第 12 回	・ソーシャルワーク基礎実習の評価： 返却されたソーシャルワーク基礎実習評価をもとに、自己評価を実施 ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：実習目標と目標を達成するための展開方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事前学習	
		事後学習	実習コンピテンส์問題パートⅡ テスト
		配布物	
第 13 回	・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：「実習記録」及び「ソーシャルワークケース記録」の記載内容及び記録方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事前学習	
		事後学習	
		配布物	セルフアセスメントシート
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	セルフアセスメントシート作成
		事後学習	
		配布物	

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (S/P/B) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3182 PSMP3482
2. 授業担当教員	水島 正浩、青木 正、谷口 恵子、西村 明子、大嶋 泰子、 小金澤 嘉、高橋 登志子、久次 奈美、星野 弘美			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲは、ソーシャルワーク実習と並行して開講されており実習帰校指導と位置付けている。(実習) 実践を通じて課題となる事項を、本講義内で担当教員からのスーパービジョン、またグループ、報告・発表を用いて学生間で検討し、その結果を再び(実習) 実践へと結び付ける。(実習) 実践と講義との相互作用を通じてソーシャルワーク実践に必要な専門技術と知識を統合化する。なお、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ講義内での指導内容は、帰校指導記録を用いて実習先指導者へ定期的に報告することとなる。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関の職員の役割、また他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチについて明確に説明できる。 2) 実習先での実践を振り返り、クライアントへの援助実践に必要な技術と知識、また自己課題について明確に説明できる。 3) 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的なアプローチについて明確に説明できる。 4) 実習先での実践を振り返り、社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任について明確に説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 1～5：講義日程にて示す通り ・実習報告書の作成 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1～5 30% 実習報告書 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 35. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 36. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 37. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 38. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 39. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 29. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 30. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 31. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィシアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィシアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲの講義内容、進め方の説明 ・ソーシャルワーク実習 実習計画書の確認 		事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱで作成、 配属施設実習指導者より確認を得た実習計画書と照らし合わせ、具体的に実習で行いたい事をノートにまとめる。
			事後学習	実習計画をもとに、30 回の実習をより具体的にマネジメントする。
第 2 回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討		事前学習	支援過程とアセスメントの方法について

	・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解： アセスメントについて	事後学習	てソーシャルワークⅡのテキストを用いて復習する。 ソーシャルワーク記録情報収集とアセスメントについて事例を用いて実際に記入し、提出する。
第3回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解： ジェノグラムとエコマップについて・プランニングについて ・帰校指導について説明・理解	事前学習	ジェノグラムとエコマップについてソーシャルワークⅡのテキストを用いて復習する。
		事後学習	ジェノグラムとエコマップについて事例を用いて実際に作成、提出する。
第4回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解： インターベンション・結果と評価	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	帰校指導記録を精査、実習指導者へ提出する。
第5回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・他職種連携とチームアプローチについての理解： 実習施設・機関の他職種・他職員とのチームアプローチのあり方についてまとめる（課題1）	事前学習	実習時に実習先で実践されている他食連携について指導者より指導を受けその内容を記録にまとめる。
		事後学習	課題1の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第6回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討	事前学習	課題1についてまとめる。
		事後学習	実習時に課題2の作成に必要な情報について質問等を通じて収集する。
第7回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	帰校指導記録を精査、実習指導者へ提出する。
第8回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・地域社会への働きかけについての理解： 実習施設・機関と関わる社会資源についてまとめたうえで、その関連性と働きかけの方法についてまとめる（課題2）	事前学習	実習先の社会資源について調べ、記録にまとめる。
		事後学習	課題2の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第9回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・クライアントへの援助実践についての理解： クライアントへの支援において適用できる実践アプローチについて考察する（課題3）	事前学習	担当しているケースについて、情報を整理する。また、ソーシャルワークの実践アプローチについて内容を確認する。
		事後学習	課題3の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
		配布物	実習報告書について、ソーシャルワーク実習Ⅱアンケート（Sのみ）
第10回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・専門職の倫理綱領と実践についての理解： 実習施設・機関での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる（課題4）	事前学習	実習において実践活動及び職員の行動を観察のうえ、専門職倫理との関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	課題4の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第11回	・実践事例の報告と検討： 担当している事例（事業）についての報告と意見交換	事前学習	担当ケース及び事業について報告用のレジュメを作成、提出する。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第12回	・実践事例の報告と検討： 担当している事例（事業）についての報告と意見交換	事前学習	担当ケース及び事業について報告用のレジュメを作成、提出する。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
		配布物	実習終了時の諸注意 実習記録提出証明書
第13回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 ・実践事例の報告と検討： 担当している事例（事業）についての報告と意見交換 ・実習の評価について理解する（テキスト pp.290～308・及び東京福祉大学ソーシャルワーク実習生自己評価表）： 実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う ・実習報告書の作成について（説明）	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第14回	・ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める： 自分の家族背景、交友関係等から、どのような価値観をもつようになったか、この価値観が援助にどのように反映すると考えるかまとめる（課題5）	事前学習	実習活動を通じて自己について振り返り、価値観と実習行動等の関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	課題5の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第15回	・実習後の学習課題（テキスト p.310）： 目標と結果の照合、今後の課題について明確化する	事前学習	実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。
		事後学習	実習報告書を作成し担当教員へ提出する。

1. 科目名 (単位数)	組織心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3352
2. 授業担当教員	新井 洋輔		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「社会心理学」の単位を修得した後に履修するのが望ましい。		
7. 講義概要	<p>組織心理学は、現場で働く人々のニーズに研究知見が直結する応用的分野である。これはすなわち、組織心理学の研究知見が、組織を運営する人々や組織で働く人々、さらに社会人として大小の組織に加入することになる学生にとっても、現場の状況理解や問題解決につながる有用な知見が蓄積されているということである。本授業では、組織の中で、個人がどう知覚し、どのように行動し、態度を形成して、組織活動に参画していくのかについて理解する。さらにリーダーシップ行動や組織における意思決定の功罪について学ぶ。こうした産業の中で効率を上げるための心理学だけでなく、メンタルヘルスを向上させることで組織が活性化するという立場に立って、コミットメント、動機づけなどを含む職務満足、さらにはキャリア発達の視点とキャリアカウンセリングについて理解する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織活動と組織の中の人間関係について理解し、説明できる。 2. 組織の中で人の成長を促すもの、障害となるものについて考究することができる。 3. 組織活動を通して、我々が成長し、幸せになるためには、どのような視点を持つことが必要なのかについて考究し、就職する組織についての基準を自分なりに創造することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時間外にもテーマに関する文献やデータを収集するなどの活動が求められる。 2. 事前・事後学習を必須とする。本稿に記載されている「まとめる」は、原則として400字とする。 3. 発表と期末レポートの準備・提出が求められる。 4. レポートが要件を満たしていない場合、再提出が求められる。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 山口弘幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房。 松井豊著『改訂新版 心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くためにー』河出書房新社。</p> <p>【参考書】 田尾雅夫編『組織行動の社会心理学』北大路書房。 B・フィンドレイ著・細江達郎・細越久美子訳『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>積極的受講態度 : 40% 中間発表 : 30% レポート : 30%</p> <p>ただし、受講者の人数によっては授業形態を変更せざるをえない場合があるため、評価形式および配点に変更の必要がある場合には、変更前に授業内で事前通知する</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>組織心理学は、心理学の分野の中でも、蓄積されてきた研究知見を現実場面に応用している様子のわかりやすい学問です。講義の内容から、今後の社会生活に活かせる視点を獲得できるよう、積極的に取り組んでください。なお、受講者数や皆さんの理解度によっては、講義内容を変更する場合があります。</p> <p>講義に関する疑問については、講義内での質問を歓迎します。受講態度と毎回の課題への積極的な取り組みを評価しますので、不適切な受講態度や、欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。また、欠席の場合は、事前に連絡いただいた場合のみ次回授業時に資料をお渡しします。</p> <p>初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。</p>		
13. オフィスアワー	授業内で提示する。授業時間外での質問・相談を希望する場合は、yoarai@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 宛に、一週間前までに「授業名・クラス・学籍番号・質問の概要」を記載したメールで予約をとること。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション・受講契約	事前学習	本シラバスの内容を熟読し、本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく
		事後学習	心理学知見の応用分野としての「組織」に発生する問題を四つの観点からまとめる
第2回	組織の定義、組織研究の変遷①	事前学習	組織内に発生する問題・課題を20挙げ、考えられる対策と併せてまとめておく
		事後学習	ブレインストーミングおよびKJ法の結果を踏まえ、事前学習の内容を整理する
第3回	組織の定義、組織研究の変遷②	事前学習	前回の講義内容を踏まえ、組織内に発生する問題と対策についてまとめなおす
		事後学習	ブレインストーミングおよびKJ法の結果を踏まえ、事前学習の内容を整理する
第4回	メンバーの加入：採用と面接①	事前学習	入社面接を受ける立場から想定できる課題と採用する側の視点に立った課題と解決策を挙げてまとめたのちⅢ (pp. 42~59) を熟読する
		事後学習	講義で扱った理論および適性テストの内容を踏まえて解決策を改善する
第5回	メンバーの加入：採用と面接②	事前学習	前回の講義について疑問点をまとめ、Ⅲ (pp. 42~59) を再読する
		事後学習	講義で扱った理論および適性テストの内容を踏まえて解決策を改善する
第6回	個人から組織への関わり：モチベーションとメンタルヘルス	事前学習	Ⅱ (pp. 24~41) X (pp. 172~193) を熟読し、

	ルス①		モチベーション維持とストレス対処の方 案をまとめる
		事後学習	動機づけの理論およびストレスのモデルを もとに、解決策を改善する
第 7 回	個人から組織への関わり：モチベーションとメンタルヘルス②	事前学習	前回の講義について疑問点をまとめ、II (pp. 24~41) X (pp. 172~193) を再読する
		事後学習	動機づけの理論およびストレスのモデルを もとに、解決策を改善する
第 8 回	組織から個人への関わり：人事評価	事前学習	IV (pp. 60~75) を熟読し、人事評価をする 側・される側の視点で課題と解決策をまとめ る
		事後学習	大学における各講義では、どの評価基準が採 用されているか検討し、まとめる
第 9 回	個人の成長：キャリア発達①	事前学習	自分の卒業後の職業と進路についてまとめ たのち、V (pp. 76~97) を熟読する
		事後学習	ホルランドのモデルを元に、自分のキャリアパ スについて再考し 2000 字のレポートを作成 する
第 10 回	個人の成長：キャリア発達②	事前学習	前回の講義内容を踏まえ、職業と進路につい て再考する
		事後学習	ホルランドのモデルを元に、自分のキャリアパ スについて再考し 2000 字のレポートを完成 させる
第 11 回	組織内の人間関係 I：職場のコミュニケーション	事前学習	組織というフォーマル集団特有の対人関係 の課題をまとめた後、VI (pp. 98~119) を熟 読する
		事後学習	講義で扱った職場集団の特性を踏まえて、課 題に対する解決策をまとめる
第 12 回	組織内の人間関係 II：リーダーシップ①	事前学習	これまでに経験した「上下関係」のある対人 関係での問題をまとめたのち、VII (pp. 120~ 139) を熟読する
		事後学習	PPM理論をはじめとしたリーダーシップ関 連の理論がこれまでの上下関係にどのよう に適用可能か検討し、レポートを作成する
第 13 回	組織内の人間関係 II：リーダーシップ②	事前学習	前回の講義内容を踏まえ、上下関係について 整理する
		事後学習	PPM理論をはじめとしたリーダーシップ関 連の理論がこれまでの上下関係にどのよう に適用可能か検討し、レポートを完成させる
第 14 回	消費者行動とマーケティング	事前学習	これまでに経験した購買行動に関わる心理 的問題を挙げ、VII (pp. 140~155) を熟読す る
		事後学習	購買意志決定モデルに基づいて、問題への解 決策をまとめる
第 15 回	レポート発表	事前学習	第 14 回までに作成したレポートのうちい ずれかを発表する準備をする
		事後学習	自分の発表へのフィードバックを踏まえて レポート内容を修正したのち、提出する

1. 科目名 (単位数)	地域福祉論 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP2404
2. 授業担当教員	上野 義光		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	地域福祉の基本的な考え方、主体と対象、係る組織、団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法を学ぶとともに、地域援助技術としてのコミュニティワーク、コミュニティソーシャルネットワークの実践方法を身につける。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について説明できる。 ・地域福祉の主体と対象について理解し説明できる。 ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について把握することができる。 ・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法について把握し、その実際について説明できる。 ・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解し説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	市町村の地域福祉計画や社会福祉協議会が実施している地域福祉活動及びNPO法人、民間の機関等の地域福祉活動について、現地に行って調査し、レポートにまとめること（例えば、市町村地域福祉計画、社会福祉協議会の日常生活自立支援事業、NPOの子育て支援など、どれか1つ）。2000字程度にまとめて提出する。提出期限については追って知らせる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法』中央法規出版。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説（初等教育編）』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説（中等教育編）』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度とレポート等を総合して行う。 1. レポート 総合点の30% 2. 期末試験 総合点の30% 3. 授業出席 総合点の30% 4. 日常の学習状況 総合点の10%		
12. 受講生へのメッセージ	1、自分なりの将来設計をもって、積極的な態度で授業に出席する。 2、授業のための予習を必ずしておくこと。 3、携帯電話は電源を切り、机の上に置かないこと。		
13. オフィスアワー	休憩時間に相談に応じる（4号館2階非常勤講師室）。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(シラバス、地域福祉の概要。レポートについての説明等)、地域福祉の事例紹介	事前学習	地域福祉とは何かを考えて授業に臨む。
		事後学習	地域福祉の概要や事例から何を学んだか、その内容をまとめる。
第2回	新しい社会福祉システム 地域福祉の発展過程、行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉	事前学習	教科書第1章(pp.2~13)を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	わが国の地域福祉が欧米からどのような影響を受けたか、その内容をまとめる。
第3回	新しい社会福祉システム 新しい生活課題に対応する地域福祉、新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉、福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体の形成	事前学習	教科書第1章(pp.14~33)を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉の新しい位置づけと福祉コミュニティの考え方について、その内容をまとめる。
第4回	地域福祉の基本的な考え方 地域福祉理論の発展と広がり、地域自立生活支援と地域福祉の理論	事前学習	教科書第2章(pp.36~46)を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉理論の発展過程と地域自立生活支援のあり方について、その内容をまとめる。
第5回	地域福祉の基本的な考え方 地域のとらえ方と福祉圏域、地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携	事前学習	教科書第2章(pp.47~56)を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉における地域をどのように捉えるか、その内容をまとめる。
第6回	地域福祉の主体と福祉教育 地域福祉の推進と福祉教育、地域福祉の推進と福祉教育の歩み	事前学習	教科書第3章(pp.58~67)を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉における主体形成について、どのように捉えるか、その内容をまとめる。
第7回	地域福祉の主体と福祉教育 福祉教育の概念と内容	事前学習	教科書第3章(pp.68~76)を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域住民に対し、福祉教育を通して、どのような力を育むことが期待されるのか、その内容をまとめる。

第 8 回	行政組織と民間組織の役割と実際 社会福祉における地方分権と地域福祉計画、社会福祉協議会の役割と実際	事前学習	教科書第 4 章 (pp.78~100) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地方分権化における地域福祉計画の策定について、その内容をまとめる。
第 9 回	行政組織と民間組織の役割と実際 社会福祉法人の役割と意義、特定非営利法人の役割とボランティア活動	事前学習	教科書第 4 章 (pp.101~115) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	社会福祉法人及び特定非営利法人の役割について整理し、その内容をまとめる。
第 10 回	行政組織と民間組織の役割と実際 民生委員・児童委員、保護司、福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献	事前学習	教科書第 4 章 (pp.116~132) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域における民生委員・児童委員、保護司の役割について整理し、その内容をまとめる。
第 11 回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割 コミュニティソーシャルワークの考え方、コミュニティソーシャルワークの展開とシステム、	事前学習	教科書第 5 章 (pp.134~147) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	コミュニティソーシャルワークの考え方及び今後のコミュニティソーシャルワークの展開について、その内容をまとめる。
第 12 回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割 コミュニティソーシャルワークの方法、専門多職種とのチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク、専門職と住民の関係	事前学習	教科書第 5 章 (pp.148~172) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス及び専門多職種とのチームアプローチについて、その内容をまとめる。
第 13 回	住民参加と方法 地域福祉推進における住民参加の意義、市町村社会福祉行政における住民参加	事前学習	教科書第 6 章 (pp.174~184) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉推進における住民参加の意義について、その内容をまとめる。
第 14 回	住民参加と方法 住民代表性と参加方法	事前学習	教科書第 6 章 (pp.185~194) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉を展開する際に求められる住民参加の方法について、その内容をまとめる。
第 15 回	ソーシャルサポートネットワーク ソーシャルサポートネットワークの考え方と位置、ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ	事前学習	教科書第 7 章 (pp.196~206) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	ソーシャルサポートネットワークの考え方及びエコロジカルアプローチについて、その内容をまとめる。
第 16 回	ソーシャルサポートネットワーク 事例から読みとくソーシャルサポート	事前学習	教科書第 7 章 (pp.207~212) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	ソーシャルサポートとコミュニティソーシャルワークについて、その内容をまとめる。
第 17 回	地域における社会資源活用・調整・開発 社会資源の活用と開発	事前学習	教科書第 8 章 (pp.214~221) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域における社会資源活用・調整・開発について整理し、その内容をまとめる。
第 18 回	地域における社会資源活用・調整・開発 ニーズ対応型福祉サービスの開発、税制優遇と助成金の活用	事前学習	教科書第 8 章 (pp.222~232) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域における福祉サービスの開発について整理し、その内容をまとめる。
第 19 回	地域における社会資源活用・調整・開発 福祉でまちづくりとソーシャルアクション	事前学習	教科書第 8 章 (pp.233~238) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	「福祉でまちづくりとソーシャルアクション」について、グループで検討したことをまとめる。
第 20 回	地域における福祉ニーズの把握方法と実際 地域福祉におけるアウトリーチの意義、	事前学習	教科書第 9 章 (pp.240~243) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉におけるアウトリーチの意義について、その内容をまとめる。
第 21 回	地域における福祉ニーズの把握方法と実際 地域における福祉ニーズの把握方法と実際	事前学習	教科書第 9 章 (pp.244~252) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域における福祉ニーズの把握方法について、その内容をまとめる。
第 22 回	地域トータルケアシステムの構築と実際 地域トータルケアシステムの必要性と考え方、地域トータルケアシステムの展開方法	事前学習	教科書第 10 章 (pp. 254~269) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域トータルケアシステムの考え方及び地域トータルケアシステムの展開方法について、その内容をまとめる。
第 23 回	地域トータルケアシステムの構築と実際 地域トータルケアシステムの事例、ソーシャルケア従事者の研修と組織化	事前学習	教科書第 10 章 (pp.270~279) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	「地域トータルケアシステムの事例」について、グループで検討されたことをまとめる。

第 2 4 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際 福祉サービスの評価を必要とする背景、評価の 考え方	事前学習	教科書第 11 章 (pp.282~288) を熟読し、その要点 をまとめる。
		事後学習	地域における福祉サービスの評価の考え方につい て、その内容をまとめる。
第 2 5 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際 福祉サービスの評価の方法と実際	事前学習	教科書第 11 章 (pp.289~293) を熟読し、その要点 をまとめる。
		事後学習	地域における福祉サービスの評価方法について、そ の内容をまとめる。
第 2 6 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際 福祉サービスのプログラム評価とその展開	事前学習	教科書第 11 章 (pp.294~298) を熟読し、その要点 をまとめる。
		事後学習	地域における福祉サービスのプログラム評価につい て、その内容をまとめる。
第 2 7 回	災害支援と地域福祉 災害支援の考え方と方法、災害支援の実際	事前学習	教科書第 12 章 (pp.300~312) を熟読し、その要点 をまとめる。
		事後学習	災害支援と地域福祉について、その内容をまとめる。
第 2 8 回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方 イギリス、アメリカ	事前学習	教科書第 13 章 (pp.314~328) を熟読し、その要点 をまとめる。
		事後学習	イギリスとアメリカが日本の地域福祉に影響を与え た考え方や実践について整理し、その内容をまとめる。
第 2 9 回	地域を基盤とした相談援助事例の検討	事前学習	地域で行われている援助事例を調査する。
		事後学習	グループで検討した援助事例をまとめる。
第 3 0 回	これからの地域福祉の方向性について(グループ に分かれて討論)	事前学習	これからの地域福祉の方向性について事前に自分の 考えをまとめてくる。
		事後学習	グループで検討した地域福祉の方向性について、そ の内容をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	中国の文化と言語 I (2 単位)	3. 科目番号	GECM1313
2. 授業担当教員	白 蓮杰		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ学習等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「中国の文化と言語 I」を履修後、「中国の文化と言語 II」を履修すること		
7. 講義概要	初心者を対象に、中国語の基礎訓練を行う。やさしく、正確に、しかも気軽に話せるように、まず簡単な会話の訓練から始める。同時に、古来より日本にはかりしれない影響を与え続けてきた、「隣の国」中国の文化と歴史についても学習していく。国連公用語に指定されている、国際語としての中国語の言語的特徴(リズムカルな美しい音調等)を理解し、簡単な会話であれば、気軽に正確に使えるようになることを目指し、学習を進めていく。また、今、経済成長を遂げ、国際的にも発言力を増してきた中国について、言語と文化、そして人びとの暮らしを通して理解し、これからの交流の機会に役立てていく授業である。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国語の発音と文法の概略を知り、自ら学習を進展させることができるようにするための基礎を身につける。 2. ピンイン(ローマ字による中国語発音表記システム)の読み方と綴り方、常用の単語、日常の挨拶語、単文の基本文型などを学ぶことで、中国語の各音節が声調を伴って正確に発音でき、基本的な表現構造を理解できるようになる。 3. 授業では簡単な受け答えや聞き取り・書き取りなどの練習を通して、簡単な会話が聞き取れ、話せるようになる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1、単語と文法の理解度を確認するための小テストを毎回行う。 2、会話練習はペアで行う。 3、定期的にグループディスカッションを行う。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 王亜新・劉素英『学ぶ中国語—楽しく身につく初級トレーニング』朝日出版社 2013 年 【参考書】 ○中国語の辞書 (簡単なものでよい) ○竹内 実『北京』文芸春秋社。 ○沈潔『地域福祉と福祉 NPO の日中比較研究』日本僑報社。		
11. 成績評価の方法	筆記試験、授業態度、予習・復習、課題の作成などを基準に、総合的に評価する。 授業への参加(積極的参加度・授業態度) 30% 課題 30% 期末試験 40%		
12. 受講生へのメッセージ	中国語は発音が難しいと言われますが、同じ漢字圏の言語としては日本人学習者にとって学習しやすい言語であると思います。この授業を通して、中国語だけではなく、ビデオや映画などを楽しみながら、中国の文化、人々の生活などを学んでいきましょう。		
13. オフィスアワー	授業時間の前後に設ける		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	講義概要・学習目標・注意事項などの説明 中国と中国語について (DVD 鑑賞)	事前学習	中国と中国語について考えよう：知っている事、知ってみたい事をノートにまとめる
		事後学習	要点をノートにまとめる。確かめたいものはインターネットや図書館で調べてみる 教科書を用意する
第 2 回	発音(1) 声調・単母音 挨拶用語①	事前学習	予習：教科書 pp. 7~8 を読む
		事後学習	復習：声調・単母音・挨拶用語
第 3 回	発音(2) 子音 挨拶用語②	事前学習	予習：教科書 pp. 9~10 を読む
		事後学習	復習：子音、挨拶用語②を音読し、ノートに写す
第 4 回	発音(3) 複合母音 挨拶用語③	事前学習	予習：教科書 pp. 11 を読む
		事後学習	復習：複合母音、挨拶用語③を音読し、ノートに写す
第 5 回	発音(4) 鼻母音 発音の変化	事前学習	予習：教科書 pp. 12~15 を読む
		事後学習	復習：鼻母音と発音の変化を音読し、書く練習をする
第 6 回	第一課 「自己紹介」名詞判断文・一般疑問文・名前の言い方、「的」の使い方	事前学習	予習：教科書 pp. 16~18 を読み、単語と文法を把握する
		事後学習	復習：単語と文法を確認し、例文を作る
第 7 回	第一課 復習と練習 (DVD 鑑賞)	事前学習	予習：pp19~20 の練習をする
		事後学習	復習：第 1 課の本文を音読し、単語と文法を覚える
第 8 回	第二課 「何人家族ですか」 動詞「在」、「有」、疑問詞疑問文、「的」を用いない表現	事前学習	予習：教科書 pp. 22~24 を読み、単語と文法を把握する
		事後学習	復習：第 2 課の単語と文法を確認し、例文を作る
第 9 回	第二課 復習・練習 (DVD 鑑賞)	事前学習	予習：教科書 pp. 25~26 の練習をする
		事後学習	復習：第 2 課の本文を音読し、単語と文法を覚える
第 10 回	第三課 「明日は土曜日です」名詞述語文、動詞文、前置詞「在」、連動文	事前学習	予習：教科書 pp. 28~30 を読み、単語と文法を把握する
		事後学習	復習：第 3 課の単語と文法を確認し、例文を作る
第 11 回	第三課 復習・練習 (DVD 鑑賞)	事前学習	予習： pp. 31~32 の練習をする
		事後学習	復習：本文を音読し、単語と文法を覚える
第 12 回	第四課 「夏は暑いです」 形容詞述語文、主述述語文、反復疑問文、指示詞+量詞+名詞	事前学習	予習：教科書 pp. 34~36 を読み、単語と文法を把握する
		事後学習	第 4 課の単語と文法を復習し、覚える

第 13 回	第四課 復習と練習 (DVD 鑑賞)	事前学習	予習：教科書 pp. 37～38 の練習をする
		事後学習	復習：第 4 課の本文を音読し、単語と文法を覚える
第 14 回	第五課 「何をする予定ですか」 予定を表す「打算」、希望を表す「想」、可能を表す「能」と「可以」、数量補語	事前学習	予習：教科書 pp. 40～42 を読み、単語と文法を把握する
		事後学習	復習：第 5 課の本文を音読し、単語と文法を覚える。
第 15 回	第五課 復習と練習 グループディスカッション	事前学習	予習：教科書 pp. 43～44 の練習をする
		事後学習	復習：第 5 課の本文を音読し、単語と文法を覚える
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	中国の文化と言語Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GECM1314
2. 授業担当教員	白 蓮杰		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ学習等			
6. 履修条件・他科目との関係	「中国の文化と言語Ⅰ」を履修後、「中国の文化と言語Ⅱ」を履修すること			
7. 講義概要	「中国の文化と言語Ⅰ」の学習を基礎に、中国の人びとの暮らし、伝統文化、風俗習慣を盛り込んだ教材を精読する。簡単な日常会話と文系を学び、生きた中国語会話の体験学習をおこなう。ビデオを用いて、中国の大学生活や庶民の暮らしを紹介する。老親介護をテーマにした映画を鑑賞し、中国の高齢者福祉の状況を理解し、日本に身を置くわたしたちの暮らしや考え方と比べてみる。			
8. 学習目標	1.中国語の入門から初級につながる会話を聞き取ることができ、話せることができるようになる。 2.中国語で書かれた、ある程度まとまった文章を理解できる。 3.中国語の表現から、中国語話者のものの見方、考え方、価値観を読み取ることができる。 4.3を通して中国の文化、社会、歴史的背景について理解を深めることができる。			
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	1、単語と文法の理解度を確認するための小テストを毎回行う。 2、会話練習はペアで行う。 3、定期的にグループディスカッションを行う。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 王亜新・劉素英『学ぶ中国語一楽しく身につく初級トレーニング』朝日出版社 2013 年 【参考書】 ○中国語の辞書 (簡単なものでよい) ○竹内 実『北京』文芸春秋社。 ○沈潔『地域福祉と福祉NPOの日中比較研究』日本僑報社。			
11. 成績評価の方法	筆記試験、授業態度、予習・復習、課題の作成などを基準に総合的に評価する。 授業への参加 (積極的参加度・授業態度) 30% 課題 30% 期末試験 40%			
12. 受講生へのメッセージ	現在中国は、社会福祉をはじめ、多くの社会問題を抱えており、日本に比べて遅れている部分が多いと思われます。その原因はさまざまだと思いますが、その根底にある中国の歴史、伝統及び国家体制、社会の仕組みなどを理解しなければいけません。近年、著しい経済発展や社会制度の改善により、日本とともに福祉を語る日も近いことでしょう。そのときには、習い覚えた中国語でコミュニケーションの糸口を開くことができることを望んでいます。			
13. オフィスアワー	授業時間の前後に設ける			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	第六課 「私は香港に行きました」 動詞の「完了」と「経験」を表す表現、反復疑問文		事前学習	「中国の文化と言語Ⅰ」のポイントを復習、 予習：教科書 pp. 46 ~48 を読み、単語と文法をノートに書く
			事後学習	復習：第 6 課の本文を音読し、単語と文法を覚え、 例文を作ってみる
第 2 回	第六課 復習・練習 DVD 鑑賞		事前学習	予習：教科書 pp. 49~50 の練習をする
			事後学習	復習：第 6 課の本文を音読し、単語と文法を覚える
第 3 回	第七課 「私の家は学校から遠くないです」 前置詞「从…到」、「从」、「离」、連動文		事前学習	予習：教科書 pp. 52~54 を読み、単語と文法をノートに書く
			事後学習	復習：第 7 課の単語と文法を覚え、例文を作ってみる
第 4 回	第七課 復習・練習 DVD 鑑賞		事前学習	予習：教科書 pp. 55~56 の練習をする
			事後学習	復習：第 7 課の本文を音読し、単語と文法を覚える
第 5 回	第八課 「ちょっと体調がよくないです」 二重目的語、前置詞「给」、助動詞「要」、疑問詞「怎么」		事前学習	予習：教科書 pp. 58~60 を読み、単語と文法をノートに書く
			事後学習	復習：第 8 課の本文を音読し、単語と文法を覚え、 例文を作ってみる
第 6 回	第八課 復習・練習 DVD 鑑賞		事前学習	予習：教科書 pp. 61~62 の練習をする
			事後学習	復習：第 8 課の本文を音読し、単語と文法を覚える
第 7 回	第九課 「卓球をやります」 状態補語、助動詞「会」、比較構文 1		事前学習	予習：教科書 pp. 64~66 を読み、単語と文法をノートに書く
			事後学習	復習：第 9 課の本文を音読し、単語と文法を覚え、 例文を作ってみる
第 8 回	第九課 復習・練習 DVD 鑑賞		事前学習	予習：教科書 pp. 67~68 の練習をする
			事後学習	復習：第 9 課の本文を音読し、単語と文法を覚える
第 9 回	第十課 「あなたは何をしていますか」 動作の進行中を表す表現、助動詞「应该」、結果補語、動詞の重ね型		事前学習	予習：教科書 pp. 70~72 を読み、単語と文法をノートに書く
			事後学習	復習：第 10 課の本文を音読し、単語と文法を覚え、 例文を作ってみる
第 10 回	第十課 復習・練習 DVD 鑑賞		事前学習	予習：教科書 pp. 73~74 の練習をする
			事後学習	復習：第 10 課の本文を音読し、単語と文法を覚え、 例文を作ってみる
第 11 回	第十一課 「中国語の先生」「听说…」、「是…的」 逆接を表す表現		事前学習	予習：教科書 pp. 76~78 を読み、単語と文法をノートに書く
			事後学習	第 11 課の本文を音読し、単語と文法を覚え、例文を作ってみる
第 12 回	第十一課 復習・練習 DVD 鑑賞		事前学習	予習：教科書 pp. 79~80 の練習をする
			事後学習	復習：第 11 課の本文を音読し、単語と文法を覚える

第 13 回	第十二課 「中国語を学ぶ」 変化を表す「了」、「快…了」、「一点儿」、「有点儿」、 「只」	事前学習	予習：教科書 pp. 82～84 を読み、単語と文法をノートに書く ディスカッションの内容をノートにまとめる
		事後学習	復習：第 12 課の単語と文法を覚え、例文を作ってみる
第 14 回	第十二課 復習・練習 DVD 鑑賞	事前学習	予習：教科書 pp. 85～86 の練習をする
		事後学習	復習：第 12 課の本文を音読し、単語と文法を覚える
第 15 回	学習のまとめ グループディスカッション	事前学習	ディスカッションの内容を考える
		事後学習	総復習する
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	哲学 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1319
2. 授業担当教員	板井 広明		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>「哲学とは何か？」という問いは、現在でも、世界の一線級の哲学者たち間でさえ合意をみていない。ここに哲学の特徴、難しさ、そしておもしろさが表れている。この世界がどうなっているかについての新しい知識を求める経験科学的な探求と異なり、哲学は、(例えて言えば) この世界を見ている自分たちの目そのものを探求するかのような自己言及的な側面を強くもっている。しかし言うまでもなく、自分で自分の目を覗き見することはどうやってもできない。そこに哲学のむずかしさがあり、哲学に「答えはない」と言われる所以(ゆえん)がある。それでも、普段自分たちが当たり前のものとして考えたり疑ったりすることのなかった前提を、改めて見つめなおしてみることにより意義を感じられる人にとっては、哲学を学ぶこと(あるいは「哲学する」こと)は、好奇心を刺激されるものとなるだろう。</p> <p>本講義では、哲学者たちが取り組んできたテーマについて、日常生活とのつながりを意識しながら学んでいく。しかし、もっとも大切なことは、哲学者たちの考えた内容そのものを覚えることではなく、その思考の軌跡を追体験することによって、受講者自身が各自の思考力を鍛えていくことである。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 自分が今このように存在し、このように物事を認識しているその(無意識の)根拠を改めて問いなおすことによって、人間として生きているとはどのようなことなのかをよりよく考えられるようになること。</p> <p>2. 科学的な探求とは異なる知のあり方があることを理解すること。</p>		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	「江口某の不如意研究室」(http://yonosuke.net/eguchi/)のページにある「勉強の仕方」の34記事すべてを第10回目までには熟読して自家薬籠中のものとしておくこと。詳しくは講義で指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】シャロン・ケイ、ポール・トムソン『中学生からの対話する哲学教室』玉川大学出版部、2012年。		
11. 成績評価の方法	期末試験 80% 授業への積極的参加度(要約など) 20%		
12. 受講生へのメッセージ	この授業では教科書に即して、哲学的問題をさまざまな側面から検討します。単に誰その学説は〜だといったものではなく、哲学する姿勢を学ぶことを目的とします。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション	事前学習	シラバスを読み、概要を把握しておく。
		事後学習	紹介された哲学諸分野について整理し、理解をまとめておく。
第2回	愛とは何か	事前学習	教科書第1章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。
第3回	美は事実か趣味か	事前学習	教科書第2章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。
第4回	アートの目的とは何か	事前学習	教科書第3章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。
第5回	健康であることと美しいことに違いはあるか	事前学習	教科書第4章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。
第6回	真になりえないものはあるか	事前学習	教科書第5章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。
第7回	嘘をつくのはいつも悪いことか	事前学習	教科書第6章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。
第8回	どんな問題にも答えはあるか	事前学習	教科書第7章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。
第9回	現実を受け入れるべきものか	事前学習	教科書第8章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。
第10回	差別とは何か	事前学習	教科書第9章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。
第11回	動物には権利があるか	事前学習	教科書第10章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。

第 1 2 回	誰が環境のことを考えるのか	事前学習	教科書第 1 1 章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、参考図書を使って調べておく。
第 1 3 回	政府がなかったらどうなるのか	事前学習	教科書第 1 2 章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。
第 1 4 回	善人に悪い事がおきるのはなぜか	事前学習	教科書第 1 3 章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。
第 1 5 回	生きる意味とは何か	事前学習	教科書第 1 4 章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、教科書や辞典を使って調べておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	統計学 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1121
2. 授業担当教員	末永 叔子		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション形式の授業を行います			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	我々の身の回りには実に多くの統計的データが存在する。しかし、それらについての正しい見方を知らない、日常生活において重大な間違いを犯してしまうことにもなりかねない。理系・文系の枠に関係なく、統計学の知識は、データを正しく読み取り、正しく理解するために必要な教養のひとつである。この統計学のクラスでは、統計に対する正しい知識を身につけることと、将来自分でデータを集め分析できるようになることを目標に、統計学の基本的な概念の紹介から始まり、記述統計、推測統計まで幅広く学習していく予定である。			
8. 学習目標	日常生活における統計学的なものの方・考え方を身につけるとともに、レポート・論文の中に記載された統計に関する記述箇所を正しく読み取れるようになることが、本講義の主たる学習目標である。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各授業後にその日の講義内容に関する宿題プリントを課します。講義、演習は前回の内容を踏まえて行われるため、プリントを用いて必ず復習をして、講義の内容を確実に理解するようにしてください。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。 【参考書】丹慶勝市『図解雑学 統計解析』ナツメ社。 その他、参考図書については授業中に適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	授業態度・授業への積極的参加度 30% 小テスト 30% 期末試験 40%.			
12. 受講生へのメッセージ	授業中に電卓を使用しますので、√ (ルート) の計算ができる電卓を毎回持参してください (携帯不可)。数字や数式が出てくるからと身構える必要はありませんが、気を抜くと分からなくなります。毎回高い緊張感と積極的な態度で授業に臨んでください。 講義内容はすべて教科書の内容に基づいています。講義中によく分からなかったところについては、次回までに教科書を何度もよく読みこんでおいてください。復習が何より大切です。また、学生の理解度によって授業内容を変更する場合があります。 遅刻、無断欠席、途中退席は原則禁止します。繰り返しになりますが、一度聞き逃すと、その後の授業についていけなくなります。			
13. オフィスアワー	詳細な時間は授業開始後に指示します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業ガイダンス	事前学習	計算機の使用方法 (ルートを含む) を確認する。	
		事後学習	ガイダンス内容を踏まえ、教科書を読んでこれから学習する内容を理解する。	
第 2 回	データの分類、さまざまな代表値	事前学習	教科書 1 章および 2 章を熟読する。	
		事後学習	データの分類法と各種代表値の算出法に関する宿題を行い理解不足な点が無いか確認する。	
第 3 回	散布度：分散、標準偏差	事前学習	教科書 2 章を再度確認する。	
		事後学習	宿題を行い分散と標準偏差の算出方法を復習する。	
第 4 回	散布図と共分散、因果関係と相関関係、相関係数	事前学習	教科書 3 章を熟読する。	
		事後学習	宿題を行い相関係数の算出方法を確認するとともに、正の相関、負の相関のイメージを再確認する。	
第 5 回	相関係数の見方、連関係数	事前学習	教科書 3 章を再度確認する。	
		事後学習	宿題を行い、相関係数の数値の見方を復習する。また、連関係数の算出法を確認する。	
第 6 回	標準化と偏差値の求め方	事前学習	教科書 4 章を熟読する。	
		事後学習	宿題を行い z 値と偏差値の算出法を復習する。	
第 7 回	正規分布の特徴とその利用	事前学習	教科書 4 章を再度確認する。	
		事後学習	宿題を行い正規分布のイメージを再確認するとともに、正規分布と標準偏差との関係を理解する。	
第 8 回	記述統計のまとめ	事前学習	これまでの学習内容を振り返り、これまでに学んだ数値の算出法を確認する。	
		事後学習	理解不足な点を復習する。	
第 9 回	記述統計から推測統計へ	事前学習	教科書 5 章を熟読する。	
		事後学習	宿題を行い記述統計と推測統計の違いを確認する。	
第 10 回	統計的仮説検定 (1) : 検定手順の理解	事前学習	教科書 5 章を再度確認する。	
		事後学習	宿題を行い検定の手順を確認する。	
第 11 回	統計的仮説検定 (2) : 両側検定・片側検定、有意水準、検定における 2 種の過誤	事前学習	教科書 5 章を再度確認する。	
		事後学習	宿題を行い両側検定と片側検定の違いを理解する。「有意差がある」とはどういうことか、再確認する。統計的検定が万能ではないことを理解し、誤りのパターンを確認する。	
第 12 回	標準正規分布を用いた検定	事前学習	教科書 5 章 (特に 8 節) を熟読する。	
		事後学習	宿題を行い手順に従って標準正規分布を用いた検定	

			法を復習する。
第 13 回	対応のない t 検定	事前学習	教科書 6 章（特に 1～3 節）を熟読する。
		事後学習	宿題を行い対応の無い t 検定の方法を復習する。「対応がある」「対応が無い」とはどのようなことか理解する。
第 14 回	対応のある t 検定	事前学習	教科書 6 章（特に 4、5 節）を熟読する。
		事後学習	宿題を行い対応のある t 検定の方法を復習する。対応の無い t 検定との違いを確認する。
第 15 回	まとめと 3 水準以上の平均値の比較	事前学習	これまでの内容を振り返り、各種記述統計値の算出法と、3 つの仮説検定の方法を復習する。教科書 7 章を熟読する。
		事後学習	総復習を行い期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	発達心理学 (4 単位)		3. 科目番号	PSMP2122								
2. 授業担当教員	水國 照充											
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期									
6. 履修条件・他科目との関係	児童心理学の単位を取得した後に履修することが望ましい											
7. 講義概要	<p>従来発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目されはじめている。また、老人だけでなく障害児(者)の発達も考えていく必要があり、発達心理学と福祉の関係を学習することの重要性が高まっている。</p> <p>そこで、本講義では、発達心理学の方法と考え方を学び、初期経験の重要性としての知能・性格・感情の基本を形成する乳幼児期の経験について理解する。また、生涯発達の観点から、幼児・児童等の心身の発達と学習の過程について理解するとともに、胎児期から成年・老年期までの発達期の特徴を概説する。さらにそれぞれの段階においての不応行動についても学ぶ。</p>											
8. 学習目標	生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程を学ぶ。正常な発達と発達の障害を対比しながら理解する。その中で、どのような支援が可能であり、また、求められているかについても学び、説明できるようになる。											
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 質疑応答課題シートは毎時間提出する。 2. グループディスカッション毎に配布するディスカッションシートを各自でまとめ、授業終了時に提出する。 3. グループ発表課題の提出 											
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小野寺敦子著『手にとるように発達心理学がわかる本』かんき出版、2010、1,500 円</p> <p>【参考書】 村田孝次著『児童心理学入門』培風館、2009、1,800 円 内田伸子編『発達心理学キーワード』有斐閣、2008、1,800 円</p>											
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>質疑応答課題シートによる評価</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>ディスカッションシートによる評価</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>グループ発表</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>学期末試験</td> <td>50%</td> </tr> </table> <p>注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の規定により全講義回数のうち 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 2. 遅延の場合は遅延証明書を当日または次回講義までに担当教員に提出すること。 3. 遅延の累積回数が多い場合には、遅延を認めない場合もあるため注意すること。 4. 積極的な受講態度や参加姿勢は加点的な対象とする。 5. 受講態度や参加姿勢について、特に以下に示す様態は減点的な対象とする。私語、居眠り、携帯いじり、無断退室、出席の代返、その他授業と関係のない行為等。注意しても学習態度に改善が見られない場合は F 評価とする。 				質疑応答課題シートによる評価	10%	ディスカッションシートによる評価	10%	グループ発表	30%	学期末試験	50%
質疑応答課題シートによる評価	10%											
ディスカッションシートによる評価	10%											
グループ発表	30%											
学期末試験	50%											
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 座席指定で授業をおこないます。指定された座席で授業を受けてください。席の移動は認めません。 2. 指定された座席に基づくグループを作り、グループディスカッションを行います。グループ毎に司会者、記録者、発表者を決めて積極的なディスカッションを行ってください。 3. 指定されたグループによる発表を行います。発表テーマ授業内容の【グループ発表】①～⑤を参照してください。 4. 授業妨害となる行為は厳に慎んでください。具体的には、私語、居眠り、携帯いじり、無断退室、出席の代返、その他授業と関係のない行為等です。注意しても学習態度に改善が見られない場合は、F 評価になります。 5. 学期末試験の持込み(ノート、配布資料等)の可否は、全受講生の受講態度や参加姿勢によって決定します。一部の受講生の授業態度が悪い場合でも、すべての受講生の持込みを不可としますので、お互いに声をかけあって積極的に授業に参加してください。 											
13. オフィスアワー	詳細は授業開始後に指示します。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	オリエンテーション ・受講にあたっての諸注意 ・発達心理学トピックス	事前学習	教科書、学習ノートを準備する。									
		事後学習	授業概要と学習目標の確認、成績評価方法の詳細について確認する。									
第 2 回	【グループ課題学習】 ・今後のグループ形成に向けた環境作り ・受講している学生間の交流を図る	事前学習	グループで学習する意義や自分のコミュニケーションの在り方を振り返っておく。									
		事後学習	ディスカッションシートによる振り返りを行う。									
第 3 回	発達心理学とはなにか	事前学習	教科書 pp. 24～41 を熟読しノートにまとめる。									
		事後学習	発達心理学が学問として成立する以前の 17 世紀のヨーロッパの子ども観、その後の発達心理学の歴史をノートにまとめる。									
第 4 回	発達心理学の基礎理論	事前学習	教科書 pp. 42～57 を熟読しノートにまとめる。									
		事後学習	フロイトの性の発達段階説、エリクソンの発達理論、ハヴィガーストの発達課題、精神分析学から見た子どもの発達特徴をノートにまとめる。									
第 5 回	胎児期の発達 (1)	事前学習	教科書 pp. 60～63 を熟読しノートにまとめる。									
		事後学習	およそ 40 週におよぶ胎児期の身体発達の過程について、また、出産までの母親の心理状態について学んだことをノートにまとめる。									

第 6 回	【グループ課題学習】 ・親になるとは～ディスカッション～	事前学習	親の役割について検索する。
		事後学習	ディスカッションシートを振り返る。
第 7 回	胎児期の発達（2） ・映像資料による胎児期の発達の理解 ・課題シート	事前学習	胎児の成長について検索する。
		事後学習	課題シートを作成する。
第 8 回	【グループ課題学習】 ・生命誕生の神秘を語り合う	事前学習	参考図書を用いて胎児期の発達についてまとめる。
		事後学習	課題シートを完成させる。
第 9 回	新生児期の発達～原始反射～	事前学習	教科書 pp. 64～77 を熟読しノートにまとめる。
		事後学習	原始反射の種類とその役割についてノートにまとめる。
第 10 回	【グループ課題学習】 ・映像資料による新生児の発達の理解	事前学習	新生児の成長について検索する。
		事後学習	ディスカッションシートを振り返る。
第 11 回	乳児期の発達～赤ちゃんの認知機能～	事前学習	教科書 pp. 78～91 を熟読しノートにまとめる。
		事後学習	新生児期および乳児期の心身の発達について学んだこと、とりわけ認知機能の発達についてノートにまとめる。
第 12 回	【グループ発表①】 テーマA：指さしはいつから始まり、どんな働きをもっているのか テーマB：ヒトの赤ちゃんと動物の赤ちゃんはどこが異なるのか	事前学習	発表するグループは発表の最終確認、打ち合わせをしておくこと。
		事後学習	テーマA、Bについてわかったことをノートにまとめる。
第 13 回	幼児期の発達（1）3歳までの発達～愛着理論～	事前学習	教科書 pp. 96～113 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	3歳までの発達過程、ボウルビイの愛着理論をノートにまとめる。
第 14 回	【グループ課題学習】 ・愛着行動はなぜ必要か～ディスカッション～	事前学習	愛着理論についてノートにまとめる。
		事後学習	ディスカッションシートを振り返る。
第 15 回	幼児期の発達（2）3歳以降の発達～あそび、描画、言語の発達～	事前学習	教科書 pp. 114～127 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	3歳から就学前までの幼児期の発達を学ぶ。遊びの発達、絵の発達、言語の発達を学ぶことで、子どもの成長を理解する。
第 16 回	【グループ発表②】 テーマA：読み書きは教えられずに身に付くものか テーマB：幼児は正確に自分を評価できるのか	事前学習	発表するグループは発表の最終確認、打ち合わせをしておくこと。
		事後学習	テーマA、Bについてわかったことをノートにまとめる。
第 17 回	児童期の発達（1）発達課題と心理的危機	事前学習	教科書 pp. 130～155 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	集団行動と適応行動、学習の過程、動機づけ、友人関係の発達知能の定義、道徳性の発達について要点をノートにまとめる。
第 18 回	児童期の発達（2）児童虐待	事前学習	自分が児童虐待防止にどのような点で取り組めるのかをノートにまとめておく。
		事後学習	ディスカッションで学んだことをノートにまとめる。
第 19 回	【グループ発表③】 テーマA：集団のなかで自己概念はどのように発達するのか テーマB：子どもの「耐性の低下」現象の背景にあるものは	事前学習	発表するグループは発表の最終確認、打ち合わせをしておくこと。
		事後学習	テーマA、Bについてわかったことをノートにまとめる。
第 20 回	【グループ発表④】 テーマA：不登校の現状と支援 テーマB：スクールカウンセラーの役割	事前学習	発表するグループは発表の最終確認、打ち合わせをしておくこと。
		事後学習	テーマA、Bについてわかったことをノートにまとめる。
第 21 回	児童期の発達（3）いじめ	事前学習	教科書 pp. 156～161 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	いじめと不登校の構造、解決の支援方法についてノートにまとめる。
第 22 回	【グループ課題学習】 いじめを防ぐには～ディスカッション～	事前学習	いじめに関する過去の報道記事を読んでおく。
		事後学習	課題シートを作成する。
第 23 回	発達障害の分類と理解（1）基礎編	事前学習	教科書（付録） pp. 13～26 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害、学習障害とその支援方法についてノートにまとめる。
第 24 回	【グループ課題学習】 ・映像資料による事例検討 ・ADHD、ASD、LDについて理解を深める	事前学習	配布資料を読んで要点をノートにまとめる。
		事後学習	配布資料に記載されている参考文献を1冊以上読んで要点をノートにまとめる。
第 25 回	発達障害の分類と理解（2）支援編	事前学習	支援方法について検索してノートにまとめる。
		事後学習	配布資料を読んで要点をノートにまとめる。
第 26 回	【グループ課題学習】 ・映像資料による事例検討～ディスカッション～	事前学習	教科書（付録） pp. 13～26 を熟読して、以前まとめた内容を再確認しておく。
		事後学習	ディスカッションシートを振り返る。
第 27 回	青年期の発達課題と心理的危機	事前学習	教科書 pp. 166～189 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	配布資料に記載されている参考文献を1冊以上読んで要点をノートにまとめる。

第 28 回	【グループ発表⑤】 テーマA：自分らしさとは何か、どのよ うに発達していくのか テーマB：摂食障害の理解と治療	事前学習	発表するグループは発表の最終確認、打ち合わせをしてお くこと。
		事後学習	テーマA、Bについてわかったことをノートにまとめる。
第 29 回	成人期・高齢期の発達	事前学習	教科書 pp. 192～225 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	成人期と高齢期の発達課題をまとめる。
第 30 回	授業のまとめと期末試験案内	事前学習	胎児期から高齢期までの発達課題と心理的・発達的問題を ノートにまとめる。
		事後学習	ノートを最初から読み直し、期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	発達心理学 (4 単位)		3. 科目番号	PSMP2122
2. 授業担当教員	沢 哲司			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>従来発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目されはじめている。また、老人だけでなく障害児(者)の発達も考えていく必要があり、発達心理学と福祉の関係を学習することの重要性が高まっている。</p> <p>そこで、本講義では、発達心理学の方法と考え方を学び、初期経験の重要性としての知能・性格・感情の基本を形成する乳幼児期の経験について理解する。また、生涯発達の観点から、幼児・児童等の心身の発達と学習の過程について理解するとともに、胎児期から成年・老年期までの発達期の特徴を概説する。さらにそれぞれの段階においての不適応行動についても学ぶ。</p>			
8. 学習目標	生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程を学ぶ。正常な発達と発達の障害を対比しながら理解する。その中で、どのような支援が可能であり、また、求められているかについても学び、説明できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	各発達段階の発達の特徴を理解しているか確認するため、授業中に伝えるキーワードを説明できるように事後学習として、ノートにまとめておくこと。また、課題シートは各回を予定。定期的に確認テストも実施する予定である。取り組む内容は以下の授業内容の箇所を参照のこと。詳しくは、第一回の授業時に説明する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 無藤隆・岡本祐子他『よくわかる発達心理学』 第2版ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣双書。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の参加度(授業態度を含む)、課題シート…40% ・発表…30% ・レポート課題、確認テスト…30% ・私語、携帯電話の操作、授業時間中の教室の出入り、その他周囲の学生に迷惑がかかる行為は「授業態度」として、減点の評価を行います。また、理由の申し出がない欠席、遅刻、早退も減点の対象です。なお、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 			
12. 受講生への メッセージ	<p>「心の発達」という視点が人間のさまざまな問題を捉える際に役立つということを伝えたいと思っています。疑問や意見に限らず、講義を受けていて少しでも気になったことを講義の中で学生が発表することや、課題シートに書くことを歓迎します。学生とできる限り交流しながら授業を進めていきたいと思っています。そのため、学生の理解度・達成度・要望によって講義の進捗や内容を一部調整する場合があります。</p> <p>その他、初回授業で受講ルールや成績評価の詳細を説明し、グループ発表の担当決めを行いますので、受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。</p>			
13. オフィスアワー	決まり次第授業で告知 メールアドレス: tesawa@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 発達心理学と発達心理学の研究法概要	事前学習	シラバスを熟読する	
		事後学習	発表グループと発表の打ち合わせをする。	
第 2 回	精神分析学から見た子どもの発達特徴	事前学習	精神分析学について他の講義で学習したことを振り返っておく。	
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。	
第 3 回	I 胎児期・新生児期(1) 胎内で聞こえる母親の声 胎児に害があるアルコール、タバコ 生まれたときの体重と育ち	事前学習	教科書 I-1, 2, 4 を読んで、ノートにまとめる。	
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。	
第 4 回	I 胎児期・新生児期(2) 赤ちゃんの性格の違い 赤ちゃんの最初の微笑み 生まれたときの視力	事前学習	教科書 I-5, 6, 7 を読んで、ノートにまとめる。	
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。	
第 5 回	I 胎児期・新生児期(3) 生まれたときにある力 赤ちゃんの認識する世界 親の顔を見分ける赤ちゃん	事前学習	教科書 I-8, 9, 10 を読んで、ノートにまとめる。	
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。	
第 6 回	II 乳児期(1) 微笑みと人見知り 大事に育てたい親子の愛情 喜怒哀楽を伝える	事前学習	教科書 II-1, 2, 3 を読んで、ノートにまとめる。	
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。	
第 7 回	II 乳児期(2) 言語の芽としての喃語 親と子のやりとり 増えていく言葉の数	事前学習	教科書 II-4, 5, 6 を読んで、ノートにまとめる。	
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。	
第 8 回	II 乳児期(3) 乳児の遊びの意味	事前学習	教科書 II-10 を読んで、ノートにまとめる。	
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。	
第 9 回	II 乳児期(4) 大事なスキンシップ 子どもは親から学ぶハイハイから二足歩行へ	事前学習	教科書 II-7, 8, 9 を読んで、ノートにまとめる。	
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。	
第 10 回	III 幼児期前期(1) 親の言葉を真似して覚える言葉 言葉を覚えはじめるとき ものを見立てる遊び	事前学習	教科書 III-1, 2, 3 を読んで、ノートにまとめる。	
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。	
第 11 回	III 幼児期前期(2)	事前学習	教科書 III-4, 5, 6, 7 を読んで、ノートにまとめる。	

	自分に目覚める 子ども同士で遊ぶ 困ったことをするようになる うそをつく	事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 1 2 回	Ⅲ幼児期前期(3) 毛布などを好きになる 母親とは異なる父親との接触 きょうだいげんか	事前学習	教科書Ⅲ-8, 9, 10 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 1 3 回	Ⅳ幼児期後期(1) 論理的に考える時期 数を数える 子どもの絵	事前学習	教科書Ⅳ-1, 2, 3 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 1 4 回	Ⅳ幼児期後期(2) 言葉の上達 絵本との出会い ごっこ遊び	事前学習	教科書Ⅳ-4, 5, 6 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 1 5 回	Ⅳ幼児期後期(3) 群れて遊ぶ 保育所、幼稚園で学ぶこと 自分の気持ちを抑えられる 自分の特徴を友達と比べて理解する	事前学習	教科書Ⅳ-7, 8, 9, 10 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 1 6 回	Ⅴ児童期(1) 入学前の計算力 読み書きの力 学校への適応	事前学習	教科書Ⅴ-1, 2, 3 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 1 7 回	Ⅴ児童期(2) グループで遊ぶ いじめ テレビの悪影響 劣等感が生まれる	事前学習	教科書Ⅴ-4, 5, 6, 7 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 1 8 回	Ⅴ児童期(3) 先生に恵まれる 学び方を自分で考える 科学的なものの考え方	事前学習	教科書Ⅴ-8, 9, 10 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 1 9 回	Ⅵ青年期(1) 友人ができる子、できない子 性へのめざめ 自分の身体の変化へのとまどい 自分の身体の変化を受け入れる	事前学習	教科書Ⅵ-1, 2, 3, 4 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 2 0 回	物語から児童期・青年期の特徴を考える。	事前学習	自分自身がした児童期・青年期の「冒険」を思い出しておく。
		事後学習	レポート課題に取り組む。
第 2 1 回	Ⅵ青年期(2) 男の子、女の子の違い 将来どうやって生きるか つらい受験勉強	事前学習	教科書Ⅵ-5, 6, 7 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 2 2 回	Ⅵ青年期(3) 中学校の部活動の意味 自分についての悩み 社会の立場について考えられる	事前学習	教科書Ⅵ-8, 9, 10 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 2 3 回	Ⅶ成人初期・中期(1) 初恋から始まる 結婚の喜び、順のくぶし 子育ての楽しさ、つらさ	事前学習	教科書Ⅶ-2, 3, 4 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 2 4 回	Ⅶ成人初期・中期(2) どう生きていくべきか	事前学習	教科書Ⅶ-1 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 2 5 回	Ⅶ成人初期・中期(3) 親の愛情 働く意味、仕事のやりがい 仕事と家庭を両立させた生き方	事前学習	教科書Ⅶ-5, 6, 7 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 2 6 回	Ⅶ成人初期・中期(4) 結婚生活が長続きしている夫婦 離婚の心理的影響	事前学習	教科書Ⅶ-8, 9 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 2 7 回	Ⅷ成人後期・老年期(1) 中年の危機 いつ起こる子離れ 退職後の人間関係の変化	事前学習	教科書Ⅷ-1, 2, 3 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 2 8 回	Ⅷ成人後期・老年期(2) 祖父母にとっての孫 老人とボケ 高齢期の健康	事前学習	教科書Ⅷ-4, 5, 6 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 2 9 回	Ⅷ成人後期・老年期(3) 老年の生きがい 人生を回顧する 介護の大変さとストレス 死をどう考えているか	事前学習	教科書Ⅷ-7, 8, 9, 10 を読んで、ノートにまとめる。
		事後学習	授業内容に関する課題シートに取り組む。
第 3 0 回	授業のまとめと期末試験案内	事前学習	胎児期から高齢期までの発達課題と心理的・発達の問題をノートにまとめる。
		事後学習	ノートを最初から読み直し、まとめる。

1. 科目名 (単位数)	発達相談 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3307
2. 授業担当教員	石 曉玲			
4. 授業形態	講義と演習、必要に応じてグループディスカッションを入れる		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「児童心理学」・「発達心理学」にプラス「臨床心理学」または「カウンセリング概論」などの心理臨床系の単位を修得した後に履修することが望ましい。			
7. 講義概要	乳児期児童期における定型発達を振り返りながら、発達期にみられる種々の問題や障害（発達障害や精神疾患）の問題について考察するとともに、育児に悩む親への相談技法についてカウンセリング技法をベースに具体的事例を通して学習する。援助職としての技術を習得することもできる。			
8. 学習目標	発達相談の授業が終了した時点で以下のことが達成されていることを目標とする。 1. 乳児期児童期にみられる種々の問題や障害についてその現状を把握する。 2. 乳児期児童期の子供が抱える困難さを相談者の視点、親の視点・教師の視点から理解し、支援の方法を仮説立て、検証する見通しを持つ。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	発達相談における問題解決に必要な考える力、実践力を高めるために、発達支援の研究課題を出す。授業後の復習、資料・ノートのまとめが必須。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】「発達臨床からみた心の教育相談」平山論・早坂方志著 ミネルヴァ書房 【参考書】 「怒りをコントロールできない子の理解と援助—教師と親のかかわり」大河原美以著 金子書房 「子どもの理解と支援のための発達アセスメント」本郷一夫編 有斐閣 「育ちあう発達相談—“子どもの発見”を手がかりに」小淵隆司著 かもがわ出版			
11. 成績評価の方法	平常点 (授業態度・授業への貢献度) 30% 研究課題 30% 小テストまたはレポート 40%			
12. 受講生へのメッセージ	困った子どもとその保護者を支援したいという気持ちを持って授業に臨んでください。 発達相談の授業で学んだことを日常生活・現場で生かすことができるよう、質疑応答・議論を積極的に行い、主体的に学ぼうとする姿勢で参加してください。 授業態度を重視します。授業ルールを必ず守ってください。 また初回授業で受講ルールや成績評価の詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。			
13. オフィスアワー	授業前後の時間やメールによる質疑応答を行います。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 発達相談とは何か?	事前学習	発達相談で扱う内容を調べる。	
		事後学習	発達相談のイメージを作る。	
第 2 回	発達相談の進め方	事前学習	発達相談の流れを調べる。	
		事後学習	発達相談の流れを知る。	
第 3 回	援助相談の基本的技法	事前学習	基本的技法を知る。	
		事後学習	練習し、基本的技法を身に着ける。	
第 4 回	乳幼児期の発達相談 (1) 食事問題	事前学習	子どもの食事問題を調べる。	
		事後学習	復習し、理解不足な点を確認する。	
第 5 回	乳幼児期の発達相談 (2) 言語問題	事前学習	子どもの言語問題について調べる。	
		事後学習	復習し、理解不足な点を確認する。	
第 6 回	乳幼児期の発達相談 (3) 落ち着きがない子ども	事前学習	子どもの落ち着きなさきについて調べる。	
		事後学習	復習し、理解不足な点を確認する。	
第 7 回	乳幼児の保護者への支援、ここまでのまとめ	事前学習	保護者への支援資源、方法を調べる。	
		事後学習	復習し、理解不足の点を確認する。	
第 8 回	児童期以降の発達相談 (1) 発達障害: 学校での支援	事前学習	学校でできる発達障害への支援を調べる。	
		事後学習	復習し、支援法を考察する。	
第 9 回	児童期以降の発達相談 (2) 発達障害: 家庭での支援	事前学習	家庭でできる発達障害への支援を調べる。	
		事後学習	復習し、支援法を考察する。	
第 10 回	児童期以降の発達相談 (3) 不登校	事前学習	不登校について調べる。	
		事後学習	復習し、不登校について考察する。	
第 11 回	児童期以降の発達相談 (4) 不安	事前学習	不安問題について調べる。	
		事後学習	復習し、不安への対処について考察する。	
第 12 回	虐待に関する相談、ここまでのまとめ	事前学習	虐待が疑われる子供の特徴と対処を調べる。	
		事後学習	復習し、虐待問題について考察する。	
第 13 回	研究課題発表 (1)	事前学習	課題発表の準備。	
		事後学習	発表内容を振り返る。	
第 14 回	研究課題発表 (2)	事前学習	発表内容の準備。	
		事後学習	発表内容を振り返る。	
第 15 回	全体のまとめ	事前学習	全体の振り返り、提出物の準備。	
		事後学習	今後の学びを展望し、発達相談援助の本質を考察する。	

1. 科目名 (単位数)	犯罪心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3359
2. 授業担当教員	高木 俊彦		
4. 授業形態	講義、集団討議、グループ研究・同結果のプレゼンテーション、学生との応答。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理学の立場に依拠しつつ、犯罪や非行の原因を生物学的要因、パーソナリティ要因、社会的要因などから探る。生物学的要因として主にロンブローゾの学説やホルモン・神経伝達物質、条件付けとの関連等について理解し、パーソナリティ要因としては行為障害や人格 (パーソナリティ) 障害、セルフコントロールとの関連等について理解する。社会的要因としてはアノミー論や分化的接触理論、社会的絆理論、ラベリング理論、競争の激化に伴う格差社会の進展やマスコミ報道が及ぼす影響等について考察する。また、具体的犯罪内容については、暴力犯罪、性犯罪、DV・ストーキング・虐待、窃盗・強盗・放火などの類型に分けて理解する。さらに、犯罪捜査や防犯、犯罪者や非行少年の矯正・保護といった処遇システムについても、心理学のみならず、社会学、司法、精神医学などの立場からの理解を深めながら、犯罪心理学という学問あるいは心理職がどのような役割を果たせるのか、その可能性について考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 犯罪や非行の原因を生物学的要因、パーソナリティ要因、社会的要因などから説明することができるようになる。 2 犯罪の動機・原因を犯罪の種類と関連させながら理解し、説明することができるようになる。 3 特に、最近の無差別殺人事件や通り魔殺人事件、あるいはストーカー殺人事件に象徴される現代型犯罪の原因・背景について、受講生自らの事例研究・発表を通じ、犯罪心理学の観点から理解し、説明することができるようになる。 4 犯罪・非行にかかる刑事司法機関、処遇機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。 5 犯罪の未然防止や犯罪者の更生・社会復帰の可能性について理解し、説明することができるようになる。 6 犯罪に関係する諸科学、諸理論について理解し、説明することができるようになる。 7 犯罪や非行に関係する職場に就職するための専門的知識を身に付けることができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各自又はグループごとに犯罪事例のレポートを作成し、授業中に発表する。 グループ研究と演習 (ケーススタディ等) を行う。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 越智啓太著『犯罪心理学』サイエンス社。 講師作成の資料</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業中の態度・授業 (グループ研究も含む) への参加度、研究課題への回答など (40%) レポート提出・小テスト (受講生が多い場合は授業期間終了後に期末試験を行う) (60%) 必要に応じ各自が作成した学習ノートを提出させ、評価する。 以上を総合して行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 常に新聞・テレビ・ネット・雑誌などマスメディアに関心を寄せ、社会事象である非行や犯罪問題について、その心理学的背景を考える習慣を身に付けるなど、積極的態度で受講されたい。 2 授業に集中すること。私語、携帯・スマホのON、ゲーム、飲食、中抜け、居眠りなど授業の支障となる行為をするものは受講を遠慮願いたい。 		
13. オフィスアワー	初回の授業開始時 (初回授業) に担当教員からお知らせする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーションー犯罪とは何か、犯罪と刑罰の歴史、凶悪犯罪は増えているか	事前学習	各受講生 1 例ずつ最近印象に残った犯罪について調べる。
		事後学習	個人又はグループで発表する犯罪事例について調査・研究・取りまとめの計画を立てる。
第 2 回	人はなぜ犯罪者になるのかー犯罪の生物学的原因論	事前学習	テキスト第 1 章 (pp. 1~22) を精読して講義に臨む。
		事後学習	犯罪の生物学的原因論について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 3 回	人はなぜ犯罪者になるのかー犯罪の心理学的原因論	事前学習	テキスト第 2 章 (pp. 23~44) を精読して講義に臨む。
		事後学習	犯罪の心理学的原因論について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 4 回	人はなぜ犯罪者になるのかー犯罪の社会学的原因論	事前学習	テキスト第 3 章 (pp. 45~62) を精読して講義に臨む。
		事後学習	犯罪の社会学的原因論について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 5 回	犯罪の種類と犯罪の心理 (1) 暴力犯罪	事前学習	テキスト第 4 章 (pp. 63~84) を精読して講義に臨む。
		事後学習	暴力犯罪について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 6 回	犯罪の種類と犯罪の心理 (2) 性犯罪	事前学習	テキスト第 5 章 (pp. 85~102) を精読して講義に臨む。
		事後学習	性犯罪について、学んだことを学習ノートにまとめる。

第 7 回	犯罪の種類と犯罪の心理 (3) DV、ストーキング、虐待	事前学習	テキスト第 6 章 (pp. 103~126) を精読して講義に臨む。
		事後学習	DV、ストーキング、虐待について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 8 回	犯罪の種類と犯罪の心理 (4) 窃盗、強盗、放火	事前学習	テキスト第 7 章 (pp. 127~148) を精読して講義に臨む。
		事後学習	窃盗、強盗、放火について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 9 回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表を担当する個人又はグループはその発表準備。その他のメンバーは発表事例に関係する情報の収集。
		事後学習	事例発表の内容とその後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 10 回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表を担当する個人又はグループはその発表準備。その他のメンバーは発表事例に関係する情報の収集。
		事後学習	事例発表の内容とその後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 11 回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表を担当する個人又はグループはその発表準備。その他のメンバーは発表事例に関係する情報の収集。
		事後学習	事例発表の内容とその後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 12 回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表を担当する個人又はグループはその発表準備。その他のメンバーは発表事例に関係する情報の収集。
		事後学習	事例発表の内容とその後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 13 回	犯罪捜査	事前学習	テキスト第 8 章 (pp. 149~170) を精読して講義に臨む。
		事後学習	犯罪捜査について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 14 回	防犯	事前学習	テキスト第 9 章 (pp. 173~192) を精読して講義に臨む。
		事後学習	防犯について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 15 回	犯罪者の処遇・社会復帰 (矯正・保護)	事前学習	テキスト第 10 章 (pp. 193~214) を精読して講義に臨む。
		事後学習	犯罪者の処遇・社会復帰 (矯正・保護) について、学んだことを学習ノートにまとめる。
期末試験 (受講生多数の場合等) に実施)			

1. 科目名 (単位数)	表現 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1326
2. 授業担当教員	持田 京子			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	日常生活において、人間は何らかの方法で他者に表現し、メッセージを発している。その表現は、視覚、聴覚、触覚、臭覚、味覚等の感覚器官を通じて受け取られ、再び表現として表出される。 本講義では、人間にとって表現とはどのような意味をもつのか、様々な表現方法に触れながら考察し、体験や演習を通して、人間の表現活動を総合的に理解していく。			
8. 学習目標	1. 自ら表現することにより、自己発見、自己認識をめざし、自己表現力を高める。 2. 他者の表現に対して共感し受容する能力、相手の表現に対し応答する能力を高める。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・ 日常に溢れている「表現」に対し、普段から興味を持ち、常に敏感でいること。 ・ 与えられた発表課題を行い、人前で発表できるように準備すること。 ・ 長期休み前に課題を提示する。十分な時間を使って、質の良いものに仕上げる。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 その都度、関連資料を配付する 【参考書】 清水満・小松和彦・松本健義『表現芸術の世界』萌文書林。 【教材】 授業内容により、適宜用意すること			
11. 成績評価の方法	評価については、以下の内容にて評価する。 授業への取り組み (出席状況、発言、ノート) 30% 実践発表 (劇発表・パネルシアター発表) 40% レポート 30%			
12. 受講生への メッセージ	多様なものが求められる現代社会において、表現に対する考え方は一層重要なものとなっています。表現の基本を学び、その基本を基に現場実践できるように、真剣に授業に取り組んでください。 授業を受けるときに以下のことを配慮し、学習されることを期待します。授業内容により教材を必要とする場合がありますが、忘れずに用意し持参して下さい。グループワークを主とするため、遅刻・欠席はメンバーに迷惑がかかります。良い作品が創れるよう協調性をもって活動に参加し、自ら楽しんで授業に臨むようにして下さい ・ 体調を整え、心身ともに集中して講義にのぞむこと (私語、居眠り、携帯電話の操作、飲食は禁止する) ・ 他の学生の意見や発言は真摯に受けとめること・他の学生と協力し合っディスカッション、演習にのぞむこと 担当者もこれらのことを、しっかり認識し皆さんの学習をサポートしていきます			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業ガイダンス、シラバス説明 「表現」について 自己紹介	事前学習	シラバスを読み、全体の学びの流れを把握する	
		事後学習	多様な「表現」について考察する	
第 2 回	我が国の表現について(音楽・美術・詩)	事前学習	我が国の表現について「教育」「文化」などから自分の視点を持ち、その特徴について調べ発表準備をする。	
		事後学習	我が国の「表現」についてまとめる	
第 3 回	表現のかたち① 影と光	事前学習	影と光について考える。	
		事後学習	授業内容を踏まえてグループ発表に生かす	
第 4 回	影絵づくり	事前学習	発表できる表現を考える。	
		事後学習	授業内容を踏まえて、激・影絵政策を準備する	
第 5 回	影絵づくり	事前学習	影絵劇について考える。	
		事後学習	影絵劇発表の準備をする。	
第 6 回	影絵発表	事前学習	影絵劇発表に備え、準備する。	
		事後学習	実践発表を省察して、自分の表現についてまとめる。	
第 7 回	表現のかたち② 色・形	事前学習	表現の色、形を考えてくる	
		事後学習	表現のかたちとして「色」「形」をまとめ、自分の表現について振り返る。	
第 8 回	絵本作り	事前学習	絵本について考えてくる	
		事後学習	絵本のかたちとして考えをまとめる。	
第 9 回	絵本づくり	事前学習	絵本の内容を考えて準備をして下絵を持つてくる	
		事後学習	絵本のストーリーをまとめる	
第 10 回	絵本づくり	事前学習	絵本の発表準備をする	
		事後学習	絵本の発表準備をする	
第 11 回	絵本の発表	事前学習	絵本の発表準備をする	
		事後学習	絵本の発表のまとめをする	

第 1 2 回	表現のかたち 音・音楽	事前学習	音楽表現について考える
		事後学習	音楽表現と考察
第 1 3 回	表現のかたち 音・音楽	事前学習	音楽をつくってみる。
		事後学習	音楽表現のかたちについて自分なりに考察する
第 1 4 回	「表現」と「芸術」について	事前学習	表現と芸術について考える
		事後学習	表現と芸術について考える
第 1 5 回	「表現」についてまとめ発表する	事前学習	本やネットなどで調べ、現代の表現について様々な角度から考察し、自分の考えをまとめて発表準備をする
		事後学習	「表現」についてまとめる
レポート課題 1つ選択して 2,400 字程度にまとめ、第 14 回～15 回の授業において提出 課題 1 我が国の「表現」についての考察 課題 2 「表現」と「芸術」について考察			

1. 科目名 (単位数)	福祉行財政と福祉計画 (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3103 SBMP3103 SSMP3103 PSMP3403
2. 授業担当教員	宮崎 栄二		
4. 授業形態	講義、グループ討議等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>市場の失敗が問われている現在、これからは福祉分野においても、行政の役割が市場機能より重要になると考えられる。こうした問題意識から本講義は福祉と関連し、パブリック（行政）が行っている事について以下の点を中心に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。 ・福祉行財政の実際について理解する。 ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉分野において市場の失敗と行政の機能の変化について理解し、説明することができる。 2. 福祉サービスの担い手として行政組織の役割について学習し、理解を深める。 3. 福祉予算と福祉サービスの関係について学び、説明できるようになる。 4. 福祉計画の理論と技法について、また、福祉計画がなぜ重要になってきたのかについて学び、説明できるようになる。 5. 福祉行政の過程すなわち、plan→do→see→feed back について学び、理解を深める。 6. 福祉計画の策定のとき、なぜ住民参加が重要なのかについて理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が住んでいる市町村へ外向き、それぞれの市町村の「総合振興計画」「地域福祉計画」「高齢者保険福祉・介護保険事業計画」「障害者計画」「エンゼルプラン」等を収集し、その基本理念等をまとめる。（中間レポート課題） ・その他の課題は、授業の際に提示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『福祉行財政と福祉計画』中央法規。</p> <p>【参考書】 坂田周一『社会福祉計画』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>平常点（授業への積極的参加度） 30%</p> <p>中間レポート 30%</p> <p>期末筆記試験 40%</p> <p>計 100%</p> <p>なお、本学規定により、単位取得のためには3/4 以上の出席を必要とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>社会保障・社会福祉の制度、法律、財政、現状や課題などについて、自主的に学ぶこと。また、日頃から主体的に資料やニュース、参考文献、各省庁インターネット情報などに目を通しておいください。（特に社会保障・社会福祉制度の法律・制度の矛盾・現状・動向について、日頃から関心を持って資料収集してください。）</p> <p>履修にあたっては次の事を最低限守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指定の教科書は授業の際、必ず持参すること。 ②別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。 ③授業中の私語や携帯電話の使用は禁止します。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション（講義の狙いと概要）、 教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 1 章第 1 節 福祉と制度について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 2～3 を読み、社会福祉の概要を調べ、確認する。
		事後学習	旧・社会福祉事業法と現・社会福祉法の差異をまとめる。（目的・基本理念・地域福祉関係）
第 2 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 1 章第 2・3 節 福祉法制度の歴史と福祉計画の概要について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 11～24 を読み、社会福祉六法を中心に社会福祉法制度の発展過程について調べる。
		事後学習	福祉計画と予算制度・財源配分についての概要をまとめる。
第 3 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 2 章第 1・2・3 節 福祉行政①（行政の骨格、国の役割、都道府県の役割、市町村の役割）について学ぶ	事前学習	教科書 p. 34 を読み、三権分立と政府の役割を調べる。
		事後学習	国と自治体との関係をまとめる。 法定受託事務・自治事務について福祉行政事務の変化をまとめる。
第 4 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 2 章第 4 節 福祉行政②（社会福祉基礎構造改革と福祉サービス利用方法）について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 53～54 を読み、社会福祉基礎構造（改革）を調べる。
		事後学習	措置から契約など、福祉サービス利用方法の変化をまとめる。
第 5 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 3 章第 1～5 節 福祉財政（福祉の財源）について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 64～67 を読み、財政・財源とはなにかを調べる。一般会計予算と特別会計予算の違いを調べる。
		事後学習	地方自治体の財政と民生費の動向をまとめる。 応益負担と応能負担の違いをまとめる。

第 6 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 4 章第 1～4 節 福祉行政の組織・団体と専門職の役割について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 88～89 を読み、社会福祉法により福祉事務所の設置規定等について調べる。
		事後学習	社会福祉専門機関の組織体制（児童相談所・身体障害者更生相談所・知的障害者更生相談所・婦人相談所）をまとめる。
第 7 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 4 章第 5・6 節 地域の相談システム（地域包括支援センター・子育て支援センター等）について学ぶ	事前学習	教科書 p. 94 を読み、地域包括支援センターについて、機能や役割を調べる。
		事後学習	社会福祉専門機関の専門職（社会福祉主事・児童福祉司・身体障害者福祉司・知的障害者福祉司）についてまとめる。
第 8 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 5 章第 1～3 節 福祉計画の目的と意義について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 104～106 を読み、福祉計画の目的・意義を調べる。
		事後学習	福祉行政における市町村主義及びケアプランの登場と計画の連続性についてまとめる。
第 9 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 6 章第 1～3 節 福祉計画の理論と技法について学ぶ	事前学習	教科書 p. 118 を読み、日常性と非日常性について調べる。
		事後学習	テクノクラート官僚とストリートレベル官僚についてまとめる。
第 10 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 6 章第 4・5 節 福祉計画の評価と住民参加について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 144～149 を読み、福祉計画事後評価のポイントについて調べる。
		事後学習	社会福祉サービスのプログラム評価についてまとめる。
第 11 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 7 章第 1・2 節 福祉計画の実際①（老人福祉計画・介護保険事業計画）について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 166～171 を読み、福祉計画の分析的枠組みとは何かについて調べる。地域特性・福祉特性について調べる。
		事後学習	ゴールドプラン、老人福祉計画、介護保険事業計画について概要をまとめる。
第 12 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 7 章第 3 節 福祉計画の実際②（障害者福祉計画）について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 188～204 を読み、新「障害者基本計画」及び「障害者総合支援法」について調べる。
		事後学習	「障害者プラン～ノーマライゼーション7か年戦略～」についてまとめる。（練習問題）
第 13 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 7 章第 4 節 福祉計画の実際③（次世代育成支援行動計画）について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 217～225 を読み、次世代育成支援対策推進法について調べる。
		事後学習	次世代育成支援行動計画の種類についてまとめる。（練習問題）
第 14 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 7 章第 5 節福祉計画の実際④（地域福祉計画）について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 234～238 を読み、社会福祉法第 4 条・107 条を中心に、地域福祉計画関係の条文を調べる。
		事後学習	地域福祉計画の基本的骨格をまとめる。学生の住む自治体の地域福祉計画を確認する。（練習問題）
第 15 回	最近の福祉行政の話題 全体のまとめ	事前学習	福祉行政実施体制・生活保護支給事務など実際の話に目を向け調べる。
		事後学習	福祉行財政と福祉計画の全体を振り返り、国家試験問題についても対応できるようにする。（練習問題）

期末試験

1. 科目名 (単位数)	福祉と教育 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1329
2. 授業担当教員	篠 大輔			
4. 授業形態	講義 (学習参考例)、演習 (ワークシート)、ディスカッション、レポート課題、発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	福祉や教育の現場では、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉や教育を必要とする各人のニーズに応えられるように解決していかなければならない。そのためには、これまで我が国で主流とされてきた一方的な知識注入型の授業法を改め、学生が主体となって学習に取り組めるような双方向対話型の授業法に切り替えていかなければならない。本授業では、主に「新聞記事」「視覚教材」「学習参考例」などをもとにして、日本の福祉と教育のあり方について考え、真に必要な能力は何かを分析しながら、現代社会で求められる福祉従事者や教育者のあり方について考察する。			
8. 学習目標	本講義では、①ディスカッションでは、他人の意見を受け入れつつ、柔軟な思考力や問題解決能力を養うこと、②発表では、聞き手に理解されやすい表現力を身に付けること、③レポート課題では、論理的でわかりやすく簡潔な文章が書けるような文章作成能力を身に付けること、を学習目標にしている。また、①～③に記した能力を兼ね備え、福祉や教育の現場で役立つ実践力を身に付けることを究極の目標としている。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. ワークシート (各回の講義内容に沿った課題を提示する。) 2. 期末レポート 「授業の内容を踏まえた上で、今後の福祉や教育の現場で行うべき対人援助のあり方について自らの考えを述べなさい。」			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。 【参考文献】 参考文献については、テーマごとに紹介する。			
11. 成績評価の方法	・平常点 (授業態度・発表・発言) 20% ・課題 (ワークシート) 40% ・期末レポート 40%			
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。 2. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。 3. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問してください。 4. レポートや課題の提出期限を守ってください。 5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。			
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (授業の進め方等を説明)	事前学習	福祉と教育に関して興味のあることを整理しておく。	
		事後学習	「福祉と教育」を学ぶ意義について自分なりの考えをまとめておく。	
第 2 回	いじめ問題① - 現代における「いじめ」の現状 -	事前学習	いじめの問題について知っていることを整理しておく。	
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、いじめ問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。	
第 3 回	いじめ問題② - 「いじめ」の解決にむけて -	事前学習	前回に取り上げたいじめの問題について復習しておく。	
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、いじめ問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。	
第 4 回	不登校	事前学習	不登校の問題について知っていることを整理しておく。	
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、不登校の問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。	
第 5 回	フリースクール	事前学習	フリースクールについて知っていることを整理しておく。	
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、フリースクールについて自分なりに考えをワークシートにまとめておく。	
第 6 回	子どもの発達障害	事前学習	発達障害について知っていることを整理しておく。	
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、発達障害について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。	
第 7 回	大人の発達障害	事前学習	前回に取り上げた発達障害について復習しておく。	

		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、発達障害について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第 8 回	子どもの虐待	事前学習	子どもの虐待の問題について知っていることを整理しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、子どもの虐待問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第 9 回	子どもの貧困① - 現状の課題 -	事前学習	子どもの貧困の問題について知っていることを整理しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、子どもの貧困問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第 10 回	子どもの貧困② - 課題の解決にむけて -	事前学習	前回、取り上げた子どもの貧困問題について復習しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、トラウマ治療について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第 11 回	ハンセン病問題について	事前学習	ハンセン病問題について知っていることを整理しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、ハンセン病の問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第 12 回	障害者差別解消法について	事前学習	障害者差別解消法について知っていることを整理しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、障害者差別解消法について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第 13 回	若年介護問題について	事前学習	若年介護問題について知っていることを整理しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、介護離職問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第 14 回	レポート作成 (今後の福祉や教育の現場で行うべき対人援助のあり方について考察する。)	事前学習	レポートの課題について自分の考えをまとめておく。
		事後学習	レポートでは書ききれなかったことについて整理しておく。
第 15 回	まとめ-「福祉と教育」の授業を振り返って	事前学習	これまでの授業で使用したワークシートを見直し、ふり返っておく。
		事後学習	返却されたレポートの見直しをして、今後の授業に活用する。

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1107								
2. 授業担当教員	上木 文夫	5. 開講学期	春期								
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表										
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>										
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題レポートについて</p> <p>【授業内課題レポート】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、随時、授業中にテーマを与え、短文レポートを作成・提出してもらう。全出席が原則であるため、事前に実施日を提示しないので注意すること。 <p>【通常レポート課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2、「自分で選んだ学術図書の要点をまとめ、当該テーマの抱える課題について自己の考察を論じなさい。」A4 レポートで3枚程度第12回目の授業時に提出 										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 使用しない。毎回、講師が資料やレジュメを用意する。</p> <p>【参考書】 川村匡由・川村岳人『改訂 福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方』中央法規出版、2005年。 河野哲也『第3版 レポート・論文の書き方入門』慶応義塾大学出版会、2002年。</p>										
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加・貢献度、各種レポート課題、期末試験等を総合して、合計 100%として評価する。</p> <table border="1"> <tr> <td>1 授業への積極的参加・貢献度</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>2 授業内課題レポート</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>3 通常レポート課題</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>4 期末試験</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加・貢献度	総合点の 40%	2 授業内課題レポート	総合点の 20%	3 通常レポート課題	総合点の 20%	4 期末試験	総合点の 20%
1 授業への積極的参加・貢献度	総合点の 40%										
2 授業内課題レポート	総合点の 20%										
3 通常レポート課題	総合点の 20%										
4 期末試験	総合点の 20%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>大学教育では、レポート作成は必ず直面する課題である。それぞれの科目において教員から提出を求められるレポート設題は、授業内容をまとめて要点を説明するものから、自分の考察をまとめて論じるもの、調査や研究の報告書など、実にさまざまである。それらの作成や提出にあたっては、科目担当教員の指示に従う必要がある。しかし、この講義を通じて、皆さんが大学レポートの基本をしっかりとし身につけておけば、各科目で提出を求められたレポート設題の作成に対して、柔軟に応用展開できるようになるだろう。</p> <p>レポートの書き方には、「禁則処理」をはじめ一般的な文章作法がある。まず、その基本から学習していこう。この授業では、発表やプレゼンテーションの力も涵養されるはずである。それは、社会に出てからの力ともなる。是非とも、主体的に取り組んでほしい。</p>										
13. オフィスアワー	<p>原則として授業の前後とするが、時間をとるような質問や相談の場合、双方で相談し、個別に日時と場所を設定する。</p>										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	授業ガイダンス 教員の自己紹介 学生の自己紹介文の作成	事前学習	シラバスから各種レポートテーマに目を通す								
		事後学習	本日の授業内容を授業用ノートに再整理する								
第2回	基本的文章作法と原稿用紙の使い方① 禁則処理を中心に学ぶ。	事前学習	興味のある学術図書を一冊借りる								
		事後学習	授業用ノートの再整理と学術図書の通読開始								
第3回	基本的文章作法と原稿用紙の使い方② 禁則処理の理解 タイトルと氏名の書き方	事前学習	学術図書の通読								
		事後学習	授業用ノートの再整理と学術図書の通読								
第4回	基本的文章作法と原稿用紙の使い方③ 文章構成と文章展開	事前学習	学術図書の通読								
		事後学習	授業用ノートの再整理と学術図書の通読								
第5回	基本的文章作法と原稿用紙の使い方④ 論旨の立て方	事前学習	学術図書の通読								
		事後学習	授業用ノートの再整理と学術図書の通読								
第6回	文章作成演習とピアレスポンス	事前学習	学術図書の通読								
		事後学習	授業用ノートの再整理と学術図書の通読								
第7回	視聴覚教材を用いた文章作成演習 インターネットを使った情報収集法	事前学習	インターネットに慣れておく								
		事後学習	インターネットで情報収集してみる								
第8回	通常レポート課題で選定した学術図書の経過報告 序論・本論・結論と文章の独自性	事前学習	学術図書の通読								
		事後学習	授業用ノートの再整理と学術図書の通読								
第9回	時間制限内での短文作成トレーニング①	事前学習	学術図書の通読								
		事後学習	授業用ノートの再整理と学術図書の通読								

第 10 回	時間制限内での短文作成トレーニング②	事前学習	学術図書の通読
		事後学習	授業用ノートの再整理と学術図書の通読
第 11 回	視聴覚教材を用いた文章作成演習	事前学習	学術図書の通読
		事後学習	授業用ノートの再整理と学術図書の通読
第 12 回	通常レポートの提出 通常レポートに対するピアレスポンス①	事前学習	学術図書の完読、提出するための最終チェック
		事後学習	ピアレスポンスからの学びを確認する
第 13 回	通常レポートに対するピアレスポンス②	事前学習	これまでの授業の内容整理
		事後学習	ピアレスポンスからの学びを確認する
第 14 回	通常レポートに対するピアレスポンス③	事前学習	これまでの授業の内容整理
		事後学習	ピアレスポンスからの学びを確認する
第 15 回	文章表現のまとめと要点再整理 授業評価	事前学習	これまでの授業内容の整理
		事後学習	文章表現のまとめと振り返り、自己の課題考察
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1107
2. 授業担当教員	木村 純		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>毎回の授業時間中に、課題レポートを作成する。授業時間中に終わらない場合は期日までに提出する。また、適宜、ワークシートで演習をする。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング (改訂版)』実教出版, 2015 年。</p> <p>【参考書】 阿部紘久 著『明快な文章』 ころしお出版, 2007 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>平常点 (授業態度、発表、発言) 40%、 課題レポートとワークシート 50% 期末レポート 10%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業に積極的に参加すること。 2 正当な理由なく、遅刻、欠席、早退をしないこと。 3 授業の妨害行為および他者への迷惑行為 (私語、居眠り、携帯の使用、実習やディスカッションへの不参加など) をしないこと。これらの不適切な行為がみられた場合は厳格に対処する。 4 疑問がある場合は積極的に質問するなどして解決すること。 		
13. オフィスアワー	<p>簡単な質問であれば授業前後の時間に受け付ける。オフィスアワーについては最初のガイダンスで周知する。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	はじめに： レポートとは何かを学ぶ①	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』Work1 を読む。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 2 回	レポートとは何かを学ぶ②	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』Work1 の復習。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 3 回	レポート作成のルールを学ぶ①	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』Work2, Work3, pp. 22-23 を読む。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 4 回	レポート作成のルールを学ぶ②	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』Work2, Work3, pp. 22-23 の復習。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 5 回	レポートのテーマとアイデアを構想する①	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』Work4, pp. 28-36, Work5 を読む。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 6 回	レポートのテーマとアイデアを構想する②	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』Work4, pp. 28-36, Work5 の復習。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 7 回	文章を読解し要約する①	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』Work6, Work7 を読む。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 8 回	文章を読解し要約する②	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』Work6, Work7 の復習。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 9 回	文章を読解し批判する①	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』Work8 を読む。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 10 回	文章を読解し批判する②	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』Work8 の復習。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 11 回	文章を論理的に構造化する①	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』Work9 を読む。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 12 回	文章を論理的に構造化する②	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』Work9 の復習。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。

第 1 3 回	形式的な表現を学ぶ①	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』 pp. 58-68 を読む。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 1 4 回	形式的な表現を学ぶ②	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』 pp. 58-68 の復習。
		事後学習	課題レポートを作成し、期日までに提出する。
第 1 5 回	授業の総括： 今までの内容の振り返りとまとめ 試験レポート作成	事前学習	『学生のレポート・論文作成トレーニング』の Work18, Work19, Work20 を読む。
		事後学習	試験レポートの作成

1. 科目名 (単位数)	法学 (憲法) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1117 GELA1138 GELA1317
2. 授業担当教員	本沢 一善	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義 (質疑応答を含む) を主とするが、事例問題ではグループ討議、発表、検討を行う。講義はレジュメに沿って行うが、理解を助ける上で教科書を使用したり、必要な最新情報等を提供したりする。各自が要点を把握し、配布されたレジュメに筆記することが必要である。毎回の授業時間の末尾においてその日の授業内容に関する内容を記入し、提出する。		
6. 履修条件・他科目との関係	今後学ぶことが考えられる法律に関係する科目の基礎となるものである。この科目は、民法、行政法、教育法規等を学習するときの基礎知識となるものである。		
7. 講義概要	本科目は、教育職員免許状を取得する際の基礎資格として必須科目である。また、公務員試験を受験する際の必要な科目ともなっている。 公務員や教員だけに限らず社会人にとって、法について基礎知識を学び、身に付けることは仕事を進める上で大切なことである。また、一般の公務員や教員及び企業人の実践力は法に裏付けられたものでなければ、その役割を全うすることは困難である。 そこで、本講義では法の作用や役割を学び、社会人として必要とされる法律の基礎知識を習得する。なお、習得の際には多くの具体的事例を通して学び、時にはグループディスカッションをしたりして理解を深めるとにする。		
8. 学習目標	1. 法学 (憲法) の基礎知識を理解する。 2. 法学を学ぶには、条文や判例などを読むことは欠かせないものであるとの学習態度を身に付ける。 3. 法律的なものの考え方を理解し、仕事に就いたときに活かせるようにする。 4. 教員採用試験や公務員試験に出題される法規一般の問題に対応しうる法律知識を身に付ける。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	数回、講義内容の中で重要なテーマにつき、1000字程度のレポートを課し、採点し返却する。 事前・事後学習の提出についても採点・返却する。 授業状況の中で90分以上をとり、授業内容から項目を選びグループ学習を行う。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ○本沢一善『法学要説』学文社、改訂版 2014。		
11. 成績評価の方法	授業態度 (積極的参加度、事前・事後学習の提出など) 30%、レポート 10%、期末試験 60%、計 100% で評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	おしゃべり、授業のぬけ出、教科書のわずれなどはチェックし評価する。		
13. オフィスアワー	授業前と授業後に行う。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	法とは何か、a 法の理念、b 制定法、c 法の適用	事前学習	「第 1 節 [1] 法の理念・目的、第 3 節 [1] 法の適用」を熟読し、原則 A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 [1] 法源、[2] a 制定法」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 2 回	憲法について、a 歴史—外国、日本、b 最高法規制、c 基本原理	事前学習	「第 2 章 第 1 節 [1] 近代的意義の憲法」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 1 節 [4] 最高法規性、[5] 日本国憲法の基本原理」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 3 回	国民主権、a 国民をどうとらえる、b 象徴天皇制、c 代表民主制	事前学習	「第 2 節 [1] 民主主義」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[2] 象徴天皇制、[3] 代表民主制」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 4 回	基本的人権 1、a 体系	事前学習	「第 3 節 [1] (1) 基本的人権の体系」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[1] (1) b 社会権、(3) 享有する主体」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 5 回	基本的人権 2、a 人権と公共の福祉、b 自由権	事前学習	「[1] (4) 人権と公共の福祉、[2] (1) b 信教の自由」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[2] (1) c 学問の自由 (2) 経済的自由」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 6 回	基本的人権 3、a 国務請求権など、b 社会権	事前学習	「[3] (1) 国務請求権、(2) 参政権」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[4] (2) 生存権、(3) 教育を受ける権利」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 7 回	国民の義務、平和主義	事前学習	「第 4 節 国民の義務」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 5 節 [2] 憲法第 9 条、[3] b 自衛隊」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 8 回	立法権—国会	事前学習	「第 7 節 [1] 国会の地位」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[4] 国会の活動、[5] 国会の活動」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 9 回	行政権—内閣	事前学習	「第 8 節 [2] (1) 内閣の組織」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[2] (2) 総理大臣の権限、[3] 内閣の権能」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。

第 10 回	司法権—裁判所	事前学習	「第 9 節[1] a 司法とは何か、[2] (1) 裁判所の組織」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「[1] (2) 司法権の限界、[2] (3) 最高裁判所」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 11 回	財政、a 国費と予算	事前学習	「第 10 節[2] 国費と予算、[3] (1) 政教分離の原則」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「[1] 財政の基本原則、[3] (2) 公私分離の原則」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 12 回	地方自治 1、a 基本原則、b 組織、c 権能	事前学習	「第 11 節[1] (1) 住民自治と団体自治、[3] (2) 条例制定権」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「[3] (1) 自治事務と法定受託事務」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 13 回	民法	事前学習	「第 3 章 民法」を一読し、三つの項目を選択したうえで、それぞれの内容をまとめて手書で提出する。
		事後学習	項目の中から選び展開する
第 14 回	行政法	事前学習	「第 4 章 行政法」を一読し、三つの項目を選択したうえで、それぞれの内容をまとめて手書で提出する。
		事後学習	項目の中から選び展開する
第 15 回	総合まとめ	事前学習	大事だと思う項目を三つ選び、内容を手書でまとめる。教科書の巻末の「設問と解答および解説」41 項目から質問を三つ選ぶ。
		事後学習	総まとめ
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	法学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1316 GELA1337 GELA1116
2. 授業担当教員	本沢 一善		
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	この科目は法律全般に及ぶので憲法も一通り触れるが、できれば「法学 (憲法)」の科目を学んだあとに履修が望ましい。		
7. 講義概要	<p>この講義は、憲法、民法、労働法等、各種の法に関する一般的な約束事や社会生活を送っていくために必要な基礎的な法の概略を学ぶ、いわゆる「法学入門」に相当するものである。</p> <p>この講義では、法学をはじめて学ぶ学生を主たる対象に、法と社会、法の種類、法解釈等について学習するとともに、社会生活に関連する法律として、家族、財産に関する民法等の民事法の概略、犯罪に関する刑法等の刑事法の概略、労働法などの社会法の一部について学習する。この学習を通じて、法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得する。</p> <p>この講義は、法学を専門とするわけではない法学初学者を対象としています。学習範囲がかなり広いので、深く突っ込んだ議論を行うことは困難であるとともに、かなりのスピードで法律について学んで頂くことになるので、事前、事後の学習をしっかりと行って頂く必要があります。また、比較的一方方向の講義になる可能性が高いことも留意して下さい。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得し、法学的に物事を考えることができるようになる。 2. 教科書のポイントを理解し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の法律科目に対応できるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>数回、講義内容の中で重要なテーマにつき、1000字程度のレポートを課し、採点し返却する。</p> <p>事前・事後学習の提出についても採点・返却する。</p> <p>授業進行のなかで、90分以上をとり項目を選び、グループ学習を行う。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】○本沢一善『法学要説』学文社、改訂版 2014. 10。</p> <p>【参考書】○教材-印刷物 (教科書の要約+労働法・商法)</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業態度 (積極的参加度、事前・事後学習の提出など) 30%、期末試験 60%、レポート 10%、計 100% で評価する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・事前と事後の学習をし、疑問を次回に質問し、次回の予定の項目につき、一覧しておく。 ・授業態度の悪い学生 (おしゃべり、授業をぬけ出る、教科書のわずれなど) はチェックし、評価にカウントする。 		
13. オフィスアワー	<p>授業前と授業後に行う。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	法律全般、a 法とは、b 種類	事前学習	「第 1 節 [2] (2) 裁判規範、第 2 節 [1] 法源」を熟読し、原則 A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 [2] (1) 制定法、[3] (4) 一般法と特別法」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 2 回	憲法 1、a 憲法の歴史—外国、日本、b 国民主権	事前学習	「第 1 章 第 1 節 [2] 硬性憲法と軟性憲法、[3] 最高法規制」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 [1] 国民主権、[2] 象徴天皇制」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 3 回	憲法 2、a 基本的人権—自由権、社会権	事前学習	「第 3 節 [1] (3) 享有する主体、(5) 新しい人権」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[4] (1) 社会権総論、(2) 生存権」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 4 回	憲法 3、a 立法権—国会、b 行政権—内閣	事前学習	「第 7 節 [1] (3) 唯一の立法機関、第 8 節 [2] (1) 内閣の組織」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 7 節 [2] (1) 二院制、第 8 節 [2] (2) 総理大臣の権限、[3] 内閣の機能」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 5 回	憲法 4、a 司法権—裁判所、b 財政、c 地方自治	事前学習	「第 9 節 [2] 裁判所、第 1 1 節 [2] 地方公共団体の組織」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 9 節 [1] (2) 司法権の限界、第 1 0 節 [3] 公金の支出、[3] 地方公共団体の機能」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 6 回	民法 1、a 行為能力、b 法律行為	事前学習	「第 2 章 [2] (1) 自然人の権利能力、[3] 成年後見制度、[5] 法律行為」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 2 章 [2] (2) 行為能力、[7] 代理、第 2 節 物権、第 3 節 債権」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 7 回	民法 2、a 親族、b 相続	事前学習	「第 4 節 [1] 親族、[2] 婚姻と離婚、[6] 相続」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 4 節 [4] 親子、[7] 遺言と遺留分」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。

第 8 回	行政法 1、a 行政の活動、b 組織、c 行政手続	事前学習	「第 3 章第 2 節 行政の組織、第 3 節[1]行政行為」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 3 節[2]行政指導など、[4]行政強制」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 9 回	行政法 2、a 行政救済、b 地方行政	事前学習	「第 4 節[1](3)審査請求など、第 5 節[2]地方自治体の組織」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 4 節[3]国家補償、第 6 節[2]個人情報保護法」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 10 回	刑法など 1、a 刑法	事前学習	「[刑法]第 2 節1法違反と犯罪防止、(7)社会的処遇など」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節[1](4)犯罪の成立要件」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 11 回	刑法など 2、a 少年法	事前学習	「第 2 節[2](1)目的[少年法]、(2)対象となる少年」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節[2](4)家庭裁判所」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 12 回	労働法 1	事前学習	「[労働法]1. 労働法とは、4. 労働契約」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「5. 賃金、9. 就業規則など」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 13 回	労働法 2	事前学習	「11. 労働組合、13. 労働協約」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「12. 団体交渉、14. 争議行為など」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 14 回	商法	事前学習	「[商法]1. 商法と商行為など、3. 営業譲渡」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「4. 支配人、代理商など、5. 商事契約」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 15 回	総合まとめ	事前学習	大事だと思う項目を 3 つ選び、内容を手書でまとめる。教科書の巻末の「設問と解答および解説」155 項目から質問を 3 つ選ぶ。
		事後学習	総合まとめ
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	法学Ⅱ (民法、行政法) (4 単位)	3. 科目番号	GELA2317
2. 授業担当教員	藤田 尚		
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会福祉や教育に携わる者は、社会保障や教育制度に関する諸法令についての基礎知識を理解し、その具体化を図るため、民法 (総則・財産法・家族法) 及び行政法 (行政手続法、行政事件訴訟法、行政不服審査法等) に関する基礎知識を学び、その実践に求められる能力、いわゆるリーガルマインドを習得する必要がある。</p> <p>また、法律科目の特性上、まず法律の条文を読んで理解し、適切に解釈できるようになるとともに、判例を学び、各々の法律条文がどのように解釈され、適用されているのかを理解できるようにならなければならない。そのため、この講義では、条文に当たり、判例を検討しながら学習を進めていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 条文や判例に基づいて法律を解釈できるようになる。 2. 民法、行政法の基礎的知識を習得し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の民法、行政法科目に対応できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【教科書】 教科書は使用せずに、レジュメを基に講義を行う。 但し、六法 (簡易な六法、あるいは電子辞書内の六法も可)、または、法令データ提供システム (http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi) からプリントアウトした条文を持参すること。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 19 権利擁護と成年後見制度 第4版』中央法規、2014。 野崎和義『医療・福祉のための法学入門—憲法・民法・行政法の基礎』ミネルヴァ書房、2013年。</p> <p>○民法編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野村豊弘『民事法入門 第6版』有斐閣、2014年。 ・内田貴『民法Ⅰ 総則・物権総論 第4版』東京大学出版会、2008年。 ・内田貴『民法Ⅱ 債権各論 第3版』東京大学出版会、2011年。 ・内田貴『民法Ⅲ 債権総論・担保物件 第3版』東京大学出版会、2005年。 ・内田貴『民法Ⅳ 親族・相続 補訂版』東京大学出版会、2004年。 <p>○行政法編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤田宙靖『行政法入門 第6版』有斐閣、2013年。 ・石川敏行=藤原静雄=大貫裕之=大久保規子=下井康史『はじめての行政法』有斐閣、2013年。 ・櫻井敬子=橋本博之『行政法 第4版』弘文堂、2013年。 		
10. 教科書・参考書・教材	授業中の態度・授業 (グループ討議も含む) への参加度など (20%)。小テスト (80%)。		
11. 成績評価の方法	民法及び行政法は、法律の条文や判例を読みながら、理解することが重要です。法律用語は難しいものが多いため、用語事典を活用したり、事例の場合には、図解しながら読み進めると理解しやすいと思います。まずは、自分に合った参考書を探し、内容理解に努めて下さい。		
12. 受講生へのメッセージ	授業前後の休憩時間		
13. オフィスアワー	<p>【教科書】 教科書は使用せずに、レジュメを基に講義を行う。 但し、六法 (簡易な六法、あるいは電子辞書内の六法も可)、または、法令データ提供システム (http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi) からプリントアウトした条文を持参すること。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 19 権利擁護と成年後見制度 第4版』中央法規、2014。 野崎和義『医療・福祉のための法学入門—憲法・民法・行政法の基礎』ミネルヴァ書房、2013年。</p> <p>○民法編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野村豊弘『民事法入門 第6版』有斐閣、2014年。 ・内田貴『民法Ⅰ 総則・物権総論 第4版』東京大学出版会、2008年。 ・内田貴『民法Ⅱ 債権各論 第3版』東京大学出版会、2011年。 ・内田貴『民法Ⅲ 債権総論・担保物件 第3版』東京大学出版会、2005年。 ・内田貴『民法Ⅳ 親族・相続 補訂版』東京大学出版会、2004年。 <p>○行政法編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤田宙靖『行政法入門 第6版』有斐閣、2013年。 ・石川敏行=藤原静雄=大貫裕之=大久保規子=下井康史『はじめての行政法』有斐閣、2013年。 ・櫻井敬子=橋本博之『行政法 第4版』弘文堂、2013年。 		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義の進め方、勉強の仕方等)	事前学習	シラバスを読み、六法における民法典の構造について目を通した上で、授業に臨む。
		事後学習	講義の進め方や勉強の仕方をレジュメで確認の上、自分に合った参考書に目を通す。
第2回	民法 民法とは	事前学習	民法の意義、構造、歴史、基本原理等について調べ、授業に臨む。
		事後学習	レジュメ等を基に、民法の概要について整理し、まとめる。
第3回	民法 権利と義務	事前学習	権利・義務の意義、物権と債権、権利の濫用について調べておく。

		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 4 回	民法 法律行為	事前学習	契約・法律行為、権利能力・意思能力・行為能力について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 5 回	民法 代理、時効	事前学習	代理制度及び時効制度の意義について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 6 回	民法 契約① (契約の成立と効果、契約の分類)	事前学習	契約の成立と効果及び契約の分類について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 7 回	民法 契約② (契約の履行と不履行)	事前学習	契約の履行 (債務の履行) 及び契約の不履行 (債務不履行) について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 8 回	民法 所有権	事前学習	物権の種類、所有権 (動産・不動産) について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 9 回	民法 不法行為	事前学習	不法行為の意義や機能、損害賠償について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 10 回	民法 債務の弁済	事前学習	債務の担保 (物的担保と人的担保)、債務の弁済 (債務の履行) について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 11 回	民法 成年後見制度① (法定後見)	事前学習	成年後見制度のうち、法定後見の内容について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 12 回	民法 成年後見制度② (任意後見)	事前学習	成年後見制度のうち、任意後見の内容について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 13 回	民法 親族① (家族)	事前学習	親族、夫婦 (婚姻と離婚) について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 14 回	民法 親族② (親子・扶養)	事前学習	親子関係、扶養、親権について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 15 回	民法 相続① (相続)	事前学習	相続の意義と根拠、法定相続と遺言相続について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 16 回	民法 相続② (遺言)	事前学習	遺言の意義及び種類、遺留分について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 17 回	グループディスカッション① (最高裁判例及び最近の法改正について 討論を行う)	事前学習	授業内で提示するテーマについて各自調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 18 回	グループディスカッション② (最高裁判例及び最近の法改正について 討論を行う)	事前学習	授業内で提示するテーマについて各自調べておく。 教員が作成した資料を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 19 回	民法 まとめ	事前学習	講義を振り返り、理解が不十分だった点について、質問事項をまとめる。小テストの準備に備える。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。小テストで誤った点を復習する。
第 20 回	行政法 行政法とは	事前学習	行政法の仕組みについて調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 21 回	行政法 行政にかかわる法	事前学習	議会立法及び行政立法について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 22 回	行政法 行政行為	事前学習	行政行為の意義及び内容について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 23 回	行政法 行政上の強制措置	事前学習	行政上の強制執行、即時強制と行政調査について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。

第 24 回	行政法 行政手続と情報公開	事前学習	行政手続法の意義及び情報公開制度について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 25 回	行政法 行政不服審査法	事前学習	行政不服審査法の意義及び不服申し立ての対象と種類について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 26 回	行政法 行政事件訴訟法①	事前学習	不服申し立てと行政事件訴訟の関係性、行政事件訴訟の種類について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 27 回	行政法 行政事件訴訟法②	事前学習	出訴期間、司法審査の範囲、取消訴訟の判決の種類について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 28 回	行政法 国家賠償法	事前学習	国家賠償法の概要について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 29 回	行政法 まとめ	事前学習	講義を振り返り、理解が不十分だった点について、質問事項をまとめる。小テストの準備に備える。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。小テストで誤った点を復習する。
第 30 回	法学Ⅱ全般のまとめ	事前学習	民法及び行政法を復習し、理解が不十分な点を書き出し、質問事項をまとめる。
		事後学習	法学Ⅱ全般について復習する。

1. 科目名 (単位数)	保健医療 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1102 PSMP1402
2. 授業担当教員	小金澤 嘉		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助活動において必要となる医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む。)や保健医療サービスについて理解する。 ・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。 ・医療ソーシャルワーカーの多くが所属する組織である「病院」についての理解を深めると同時に、組織とソーシャルワークの関連を理解する。 ・医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスの各専門職の役割および連携についての、基礎的な知識を踏襲する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向を理解し、説明することができるようになる。 2. 診療報酬の概要を理解し、説明することができるようになる。 3. 保健医療サービスにおける各専門職の役割と連携について理解し、説明することができるようになる。 4. 医療を取り巻く現状について理解し、説明することができるようになる。 5. 病院のしくみについて理解し、説明することができるようになる。 6. 組織とソーシャルワークの関連について理解し、説明することができるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1 「患者の権利への支援について2000字以上で記述しなさい」 ポイント：インフォームドコンセント、専門職の倫理が患者の権利支援にどのように結びつくのか理解し、説明する。</p> <p>課題2 「医療ソーシャルワーカーの業務のうち一つを選び、どのような支援なのか事例を用いて2000字以上で説明しなさい。」 ポイント：医療ソーシャルワーカーの支援の実際と留意事項を、事例を用いて理解し説明する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第17巻 保健医療サービス』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート 50% 試験 50% 遅刻・早退は 30 分以内とし、それ以外は欠席とする。出席が 3 / 4 に満たない場合は単位認定しない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>健康に留意の上、主体的に参加されたい。 【出欠席について】 ・やむを得ず、遅刻早退欠席する場合は、その理由を申し出る。 ・遅刻者は、授業の妨げにならないよう、静かに着席し授業に参加する。 ・原則として、出席不足を補うことはできない。</p>		
13. オフィスアワー	授業間の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 保健医療サービスの歴史と現状	事前学習	医療についての自己の体験をまとめる
		事後学習	医療法改正の経緯を社会的背景と関連付けながらまとめる
第2回	医療法の改正についての振り返り 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 保健医療サービスとその構成要素、戦後の保健医療サービスの整備・拡充	事前学習	保健医療サービスの意味について調べる
		事後学習	ステークホルダーを中心にして保健医療の概要をまとめる
第3回	保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割 医療法改正に見る保険医療サービスの今日的課題、医療連携 チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士	事前学習	医療法の改正から医療と福祉の関連を調べる
		事後学習	保健医療サービスにおいて社会福祉士に求められる役割をまとめる
第4回	保健医療サービスを提供する施設とシステム 医療法による医療施設の機能・類型、医療政策による医療施設の機能・類型 診療報酬による医療施設の基準・類型、介護施設の基準・類型、在宅支援のシステム	事前学習	医療システムについて調べる
		事後学習	機関・施設の役割・機能をまとめる
第5回	保健医療サービスの概要についてのまとめと考察 保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカーの役割 医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み	事前学習	保健医療サービスの概要と社会福祉士の役割をまとめ、説明できるようにしておく
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの背景についてまとめる
第6回	保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカーの役割 ミクロのソーシャルワーク、ミクロからメゾのソーシャルワーク、メゾからマクロのソーシャルワーク	事前学習	医療ソーシャルワーカーの業務指針について理解しておく
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの業務についてまとめる
第7回	保健医療サービスの専門職の役割、保健医療サービス専門職の概観、基本的姿勢 保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際	事前学習	保健医療サービスに関わる専門職の役割について調べる
		事後学習	保健医療サービスに関わる専門職の役割

			についてまとめる
第 8 回	保健医療サービスの専門職の役割、保健医療サービス専門職の概観、基本的姿勢 インフォームドコンセントの意義と実際・倫理 医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	事前学習	インフォームドコンセントの現状について調べる
		事後学習	インフォームドコンセントの重要性についてまとめる
第 9 回	保健医療サービスに関わる専門職についてまとめと考察 保健医療サービスの提供と経済的保障 医療費に関する政策的動向、医療保険制度と診療報酬制度の概要、	事前学習	保健医療サービスに関わる専門職についてまとめ、説明出来るようにしておく
		事後学習	政策動向についてまとめる
第 10 回	保健医療サービスの提供と経済的保障 医療費に関する政策的動向、医療保険制度と診療報酬制度の概要、介護保険制度と介護報酬制度の概要、高額療養費制度の概要、ターミナルケア支援の診療報酬制度 自立支援医療、公費負担医療制度の概要	事前学習	医療保険・診療報酬制度について調べる
		事後学習	診療報酬制度の動向についてまとめる
第 11 回	保健医療サービスに関わる専門職・保健医療サービスの提供と経済的保障についてまとめと考察 保健医療サービスの連携の理論と実践（専門職との連携） 保健医療の専門職との連携方法と基礎知識	事前学習	保健医療サービスの関わる社会保障制度についてまとめ、説明できるようにする
		事後学習	連携の意味についてまとめる
第 12 回	保健医療サービスの連携の理論と実践（専門職との連携） 保健医療の専門職との連携方法と基礎知識、チームケア実現のための制度や連携機関・団体	事前学習	保健医療におけるチームワークの理論について調べる
		事後学習	チームワークの理論とコンピテンシーについてまとめる
第 13 回	保健医療サービスの連携の理論と実践（専門職との連携） 地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法	事前学習	地域ネットワークの事例を調べる
		事後学習	保健医療における地域ネットワークの構築方法についてまとめる
第 14 回	保健医療サービスの連携の理論と実践(地域の社会資源との連携) 地域 NST の概念 地域ケア、ネットワークの実際	事前学習	地域ネットワークの事例を調べる
		事後学習	授業内で考察した地域ネットワークをまとめる
第 15 回	保健医療サービスにおける連携についてのまとめ ディスカッションおよび保健医療サービスの課題と展望	事前学習	保健医療サービスの課題を調べる
		事後学習	保健医療サービスの課題についてまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ボランティア論 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1350 GELA1330
2. 授業担当教員	上木 文夫			
4. 授業形態	講義 (ディスカッションを含む)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	今日、わが国においてボランティア活動は大きな注目を集めている。阪神・淡路大震災においてボランティアの貢献度が新たに目覚められ、以後、学問的なボランティア論としての研究も活発になされるようになった。ボランティア活動は今日、様々な内容に拡大化、多様化しているが、同時にいくつかの課題も浮き彫りにされてきている。本講義において、福祉ボランティアを中心に、活動の現状と課題を探り、今後ボランティアコーディネーターとしての活躍も期待されている福祉系の学生が、必要な知識を会得するよう、講義、視聴覚教材、受講生による発表とディスカッションを通して学習する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになる。 2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになる。 3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深める。 4. ボランティアコーディネーターに求められているボランティア指導の方法を理解することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	休校期間中等に各学生の興味・関心に応じて、1 回以上のボランティア活動 (施設の一日行事ボランティア等) を行い、その内容と成果について授業内で発表するとともに、レポート (報告書) を提出する。 ※レポートは、A4 で 3 枚程度とする。 ※提出は、冬季休校期間明けの最初の授業時とする。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 指定しない (プリント資料を毎回配布する)。 【参考書】 三本松政之・朝倉美江編『福祉ボランティア論』有斐閣アルマ、2007 年 巡静一・早瀬昇編著 大阪ボランティア協会監修『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規、1997 年			
11. 成績評価の方法	レポートの評価 25% 授業への積極的参加・貢献度 50% 期末試験 25% ※上記の 3 項目の合計 100% を 100 点として評価する。			
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 2. 授業中は携帯電話や PHS 等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 3. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループ・ディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、主体的に取り組むこと。 4. 授業中に指示された課題の提出期限は守ること。 5. 学期内にボランティア活動を計画的かつ積極的に行うこと。施設ボランティアだけがボランティアではない。エコキャップや使用済み切手の収集と提供などもボランティアである。 			
13. オフィスアワー	原則としては授業の前後。但し、時間を要する場合は双方で相談し、日時や場所を決めましょう。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業ガイダンス (教員の自己紹介、受講生の自己紹介—ボランティア体験や関心のあるボランティアについて、授業の進め方の説明など)	事前学習	ボランティアについて自分が持っているイメージをまとめる。	
		事後学習	これからやりたいボランティア活動について考え、まとめる。	
第 2 回	ボランティア活動とは何か	事前学習	自分なりに、ボランティア活動とは何かを考え、まとめる。	
		事後学習	学習した内容を整理し、ボランティア活動について学んだ点をまとめる。	
第 3 回	ボランティア活動の歴史と発展	事前学習	ボランティアの起源や歴史、発展について、調べておく。	
		事後学習	ボランティア活動の歴史の変遷について、授業で学んだ要点をまとめる。	
第 4 回	ボランティア活動を始めるにあたって	事前学習	ボランティア活動を始めるにあたって留意すべき点について、自分で考え、まとめる。	
		事後学習	ボランティア活動を始めるにあたって留意すべき点についてまとめる。	
第 5 回	現場の職員としてボランティアを受け入れる意義	事前学習	ボランティアを受け入れる立場に立って、ボランティア活動を考える。	
		事後学習	ボランティアを受け入れる際の実践現場のメリットやデメリットについてまとめる。	
第 6 回	災害とボランティア (「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」における災害ボランティア活動) の実践から学ぶ	事前学習	阪神・淡路大震災、東日本大震災について調べておく。	
		事後学習	災害ボランティアについて、学んだ点についてまとめる。	
第 7 回	地域福祉とボランティア	事前学習	自分の生活している地域において、自分ができるボランティア活動について考える。	
		事後学習	地域福祉を推進していく上で、ボランティアが果たす役割や意義についてまとめる。	

第 8 回	高齢者福祉とボランティア	事前学習	現在の日本の高齢者の状況について調べておく。
		事後学習	高齢者に関わるボランティア活動について学んだ点をまとめる。
第 9 回	障がい者福祉とボランティア	事前学習	ノーマライゼーションについて調べてまとめる。
		事後学習	障がい者に関わるボランティア活動について学んだ点をまとめる。
第 10 回	子ども家庭福祉とボランティア	事前学習	わが国の子どもと家庭を取り巻く課題について挙げる。
		事後学習	子どもに関わるボランティア活動について学んだ点をまとめる。
第 11 回	国際問題、及び環境問題とボランティア	事前学習	日本や世界を見渡して、どのような国際問題や環境問題があるか挙げておく。
		事後学習	環境に関わるボランティア活動について学んだ点についてまとめる。
第 12 回	ボランティア活動についての成果発表 1	事前学習	成果発表の準備をする。
		事後学習	成果発表の振り返りと、他者のボランティア活動から学んだ点をまとめる。
第 13 回	ボランティア活動についての成果発表 2	事前学習	成果発表の準備をする。
		事後学習	成果発表の振り返りと、他者のボランティア活動から学んだ点をまとめる。
第 14 回	ボランティア活動についての成果発表 3	事前学習	成果発表の準備をする。
		事後学習	成果発表の振り返りと、他者のボランティア活動から学んだ点をまとめる。
第 15 回	ボランティアコーディネーターの機能と役割	事前学習	ボランティアコーディネートについて自分なりに調べておく。
		事後学習	期末試験の準義
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	薬理学概説 (薬物乱用防止を含む) (2 単位)		3. 科目番号	PSMP2305
2. 授業担当教員	栗原 久		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>近年、医学の発展に伴って、多くの新しい医薬品が開発されてきた。それらの薬の効果や副作用は、人によって異なることも明らかになってきた。この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●薬の有効性と毒性の発現の関係、薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機構等について理解する。 ●薬物乱用問題は社会秩序の根幹に関わる重大な問題である。アルコール、ニコチン、カフェインを含む依存性薬物(覚せい剤・コカイン・麻薬性鎮痛薬、有機溶剤、鎮静催眠薬、大麻、幻覚薬、危険ドラッグなど)の特徴、および薬物乱用に起因する医学的・社会的弊害について学ぶ。 ●薬物の誤用、悪用の問題、サプリメントの有効性の真偽について学ぶ。 			
8. 学習目標	<p>以下について学び、理解を深め、説明できるようになることを学習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬の有効性と毒性(副作用)の発現の関係を学ぶ。 2. 薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機序について学ぶ。 3. 薬の管理、関連法規について学ぶ。 4. 代表的な疾病と治療薬について学ぶ。 5. 薬物乱用、悪用、誤用の防止について考え、理解を深める。 6. サプリメントの使用の是非について考え、理解を深める。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物関連の最新情報(効果、副作用、新薬情報など)を集め、レポートを提出、提出時期は授業のなかで発表。 2. 授業ごとにまとめたレポートを提出する(用紙は授業の開始前に配布) 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】大鹿英世・吉岡充弘(著)『疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学』医学書院。</p> <p>【参考書】栗原久(著)『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』東京法令出版。 栗原久(監修)『Stop Drug! ー薬物乱用を防止するためにー』東京法令出版。 東京福祉大学(編)『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>			
11. 成績評価の方法	授業ごとのレポート 50%、課題レポート 10%、発表とディスカッション 10%、期末試験 20%、授業中の積極的発言 10%			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください(研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。 			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション 薬の効果発現(用量-効果相関、吸収・分布・代謝・排泄、効果器と受容体)	事前学習	「薬理学概説」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。pp.1-24 を読んでおく。	
		事後学習	薬物の使用目的、効果発現の基本原則をまとめる。	
第2回	感染症と化学療法薬(抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬)	事前学習	pp.67-93 を読み、病原体の種類を理解する。	
		事後学習	抗生物質、合成抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の作用機序・範囲と副作用についてまとめる。	
第3回	消毒薬	事前学習	pp.286-291 を読み、消毒薬の種類を把握しておく。	
		事後学習	各種病原体に有効な消毒薬についてまとめる。	
第4回	呼吸器系と薬(気管支拡張薬、鎮咳薬、呼吸促進薬)	事前学習	pp.224-228 を読み、喘息の原因と症状を理解する。	
		事後学習	呼吸器系疾患、特に気管支喘息に有効な薬剤と、その副作用についてまとめる。	
第5回	鎮痛薬(解熱鎮痛薬、麻薬性鎮痛薬)	事前学習	pp.156-185 を読み、痛みの発現機序について理解する。	
		事後学習	痛みの緩和に有効な薬剤の作用機序をまとめる。	
第6回	炎症とアレルギー治療薬(ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬)	事前学習	pp.118-133 を読み、アレルギー反応の発現機序を理解する。	
		事後学習	アレルギー反応の予防・緩和薬の作用機序、副作用をまとめる。	
第7回	保健室にある薬(薬理作用と使用上の注意点)	事前学習	第1回～第6回の授業内容を復習する。	
		事後学習	保健室にある代表的な薬剤と、その使用目的について、またディスカッションした内容についてまとめる。まとめをレポート提出する。	
第8回	薬物依存・乱用(興奮系薬物・抑制系薬物・幻覚系薬物、危険ドラッグ:ビデオ学習あり)	事前学習	薬物依存・乱用に関する事前配布資料を読み、その概念を理解しておく。	
		事後学習	薬物乱用の人体・社会に及ぼす悪影響について、自分の考えを含めてまとめたレポートを提出する。	
第9回	アルコール・飲酒 (アルコールパッチテストの実習あり)	事前学習	事前配布資料を読み、お酒の中のアルコール量を把握しておく。	

	り)	事後学習	脳機能に及ぼすアルコールの影響から、未成年者の飲酒の問題、成人に対する功罪をまとめる。
第 10 回	ニコチン・喫煙	事前学習	事前配布資料を読み、タバコ中やタバコ煙中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫煙の急性・慢性の影響についてまとめる。
第 11 回	薬物乱用防止教育の実践	事前学習	薬物乱用防止教材の使用法をマスターする。
		事後学習	小学生・中学生を対象とした、薬物乱用防止教育の実践企画を作成する。
第 12 回	喫茶・カフェイン	事前学習	配布資料を読んで、茶・コーヒー中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫煙の功罪、特に幼児や妊婦における影響についてまとめる。
第 13 回	薬物中毒と解毒処置	事前学習	pp.266-276 を読んで、中毒とはどういうことか理解する。
		事後学習	中毒に対する緊急処置（治療薬を含む）についてまとめる。
第 14 回	漢方薬・サプリメント	事前学習	pp.278-283 を読んで、病態（証）と漢方薬の処方を理解する。
		事後学習	漢方薬を含めて、サプリメントの有効性の真偽を考察する。
第 15 回	まとめと総合討論	事前学習	事前提示された課題について考察し、まとめる。
		事後学習	課題について発表し、ディスカッションした内容についてまとめ、レポート提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3134
2. 授業担当教員	田上 不二夫		
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「カウンセリングの基礎」「心理療法」と関連が深い授業です。		
7. 講義概要	臨床心理学として、不適応や障害、病、苦悩の発生原因や発生過程、回復の過程を探る科学的側面と、問題を抱える人々に寄り添いながら、適応の調整や人格的成長を促進することで問題の解消や軽減を目指す実践的側面との両面を学ぶ。そのために、心理的援助を必要とする人々の心理を理解するだけでなく、問題を理解するアセスメントの視点から各発達段階に生じやすい心理的問題や障害を理解する。また、問題の解決に向かう代表的な援助の理論や技法について理解を深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患や発達障害を含めて、心理的問題を抱える人々の心理を理解し、説明できる。 2. 各発達段階における心理的課題や障害を理解し、説明できる。 3. 不登校・いじめ・虐待・自死・非行問題といった代表的な心理臨床の問題を理解し、説明できる。 4. 心理アセスメントの考え方と方法について理解し、説明できる。 5. 主要な心理的援助の理論と技法を理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の中で研究課題・レポート課題について提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 「史上最強カラー図解 臨床心理学のすべてがわかる本」松原達哉 (編著) ナツメ社 【参考書】 「現代の認知行動療法 - CBT モデルの臨床実践」ホフマン, S.G. (伊藤・堀越訳) 診断と治療社		
11. 成績評価の方法	研究とプレゼンテーション 30%, レポート 30%, 授業への参加態度 40%		
12. 受講生へのメッセージ	授業はみんなで創り出すもの。授業中に積極的に発言してください。自分で考えたことを尊重する授業にしたいと考えていますし、自発的に発言することをおおいに評価します。		
13. オフィスアワー	金曜日 (時間については授業中に伝える)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ①授業の全体像 ②臨床心理学とは	事前学習	教科書の目次と内容を概観し、臨床心理学の全体像を把握する
		事後学習	臨床心理学とは何か。考えをまとめてシートに書く
第 2 回	I 影響を与えた人と出来事 1 臨床心理学の歴史	事前学習	教科書の 18-29 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	臨床心理学の歴史について調べてシートに記入する
第 3 回	2 心の闇の発見(1)フロイトの人間観	事前学習	教科書 30-35 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	フロイトの人間観について調べてシートに記入する
第 4 回	心の闇の発見(2)力動心理学の発展	事前学習	教科書 44-49 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	力動心理学について調べてシートに記入する
第 5 回	3 意味を生きる(1)ロジャーズの人間観	事前学習	教科書 134-135 ページを読んで
		事後学習	ロジャーズの人間観について調べてシートに記入する
第 6 回	意味を生きる(2)パーソンセンタード・セラピーの発展	事前学習	教科書 142-145 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	フォーカシングについて調べてシートに記入する
第 7 回	4 証拠に基づいたセラピー(1)行動療法の人間観	事前学習	教科書 134-135 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	行動療法について調べてシートに記入する
第 8 回	証拠に基づいたセラピー(2)認知・行動療法の発展	事前学習	教科書 148-153 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	認知行動療法について調べてシートに記入する
第 9 回	5 心に効く薬(1)ころろを変える薬	事前学習	教科書 196-197 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	モノアミン仮説について調べてシートに記入する
第 10 回	心に効く薬(2)統合失調症と社会的支援	事前学習	教科書 62-63 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	社会的支援について調べてシートに記入する
第 11 回	II 発達段階と心理的課題 1 虐待を防ぐには	事前学習	教科書 200-211, 228-229 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	虐待について調べてシートに記入する
第 12 回	研究発表と討議①	事前学習	研究発表事前準備。
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 13 回	2 発達障害と現代社会の課題	事前学習	教科書 80-87 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	発達障害について調べシートに記入する
第 14 回	研究発表と討議②	事前学習	研究発表事前準備。
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 15 回	3 不登校を減らすには	事前学習	教科書 216-219 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	不登校について調べシートに記入する
第 16 回	研究発表と討議③	事前学習	研究発表事前準備。
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 17 回	4 いじめの解決策は	事前学習	教科書 78-79, 188-189 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	いじめについて調べシートに記入する
第 18 回	研究発表と討議④	事前学習	研究発表事前準備
		事後学習	研究発表の内容をまとめる

第 19 回	5 非行に走る	事前学習	教科書 16-17, 234-237 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	非行について調べシートに記入する
第 20 回	研究発表と討議⑤	事前学習	研究発表事前準備
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 21 回	6 社交不安を解消するには	事前学習	教科書 88-89 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	社交不安について調べシートに記入する
第 22 回	研究発表と討議⑥	事前学習	研究発表事前準備
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 23 回	7 パニックに耐えられるか	事前学習	教科書 58-59 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	パニック発作について調べシートに記入する
第 24 回	研究発表と討議⑦	事前学習	研究発表事前準備
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 25 回	8 強迫症とアクセプタンス	事前学習	教科書 56-57 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	強迫症について調べシートに記入する
第 26 回	研究発表と討議⑧	事前学習	研究発表事前準備
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 27 回	9 うつ病とマインドフルネス	事前学習	教科書 70-71 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	うつ病について調べシートに記入する
第 28 回	研究発表と討議⑨	事前学習	研究発表事前準備
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 29 回	Ⅲ臨床心理学と社会 臨床心理学と現代社会(1)授業の振り返り	事前学習	教科書 8-17 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	現代社会の課題について調べシートに記入する
第 30 回	臨床心理学と現代社会(2)まとめ	事前学習	教科書 216-237 ページを読んで考えをまとめる
		事後学習	現代社会の課題について調べシートに記入する

1. 科目名 (単位数)	倫理学 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1320
2. 授業担当教員	板井 広明		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	われわれ人間は、事実的な文脈(「～である」)と価値的な文脈(「～すべき/よい/悪い」)とが交差しながら織り成す毎日の中で生きている。大雑把に言えば、「科学」を志向するさまざまな学問分野は、前者(事実)を明らかにすることを目指しており、他方、後者(価値)をその研究対象に据えているのが、哲学や本コースで学ぶ倫理学である。 価値(判断)という捉えどころのないものに対して、人類社会は、少なくとも 2,000 年以上にわたって思索を積み重ね、叡智を積み上げてきた。本コースでは、そのような倫理学の主要な理論や学説を、日常生活につながりをもつような問いと重ね合わせながら学んでいく。		
8. 学習目標	1 現代社会における様々な倫理的問題に関心をもち、それに対する自分の意見を発表することができる。 2 さまざまな倫理学説を学ぶことによって、日常生活の中にいろいろなかたちで姿を表す「正義」「幸福」「公正」「自由」「義務」といった概念に対して、自分なりに根拠をもって説明できるようになる。 3 倫理的問題に関する様々な議論を理解し、それを踏まえて自分の意見を聞いている人に分かりやすく述べるができる。 4 ディスカッションを通して、人の意見をよく聞き、自分の意見を人に分かりやすく伝えることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	「江口某の不如意研究室」(http://yonosuke.net/eguchi/) のページにある「勉強の仕方」の34記事すべてを第10回目までには熟読して自家薬籠中のものとしておくこと。詳しくは講義で指示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ジェームズ・レイチェルズ(古牧徳生・次田憲和訳)『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』見洋書房、2003年。		
11. 成績評価の方法	期末試験 80% 授業への積極的参加度(要約など) 20%		
12. 受講生への メッセージ	この授業では功利主義や義務論などの倫理学の諸説を学び、それらが具体的な事例に対して、どのような判断をすべしと考えるのか、物事を倫理的に考える訓練をします。履修者数に応じて、輪読もありえます。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション	事前学習	シラバスを読み、概要を把握しておく。
		事後学習	紹介された倫理学の諸説について哲学辞典や関連文献を読んで理解を深めておく。
第2回	道徳とはどういうことか	事前学習	教科書第1章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
第3回	文化的相対主義の挑戦	事前学習	教科書第2章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
第4回	倫理における主観主義	事前学習	教科書第3章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
第5回	道徳は宗教に基づくか	事前学習	教科書第4章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
第6回	心理学的利己主義	事前学習	教科書第5章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
第7回	倫理的利己主義	事前学習	教科書第6章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
第8回	功利主義者のアプローチ	事前学習	教科書第7章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
第9回	功利主義をめぐる議論	事前学習	教科書第8章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
第10回	絶対的道徳規則はあるのか	事前学習	教科書第9章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
第11回	カントと人格の尊重	事前学習	教科書第10章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。

平成 28 年度

第 1 2 回	社会契約の思想	事前学習	教科書第 11 章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
第 1 3 回	フェミニズムと気づかいの倫理	事前学習	教科書第 12 章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
第 1 4 回	徳の倫理	事前学習	教科書第 13 章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
第 1 5 回	満足のいく道徳説とはいかなるものか	事前学習	教科書第 14 章を読んでおく。
		事後学習	授業内容で疑問に思ったことについて、関連文献を使って調べておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	レクリエーション理論 (2 単位)	3. 科目番号	GEBS2303 GEHL2314 GEHL1103
2. 授業担当教員	木本 多美子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。</p> <p>授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助技術を知り、実践できる。 4. レクリエーションの企画・運営ができる能力を身につけ、実践できる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>【課題1】レクリエーションに対する態度の自己評価とその課題についてのミニレポート</p> <p>【課題2】身の回りにおけるレクリエーションプログラムに関するレポート</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】毎時間ワークシートとしての学習資料を配布する。</p> <p>【参考書】日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』日本レクリエーション協会。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加態度 (授業毎の振り返りを含む) 40%</p> <p>課題1 30%</p> <p>課題2 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本講座ではレジャー・レクリエーションの意義や特性を理解し、自分自身での実践、さらには他者へのレクリエーション支援の方法を学ぶことをねらいとしています。閉塞感漂う現代社会では、スポーツ、野外活動、芸術・文化・学習活動などのレクリエーションを通して自身の人生を生き生きと過ごすこと、また地域を活性化したり、人々が健やかに暮らせるよう心と体をリフレッシュしたり、楽しみながら自然と共生する生き方の提案をできるような人材が必要です。</p> <p>以上のような目的達成のために下記の基本的ルールを守ることを期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーション実践者としてふさわしい活発な意見、質問等を期待しています。 2. 出席や授業態度を重視します。やむを得ない理由の欠席、遅刻、早退の場合は届けを提出してください。 3. 障害や疾病等、何らかの配慮が必要な学生は、初回到授業担当教員に連絡の上、受講してください。 		
13. オフィスアワー	初回の授業で通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 自己理解/レジャー・レクリエーション自己分析	事前学習	シラバスをもとに学習の見通しを持つ。
		事後学習	学習の見通しを整理する。
第2回	レクリエーションの基礎理論① 「レクリエーションの目的」	事前学習	前回の自己理解を確認し、自分にとってのレクリエーションとは何かを考える。
		事後学習	他者の考えを取り入れ、自分にとってのレクリエーションの意義を再考する。
第3回	レクリエーションの基礎理論② 「レクリエーションの歴史」	事前学習	レクの歴史について調べる。
		事後学習	レクの歴史を整理する。
第4回	レクリエーションの基礎理論③ 「スポーツとは」	事前学習	スポーツの歴史や特性を調べる
		事後学習	スポーツの歴史や特性をまとめる
第5回	レクリエーションの基礎理論④ 「遊びとは」	事前学習	遊びの特性を調べる
		事後学習	遊びの特性をまとめる
第6回	レクリエーション実践	事前学習	レクリエーションアクティビティを調べる
		事後学習	実践を通して、レクリエーションの効果や意義を整理する。
第7回	レクリエーションサービス・支援の理論① 「レクリエーションのプログラミング」	事前学習	レクリエーションプログラミングを調べる
		事後学習	レクリエーションプログラミングについてまとめる
第8回	レクリエーションサービス・支援の理論② 「発達に応じたレクリエーション支援」	事前学習	異なる発達段階の特徴を調べる。
		事後学習	異なる発達段階にあつたレク支援をまとめる。
第9回	レクリエーションサービス・支援の理論③ 「障害児・者とレクリエーション支援」	事前学習	色んな障害の特性を調べる。
		事後学習	色んな障害にあつたレク支援とその重要性をまとめる。
第10回	レクリエーションサービス・支援の理論④ 「高齢者とレクリエーション支援」	事前学習	高齢者の特徴を調べる
		事後学習	高齢者にあつたレク支援とその重要性をまとめる
第11回	レクリエーションサービス・支援の理論⑤ 「冒険セラピー」	事前学習	冒険セラピーとは何か調べる。
		事後学習	冒険セラピーの効果をまとめる。

第 1 2 回	レクリエーションサービス・支援の理論⑥ 「レクリエーション指導者の役割」	事前学習	レク支援者の役割やレクリエーションの資格を調べる。
		事後学習	レク支援者の役割とレクリエーションの資格をまとめる。
第 1 3 回	レクリエーションサービスの理論「安全管理」⑦	事前学習	安全面の配慮事項を調べる。
		事後学習	安全配慮事項について整理する。
第 1 4 回	現代におけるレクリエーションの課題と必要性	事前学習	学習をふりかえる
		事後学習	学習をふりかえり、今後の課題をあげる
第 1 5 回	学習のまとめ	事前学習	学習をふりかえる
		事後学習	学習のまとめをし、自己評価をする。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2 単位)	3. 科目番号	GEBS2302 GEHL2313 GEHL1102
2. 授業担当教員	田中 マキ子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1, 日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得する。 2, コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3, 対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4, レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	〔課題 1〕対象者に応じたレクリエーション・ワークを展開する。グループで指導計画を立案し、実際にレクリエーションを指導する。 ・対象者の特徴に応じた具体的な指導方法を考案し実践する。 ・支援を行う上での留意点を明確にする。 ・タイムスケジュールや用具などの周辺条件について配慮する。 以上三点を考慮すること。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ・毎時間ワークシートと学習資料を配布する。 【参考書】 ・日本レクリエーション協会編『楽しいをつくるーやさしいレクリエーション実践ー』。 ・諸澄俊之著『よく効くふれあいゲーム 119』杏林書院。 ・三浦一朗著『楽しいアイスブレイキングゲーム集』日本レクリエーション協会。		
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 40% 課題 1 30% 実技 30%		
12. 受講生への メッセージ	レクリエーションの意義や特性を把握し、発達段階に応じたレクリエーション・ワークについて知ることをねらいとする。自らが楽しいと思えないことは、対象者を楽しませることはできない。レクリエーション・ワークを自分で楽しむことからスタートし、徐々にレクリエーション・ワークを計画し、援助する立場としての視点を養ってほしいと考えている。 授業においては以下のような基本的なルールを守ること。 1. 活発な授業への参加態度を望む。楽しい雰囲気での学習することをこころがけること。 2. 実技中心の授業なので、運動にふさわしい服装や髪型 (T シャツ、ジャージ、運動靴など動きやすいもの) で参加すること。 3. 時間厳守、私語は慎むこと。		
13. オフィスアワー	研究室のオフィスアワーに準ずる。その他、研究室に在室中はいつでも対応します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 【講義】「アイスブレイキングとは」	事前学習	アイスブレイキングの概要を調べ、ある程度把握しておく。
		事後学習	授業の内容をまとめ、次回の実践に活かせるようにまとめておく。
第 2 回	アイスブレイキング 「心をひらく楽しいゲーム」	事前学習	アイスブレイキングゲームを調べ、どのようなものがあるか把握しておく。
		事後学習	授業でアイスブレイキングゲームを実際に行ってみる。
第 3 回	グループごとによるレクリエーション・ワークのプランニング	事前学習	グループで様々な意見交換をし、より良いレクリエーションワークを計画できるように自分なりにまとめておく。
		事後学習	グループで計画したレクリエーションワークを良い点、悪い点を見つけてまとめておく。
第 4 回	【実技】 「実技を通して、アイスブレイキングの手法を学ぶ」	事前学習	アイスブレイキングの手法を自分なりに調べ、意見できるようにまとめておく。
		事後学習	実技で行った内容の良い点、悪い点を見つけてまとめる。
第 5 回	【実技】 「実技を通して、一人で楽しめる手遊びやレクリエーション・ダンスの手法を学ぶ」	事前学習	レクリエーション・ダンスの手法を調べる。
		事後学習	授業で行ったレクリエーションの手法について考察し、自分のオリジナル作品を考えてみる。
第 6 回	【実技】 「実技を通して、小グループで楽しめるレクリエーションの手法を学ぶ」	事前学習	小グループレクリエーションの手法を調べ、まとめておく。
		事後学習	グループで楽しめる手法を考え、実践してみる。
第 7 回	【実技】 「実技を通して、幼年期や老年期を対象にしたレクリエーションの手法を学ぶ」	事前学習	幼年期・老年期レクリエーションを調べ、どのようなものがあるのかまとめておく。
		事後学習	年齢に合わせたレクリエーションを自分なりに考え、独自のプログラムを考えてみる。

第 8 回	【実技】 「実技を通して、児童期・青年期を対象にしたレクリエーションの手法を学ぶ」	事前学習	児童期・青年期レクリエーションを調べ、どのようなものがあるのかまとめておく。
		事後学習	年齢に合わせたレクリエーションを自分なりに考え、独自のプログラムを考えてみる。
第 9 回	【実技】 グループごとによるレクリエーション・ワーク① 「運動を通しての仲間づくり、健康づくり」	事前学習	運動のレクリエーション活動の実践方法を調べ、グループで活動案を作る際に意見できるように準備する。
		事後学習	より良い活動できるよう、体調を管理し、ベストコンディションで臨めるようにする。
第 10 回	【実技】 グループごとによるレクリエーション・ワーク② 「運動を通しての身体作り、体力づくり」	事前学習	レクリエーション活動の実践を良く調べ、自分なりにまとめ、活動案を作成する。
		事後学習	活動した内容の反省点、良かった点をまとめ、ノートに記入しておく。
第 11 回	【実技】 グループごとによるレクリエーション・ワーク③ 「ウォークラリー①体力づくり、歴史・文化に触れる」	事前学習	ウォークラリーをする場所の歴史や文化をよく調べ、内容を把握しておく。
		事後学習	活動した内容の反省点、学んだこと、わかったことなどをまとめ、ノートに記入しておく。
第 12 回	【実技】 グループごとによるレクリエーション・ワーク④ 「ウォークラリー②仲間との協調性を学ぶ」	事前学習	ウォークラリーをする場所の歴史や文化を良く調べ、内容を把握しておく。
		事後学習	活動した内容の反省点、同じグループの人に意見を聞き、今後の活動に活かせるように、ノートにまとめておく。
第 13 回	【実技】 グループごとによるレクリエーション・ワーク⑤ 「実技の反省点・改善点等ディスカッションする」	事前学習	レクリエーション実践して、自分なりの改善点を整理しておく。
		事後学習	レクリエーション実践についてディスカッションし、意見をまとめ、改善案作成する。
第 14 回	【講義】「今日におけるレクリエーションの必要性と課題」	事前学習	レクリエーションの必要性と課題を調べ、考えをまとめておく。
		事後学習	ディスカッションした内容をまとめ、今後の活動に活かせるようまとめておく。
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	実践してきたレクリエーションワークを振り返り、まとめておく。
		事後学習	今後の活動に活かせるようにレクリエーションワークをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	労働法 (労働基準法) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3338 SCMP3338 SBMP3338 PSMP3309
2. 授業担当教員	平 仁		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	労働安全衛生法、社会保障論 (労災保険)		
7. 講義概要	<p>20 世紀末以降労働関係法令は新しいものがいくつも制定され、かつ既存法も大幅に内容が改正されてきた。そこには、社会における新しい雇用形態や労働条件の変化が大きく影響している。本科目では、労働基準法の基本構造を学ぶとともに、新たに制定された労働契約法や男女雇用機会均等法のほか、パートタイム労働法や派遣労働法も対象領域とする。ただし、学習負担の面から基本事項に限定して講義する。発展部分は実社会に出てから各自で応用学習してもらいたい。</p> <p>なお、労働組合活動の退潮もあり、労働組合活動を対象とした集団的労働関係法は扱わない。講義は教科書に沿って進行する。随時、テーマを設定してディスカッションを行い、自宅学習で議論の集約、文章化の訓練を行う。最終授業では、実際の試験問題を用いた基礎知識修得状況の検証を行う。</p>		
8. 学習目標	<p>就職とは基本的に勤め先との間で労働契約を交わすことである。雇用労働者は、内定、使用期間、処遇、人事異動、出向、昇格・昇進、懲戒処分、労災事故、退職 (解雇) など様々な事態に遭遇することになる。本科目の履修者は、労働基準法等においてどのように規定されているか、また労働基準監督署や裁判所ではどのように判断されているかの知識を習得しているので、適切に対処することができる。</p> <p>勤務経験を積むことにより、勤務先で管理監督者 (使用者) の地位を与えられることになるが、本科目内容を履修することで労働法令の基礎理論や先例を理解でき、職場内の労働紛争を回避することができる。アルバイトなどの学生生活においても、労働基準法等がどのように適用されるかを検証し、労働法を身近なものとして生かすことができる。</p> <p>いわゆるブラック企業のやり口を見極める基礎能力を身につける。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 各回の授業に際しては、下記の論点事項について教科書の十分な読み込み学習がされていることを前提に講義を進める。(1 回の授業に関して 4 時間の事前または事後学習が必要とされている。) なお、事前学習に際しては、マスコミ報道のうち労働問題に関連するものに注目し、現実社会で労働法がどのように作用しているかを検証する点検しておくことを求める。 毎回の授業の中でディスカッションを組み込む。積極的な発言、討論を必須とする。無言者、無反応者は早退したものとみなすことがある。 学期を通じて使用する学習カード (初回に配布) に、毎回の授業で学んだことなどを記述して提出しなければならない (最終週を除く)。学習カードは次回授業時に返却する。 学期内に 1 回、テーマを指定してのレポート作成提出 (自筆 1800 字程度) を求める。 適宜、希望学生による研究成果発表を予定する。この場合、学生は発表用資料を事前準備する。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】原昌登『コンパクト労働法』新生社。</p> <p>【参考書】今野晴樹『ブラック企業 日本を食いつぶす妖怪』文春新書。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 六法書 労働基準法、労働契約法等労働法令を含むもの (各自インターネットで抽出)</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 演習等授業参加態度 (9. のアサイメントの 1. から 3.) 60% 4%×15 回 レポート (9. のアサイメントの 4.) 10% 期末試験 30% 研究発表 (9. のアサイメントの 5.) 10% (該当者のみ) <p>なお、本学規定により、4 分の 3 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認められない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 労働法 (労働基準法) は範囲が広く、制度改正も頻繁であるため、細かな制度内容よりも、全体を貫く理念は何かを常に念頭において講義に参加すること。 授業中の質問は歓迎。各自相談することを指示した場合以外の私語は厳禁。 		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	労働法とは何か 労働法の存在理由 労働法により介入の仕組み 法学の基礎知識 労働法のルール	事前学習	教科書第 1 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 2 回	雇用関係における様々な法ルール 労働基準法 労使協定 労働契約法 労働協約 就業規則 労働契約	事前学習	教科書第 2 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 3 回	労働法の当事者 労働者とは 労基法、労契法、労組法 使用者 労働組合	事前学習	教科書第 3 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 4 回	労働者の採用について	事前学習	教科書第 4 章を熟読。疑問点を整理しておく。

	使用者の採用自由の原則とは 採用内定の法的性質 使用期間とは	事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 5 回	企業の人事権と権利濫用法理の適用 昇進・昇格・降格について 配転とは何か 出向（在籍） 転籍 休職	事前学習	教科書第 5 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 6 回	使用者の懲戒権 懲戒処分とは 懲戒処分の法規制 懲戒処分のポイント	事前学習	教科書第 6 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 7 回	労使関係の終了 解雇の法的問題 労働契約終了事由 解雇に関する法規制 手続・理由 解雇権濫用法理 整理解雇のルール 解雇紛争の解決 定年制 高齢者雇用確保措置	事前学習	教科書第 7 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 8 回	賃金について 賃金とは何か 賞与・退職金の法律問題 賃金支払いの 4 原則 休業手当とは 最低賃金	事前学習	教科書第 8 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 9 回	労働時間の基本 労働時間規制の基本的枠組み 法定労働時間 休憩時間 休日 時間外・休日労働 三六協定 割増賃金	事前学習	教科書第 9 章（9.1 から 9.3 まででよい）を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 10 回	休憩・休業 年次有給休暇 年休権の法的性質 休業制度 労基法、育児・介護休業法	事前学習	教科書第 10 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 11 回	労働条件の変更 就業規則の不利益変更の法ルール 労働協約による労働条件不利益変更	事前学習	教科書第 11 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 12 回	非正規労働者と労働法 非正規雇用とは 有期契約と雇い止め 無期契約への転換制度導入 パートタイム労働者（短時間労働者）と労働法 派遣労働の法ルール 偽装請負とは	事前学習	教科書第 12 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 13 回	労働者の健康・労働災害 職場における安全衛生 労安法 労働災害補償 労災保険 民事上の損害賠償 労働時間規制の例外措置 法規制の適用除外 変形労働時間制とフレックスタイム制 みなし労働時間制	事前学習	教科書第 13 章を熟読。疑問点を整理しておく。 教科書第 9 章のうち 9.4 と 9.5 を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 14 回	労基法の総則部分 労働者の人権保障・雇用差別禁止 労働者の人権保障規定 平等原則 男女雇用機会均等法 各種ハラスメントの法的責任	事前学習	教科書第 14 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 15 回	企業組織の変動と労働関係 企業合併の場合 事業譲渡の場合	事前学習	教科書第 15 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	15 回の授業で学んだことの総復習をする。

	会社分割の場合 社福士（精神保健福祉士）試験と労働法 過去の出題事例の検討		
期末試験は完全論述方式で実施する。過去 14 回の事後学習テーマを中心に入念な試験準備が必要である。			

1. 科目名 (単位数)	老年心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3357
2. 授業担当教員	原 千恵子		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	発達心理学を習得していることが望ましい。		
7. 講義概要	生涯発達の中での老年期の発達について学ぶ。老年期では、正常な発達過程である正常老化だけではなく、病的な老化についても同時に学ぶ必要がある。それは、中年期までの発達では、病的な発達の影響を受ける人が少ないが、老年期、特に老年期後期では多くの人が病的な過程の影響を受けるからである。また、高齢者は乳児期から中年期までの発達の歴史を基礎として、生活している高齢者の理解には、生涯発達の視点が欠かせない。		
8. 学習目標	生涯発達の視点から、老年期の発達を正常な発達と発達の障害を対比しながら理解する。その中で、どのような支援が可能であり、また、求められているかについても学び、説明できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1 高齢者援助の望ましい方法, 2 高齢者から学ぶこと		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 原千恵子・中島智子著『老年心理学』培風館、2012 【参考書】 介護福祉士養成講座編集委員会『老人・障害者の心理』中央法規。		
11. 成績評価の方法	期末試験(40%) レポート(30%) 日常の授業態度(質問、積極的参加度30%)		
12. 受講生への メッセージ	高齢者問題は全ての人々にとって共通の課題です。①高齢化の問題は何か、②高齢者援助において何が必要か、③高齢者から学べるものは何か、を中心に今を生きる私たちにとっての加齢の意味を考えてみましょう。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	老年心理学の歴史と発展 1. 老年心理学の流れ 2. アメリカにおける老年学の研究 3. 老年心理学の展望	事前学習	教科書の I 章を読みノートにまとめる。
		事後学習	①1970 年代のアメリカにおける老年学の状況について ②老年心理学が盛んになってきた理由について をグループ討議しまとめる。
第2回	高齢者の状況 1. 高齢化の状況 2. 要介護認定者の状況 3. 高齢者の現状と課題	事前学習	高齢者の今について教科書 2 章を読みノートにまとめる。
		事後学習	日本の高齢化や高齢者の健康状況について グループ討議する。高齢化問題をどのようにとらえるか。各自考えまとめて提出する。
第3回	生涯における発達段階 1. エリクソンの発達段階 2. 老年期の発達	事前学習	人はどんな危機的状況乗り越えながら発達し続けるか、について考える。
		事後学習	エリクソン・ハヴィガースト・ニューマンらの老年期の発達課題についてまとめる。
第4回	老化の概念 1. 老化について 2. 加齢による変化について	事前学習	老化とは何か、について考える。
		事後学習	老化現象に共通する四つの原則についてまとめ、加齢による身体変化について考える。
第5回	高齢者の心理学的状況 1. 人格 2. 記憶 3. 知能	事前学習	高齢者の心理学的状況を考える。
		事後学習	高齢になっても衰えない記憶とは何か? 加齢の影響を受けにくい知能は何かについてまとめる。
第6回	高齢者の生き方 1. サクセスフル・エイジング 2. プロダクティブ・エイジング	事前学習	高齢者の幸せな生き方とは何かについて議論を深める。
		事後学習	高齢者の生活の質の向上についてまとめる。
第7回	生涯学習について 1. III期, 以降の学習 2. 高齢社会における生涯学習について	事前学習	生涯学習の重要性について考える。
		事後学習	生涯学習が重要となってきた理由、今後求められる生涯教育について考える。
第8回	高齢者の就業について 1. 高齢者の就業の現状 2. 高齢者のための就労援助 3. 今後の日本の労働力	事前学習	高齢者にとって就労がどのような意味があるかについて考え、まとめる。
		事後学習	高齢者の就業に対する希望とその理由について考え、日本の労働力の特徴について考える。
第9回	高齢者の人間関係と社会 1. 高齢者の家族・近隣関係 2. 高齢者の社会参加 3. 高齢者の一人暮らし 4. 孤立、つながり、支え合い	事前学習	高齢者の人間関係と社会とのつながりについて考える。
		事後学習	高齢者と成人した子ども、近所の人とのつき合い方について現状をまとめる。 一人暮らしの高齢者の問題をまとめる。
第10回	高齢者の精神的病気・不適応 1. 高齢者のストレス 2. うつ状態・せん妄・幻覚・妄想・心気症	事前学習	高齢期に気をつけたい精神的病気・不適応について理解する。
		事後学習	高齢者のストレスや精神的疾患にどのように対処するかについて、まとめ提出する。
第11回	認知症の心理 1. 認知症の症状	事前学習	認知症を正しく理解する。
		事後学習	認知症の原因となる疾患について理解し、認知機能検査

	2. 認知症のスクリーニング検査 3. 認知症の対応と援助 4. 認知症への非薬物的な介入		にはどのようなものがあるか把握し、対象者に対応できるようにする。
第 1 2 回	介護予防の推進	事前学習	介護予防とは何か、について理解する。
		事後学習	介護予防のためにどのような支援があるか理解し、可能な範囲で実践する。地域包括支援センターの役割を理解する。
第 1 3 回	介護者のための支援	事前学習	介護疲労とはどんなものか理解する。
		事後学習	介護疲労に陥らないような介護の仕方、考え方を学ぶ。
第 1 4 回	高齢者の心理アセスメント	事前学習	高齢者の心理アセスメントにはどのようなものがあるか知る。
		事後学習	アセスメントの方法を身につける。
第 1 5 回	高齢者への心理療法	事前学習	高齢者への心理療法にはどのようなものがあるか知る。
		事後学習	高齢者への心理療法の一つを実際に実施してみる。
期末試験			